

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第164集

# 桑下東窯跡

## 本文篇

2011

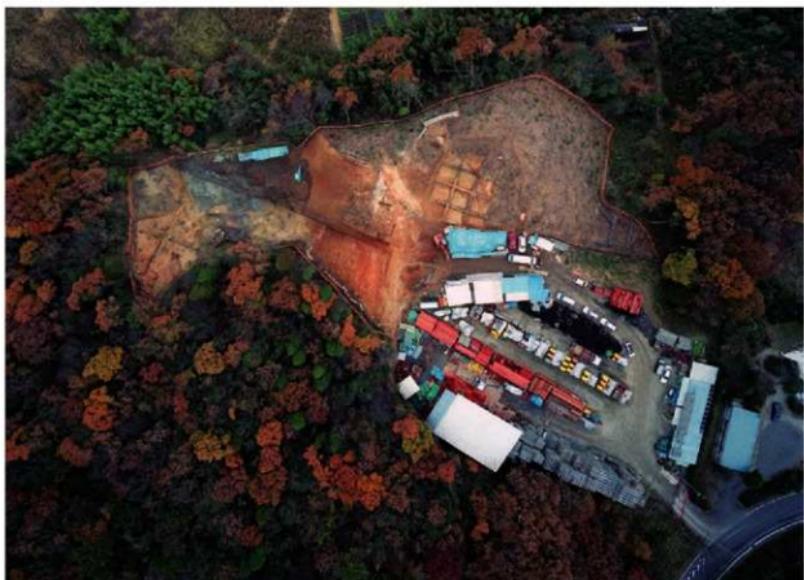
公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団  
愛知県埋蔵文化財センター





調査区遠景 南より

05.9.14



調査区遠景 南西より

05.12.9

巻頭図版 2



調査区全景 南より

06.3.27



調査区全景 南西より

06.3.27



E 区 SY01 全景 南より



E 区 SY01 断ち割り 南より



E 区 SY01 断ち割り 東より

巻頭図版 4



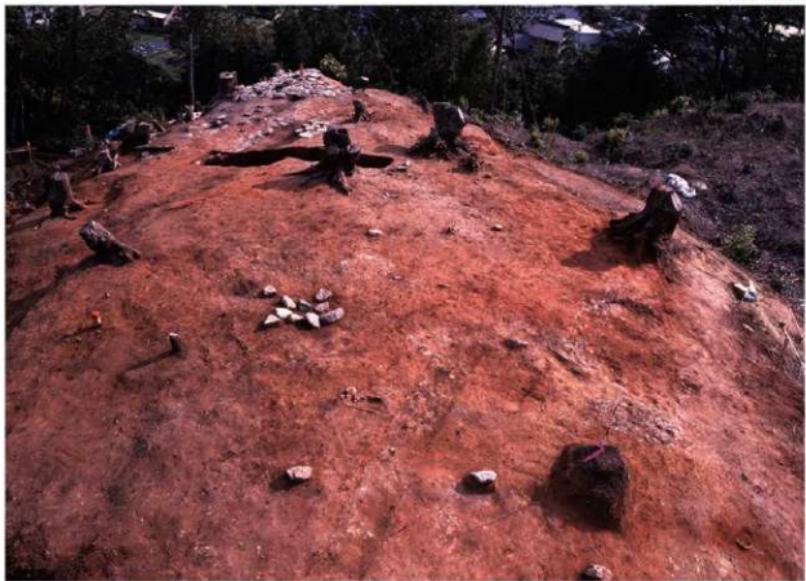
A区 SX01 石敷 南部分 北より

05.10.21



A区 SX01 石敷 全景 北西より

05.11.2



A 区 SX01 輪轤ピット群上面 粘土出土状況 北より

05.10.21



A 区 SX01 輪轤ピット群 北より

06.3.25

巻頭図版 6



A区 SK21 北より



A区 SK21 北より



A区 SK21 北より



A区 SK21 軸部掘り方検出状況 北より



A区 SK21 軸部掘り方検出状況 北より



A区 SK21 完掘状況 北より



E区 SX02・03 全景 南より



E区 SX03 全景 南より

卷頭図版 8



狛犬(阿) 298



魚形掛花生 464

## 序 文

瀬戸市は愛知県の中央北部、岐阜県との県境に位置し、北は岐阜県多治見市、土岐市などに接し、西は春日井市、名古屋市、尾張旭市に隣接し、中部経済圏の中心地である名古屋市の北東約20kmに位置します。

瀬戸市上品野町地内に所在する桑下窯跡は東海環状自動車道セント品野インターの北東側でかつて信濃と結ぶ重要なルートであった中馬街道を眼下に見おろせる丘陵南端に立地しており、南側に品野城、西側に桑下城があり、中世にこの地が三河と尾張の要衝の地であったことが景観からも窺えます。

国道363号線改良工事のため、その事前調査として平成17度に発掘調査を実施しましたところ、窯とその周りに展開する大規模な作業場、工房跡が見られ、工人集団の窯大将組織が想起される貴重な遺跡となりました。

遺跡が丘陵頂部、急斜面、谷底等と足場が悪い状況での作業でしたが、熱心な支援業者の作業員と調査補助員のご協力と愛知県建設部道路建設課はじめ瀬戸市教育委員会などの関係諸機関の暖かいご理解と多大なるご協力で発掘調査を遂行することができました。

今回の調査により、大窯期の生産活動の解明と、工人集団の窯大将組織を想起する貴重な資料を新たに得ることができました。この成果が今後の地元での地域研究あるいは窯業史の研究の一助になることを願っています。

最後になりましたが、発掘調査から報告書刊行に至るまで、ご理解、ご指導、ご協力をいただきました関係者の皆様方に厚くお礼申し上げます。

平成23年3月

公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団

理事長 今井 秀明

## 例　　言

- 1、本書は愛知県瀬戸市上品野町地内に所在する桑下東窯跡（愛知県遺跡番号 0030709）の調査報告書である。
- 2、発掘調査は国道 363 号道路改良工事に伴う事前調査として、愛知県建設部道路建設課より愛知県教育委員会を通じた委託事業として、公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターが実施した。
- 3、調査は平成 17 年 9 月から平成 18 年 3 月まで実施し調査面積は 4.726m<sup>2</sup>である。
- 4、調査において次の関係機関のご協力を得た。

　　愛知県建設部道路建設課、愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室、

　　愛知県埋蔵文化財調査センター、瀬戸市教育委員会、

　　財団法人瀬戸市文化振興財団瀬戸市埋蔵文化財センター。

- 5、発掘調査、報告書の作成においては以下の方々のご協力を得た。

　　青木　修、井上喜久男、伊藤嘉章、今田明子、内田恭司、江崎　武、岡本直久、  
　　金子健一、河合君近、桐山秀穂、坂本範基、佐野　元、柴垣勇夫、城ヶ谷和広、  
　　城前喜英、千田利明、田中崇宏、東野穂澄、仲野泰裕、中山日出夫、橘崎彰一、  
　　服部　郁、半浦聖智、松澤和人、松田秀貴、藤澤良祐、山下峰司。

- 6、発掘調査において、株式会社シン技術コンサルの支援を受けた。

- 7、遺物整理および報告書作成に際して作業の一部を委託した。

　　遺物の実測、データー整理　国際文化財株式会社。

　　遺物の実測、編集　ナカシャクリエイティブ株式会社。

　　デジタルトレース　株式会社アコード。

　　遺物の写真撮影　金子知久（写真工房遊）。

　　自然科学分析　株式会社パレオ・ラボ。

- 8、本書の執筆は以下の通りである。なお編集は小澤一弘が担当した。

　　小澤一弘 第 1 章 第 1 節 1、2、第 2 節、第 2 章、第 3 章、第 5 章

　　武部真木 第 1 章 第 1 節 3

　　藤根　久・Lomtatidze Zauri（パレオ・ラボ）第 4 章 第 1 節

　　黒沼保子（パレオ・ラボ）第 4 章 第 2 節

- 9、遺構平面図の数字は出土遺物の登録番号である。

- 10、発掘調査および本書で使用した方位は、国土座標第VII系、基準高は東京湾平均海面（T.P.）に基づく。ただし表記は「日本測地系」とした。

- 11、出土遺物の登録番号は遺物実測図の通し番号をこれに当て、出土遺物は愛知県埋蔵文化財調査センターに保管している。

- 12、発掘調査の記録（遺構実測図、写真）は愛知県埋蔵文化財センターに保管している。

# 目 次

---

巻頭図版

序文 \_\_\_\_\_ i

例言 \_\_\_\_\_ ii

目次 \_\_\_\_\_ iii

第1章 立地と調査経過 \_\_\_\_\_ 1

第1節 環境と立地 \_\_\_\_\_ 1

1. 遺跡の位置 2. 濑戸市の地形と地質 3. 周辺の遺跡

第2節 調査の経緯と経過 \_\_\_\_\_ 7

1. 調査の経緯 2. 調査の経過 3. 整理の経過

第2章 遺構 \_\_\_\_\_ 20

第1節 遺跡の概要 \_\_\_\_\_ 20

第2節 A区の遺構 \_\_\_\_\_ 22

1. 遺構の概要

2. 土層 A・C区 SPB 20 ライン（東西）ベルト土層

3. SX01 の土層 南北 (SU02、03) ベルト土層と東西 (SPB、SPZ) ベルト土層

4. SX01 の石敷

5. 槍轆ピット

SK01 SK02 SK16 SK18 SK21 SK25 SK28 P02 P14 P37 P53

6. 粘土溜土坑 SK04 SK05 SK08 SK09 SK40

7. 杭列

8. 土壙墓 SK34

9. 溝

第3節 E区の遺構 \_\_\_\_\_ 52

1. 遺構の概要

2. 土層 南北 (SPC n ライン SPD o ライン) ベルト土層と

西東 (SPG 7 ライン) ベルト土層

3. SY01

(1) 窯体 SY01

(2) 土坑 SY01-SK01 SY01-SK02 SY01-SK03 SY01-SK04

4. 穴穴 SB02 SB03

5. 穴穴建物 SB01 SX06

6. 挖立柱建物	SX03													
7. 作業場	SB05・SB04 の南	SX02												
8. 軸轆ピット														
P121	P117	SB03-PO1												
P119	P113	P123	P116	P122	P115-a									
P09	P12	P03-c	P06	P08	P07									
9. 粘土溜土坑	SX02-SK02													
10. 杭列														
11. 石敷	SX02-SK07													
12. その他の土坑	SK03	SK04	SK06	SX04	SX05	SX07-SX12								
13. 土壙墓	SK35													
第4節 C区の遺構						87								
1. 遺構の概要														
2. 区画溝	SD05	SD06	SD07	SD08	SD10									
3. 土壙墓	SK15	SK21												
4. 土坑	SK28	SK29	SK44	SK48										
5. 柱穴	P12	P16	P18	P19	P21	P57	P71	P74	P77	P83	P104	P105		
第3章 出土遺物													97	
第1節 出土遺物の概要													97	
第2節 A区出土遺物													101	
輪轆ピット	SK01	SK02	SK03	SK24	SK28	SK32	P03	P14	P32					
粘土溜土坑	SK04	SK05	SK08	SK09	SK40									
造成土	SU02	SU03												
土坑	SK34													
第3節 E区出土遺物														102
SY01-SK03	SX04	SX08	SX12	SX15	SX03	SX02								
SB01	SB03	SK56	SK57	SB02	SB04	SX06								
第4節 D区出土遺物														105
第5節 C区出土遺物														108
SK20	SK27	SK44	P24	P50	P57	SK48	SK49	SD05	SD06	SD10				
第6節 その他の出土遺物														108
1. 石製品		2. 木製品		3. 金属製品										
第4章 自然科学分析														113
第1節 考古地磁気年代推定														113
第2節 出土木製品の樹種同定														116

第5章 総括	122
第1節 軸轆ピット	122
第2節 遺構の変遷	133
第3節 まとめ	142
参考・引用文献目録	147
遺構一覧表	149
遺物一覧表	156
報告書抄録	173

---

### 卷頭図版 目次

---

- 図版1 氣査前遠景 南より、氣査区遠景 南西より
- 図版2 氣査区全景 南より、南西より
- 図版3 E区 SY01 全景 南より、断ち割り 南より、断ち割り 東より
- 図版4 A区 SX01 石敷 南部分 北より、全景 北西より
- 図版5 A区 SX01 軸轆ピット群上面 粘土出土状況 北より、軸轆ピット群 北より
- 図版6 A区 SK21 北より、軸部掘り方検出状況 北より、完掘状況 北より
- 図版7 E区 SX02・03 全景 南より、SX03 全景 南より
- 図版8 出土遺物 狩犬(阿)298、魚形掛花生 464

---

---

挿図 目次

---

第 1 図	瀬戸市位置図	1		31
第 2 図	瀬戸市の地質概要図	2		
第 3 図	桑下城跡・桑下東窯の調査区位置図			33
第 4 図	桑下東窯跡の周辺遺跡図	5		
第 5 図	桑下東窯跡周辺地形図と 調査区地形図	9		
第 6 図	調査区グリッド図	10		
第 7 図	調査区地形測量図	11		
第 8 図	調査後地形測量図	12		
第 9 図	全体図 1 D・E・A 区	13		
第 10 図	全体図 2 A・B・C 区	14		
第 11 図	D 区全体図	15		
第 12 図	E 区全体図	16		
第 13 図	A 区全体図	17		
第 14 図	C 区全体図	18		
第 15 図	B 区全体図	19		
第 16 図	主要遺構配置	20		
第 17 図	A・C 区全体図	22		
第 18 図	A・C 区 SPB ライン西東ベルト位置図	24		
第 19 図	A・C 区 SPB ライン西東ベルト土層図	25		
第 20 図	A 区 土層ベルト位置図	26		
第 21 図	A 区 SU02・03 SPA 南北ベルト土層図	27		
第 22 図	A 区 SX01 SPB 東西ベルト土層図	28		
第 23 図	A 区 SX01 SPZ 東西ベルト土層図	29		
第 24 図	A 区 SX01 粘土・敷石出土状況図	30		
第 25 図	A 区 SX01 敷石・窯道具出土状況図と断面図			
第 26 図	A 区 遺構位置図(敷石撤去後)			
第 27 図	A 区 遺構位置図と A-A' ライン断面図	34		
第 28 図	A 区 鏊轆ビット分布図	36		
第 29 図	A 区 鏊轆ビット (SK01 ~ 03・06、P09) 平面図・土層断面図	37		
第 30 図	A 区 鏊轆ビット (SK16・18・21・23・24) 平面図・土層断面図	38		
第 31 図	A 区 鏊轆ビット (SK25 ~ 28・30) 平面図・土層断面図	39		
第 32 図	A 区 鏊轆ビット (SK31・32・37 ~ 39、P52) 平面図・土層断面図	40		
第 33 図	A 区 鏊轆ビット (P1 ~ 6・8・10・13、SK07) 平面図・土層断面図	41		
第 34 図	A 区 鏊轆ビット (P14・15・23・28・32・36・37・59) 平面図・土層断面図	42		
第 35 図	A 区 鏊轆ビット (P41・47・50・53・55・58・63・65) 平面図・土層断面図	43		
第 36 図	A 区 土坑 (SX01:SK04・05・08・09、P33) 平面図・土層断面図	45		
第 37 図	A 区 土坑 (SX01:SK10 ~ 13・15・17・19・ 20・22・29) 平面図・土層断面図	46		

第 38 図	A 区 土坑他 (SX01:SK33 ~ 36・40、P51) 平面図・土層断面図	47	第 56 図	E 区 SB01 遺物出土状況図・土層断面図	68
第 39 図	A 区 土坑他 (SX01:SK51 ~ 53、 P07・11・12・16 ~ 20) 平面図・土層断面図	48	第 57 図	E 区 SB01 平面図・断面図	69
第 40 図	A 区 ピット (SX01:P21・22・24 ~ 27・ 29-31・34・35・60) 平面図・土層断面図	49	第 58 図	E 区 SX06 遺物出土状況図・土層断面図	70
第 41 図	A 区 ピット (SX01:P38 ~ 40・ 42 ~ 46・48・49・54) 平面図・土層断面図	50	第 59 図	E 区 SX06 平面図・断面図	71
第 42 図	A 区 ピット、溝 (SX01:P56・57・61・64、 SD01 ~ 04) 平面図・土層断面図	51	第 60 図	E 区 SX03 遺物出土状況図	73
第 43 図	D・E 区 全体図	52	第 61 図	E 区 SX03 平面図・土層断面図	74
第 44 図	E 区 遺構位置図 1 (西部分)	54	第 62 図	E 区 南側 (SX02 ~ SX12) 全体図	75
第 45 図	E 区 遺構位置図 2 (東部分)	55	第 63 図	E 区 SX02 (西側) 遺物出土状況図 1	76
第 46 図	E 区 土層ベルト位置図	56	第 64 図	E 区 SX02 (西側) 遺物出土状況図 2	77
第 47 図	E 区 SPC・SPD ライン 南北ベルト土層図	57	第 65 図	E 区 SX02 (西側) 遺構平面図 1	78
第 48 図	E 区 SPG 7 ライン 西東ベルト土層図	58	第 66 図	E 区 SX02 (西側) 遺構平面図 2	79
第 49 図	E 区 SY01 窓体と周辺遺構平面図	60	第 67 図	E 区 SX02 土坑 (SK01 ~ 03)、 轆轤ピット (P12)、 平面図・土層断面図	80
第 50 図	E 区 SY01 窓体断面図	61	第 68 図	E 区 SX02 土坑 (SK04 ~ 07) 平面図・土層断面図	81
第 51 図	E 区 SY01 窓体断面土層図	62	第 69 図	E 区 SX02 土坑 (P01・02・04・05・10・11・13) 平面図・土層断面図	82
第 52 図	E 区 SY01 周辺遺構 (SK01 ~ 04) 平面図・土層断面図	63	第 70 図	E 区 北側 SB02 ~ 05 轆轤ピット位置図	83
第 53 図	E 区 SB02 ~ 05 平面図	65	第 71 図	E 区 北側 轮轤ピット (P01・113・115 ~ 117・119・ 121 ~ 123) 平面図・土層断面図	84
第 54 図	E 区 SB02 ~ 05 SPA 土層断面図	66	第 72 図	E 区 南側 SX02 轆轤ピット位置図	85
第 55 図	E 区 北側 全体図	67	第 73 図	E 区 SX02 轆轤ピット (P03・06 ~ 09・12)	

平面図・土層断面図	86	SK16・25・28	128
第74図 C区全体図	87	第94図 鍾轆ピット1類(柱穴)	
第75図 C区(西侧)遺構位置図1	89	P02・03・32・37・63,	
第76図 C区(東側)遺構位置図2	90	SX02、P06	129
第77図 C区 溝 (SD05・06・14・17、P69)		第95図 鍾轆ピット2類(土坑)	
平面図・土層断面図	91	SK18・21	130
第78図 C区 溝他 (SD07・08、P37・40・58)		第96図 鍾轆ピット2類(土坑)	
平面図・土層断面図	92	SK24・30、P14・53 1:30	131
第79図 C区 溝他 (SD10、SK18、P71・85・88)		第97図 鍾轆『陶器大辭典』より	132
平面図・土層断面図	93	第98図 桑下東窯跡鍾轆ピット位置図	134
第80図 C区 土坑 (SK14・15・21・23・28、P73)		第99図 E・A区鍾轆ピット位置図	135
平面図・土層図	94	第100図 遺構変遷図 I・II期 A区、E・A区	138
第81図 C区 土坑、柱穴 (SK29・44・48、P12・16・18・19)		第101図 遺構変遷図 III・IV期 A区、E・A区	140
平面図・土層図	95	第102図 大窯跡位置図	143
第82図 C区 柱穴 (P21・57・71・74・77・83・91・105)		第103図 土壙墓1 A区 SK34 C区 SK44	144
平面図・土層断面図	96	第104図 土壙墓2 B区 SK12・30	145
第83図 出土古銭拓影	109	第105図 土壙墓3 E区 SK35	146
第84図 印花纹拓影1	110		
第85図 印花纹拓影2	111		
第86図 窯道具窯印の拓影	112		
第87図 床面焼土の残留磁化と標準曲線	113		
第88図 出土材光学顕微鏡写真(1~3)	119		
第89図 出土材光学顕微鏡写真(4~6)	120		
第90図 出土材光学顕微鏡写真(7~9)	121		
第91図 鍾轆 陶磁器の鍾轆『日本民具辞典』より 『窯業民俗資料調査報告1 (瀬戸市)』より	122		
第92図 鍾轆ピット1類(柱穴) SK01・02	127		
第93図 鍾轆ピット1類(柱穴)			

---

---

付表 目次

---

第1表	桑下東窯跡の周辺遺跡一覧	6
第2表	E区SB01出土遺物	68
第3表	E区SX06出土遺物	71
第4表	桑下東窯跡出土遺物破片表	98
第5表	掘載遺物時期別表	99
第6表	調査区分別時期別表	100
第7表	A区遺構出土遺物一覧表	102
第8表	E区遺構出土遺物一覧表	103
第9表	SX03・02出土遺物破片表	106
第10表	SB01、SX06出土遺物破片表	107
第11表	C区遺構出土遺物一覧表	108
第12表	残留磁化測定結果（偏角補正前）	115
第13表	窯跡の焼成年代推定	115
第14表	桑下東窯跡出土木製品の樹種同定結果	118
第15表	桑下東窯跡轆轤ピット一覧	126
第16表	瀬戸市内轆轤ピット一覧表	133
第17表	各期別遺構一覧表	136

---

---

図版篇 目次

---

・遺物実測図 図1～70	1
・第1表 遺物観察表（石製品、木製品、金属製品）	71
・第1図 桑下東窯跡出土破片数・個体数組成グラフ1	73
・第2図 桑下東窯跡出土破片数・個体数組成グラフ2	74
・第3図 器種別出土状況図1	75
・第4図 器種別出土状況図2	76
・第5図 器種別出土状況図3	77
・第6図 器種別出土状況図4	78
・写真図版 図版1～106	79



# 第1章 立地と調査経過

## 第1節 環境と立地

### 1. 遺跡の位置

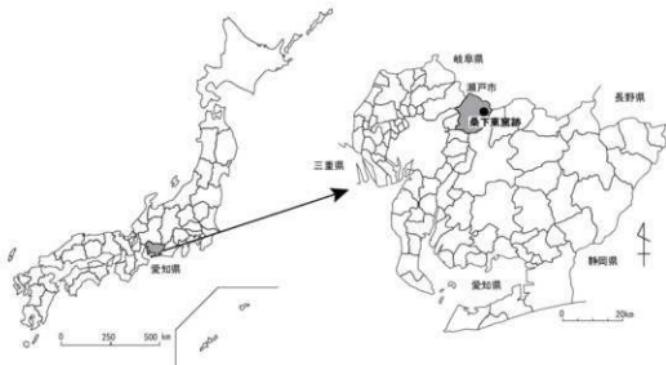
桑下東窓跡は、愛知県瀬戸市上品野町地内の、庄内川支流である水野川によって形成された品野盆地の北東岸の丘陵地に所在する。瀬戸市は愛知県の中央北部岐阜県との県境に位置し、濃尾平野の東、尾張丘陵の一角にあり旧尾張国の北東端にあたる。北は岐阜県多治見市、土岐市等に接し、西は春日井市、名古屋市、尾張旭市に隣接する。東及び南方は旧三河国に属する豊田市や愛知郡長久手町に接している。瀬戸市域は東西 12.8km、南北 13.6km で、周囲約 50km の橢円形を呈している。

### 2. 瀬戸市の地形と地質

瀬戸市は名古屋市の北東約 20km に展開する尾張丘陵地帯の一部に位置し、木曽山脈の最南端にある。その大部分の標高は 100m から 600m の丘陵地で占められている。中でも市域西側には 100m から 200m の低位丘陵が展開しており、市街地や耕作地を形成している。

各低位丘陵帶は市内を流れる河川によっていくつかに区分されている。市境北東に沿って庄内川が南流し、その支流である蛇ヶ洞川が市域北部、水野川が市域中部を東から西へと流れている。また市域中南部には矢田川（山口川）とその支流である瀬戸川が東から西へと流れている。

水野川の北側を穴田丘陵、水野川と瀬戸川に挟まれた地域を水野丘陵と呼んでいる。また瀬戸川と矢田川に挟まれた部分を菱野丘陵、矢田川以南を幡山丘陵と呼称している。さらに河川沿いには狭い沖積地が盆地状に広がっており、蛇ヶ洞川沿いには上半田川盆地、下半田川盆地、水野川沿いには上流に品野盆地、下流に水野盆地が形成され、矢田川上流（赤津川）には赤津盆地がある。



第1図 瀬戸市位置図

また、矢田川と瀬戸川沿いには西方にむかって平地が広がっており、名古屋市北東部の沖積地へつながっている。北部及び東部山地は国有林と県有林が広がり、土砂採集場以外は自然の多く残る丘陵地帯となっている。(第2図)

瀬戸市における地質的特徴は、伝統的な窯業地であることからも分かるように、やきものの原料となる良質の陶土やガラスの原料となる珪砂を豊富に含んでいる陶土層(瀬戸陶土層)が市域中央部にみられることがある。

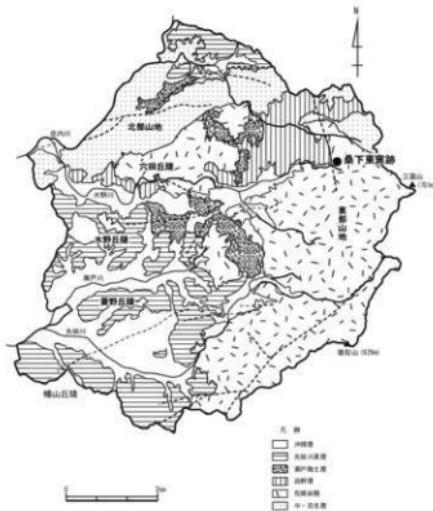
この陶土層は、その基盤である中・古生層及び花崗岩層の上に厚く堆積しており、その由来は第三紀新世から第四紀更新世初めにかけて伊勢湾を中心に広がっていたとされる東海湖の堆積物である。また、市域中部に広がる水野砂礫層、蛇ヶ洞川北部に広がる土岐砂礫層(いずれも矢田川累層)の中にも砂礫層に挟まれて粘土層がみられる。一方市域北部には中・古生層、東部には花崗岩類が広がっており、この部分では粘土層はみられない。

### 3.周辺の遺跡

庄内川の支流である水野川によって形成された瀬戸市北東部にあたる品野盆地周辺の集落遺跡の分布と桑下東窯跡の西側、隣接した桑下城跡の調査成果を概観する。

#### 品野盆地の集落遺跡

品野盆地南東の丘陵部にある上品野遺跡では、県内で最も古い時期に属する後期旧石器時代の石器群が



第2図 瀬戸市の地質概要図 「瀬戸市史」自然編をもとに作成

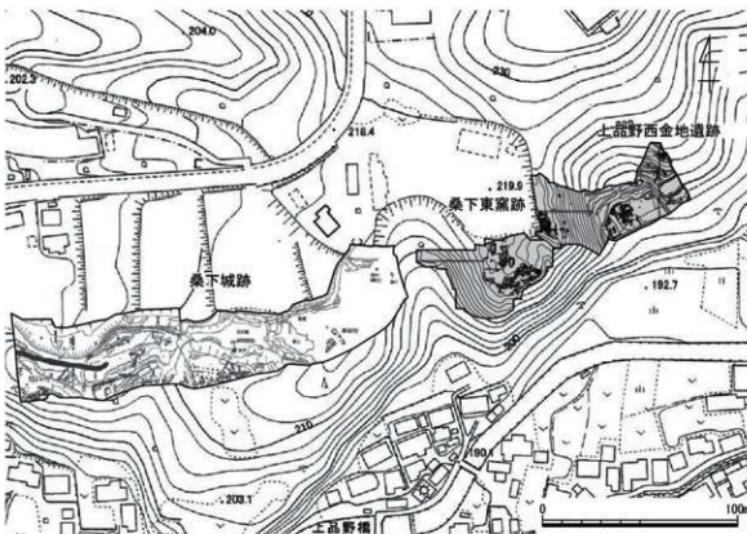
出土している。弥生時代も前期と中期の土器が散見され、古墳時代前期、古代には居住域が南斜面を中心に展開するのが確認できる。品野盆地では南西にある品野西遺跡も縄文草創期から利用が始まるが、こちらの古代の集落の成立は古く瓦葺き建物が存在した。上品野遺跡でも8世紀の馬形や盞串などの祭祀関連の木製品などがあり、すぐ北側低地部の上品野蟹川遺跡とともに墨書き軸陶器など文字資料が比較的多い。古代官衙との関連がうかがわれるなど瀬戸市域でも中心的な地域であったと考えられる。

中世の集落遺跡としての調査例は少ないが、山茶碗窯の分布からは13世紀代に入り品野盆地南西部の丘陵を中心に山茶碗専焼窯が展開することが確認されている。14世紀前半にかけては古瀬戸を併焼する窯などを含めこの地域の窯業生産は盛期を迎える。その後は窯数全体が減少し品野盆地より北西部の丘陵地帯に、盆地南東部丘陵にわずかに（中）後期の古瀬戸を併焼する窯が分布する。続く大窯の時代は盆地周縁の集落に近い場所に窯跡が散見されるが、16世紀半ば以降は近世の連房式登窯までみられなくなる。

#### 桑下城跡調査成果の概要

桑下城跡は品野盆地の北東、標高210m前後の丘陵上に位置する。東西方向に長くのびる尾根を利用して築かれており、東西約220m、南北約100mの規模と推定されている。桑下城跡の南側の水野川に沿った谷筋を街道（中馬街道）が通っており、こうした交通の要衝をおさえるように対岸の標高300m前後の丘陵上には品野城跡（推定）が位置する。

平成16.19.20.21年度の4次に亘る発掘調査によって、堀と土塁、曲輪、櫓跡と番小屋、庭園遺構



第3図 桑下城跡・桑下東窯の調査区位置図 (1:2,500)

(池)、井戸、石垣、礎石建物跡などが次々と検出され、全体に各配置がよく遺存されている非常に良好な城館跡であることが明らかとなってきた。

西側は幅の狭い小曲輪群で構成されており、もともと馬蹄形の丘陵に囲まれた庭地を利用した館跡から、のち丘陵中腹を切り込んで屋敷地を造成した城館に発達した築城期に遡る古い様相を伝えるものではないかと想定された。一方、東側ではそれらとは全く規模の異なる造成が行われており、本丸の広い平坦面構築のため以前の数条の溝を埋め、新規に西側に幅7m、深さ3mの薙研掘を掘削している。ただし、堀や土塁で守られた内部では、一部で庭園と建物跡のセットが検出されている。平成19年度の本丸部分調査では、北東部土塁を築山に見立てた枯山水庭園とみられる遺構配置が確認され、平成20年度の調査では西側の標高の低い部分の曲輪で池と石組と導水施設をもつ小規模な庭園跡が見つかっている。

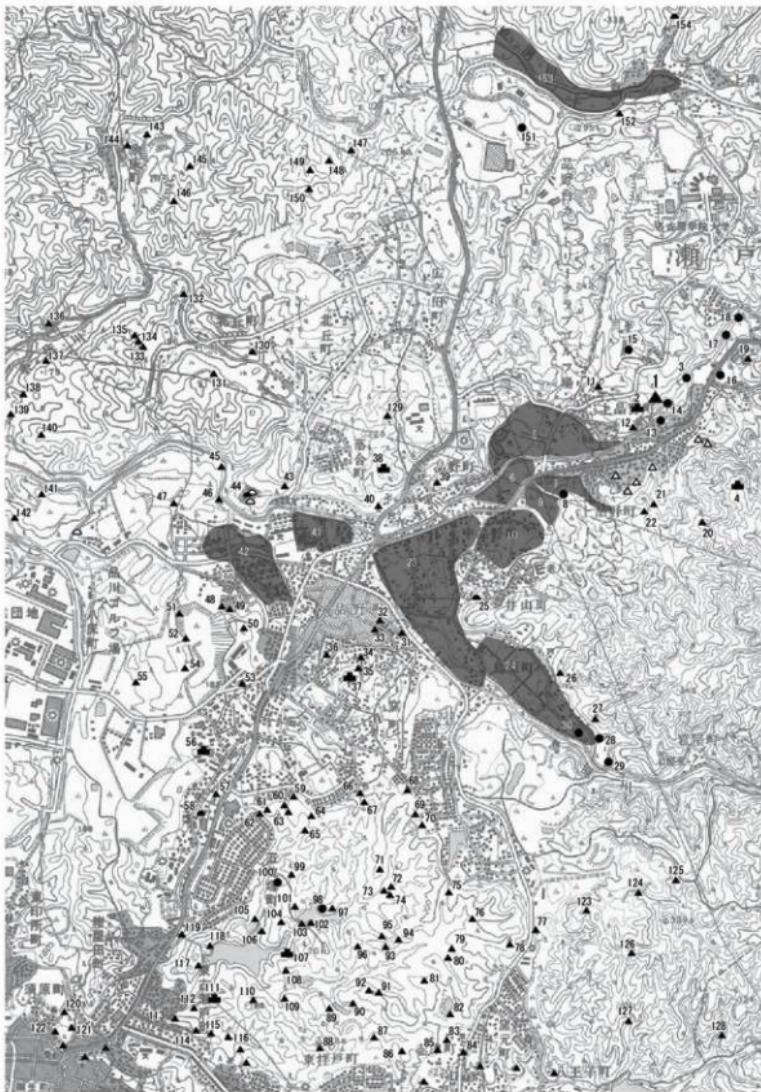
出土遺物は全体に少なく、特定の曲輪に偏った分布がみられる。西側では21年度調査地点において、焼土を含む3次の生活面が確認でき、水滴（鳥形、猪形）、合子、豆天目、茶入など大窯製品のほか、茶臼、刀子、ガラス製數珠玉、中国産染付碗があり、しかし土鍋など日常品は少ない。東側本丸部分では整地層の下でロクロ成形土器器皿を検出し、ピット、土坑等から天目茶碗を含む陶器類が出土している。周囲の堀からは瀬戸産陶器と黒道具、中国産青磁碗、白磁皿、常滑産甕、土師器皿、内耳鍋のほか漆器椀、下駄、柄杓、石臼片などが出土した。特異な出土品として、本丸東側の堀で検出された和鏡（「菊花双鶴鏡」白銅鏡）があるが、和歌山県熊野速玉大社に所蔵される神宝類の中に類例が存在し、これは明徳元（1390）年に熊野十二社に調進されたもので京都の工房で制作されたと考えられている。

戦国期にかけて一帯は尾張・三河の国境として緊張関係にあった。江戸時代の地誌類によると、品野城はこの地を攻略した松平清康（家康祖父）より松平内膳（信定）に与えられ、桑下城はその家老永井（または長江）民部の居城とされている。永禄年間の織田・今川の戦いについての確実な史料は実は明らかではない。しかし、今川氏から織田氏を撃退した科野（品野）城の武将に送られた永禄元（1558）年の状況が残っており、出土した和鏡の由来とあわせても今川氏との強い結びつきが想起される。

桑下城跡本丸付近の造成は、軍事的な機能を強化する必要に迫られた大改修であり、これが桑下城の最終形態となっている。時期を判断する材料に乏しいが、ここでの大改修は桶狭間の戦いの前後の時期の可能性が高いと考えられる。

なお品野城跡は発掘調査は行われていないが、土塁、虎口、横堀、堀切などの痕跡をよく留めていることが知られ、建保年間（1213～1219）の築造とされ、後には桑下城と同様の終焉をとどめたとみられている。最近の研究では、桑下城を館城、品野城を詰めの城として、二つの城を関連して捉えるようになっている。

桑下城が機能していた戦国時代には桑下東窓跡、西窓跡（大窓1・2段階）が操業しており、桑下東窓跡では窓体とその周辺の尾根上にかけて、ロクロビット55基と多数の土坑、石敷、竪穴状作業場跡などからなる工房跡の広がりが確認されている。桑下東窓のさらに東側、丘陵裾部にかけて展開する上品野西金地遺跡では戦国時代から近世にかけての集落と墓域の一端が確認されている。いずれも桑下城跡との関連が注目される。



第4図 桑下東窯跡の周辺遺跡図 (1:25,000)

第1表 桑下東窓跡の周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	時期	番号	遺跡名	時期
1	桑下東窓跡	16世紀 大堀1桑下～2桑下	78	奥白根空跡・サカイ空跡	13～17世紀、山茶碗、施釉陶器
2	山茶窓跡	中世	79	大木戸 E 窓跡	13世紀、山茶碗、施釉陶器
3	上品野西金地遺跡	中世～近世	80	馬ヶ城 D 窓跡	13世紀、山茶碗、施釉陶器
4	品野遺跡	室町～戰国	81	保之原窓跡	13～15世紀、山茶碗、施釉陶器
5	上品野蟹川遺跡	繩文～近世	82	獨立 E 窓跡	13世紀、山茶碗、施釉陶器
6	上品野分水嶺遺跡	中世～近世	83	印元 E 窓跡	17～19世紀、施釉陶器
7	中尾遺跡	繩文～中世	84	印元 F 窓跡	19世紀、施釉陶器
8	大廻窓跡	古墳	85	印左衛門窓跡	17～19世紀、施釉陶器
9	上品野遺跡	旧石器～近世	86	馬ヶ城 P 窓跡	不明
10	中品野遺跡	繩文～近世	87	馬ヶ城 N 窓跡	13世紀、山茶碗、施釉陶器
11	西空窓跡	16世紀	88	印左衛門 A 窓跡	13世紀、山茶碗、施釉陶器
12	桑下 E 窓跡	15世紀	89	印角空跡	13～15世紀、山茶碗、施釉陶器
13	上品野桑下 B 遺跡	中世～近世	90	印東 C 窓跡	13～15世紀、山茶碗、施釉陶器
14	上品野桑下 A 遺跡	中世～近世	91	印東 B 窓跡	13～14世紀、山茶碗、施釉陶器
15	丹波後遺跡	中世	92	印東 A 窓跡	13～14世紀、山茶碗、施釉陶器
16	上品野東山遺跡	中世～近世	93	大柄 C 窓跡	13～15世紀、山茶碗、施釉陶器
17	上品野一ノ瀬山遺跡	中世～近世	94	大柄 A 窓跡	13～15世紀、山茶碗、施釉陶器
18	上品野一ノ瀬山遺跡	中世～近世	95	大柄 B 窓跡	13世紀、山茶碗、施釉陶器
19	上品野丸山遺跡	15世紀	96	柄城 B 窓跡	13～15世紀、山茶碗、施釉陶器
20	上品野 A 窓跡	15世紀、山茶碗、施釉陶器	97	曾我窓跡	13～14世紀、山茶碗、施釉陶器
21	半子 E 窓跡	14～15世紀	98	馬ヶ城 M 窓跡	古代
22	中尾遺跡	繩文～中世	99	古石塚 I 窓跡	13世紀、山茶碗、施釉陶器
23	品野の茶道跡	繩文～近世	100	古石塚 J 窓跡	18世紀
24	鳥原窓跡	古墳～近世	101	馬ヶ城 L 窓跡	13世紀、山茶碗、施釉陶器
25	丹山古墳	古墳	102	馬ヶ城 K 窓跡	13世紀、山茶碗、施釉陶器
26	淨御門西窓跡	古墳、磁器	103	馬ヶ城 K 窓跡	13世紀、山茶碗、施釉陶器
27	鶴窓跡	14～15世紀	104	馬ヶ城 H 窓跡	13～15世紀、山茶碗、施釉陶器
28	淨御門遺跡	19世紀	105	馬ヶ城 Q 窓跡	13世紀、山茶碗、施釉陶器
29	淨御門境内遺跡	19世紀	106	馬ヶ城 I 窓跡	13～14世紀、山茶碗、施釉陶器
30	鳥原窓跡文遺跡	縄文	107	馬ヶ城 K 窓跡	中世
31	柴町 E 窓跡	18～19世紀、陶器	108	馬ヶ城空跡	13世紀、山茶碗、施釉陶器
32	空町 E 窓跡	17～19世紀、陶器	109	馬ヶ城 G 窓跡	13～14世紀、山茶碗、施釉陶器
33	空町 F 窓跡	17～19世紀、陶器	110	前林空跡	13世紀、山茶碗、施釉陶器
34	空町 G 窓跡	17世紀	111	瀬戸空跡	0世
35	円八窓跡	15～16世紀	112	馬ヶ城 R 窓跡	13世紀、山茶碗、施釉陶器
36	品野の坂窓跡	19世紀、陶器	113	朝日窓跡	15世紀
37	山崎窓跡	中世	114	遠古窓戸 A 窓跡	山茶碗
38	清水窓跡	中世	115	印左衛門 C 窓跡	13世紀、山茶碗、施釉陶器
39	品野の八丁目 A 窓跡	19世紀、磁器	116	印左衛門 B 窓跡	15世紀、山茶碗、施釉陶器
40	勘定窓跡	16世紀	117	馬ヶ城 S 窓跡	13世紀、山茶碗、施釉陶器
41	浮竹山南遺跡	繩文～遺留	118	小伏戸内窓跡	13世紀、山茶碗、施釉陶器
42	浮竹山北窓跡	繩文～遺留	119	五条窓跡	13世紀、山茶碗、施釉陶器
43	浮竹山東窓跡	16世紀	120	印左衛門 4 号窓跡	19世紀、施釉陶器
44	大木戸 E 窓跡	15世紀	121	印左衛門 4 号窓跡	19世紀、施釉陶器
45	印左衛門 7・8 号窓跡	13～14世紀、山茶碗、施釉陶器	122	印左衛門 1 号窓跡	19世紀、施釉陶器
46	印左衛門 6・9 号窓跡	13世紀、山茶碗、施釉陶器	123	印左衛門 C 窓跡	14世紀、山茶碗
47	印左衛門 1・2・3 号窓跡	13世紀、山茶碗、施釉陶器	124	印左衛門 窓跡	13～14世紀、山茶碗、施釉陶器
48	八坂 7・8 号窓跡	13世紀、山茶碗、施釉陶器	125	印左衛門 窓跡	14世紀、施釉陶器
49	八坂 6・7 号窓跡	10世紀	126	印左衛門 相空跡	14世紀、山茶碗、施釉陶器
50	八坂 6・8 号窓跡	13世紀、山茶碗	127	印左衛門 窓跡	14世紀、山茶碗、施釉陶器
51	八坂 1・2・12 号窓跡	13世紀、山茶碗、施釉陶器	128	木下窓跡	14世紀、山茶碗、施釉陶器
52	八坂 13・14 号窓跡	13世紀、山茶碗、施釉陶器	129	印左衛門 B 窓跡	13世紀、山茶碗
53	八坂 18 号窓跡	15世紀	130	印左衛門 6 号窓跡	山茶碗
54	八坂 20 号窓跡	13世紀、山茶碗、施釉陶器	131	印左衛門 3～5 号窓跡	13～15世紀、山茶碗、施釉陶器
55	八坂 21 号窓跡	山茶碗	132	印左衛門 窓跡	14世紀、山茶碗、施釉陶器
56	阿須賀洋翠跡	中世	133	印左衛門 F 窓跡	13世紀、山茶碗、施釉陶器
57	五位堂北窓跡	13世紀、山茶碗	134	印左衛門 G 窓跡	14世紀、山茶碗
58	五位堂古墳	古墳	135	印左衛門 H 窓跡	13～14世紀、山茶碗
59	五位堂 F 窓跡	施釉陶器	136	印左衛門 E 窓跡	13世紀、山茶碗
60	五位堂 E 窓跡	13世紀、山茶碗、施釉陶器	137	印左衛門 C 窓跡	14世紀、山茶碗
61	五位堂 G 窓跡	14世紀、山茶碗、施釉陶器	138	印左衛門 F 窓跡	13～14世紀、山茶碗
62	五位堂 H 窓跡	13世紀、山茶碗、施釉陶器	139	印左衛門 H 窓跡	13世紀、山茶碗
63	五位堂 D 窓跡	13世紀、山茶碗、施釉陶器	140	印左衛門 D 窓跡	14世紀、山茶碗
64	五位堂 B 窓跡	13～15世紀、山茶碗、施釉陶器	141	印左衛門 5 号窓跡	14世紀、山茶碗
65	五位堂 C 窓跡	13世紀、山茶碗、施釉陶器	142	印左衛門 3 号窓跡	不明
66	境 1・2 号窓跡	13世紀、山茶碗、施釉陶器	143	印左衛門 A 窓跡	13世紀、山茶碗
67	五位堂 A 窓跡	13世紀、山茶碗、施釉陶器	144	印左衛門 F 窓跡	19世紀、陶器
68	境 3 号窓跡	不明	145	印左衛門 B 窓跡	14世紀、山茶碗
69	境 4 号窓跡	13世紀、山茶碗、施釉陶器	146	余波 C 窓跡	14世紀、山茶碗
70	境 5 号窓跡	山茶碗	147	山田空跡	14～15世紀、山茶碗、施釉陶器
71	殿原空跡	13～14世紀、山茶碗、施釉陶器	148	印左衛門 C 窓跡	14～15世紀
72	馬ヶ城 C 窓跡	13世紀、山茶碗、施釉陶器	149	印左衛門 A 窓跡	14世紀、山茶碗
73	馬ヶ城 D 窓跡	13世紀、山茶碗、施釉陶器	150	印左衛門 B 窓跡	14世紀、山茶碗、施釉陶器
74	馬ヶ城 B 窓跡	13世紀、山茶碗、施釉陶器	151	印左衛門 A 遺跡	中世
75	馬ヶ城 A 窓跡	13～14世紀、山茶碗、施釉陶器	152	印左衛門 A 遺跡	古代、陶器
76	馬ヶ城 F 窓跡	13～14世紀、山茶碗、施釉陶器	153	印左衛門 窓跡	中世～近世
77	計針空跡	13～14世紀、山茶碗、施釉陶器			

※施釉陶器＝古瀬戸

## 第2節 調査の経緯と経過

### 1. 調査の経緯

#### 桑下東窯跡範囲確認調査

平成9年（1997）度の事業として平成10年1月から3月にかけて県土木部（道路建設課）国道363号線道路改良関連の4遺跡（上品野蟹川遺跡 桑下城跡 桑下東窯跡 上品野西金地遺跡）範囲確認調査の一つとして桑下東窯跡の範囲確認を目的とする調査が100m<sup>2</sup>実施された。

担当者（現職名） 主査 北村和宏（農田西高校教頭）

主任 小澤一弘

調査研究員 後藤英史（天白高校教諭）

調査方法：過去の盗掘等により窯体が1基露呈しており、この地点を中心に複数の窯跡の存在有無を事前に探る目的で磁気探査が平成10年1月13・14日に実施された。露呈していた窯体周辺を中心に実施し、地表面で確認できる窯体以外に明確な反応はなかった。磁気探査の結果と遺物の散布状況、地形等を考慮し、3月5日から11日に適宜試掘坑（トレンチ）を17ヶ所設定し掘削、遺構・遺物の有無を調査し、遺跡の範囲を把握した。

試掘概要：地形的なまとりから調査域を便宜的に西からD区からD区とし、A区（T01～T07）は桑下城跡に対峙する西谷斜面と窯本体が露呈する平坦面（南に緩く傾斜）。B区（T08～T13）はA区東部の谷状の凹みの東側で、南北方向に長い幅狭な平坦面およびその東側急斜面で、平坦面の西北側は近年の造成により削平され崖となっている。C区（T17）はB区の東側、平坦な谷底。休耕田となり、かなりの部分が滝水し、トレンチの掘削が困難で1ヶ所の設定となった。D区（T15～T16）はC区を西側に見おろす斜面。なおD区はその後の発掘調査成果から、上品野西金地遺跡の範囲となつたため、今後刊行予定の上品野西金地遺跡に報告されることになった。

範囲確認調査の成果：窯本体は盗掘などで露呈し1基、窯に付属する作業面と推定される平坦面が2ヶ所T01・T03～T06とT08・T11で、物原と推定される遺物包含層がT01～T05・T07およびT08～T14・T16・T17にかけての広範囲で確認された。こうした調査所見と地表面の遺物散布状況等から桑下東窯跡の遺跡範囲を確定した。出土遺物は大窯期前半の陶器片ないし窯道具類であった。

### 2. 調査の経過

桑下東窯跡の発掘調査は平成17年（2005）度に国道363号道路改良工事に伴う事前調査として、愛知県建設部道路建設課より愛知県教育委員会を通じた委託事業として平成17年（2005）9月から平成18年（2006）3月にかけて実施した。

調査は本遺跡が東西に長く、傾斜地や谷等地形的な条件により、調査区をA区からE区の5区に分けた。東からB区、C区、A区、E区、D区である。B区は東側を上品野西金地遺跡に接した西斜面の地区、C区はB区A区に挟まれた谷底地区、A区は切り立ったような急斜面を含む南北方向に長い幅狭な平坦面で丘陵の東端地区、E区は露呈した窯体周辺の緩く傾斜した平坦な丘陵南端地区、D区は桑下城に対峙す

る西に谷を望む斜面の地区である。調査区内に国土座標第VII系による5mグリッドを設定し実施した。

灰原一部は残っていても中心は調査区外ということで、露呈した窯体1基と平坦地での工房跡の調査を想定し、冬季の作業を考慮し、先に谷底のC区からはじめ、B区、A区の東側を終了し、E区、D区へと作業工程を計画した。C区については湧水と廃土の関係から北と南の二つの区に分け調査した。

谷の東側C・B区を12月までに終了の予定が、12月5日の初雪から、降雪のために12月では6日間作業中止になるという数十年ぶりの大雪に見舞われ工程に遅れが生じた。特にC区の谷底からは想定外の遺構を検出し、寒さと湧水に悩まされ、悪戦苦闘の日々の作業であった。

各調査区ともに、想定外の遺構密度で、A区からは石敷遺構と轆轤ピット群、E区では大規模な工房跡を調査することとなった。

各調査区とも想定外の遺構と雪による作業中止の影響で当初の予定通りには進まなかつたが、どうにか年度内に作業を終了した。

調査期間中の11月23日の勤労感謝の日に地元説明会を実施し、窯跡と石敷の作業場の見学と出土品(碗、皿、臼杵)の一部を展示した。参加者は約150名であった。なお調査終盤の平成18年3月13日に橘崎彰一先生より現地指導を受け、3月24日には窯体の熱残留磁気測定を実施した。

調査担当者（現職名）

平成17年度 主査 小澤一弘

調査研究員 鶴飼雅弘（愛知県埋蔵文化財調査センター主査）

発掘調査支援

株式会社シン技術コンサル（敬称略）

半浦聖智 松田秀貴 中山田出夫 城前喜英 千田利明 田中崇宏 福田健二

小枝勝範 井上正昭 浦川百々子 大江裕美 加藤孝子 亀谷 浩 川井七子

斎場きみ子 正村千代子 鈴木 肇 田中秀夫 高木茂夫 土屋末松 長江典子

長江 賢 中尾容子 中根千恵子 野牧 励 野村 忍 日比野征二

深田美智子 藤井健司 堀美智子 宮石千津子 宮本勢津子 三宅織部

山田のぶよ 渡邊 実

### 3. 整理の経過

平成20年（2008）度より平成21年（2009）度までの1年6ヶ月にわたり二次整理と報告書作成作業を実施した。遺物はP27のコンテナに534箱、整理作業は出土陶器片を1点毎に器種分類し、口縁、底部、胴部に分け、カウントし、出土遺物を復元、実測、遺構図面の整理、図版の作成等を行った。

平成20年度 整理担当者 主任専門員 小澤一弘

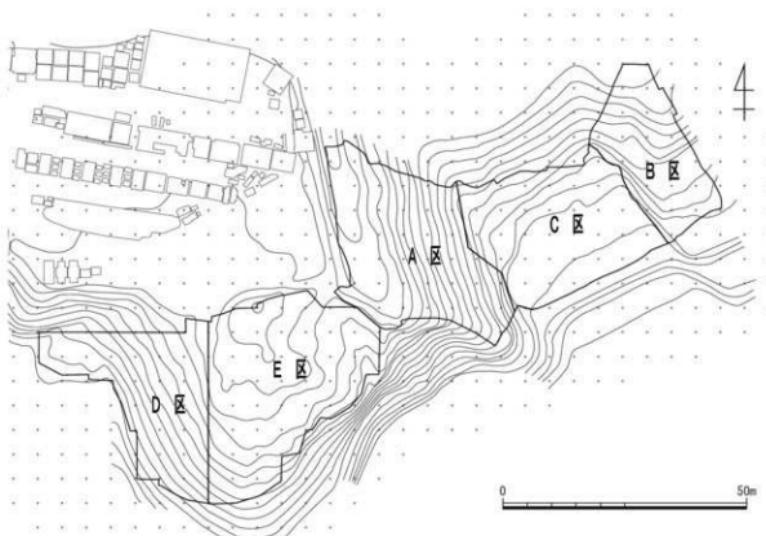
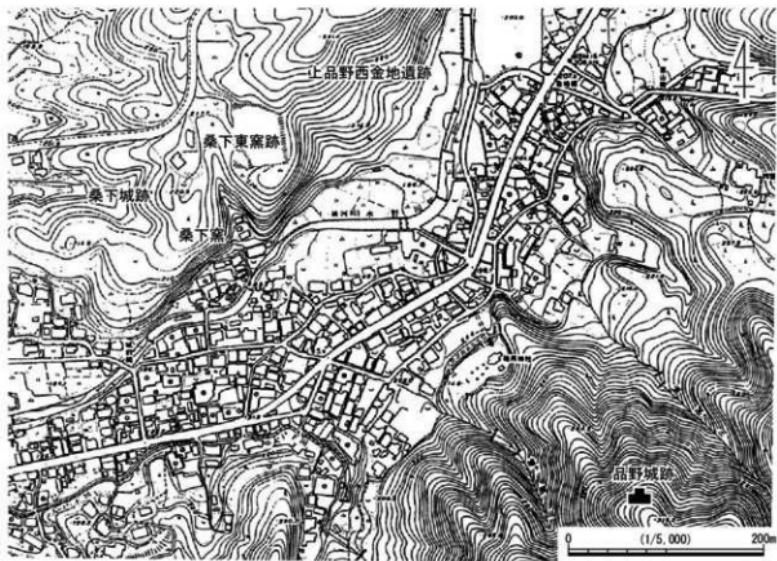
整理作業員（敬称略） 伊藤ますみ 斎藤佳美 山田有美子

平成21年度 整理担当者 主任専門員 小澤一弘

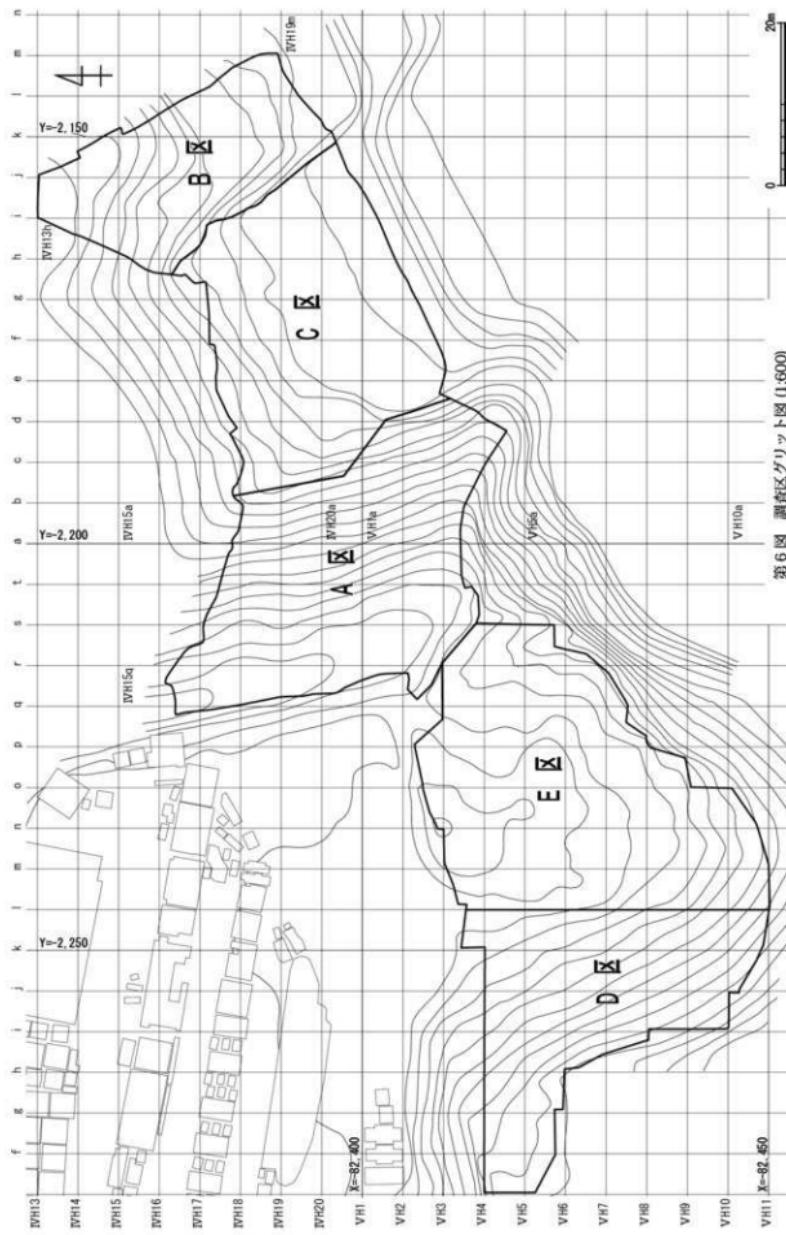
整理作業員（敬称略） 伊藤あけみ 伊藤ますみ 木下由貴子 小島裕子

小嶋由美子 斎藤佳美 鈴木好美 瀧 智美

前田弘子 三浦里美 山田有美子

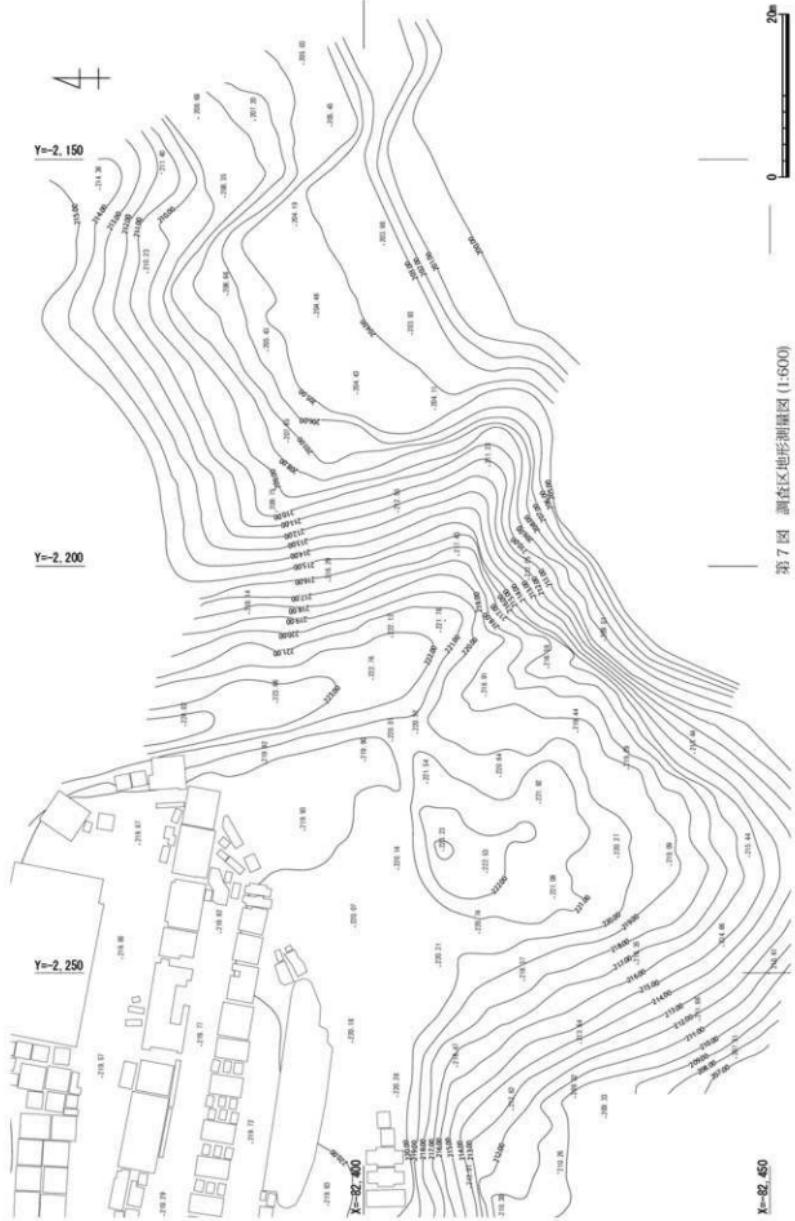


第5図 桑下東窯跡周辺地形図と調査区地形図 (1:1,000)



第6図 調査区グリット図(1:600)

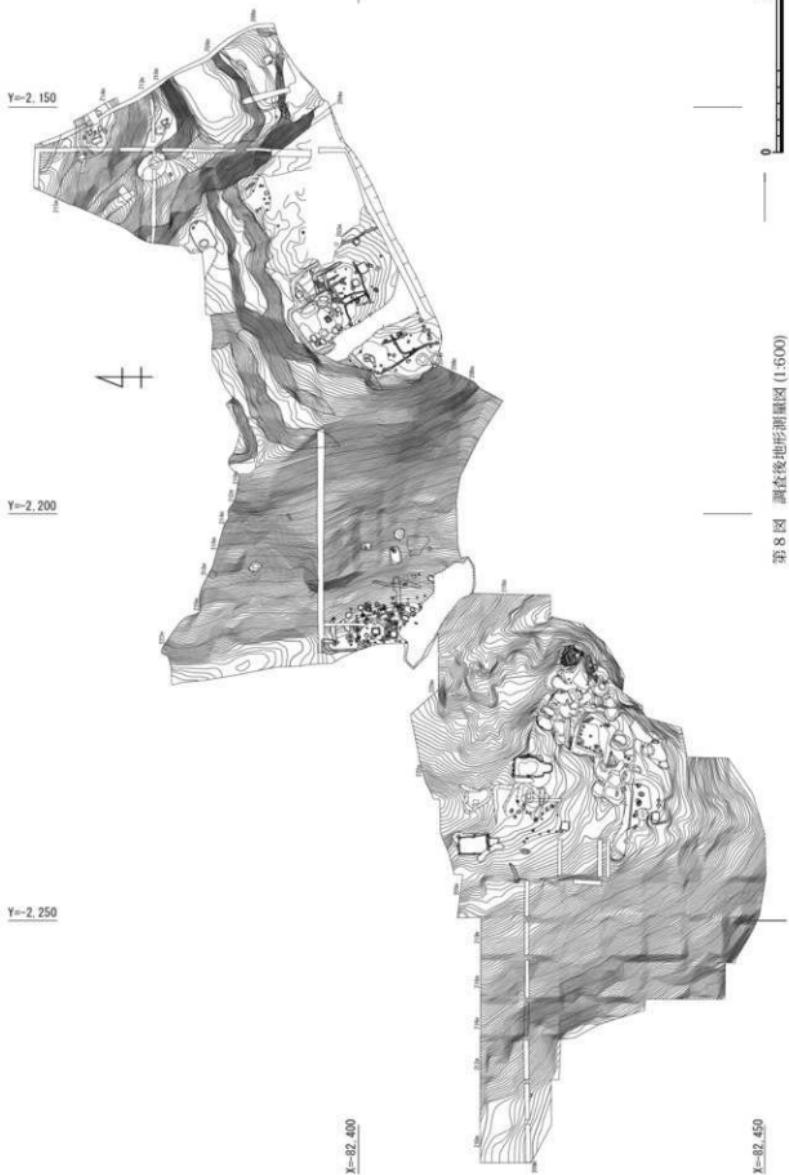
0 200



第7回 調査区地形測量図(1:6,000)

0 20m

第8図 調査後地形測量図(1:600)



20m

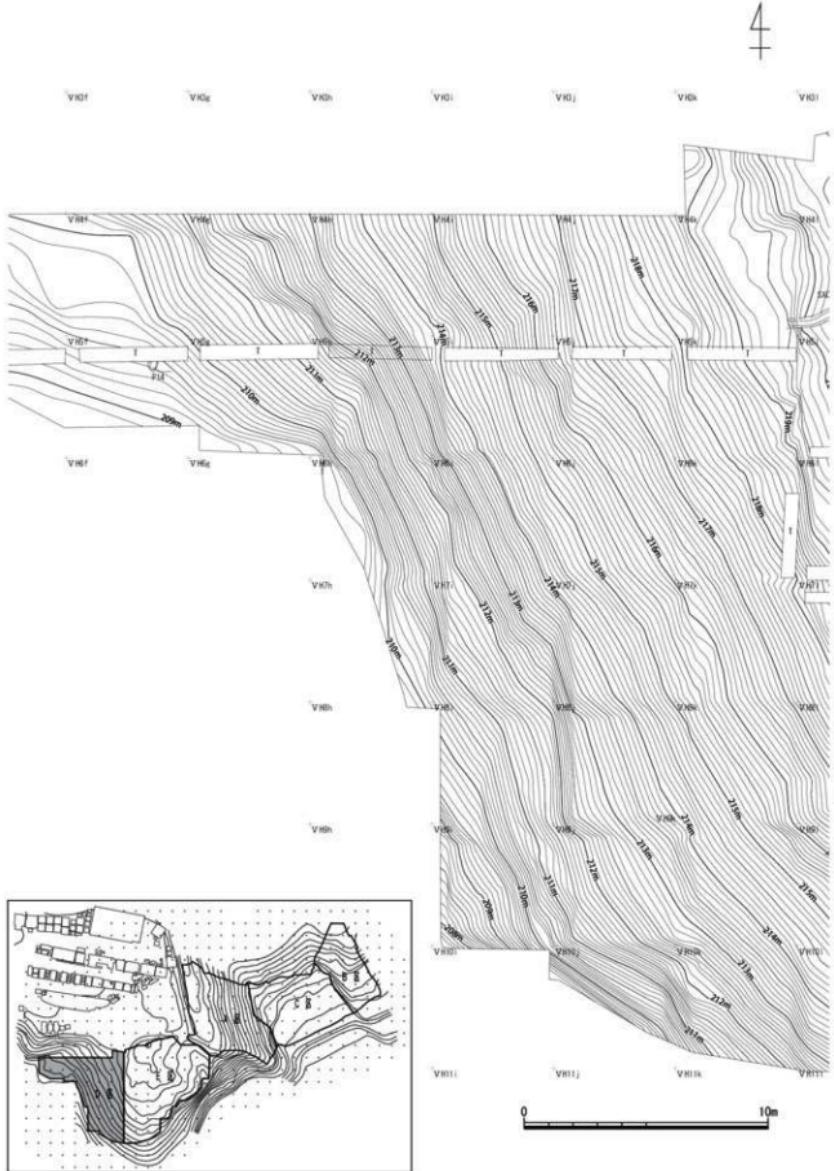
第9图 全体图 I D·E·A区(1:400)



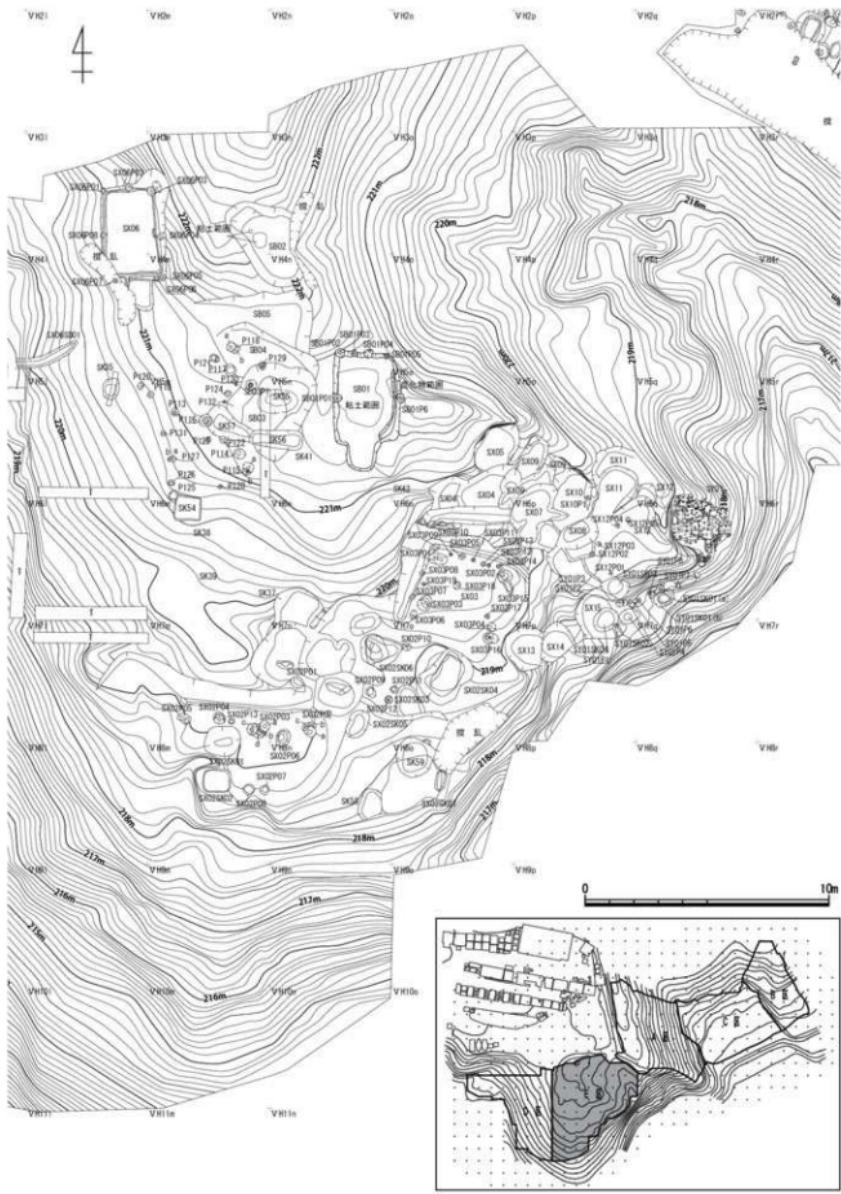
20m

第10図 全体図2・A・B・C区(1:400)

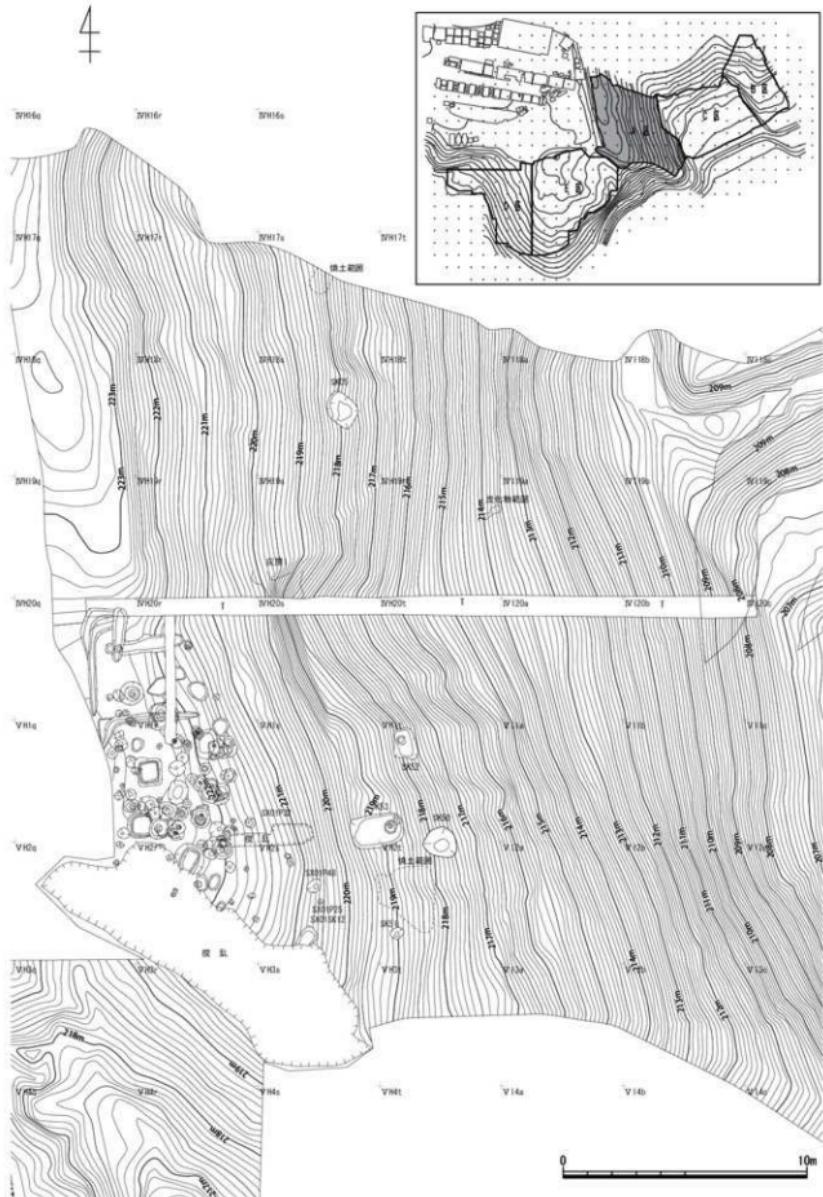




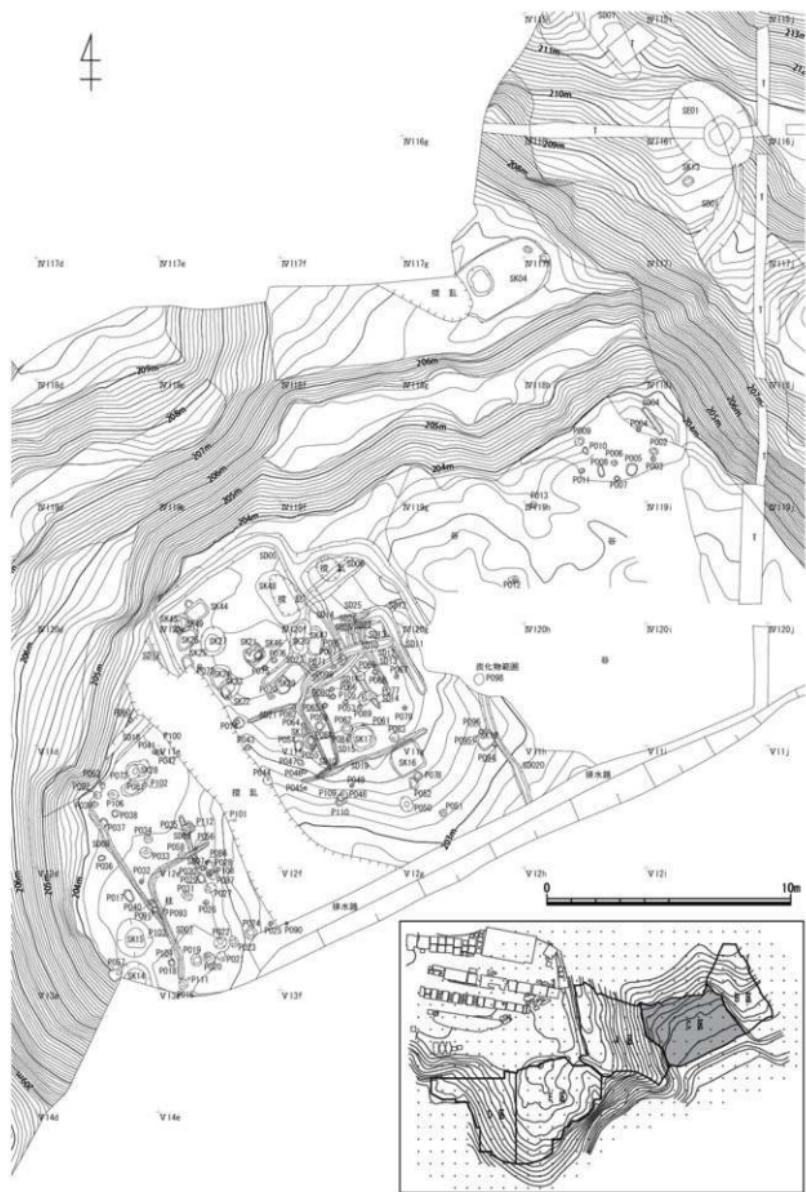
第11図 D区全体図(1:200)



第12図 E区全体図(1:200)

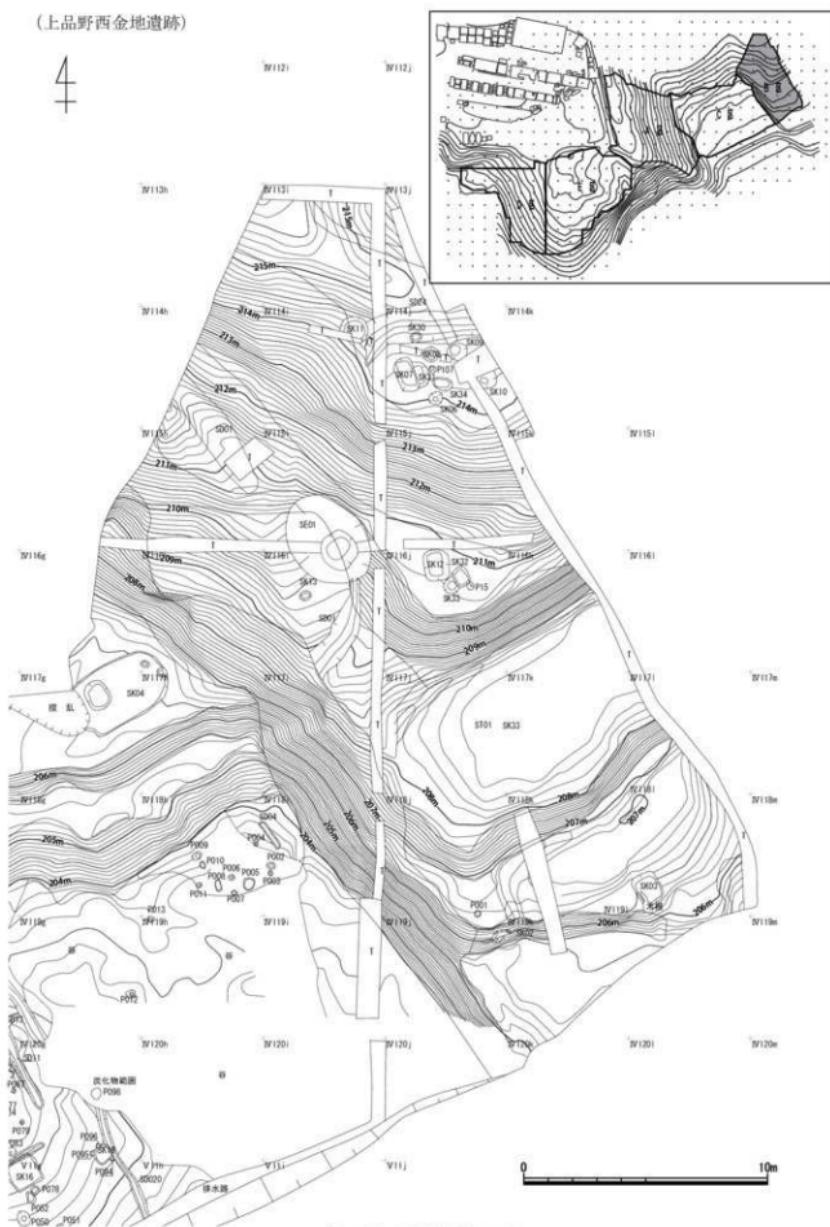


第13図 A区全体図(1:200)



第14図 C区全体図(1:200)

(上品野西金地遺跡)



第15図 B区全体図(1:200)

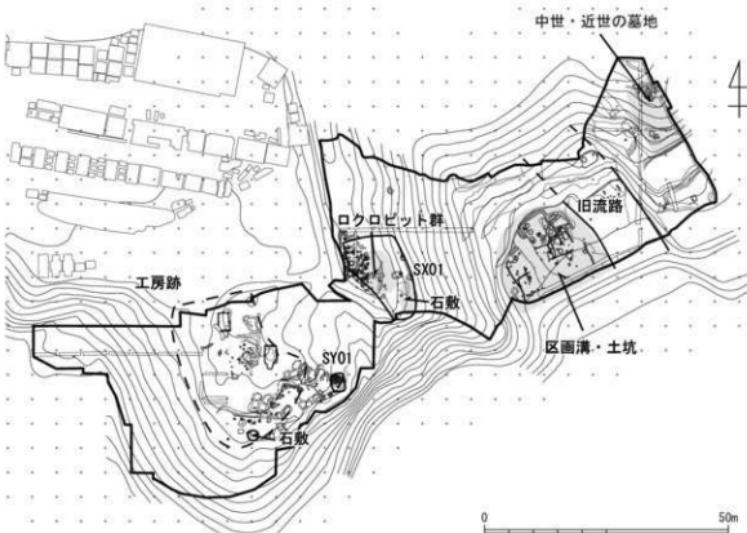
## 第2章 遺構

### 第1節 遺跡の概要

桑下東窯跡は水野川北側の丘陵部に立地し、調査区は丘陵に沿った形で西からD区、E区、A区、C区、B区となり、D区、E区、A区が丘陵部分、C区が東側の谷部分、B区が東谷の東斜面で上品野西金地遺跡の西端と接した調査区であった。またD区の隣は戦国時代の城跡、桑下城である。

調査前の状況は、A区、D区は窯道具と碗、皿等の破片が見られ、E区は平坦部に窯道具のBIN、ヨリ、匣鉢、拵み皿の破片が一面に散乱し、BIN、ヨリが目立った。E区とA区の間に谷状を呈した地滑り痕が見られ、旧地形が失われ、窯体も半分が失われ露出していた。A区の西側と南側一部、E区の北側が造成工事か土採りによりすでに滅失していた。C区は谷底で湧き水に水田の耕作放棄で雑草が覆い茂っていた。

なおB区については、丘陵と遺構を考慮し隣接する上品野西金地遺跡の範囲とし、今後刊行予定の上品野西金地遺跡報告書に掲載予定である。



第16図 主要遺構配置図(1:1,000)

水野川北側丘陵部の南北に広がった丘陵（南北約80m 東西約60m）に築かれた大規模な施設（窯、工房、乾燥施設、倉庫、選別施設）が見られた。A区では非常に狭い範囲から、切り合い関係が認められるロクロピットを含めて40基、遺跡全体では55基のロクロピットが見られた。E区の標高223m23cmが遺跡で最も高い標高地点でSB02の北側である。

丘陵の南北43m 東西37mの範囲内で、山側の斜面を削り平坦面を拡張し、窯に伴う各施設を整備している。遺構が見られる部分と遺構立地可能な滅失部分を含め丘陵部全体の面積を復元すると約1,425m<sup>2</sup>でこの面積の約60%の875m<sup>2</sup>が滅失していた。遺構立地可能面積の40%が検出した遺構である。

南東端に窯体1基SY01が、その西側に選別施設SX02・SX03、工房（ロクロピット）、乾燥施設SB01、倉庫SX06がある。地滑りにより滅失した窪地北側、丘陵の南東端に石敷を施した大規模造成地と大規模造成地の西側約50mの平坦面に40基の密集した羅轆ピットが、土坑群の様相で見られた。大規模な羅轆工房である。

丘陵頂部付近の平坦部を利用し、作業場を造成し、堅穴建物、粘土溜、羅轆工房、掘立柱建物を設け、丘陵で羅轆から製品選別までの一連作業が行われた。さながら焼き物工場のような状況が見られ、「窯大将組織」が想起される。丘陵の東谷C区に区画溝に区画された建物があり、出土遺物が丘陵の工房址と比べ器種が豊富で生焼け製品が少なく、また焼き上がり良好な製品が多いことからC区は製品を集荷し出荷する建物があった屋敷の可能性があるのではないだろうか。

そして土壙墓がA区の羅轆ピット群の下層、SK34とE区の西縁辺部、SK35とC区のSK44、B区（上品野西金地遺跡）の西側斜面の上段SK30では大窯1期の伏せた擂鉢が、下段SK12では江戸期の墓が見られることから、時代を問わず丘陵縁辺の見晴らしのよい場所に墓が設けられていたようである。

上品野西金地遺跡は縄文時代から江戸時代の複合遺跡で戦国期の遺構からは大窯前半の遺物が多く出土し、窯道具も見られ、丘陵東斜面から南東斜面に大窯前半の遺物包含層が確認されていることから、調査区の北側に桑下東窯に従事した集団の居住域があった可能性も想起される。

出土遺物は36器種で総破片数は24,725点である。口縁部個体数1,294個体、底部個体数1,553個を数えた。千点以上出土した器種は、擂鉢8,115点、端反皿7,598点、天目茶碗1,903点、釜1,269点、縁釉皿1,141点である。特徴的な遺物として削り出し輪高台の天目茶碗、鎬蓮弁文丸碗、付高台の端反皿、稜花皿、削ぎのある丸皿、稜皿、銅縁釉皿等、また特殊な器種として魚形掛花生と狛犬の阿形が見られた。

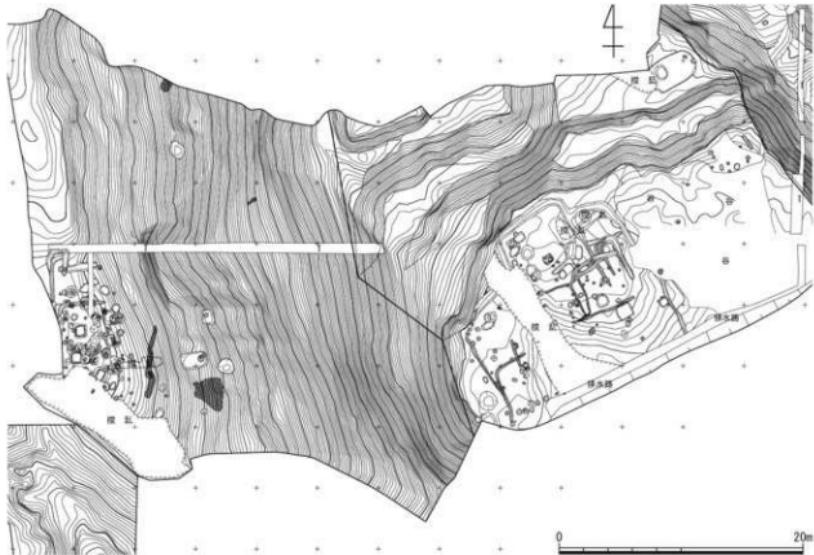
出土遺物は藤澤編年の後期IV新段階から大窯3段階（15世紀末から16世紀後葉）まで見られたが、図示した製品854点の時期構成より、第1段階が操業の最盛期であったようである。藤澤編年の後期IV新段階が1460年から1470年代に、大窯1段階が文明8年（1476）から永正2年（1505）、大窯2段階が1530年前後、大窯3段階が1560年代に成立し、1570年代後半には第3段階後半にはいっていた可能性があると考えられている。

## 第2節 A区の遺構

### 1. 遺構の概要 [図版3、図版17]

A区は丘陵の東側、C区の谷に面した斜面を含む調査区である。A区の北西側と南東側が造成工事あるいは土取りによりすでに滅失していた。切り立ったような急斜面を含む南北方向に長い幅狭い平坦面で丘陵東端の調査区である。遺構は丘陵東端に集中している。C区の谷底から見上げると切り立った急斜面であったため大きな壁に遮られたかのような景観であった。A区は南東部の石敷を施した大規模造成地と埴輪ピット群から構成された工房址である。

標高223m50cmの頂部より下った標高222mの平坦面の表土剥ぎ直後の状況（第24図）は北側では精製された粘土が全体に、南東側には石敷が二ヶ所見られ、このような状況から石敷を含め平坦面全体をSX01とした。SX01は南北13m、東西10mの範囲で石敷部分は南東側に南北8m、東西3m70cmの範囲に見られ、平坦面は西側と南側にも広がっていた。石敷の北側に挟み皿が重なり集中し出土しており埴輪も含め窯道具が多く出土した。最終段階では窯出し後の選別場所であった。また二ヶ所に見られた石敷の空白部分は範囲確認調査のトレーン箇所で石列を検出していたことから、空白部分はなく花崗岩の河床円礫が谷に面した南東側に敷き詰められていたのである。



第17図 A・C区全体図 (1:200)

石敷部分は地山から2mの盛り土（SU02、SU03）によって縁辺部を造成していた。大規模な地業であるのに、平坦ではなく石敷全体が谷側に下がった傾斜をしていたため、何の為に傾斜させたのか不可解であったが、土盛り造成後、縁辺部の流失崩壊を防ぐ為に石を敷く、谷側への傾斜は、石敷当時から現代に到るまでの間に石の重さで全体が谷側に沈んだと理解した。盛土の下より、斜面に掘り込まれた土坑SK50、SK51、SK52、SK53が、SK51の北側には、下部が幅広くなった東西2m30cm南北2m80cmの三角形状の範囲に焼土が見られた。造成以前の遺構が標高217m50cmから222mの間に見られる。

また盛土の中からは窯道具類を含み多くの遺物が出土した。

石敷の西側から地山を掘り込み密集した状況でロクロピット40基と粘土溜土坑3ヶ所が、その他の遺構として溝、柵、下層から墓壙が見られた。A区は石敷の見られた大規模な造成と轆轤ピット群の工房域であるが、北西側と南東側が滅失しており、不明な点が多い。なお石敷を含む東側の傾斜部には轆轤ピットは見られない。

そして、谷に面した縁辺部中央で墓壙SK34が見られ、墓壙内より皇宋通宝と開元通宝を含む六枚の古銭と鉄滓1点が出土した。

## 2. 土層 A・C区 SPB20 ライン（西東）ベルト土層

A区遺構群の北側の丘陵頂部平坦面から東側谷にかけての平坦面、急斜面、谷底のC区を通した全長65mのライン土層であったが、C区25m部分が図化の最中に崩落したため図化できなかった。丘陵頂部平坦面は頂部では1m、縁辺部付近では2mの造成で赤色系土、褐色シルト、橙色シルト、炭化物などが混在し、版築様に互層となっていたが、丘陵頂部の造成地の土層は積み重ねただけでたたき締めた痕跡は見られなかった。東側の急斜面は上部から土が流れて堆積しており基本的に2層であった。C区は崩壊し図示出来なかったが、水田の青灰色土と地山が混じった土で、地山に掘り込まれた遺構下部が残っていた。

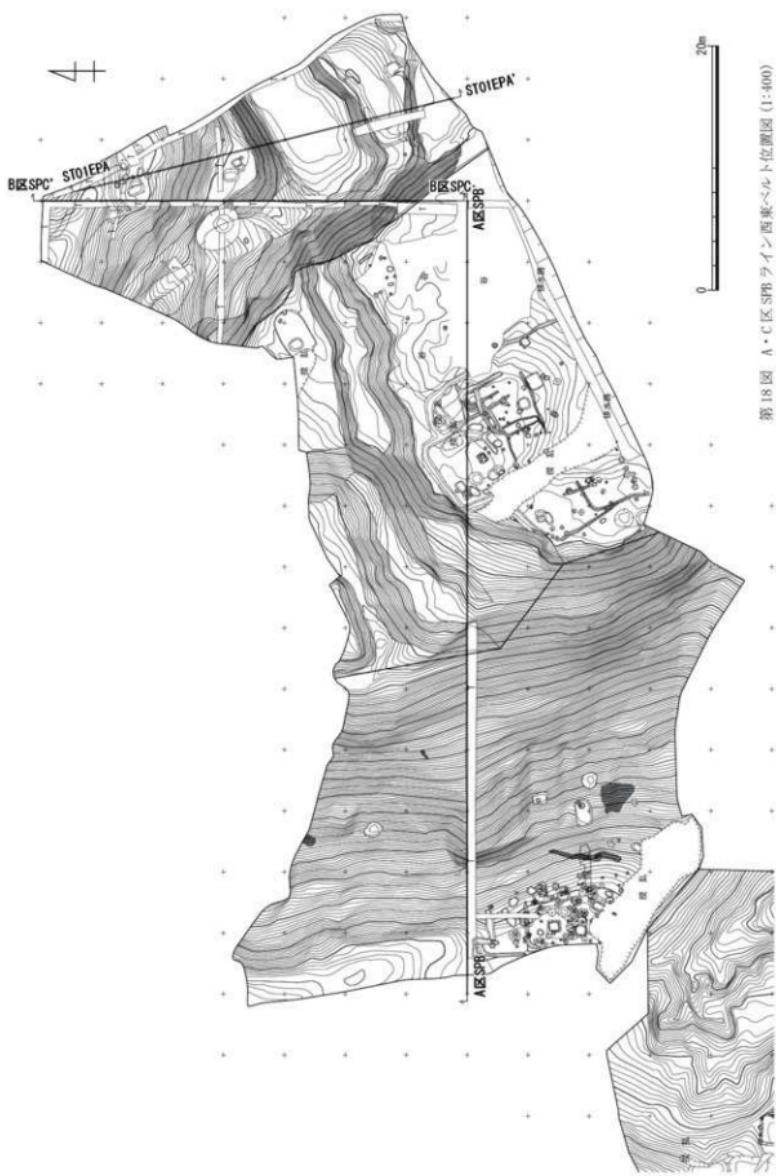
## 3.SX01 の土層 南北（SU02、SU03）ベルト土層と東西（SPB、SPZ）ベルト土層 [図版15]

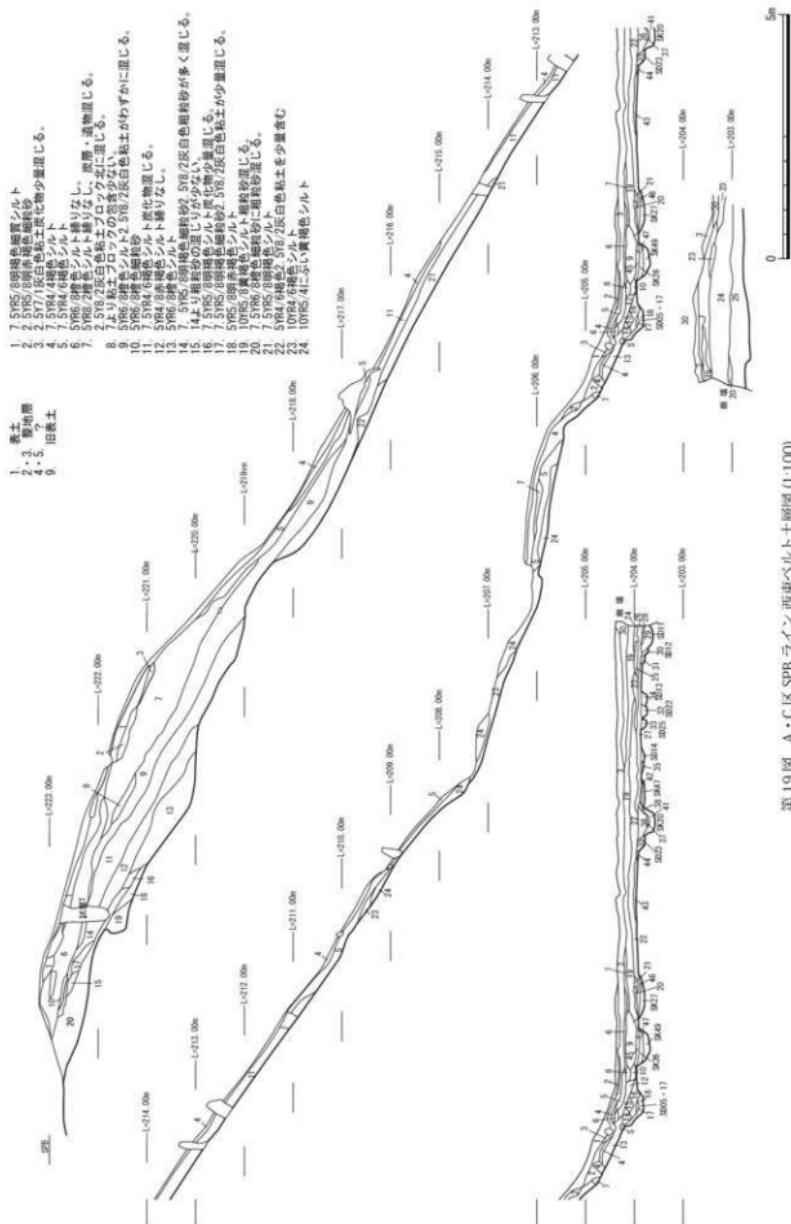
石敷の見られた造成部分の南側がSU02北側がSU03とした南北ベルトの土層と石敷部分と石敷北端部分の土層である。丘陵東端の縁辺のライン土層で木の根に阻まれ、直線のライン設定と図化できない箇所が生じた。大規模造成の痕跡を幾層にも堆積した土層から見る事ができ分層が79層にもなった。縁辺を粘土混じりの褐色シルトで造成し、部分的に灰層状の堆積も見られ、炭化物、製品の破片、窯道具の破片等が混入していた。縁辺から埋め、積み上げていった様子が見られ、版築様に互層に積み上げられた土は叩き締めた痕跡もなく、土を盛った状況であった。

## 4.SX01 の石敷 [巻頭図版4、図版13、図版14]

丘陵東端の平坦部がSX01でSX01は南北13m、東西10mの範囲で、旧地形に造成を加え、平坦面が拡張され、広くなった平坦部分である。石敷部分は南北側に南北8m、東西3m70cmの範囲に見られ、石敷は南北にも広がっていたと考えられる。石敷の上と石と石の間に精製された粘土が被ったり、詰まっていたりしていた。

第18図 A・C区SPBライン西側ベルト位置図(1:400)

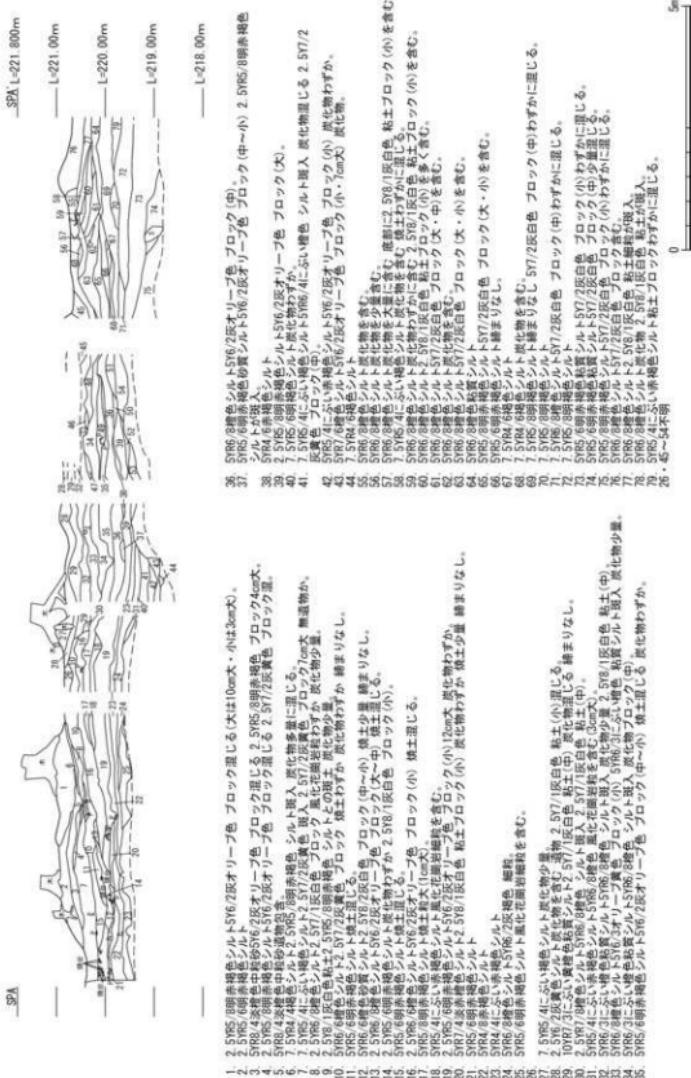




第19図 A・C区SPBライン西東ベルト土解図(1:100)

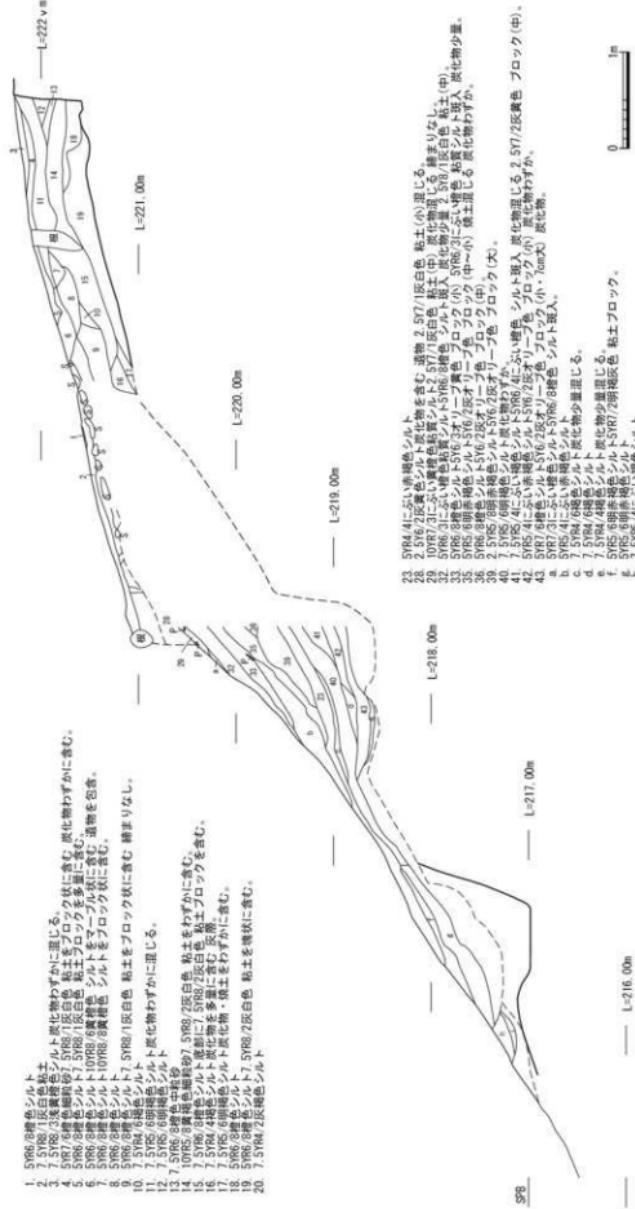


第20図 A区 土層ベルト位置図(1:100)

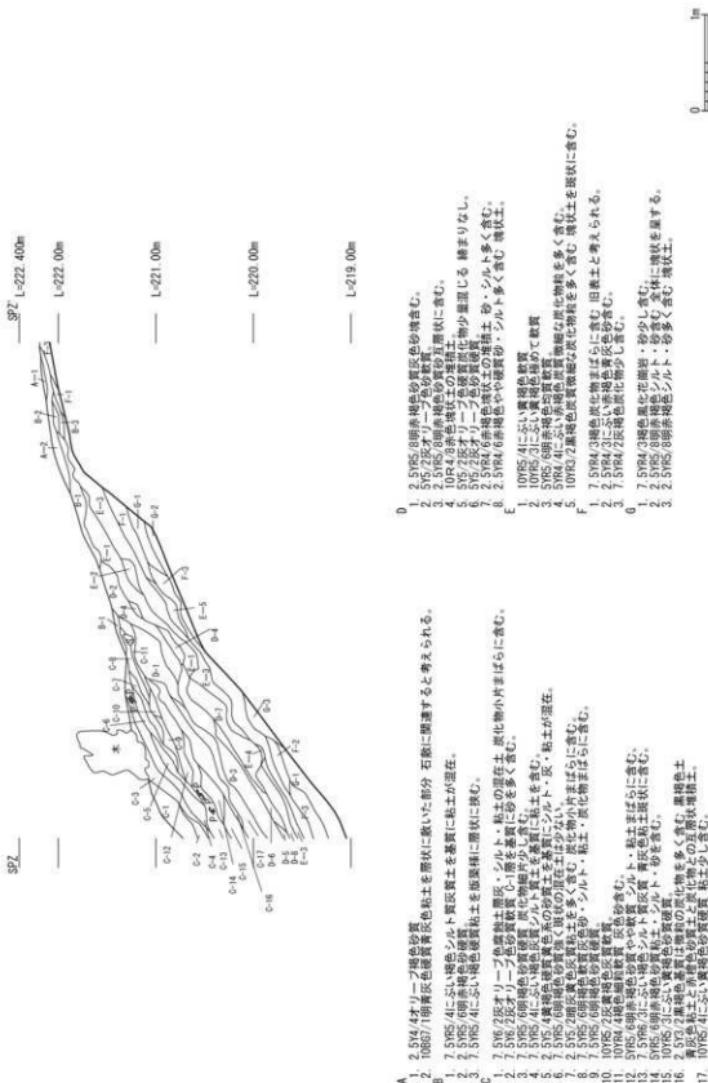


第21図 A区SU02・03 SPA南北ベルト土層図(1:100)

1. 5986/8層/2段色シルト 黄白色 地下物わずかに混じる。
2. 7. 5986/1段色シルト 黄白色 地下物わずかに混じる。
3. 5986/6層/2段色シルト 黄白色 地下物わずかに混じる。
4. 5986/8層/2段色シルト 黄白色 地下物わずかに混じる。
5. 5986/8層/2段色シルト 黄白色 地下物わずかに混じる。
6. 5986/8層/2段色シルト 10TR8/6層暗色 シルトを含む。
7. 5986/8層/2段色シルト 10TR8/8層暗色 シルトを含む。
8. 5986/8層/2段色シルト 7. 5986/1段白色 粘土を含む。
9. 5986/8層/2段色シルト 地下物わずかに混じる。
10. 5944/6層/2段色シルト 黄白色 地下物わずかに混じる。
11. 7. 5944/6層/2段色シルト 黄白色 地下物わずかに混じる。
12. 7. 5944/6層/2段色シルト 黄白色 地下物わずかに混じる。
13. 7. 5986/6層/2段色シルト 黄白色 地下物わずかに混じる。
14. 7. 5986/8層/2段色シルト 黄白色 地下物わずかに混じる。
15. 7. 5986/8層/2段色シルト 黄白色 地下物わずかに混じる。
16. 7. 5986/4層/2段色シルト 黄白色 地下物わずかに混じる。
17. 7. 5975/4層/2段色シルト 黄白色 地下物わずかに混じる。
18. 5986/8層/2段色シルト 黄白色 地下物わずかに混じる。
19. 7. 5986/2段色シルト 黄白色 地下物わずかに混じる。
20. 7. 5986/2段色シルト 黄白色 地下物わずかに混じる。



第22図 A区 SX01 SPB 東西ベルト土壤層 (1:15)



第23図 A区 SX01 SPZ 西ベルト層図(1:50)

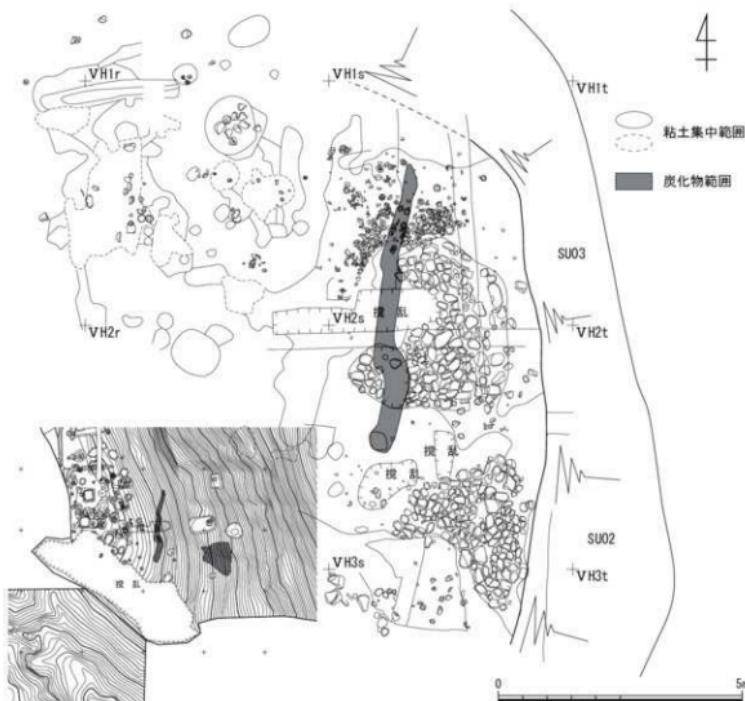
石敷の北側に挟み皿が重なり集中して見られ、匝鉢も含め窓道具が多く最終段階では窓出し直後の選別場所であったようである。また二ヶ所の石敷と見られた石敷は、石敷の空白部分が範囲確認調査のトレチ箇所であったことから、空白部分ではなく谷に面した南東側全面に敷き詰められていたと考えられる。

敷かれていた河床円礫は花崗岩がほとんどを占め、一部にホルンフェルスや濃飛流紋岩が見られた。拳大10cmから最大50cm×14cmまで大小様々で20cmから30cmの角の丸いものが多く360個を数えた。

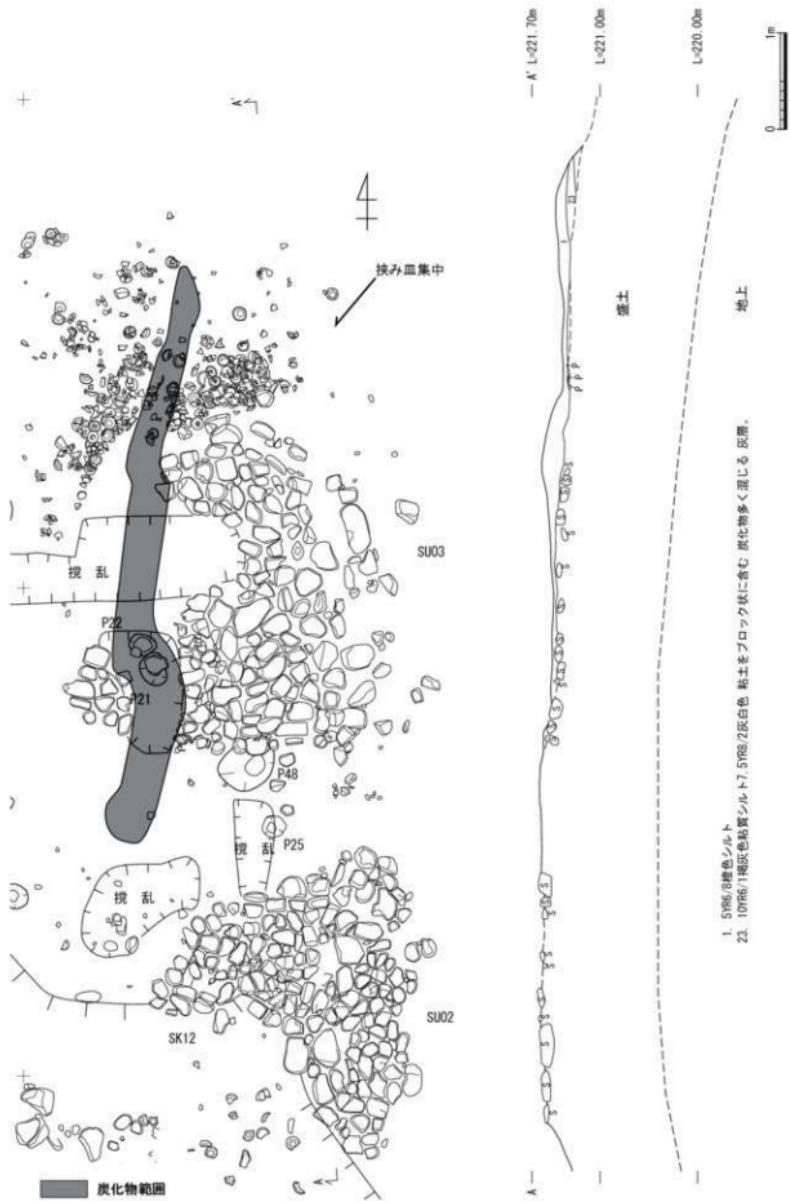
石敷部分の標高は221mである。石敷の高い地点の標高(中央西側)は221m97cm、低い地点の標高(北東谷側)は221m10cmを測る。石敷部分は地山から2mの盛土(SU02, SU03)により縁辺部を造成し、その上を円礫で覆っていたのである。

石敷以前の遺構として盛り土の下より、斜面に掘り込まれた土坑SK50、SK51、SK52、SK53があり、SK51の北側には下部が幅広くなった東西2m30cm南北2m80cmの三角形状の範囲に焼土が見られた。造成以前の遺構で標高217m50cmから222mの間に遺構が見られる。

造成が大規模な地業で平坦部を造り出すためであるはずが、平坦ではなく石敷全体が谷側に下がった傾



第24図 A区 SX01 粘土・敷石出土状況図 (1:100)



第25図 A区 SX01 敷石・窯道具出土状況図と断面図(1:50)

斜をしていたため、何の為に傾斜させたのか不可解であったが、土盛り造成後、縁辺部の流失崩壊を防ぐ為に石を敷き、谷側への傾斜は、石敷当時から現代に到るまでの間に石の重さで全体が谷側に沈んだと理解している。

### 5. 鏈轆ピット [図版 5、図版 16]

石敷の西側（造成地の西側）では、精製された粘土の分布が見られた為、更に掘削して遺構を確認したところ、ロクロビットが 40 基切り合い密集した状況で、見られた。さながら土坑群の様な状況であった。ロクロビットは南側にも広がっていた可能性がある。ロクロビットは石敷の西側 2m から 4m に展開している。鍵轆ピットの北限は P05、南限は P04、東限は P32、西限は P14 である。東側の傾斜部には鍵轆ピットは見られない。

鍵轆ピットは SK01～SK03、SK06、SK07-P13、SK16、SK18、SK21、SK23～SK28、SK30～K32、SK37～SK39、P01～P06、P08、P10、P14、P15、P32、P37、P41、P47、P52、P53、P55、P58、P63、P65 の合計 40 基である。

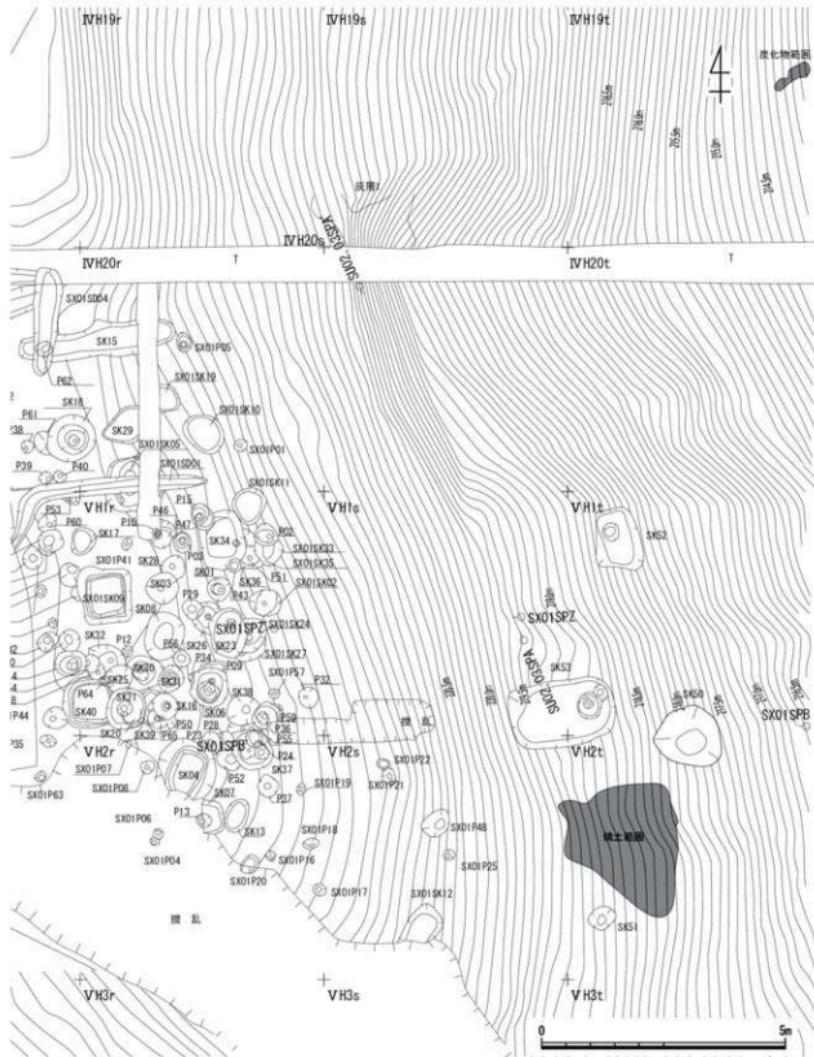
鍵轆ピットがこれほど確認できたのは、当初は平面プラン確認後そのまま掘削していたが、プランが不整形で切り合いもあり、ピットも並ばず不規則、全面に精製粘土が見られる状況で、精製粘土の分布を考慮すれば工房址（第 23 図）であることから、ロクロビットか柱穴かの判断が必要となった。ロクロビットとするには穴の径が一回り大きく、軸穴を塞ぐ物が見られないことから疑問もあったが、ロクロビットか柱穴かを判別する必要から、その後 A 区はすべて遺構を半歳した。その結果がロクロビット 40 基である。

ロクロビットをその形状から従来の“柱穴タイプ”と“土坑タイプ”的二型に分類した。柱穴型が 20 基、土坑型が 20 基（第 15 表の鍵轆ピット一覧参照）である。主な鍵轆ピットを調査当時の所見そのまで紹介する。

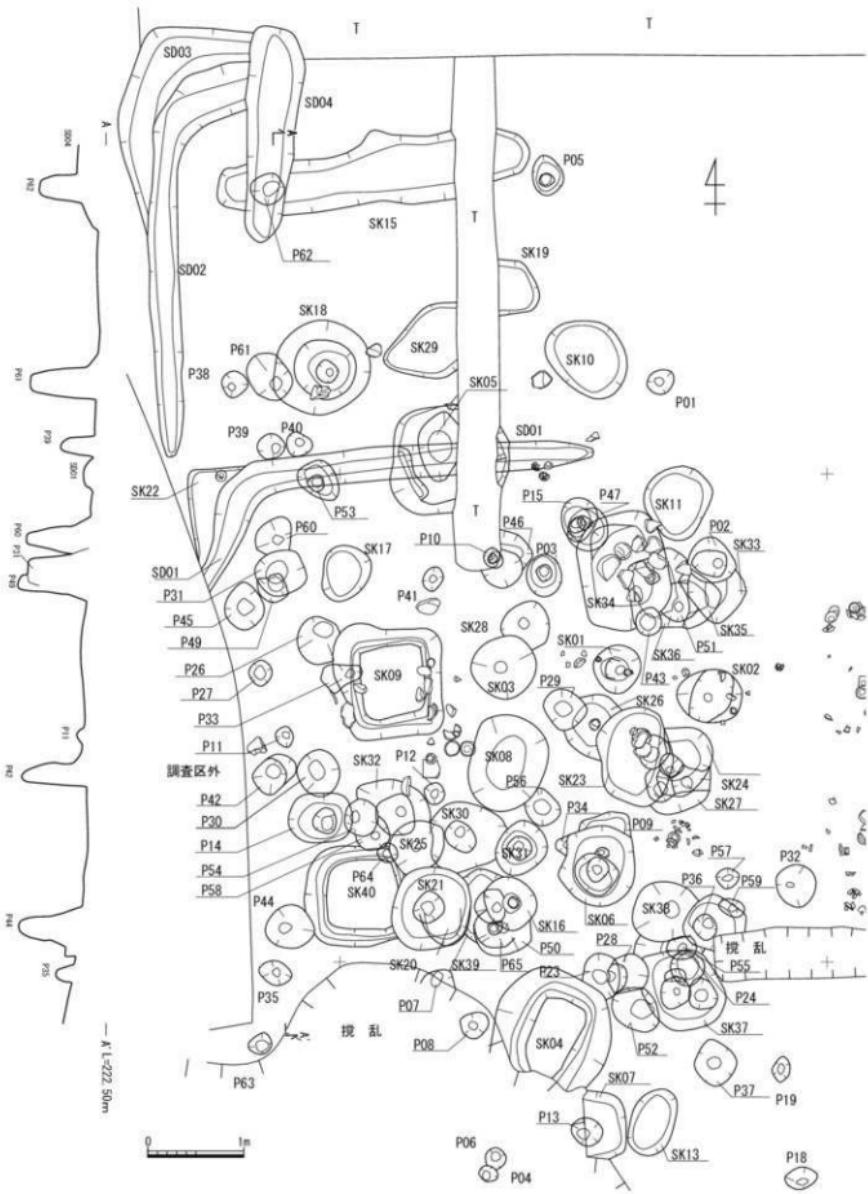
**SK01** SK01 のほぼ中央に位置し、西側に SK03、東側に SK02 がそれぞれ約 1m の間隔で隣接しており、3 遺構が直線的に並列する。表土除去の時点で円形状に粘土範囲として検出され、最も新しい段階の遺構と考えられる。遺存状態は良好である。平面形はやや角のある円形状を呈し、断面形は深鉢状、“柱穴タイプ”である。軸穴部は遺構掘り込みの中央付近、軸穴周は拳大の礫で固定され、掘り込み上部は粘土により充填されている。軸穴は中心ではなく東側に偏って作られ、上面は匣鉢を正位で覆っている。匣鉢・小皿が出土した。

**SK02** [図版 19] SK01 の東南東側に隣接し、丘陵頂部平坦面の東端に立地する。表土除去時点で粘土範囲が検出された、新しい段階の鍵轆ピットである。遺存状態は良好である。平面形はやや歪な円形、断面形は深鉢形、“柱穴タイプ”である。軸穴部は掘り込みのほぼ中心、上部 1/3 付近に作られ、軸穴の周り礫で固定している。軸穴上部から軸木の可能性のある炭化物片が出土した。また軸穴底面に版築様の硬質な砂混じり粘土が見られ、軸受けと考えられる。

**SK16** [図版 21] SK39・P50・P65 を切って構築される。“柱穴タイプ”鍵轆ピットで、軸穴底面は段状に掘り込まれ、軸受けとみられる粘土を伴い、下底は硬化している。軸穴は掘り込み中位で一度突き固めてあり、“柱穴タイプ”的特徴のひとつといえる。軸穴上端は上から 1/5 位にある。軸穴に蓋をす



第26図 A区 遺構位置図(敷石撤去後)(1:100)



第27図 A区造構位置図とA-A'ライン断面図(1:50)

るよう粘土塊が認められた。平坦面西側の粘土敷きの下位から検出された。古い段階の遺構を埋め戻した可能性がある。

**SK18** [図版 22] 離轆ビット群の北西側に所在し、内側の区画溝と推察される SD01 の外側に位置する。掘立柱建物あるいは柵ないし囲いと推察される柱穴列 (P61) を切って構築されている。表土除去時点で落ち込みプランが見られ、最も新しい段階の掘り込みと考えられる。“土坑タイプ”的離轆ビットで、上部掘り込みと軸部掘り込みから成る。平面形はほぼ円形で、上部掘り込みの下部に大礫を伴う。埋設した可能性が考えられる。軸穴底面に版築様の粘土があり、軸受けとみられる。

**SK21** [図版図版 6] 平坦面西側の粘土敷きの下位から検出された。井戸状の角礫による石組みを伴う“土坑タイプ”的離轆ビットで、他に SK06(礫を一部周回状に伴う)・SK07(礫を周回状に伴う)と考えられるが、攪乱のため全容は不明)が類似する。礫は軸穴周ではなく、上部土坑様掘り込みの壁沿いに積まれている。軸穴は上部土坑様掘り込みの中位付近からで、底部には層厚 1~2 cm の薄いシルト敷きが認められた。

**SK25** [図版 23] 平坦面西側粘土敷きの下位から検出され、これを切って構築されている。粘土敷きに覆われる SK30・32・40などを切り、SK21 に切られる。“柱穴タイプ”的離轆ビットで、軸穴下部は焼台を円形に例り貫いた材で固定されている。他に類例は認められなかった。

**SK28** [図版 25] SK03 に一部切られる。SK01・SK02 と約 1 m の間隔で東西に直線的に並列する。“柱穴タイプ”的離轆ビットで、掘り込み下半は軸固定部分となり、底面に版築様の粘土を挟む。上半は粘土と炭化物を主体とし(最上層は粘土敷きの時期に埋め戻しされた可能性が考えられる)、軸穴の上方から匣鉢が出土した。

**P02** [図版 28] 平坦面やや北東寄りの縁辺部に立地し、西側には土坑墓が隣接する。“柱穴タイプ”的離轆ビットで、表土除去時点で径約 30 cm の粘土分布範囲として確認された。新しい段階の遺構と考えられる。軸穴が垂直ではなく、西北西-東南東に傾いて作られている(大部分の離轆ビットは垂直であり、本例が最も傾きが著しい)。覆土上部は粘土質の強い塊状シルトで覆われており、これを除去した際にほとんど空洞状態の軸穴を検出した。状況的に、離轆軸を抜き取ってシルト塊で埋め戻した可能性が想像される。

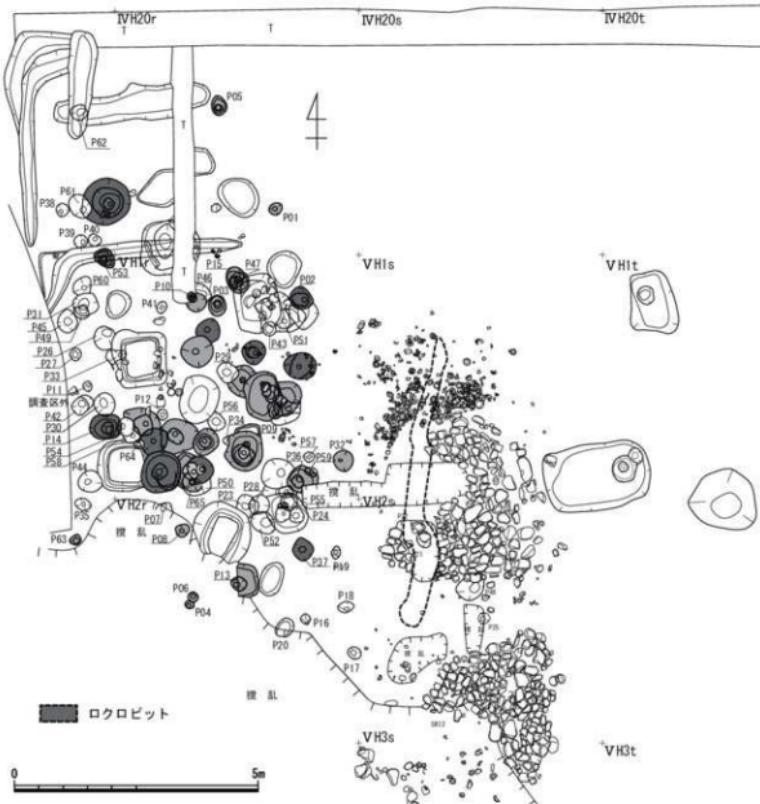
**P14** [図版 29] 平坦面西側に位置し、貼床状の最上部粘土敷きに覆われていた。西側には堀立柱建物あるいは柵ないし囲いと推察される柱穴列 (P42) が近接する。“土坑タイプ”的離轆ビットで、上半の土坑様掘り込みと下半の柱穴様部分から成る。柱穴様掘り込み部分は明確な掘り方を作らず、やや大きく掘り込まれており、周壁は凹凸が強い。覆土は軟質の明赤橙色系砂質土で、軸を抜き取った可能性が高い。上部土坑様掘り込み部分の覆土中(軸穴上)から狛犬脚部片が出土した。

**P37** [図版 31] 平坦面の南東寄りに位置し、石敷(南側区画)に隣接している。平面形が隅円方形を呈する“柱穴タイプ”的離轆ビットで、他に同様な例は P24・50など少数ある。下部軸穴上を自然層と酷似する赤・色系土で覆い、その上に径 2 cm 位の粘土塊を主体とする層が挟まる。多くの場合、粘土質土を取り除いた時点で遺構の底面と誤認し、下位の軸穴を見落としやすく、意図的なものかどうかは不明であるが、このような「隠匿的」な覆土・層堆積をもつ離轆ビットは他にも見られた。本例はその典型的なものである。

P53 平坦面の北西寄りに位置し、区画溝と推察されるSD01に切られている。“土坑タイプ”的轆ピットで、上部のやや浅い土坑様掘り込みと下部の深い柱穴様部分から成り、底面に軸受けと考えられる粘土（うすい扁平状の「せんべい」とやや厚い「丸餅」の様）を挟む。

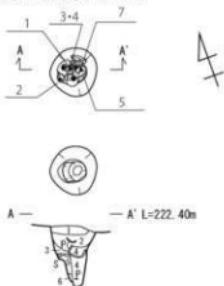
## 6. 粘土溜土坑

粘土溜土坑としてSK04、SK05、SK08、SK09、SK40の5例が見られ、北限はSK05、南限はSK04である。いずれも底に粘土が見られた。粘土はブロック状に固まつたものもあった。SK08を除けば4例とも隅丸方形形状で底部壁際に周溝が見られ、土坑内の粘土と壁の土とが混ざらないように板廻いした痕跡かもしれない。



第28図 A区 轮轂ピット分布図(1:100)

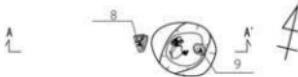
### SK01出土状況図 (VH1r)



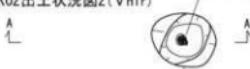
1. 2/SY8/2灰白色粘土SYR7/8橙色 中粒砂が斑入。
  2. 10YR7/2にぶい黃褐色シルト10YR8/3淡黄褐色  
粘土をブロック状に含む。
  3. SYR5/4にぶい赤褐色砂質シルト
  4. 7/SY5/6明赤褐色砂質シルト
  5. SYR5/6明赤褐色シルト砂含む。
  6. 10Y6/2オーブル灰色シルト

\*4層は+クロツ穴

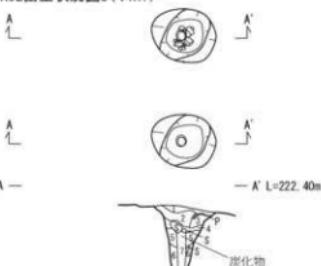
SK02出土状況図1(VH1r)



SK02出土狀況圖2(17W1c)

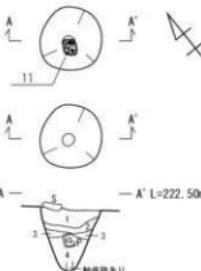


SK02出土状況図3(VH1r)



- 1. 2.5YB/2B白色粘土質化物を濃密に含む。
  - 2. 2.5YB/2B白色粘土
  - 3. 2.5YR/4褐色シルト5Y/4 オリーブ色中粒砂をブロック化する。
  - N-灰褐色シルト
  - 7. 2.5YR/2B灰色シルト 2.5YB/2B白色 粘土を塊状に含む。
  - 8. 2.5YR/2B白色シルト 2.5YR/2B白色 粘土・砂・シルト含む。
  - 9. 2.5YR/2B白色明視度シルト 黃褐色・粘土・砂・シルト含む。
  - 10. 2.5YR/3C(3)に近い黃褐色細粒砂を複数で散在。
  - 11. 2.5YR/2B白色粘土・褐色細粒砂少し。含む。極めて硬質。
  - 12. 2.5YR/6(6)灰褐色粘土・褐色細粒砂少し。含む。極めて硬質。

### SK03出土状況図(VH1r)

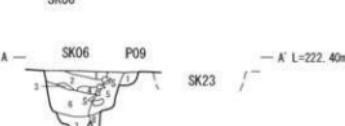


1. 7.5YR6/6橙色シルト
  2. 5YR6/6赤褐色シルト粗粒砂混じる。
  3. 7.5YR6/2灰褐色シルト
  4. 2.5Y8/1灰白色粘土5YR7/8橙色  
シルトがブロック状に混じる。  
10YR8/3浅黄褐色 粘土ブロックが混じる。  
底面に明赤褐色砂(厚さ5mm程度)があり  
中央に浅い凹溝(深さ約1cm)が認められた。

SK06出土状況図(VH1r)



A small scientific illustration showing a cross-section of a brain or eye structure. An arrow points to a specific circular area within the drawing. Below the drawing, the code "SK06" is written, and to the right, the label "POS" is visible.



- SK06**

  1. 5YR7.8色中粒沙[2] 5YR7.8灰白色シルトが既に10YR8.1灰白色  
粘土をブロック状に含む褐色土じる。
  2. 5YR7.8色中粒沙と5YR8.2灰白色シルトの斑状炭化物、樹木わ  
ずかに混じる。10YR8.3浅黄褐色 粘土ブロック状に混じる。
  3. 5YR7.8色シルト
  4. 5YR8.9赤褐色シルト 2.5YR8.2灰白色粘土をブロック状に含む  
褐色土をすばくに混じる。
  5. 5YR7.8灰白色土炭化物わずかに混じる 5YR7.8橙色砂質  
シルトが混じる。
  6. 5YR7.8褐色シルト
  7. 7YR5.8褐色シルト表面に厚層1cm程度の硬質シルト敷く。

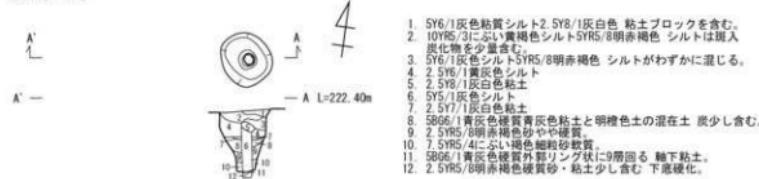
800

- #### 1. 7. SYR6/6橙色砂質シルト炭化物わずかに混じる。

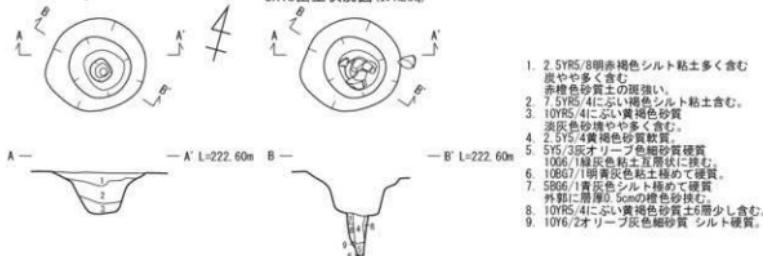
1m

第29図 A区舗装ピット(SK01 ≈ 03:06 P09) 平面図・土層断面図(1:50)

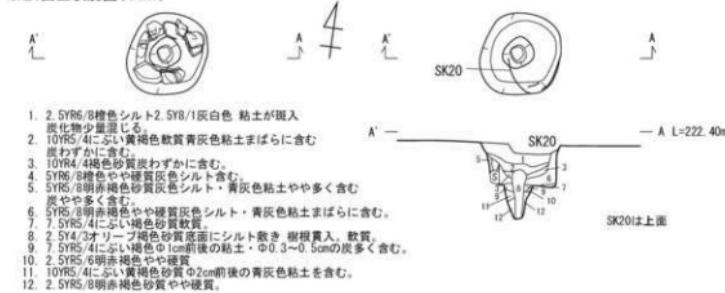
SK16(VHir)



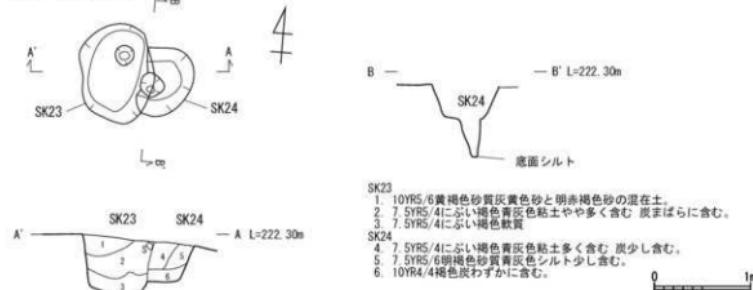
SK18 (VH20a)



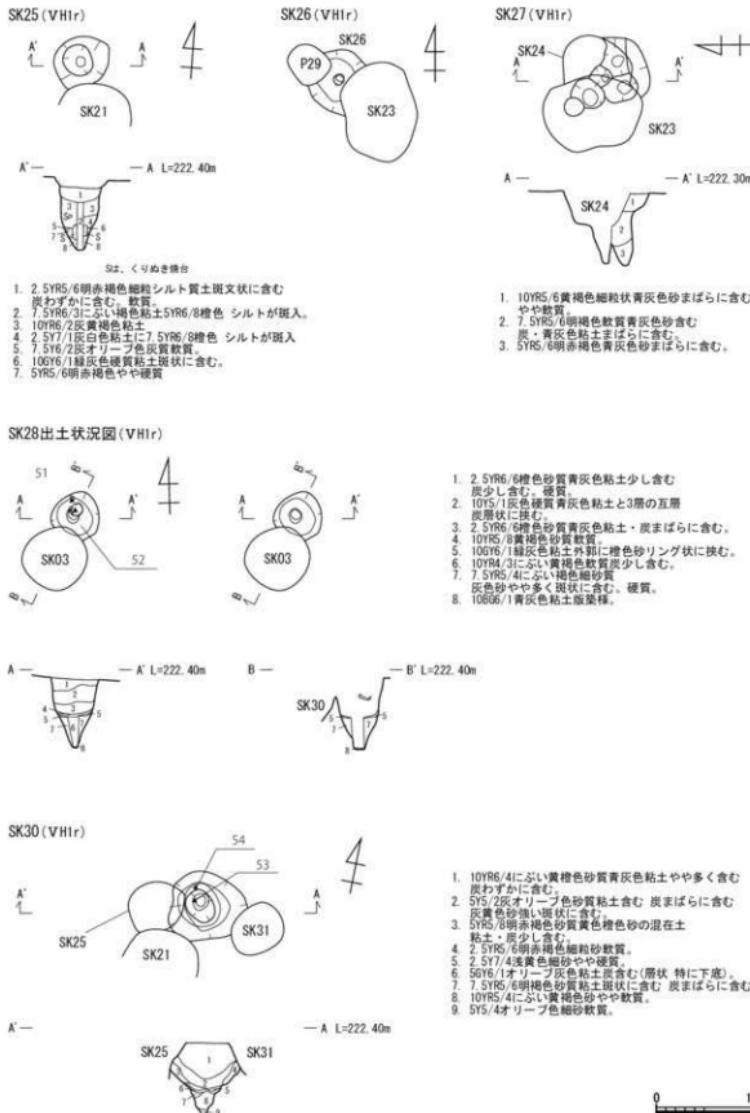
SK21出土状況図 (VHir)



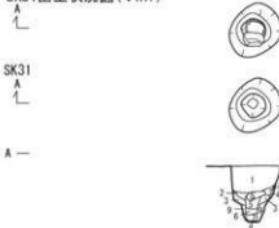
SK23, SK24 (VHir)



第30図 A区 鉢植ビット (SK16・18・21・23・24) 平面図・土層断面図 (1:50)



SK31出土状況図 (VH1r)



1. 10Y7/6黄褐色砂赤褐色砂斑状に含む。

2. 青灰色土とわずかに含む。灰皮状に含む。

3. SBG6/1明黄色粘土。

4. 2.5YR4/6明赤褐色砂軟質。

5. 2.5Y5/3黄褐色シルト質。

6. 灰色シルト質土と橙色シルト質。

7. 2.5YR4/4オリーブ褐色やや硬質。

8. 2.5YR4/6赤褐色砂質やや粗粒の砂。硬質。

9. 2.5YR5/8明赤褐色砂質。

赤褐色砂を基質に灰色シルト・砂混在。極めて硬質。

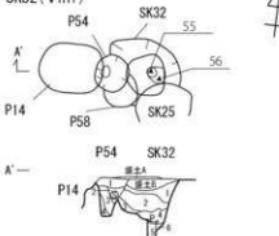
— A' L=222.40m

SK31

A

A'

SK32 (VH1r)



4

A'

A

A'

A

— A L=222.40m

底土

A. 10Y7/1明緑灰色瓦層・瓶蓋様層。

B. 10Y6/6明灰色瓦層・瓶蓋様層。

C. 淡赤褐色粘土混土・粘土の互層。

SK32

1. 7.SYR6/3(3)にい黄褐色灰質粘土含む。
2. 7.SYR5/4(3)にい黄褐色砂質粘土・シルト多く含む。
3. 10YR5/4にい黄褐色砂質粘土・シルト含む。
4. 2.5Y5/4黄褐色砂質粘土・粘土まばらに含む。炭含む。
5. 10YR5/4にい黄褐色砂質粘土・シルト含む。
6. 2.5Y5/3黄褐色砂色シルト質外郭橙色サビ色砂。硬質。

SK39 (VH1r)



4

SK39出土状況図 (VH1r)



4

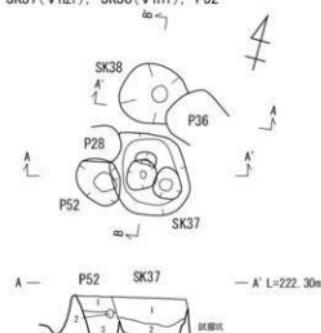
A'

A

— A L=222.40m



SK37 (VH2r), SK38 (VH1r), P52



— A' L=222.30m

P52

A

A'

1. 2.5Y5/3黄褐色砂質粘土・シルト含む。
2. 10YR4/6明緑灰色粘土。
3. 10YR5/3にい黄褐色砂質粘土・シルト含む。
4. 2.5YR5/8明赤褐色砂質。



— B' L=222.30m



— A L=222.30m

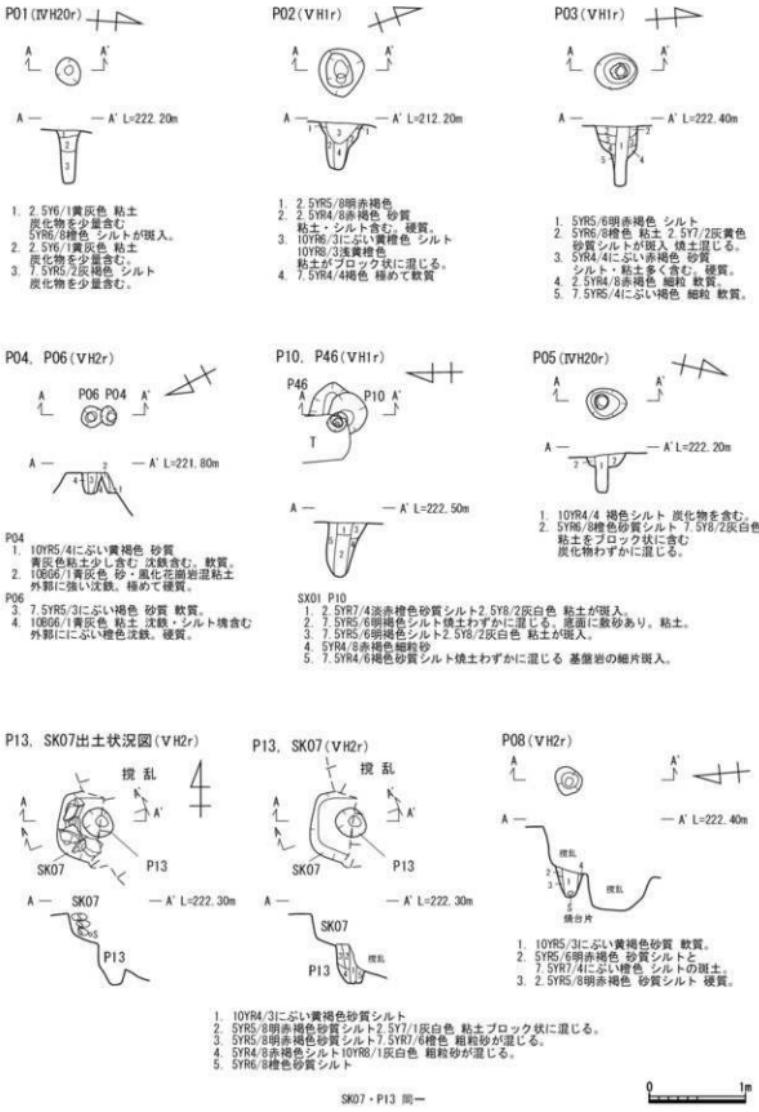
SK37

1. 10YR5/6黄褐色砂質粘土・シルト含む。
2. SYR6/6明赤褐色砂質粘土・シルト含む。
3. SYR6/6明赤褐色砂質粘土・シルト含む。
4. 7.SGy7/1明緑灰色シルト・瓶蓋様硬質。
5. SYR6/4(2)にい黄褐色砂質粘土・シルト含む。
6. SGy7/1明オリーブ色砂質粘土・シルト含む。

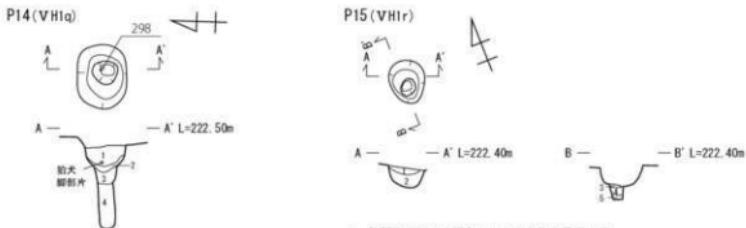
1. 10YR5/6黄褐色砂質粘土・シルト含む。
2. SYR6/6明赤褐色砂質粘土・シルト含む。
3. 10YR4/6明赤褐色砂質粘土・シルト含む。
4. 10YR5/4にい黄褐色砂質粘土・シルト含む。

0 1m

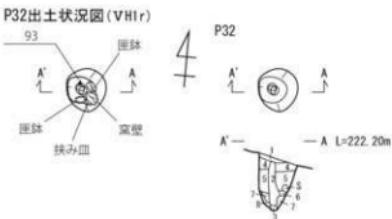
第32図 A区舗装ピット (SK31・32・37～39、P52) 平面図・土層断面図 (1:50)



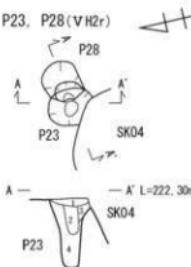
第33図 A区舗装ビット(P1~6・8・10・13、SK07)平面図・土層断面図(1:50)



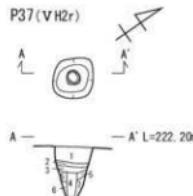
2. SYR8/緑色シルト  
SYR8/2色の白色粘土がブロック状に混じる。
  2. 7. SYR7/2明緑灰色粘粒  
10YR8/2色の白色 粘粒を含む。
  3. 7. SYR5/2褐色細砂細土  
10YR8/2色の白色 粘粒を含む。
  4. 10YR5/2褐色細砂  
粘土・シルト・赤褐色土壤を含む。  
極めて軟質。
  2. 7. SYR5/3にぶい褐色シルト  
2. 5. SYR8/1灰白色粘土
  4. SYR8/5褐色シルトと2.5Y8/1灰白色 粘土の斑班。
  5. SYR6/B褐色シルト



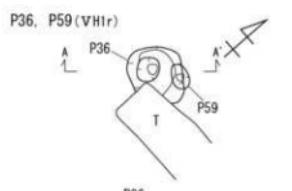
1. 7.SYR8/3浅黄色 橙色 粘土 7.SYR8/8橙色 粘土が斑入。
  2. SYR7/6褐色 橙色 シルト 軟質。
  3. 5.YG7/1明褐色 シルト 粘土 極めて硬質。
  4. 5.YR7/4cふじい紅褐色 粘土 5.YR7/8灰白色 粘土を含む  
2.SYR7/8橙色 シルトが混じる。
  5. 5.2Y/8灰白色 粘土SYR6/8橙色 シルトが混じる。
  6. 5.YRS/1明赤褐色
  7. 5YR5/3cふじい褐色 硬質斑入り硬質 青灰色粘土多く含む。
  8. 2.5YR5/2褐色



- 23  
 1. SYR7/6褐色シルトSY7/1灰白色 粘土をブロック状に含む  
 2. SYR5/2灰褐色シルトとの境目 炭化物わずかに含む  
 2. SYR5/2灰褐色シルト  
 3. SYR6/6褐色シルト SYR7/6浅黃褐色  
 黏粒を含む SY7/1灰白色 粘土わずかに混じる。  
 4. 7.SYR5/2灰褐色シルトとSYR6/8褐色シルトの斑斑  
 28  
 1. 10SYR6/6明黄褐色砂質や硬質。



2. 5YR5/6明赤褐色砂質青灰色粘土少し含む。
  - 10G5/1綠灰色砂質減少し含む。  
粘土と1層の混土。
  - 5YR4/8赤褐色軟質
  7. 5YR4/6褐色極めて軟質
  7. 5YR4/6褐色砂質硬質。
  2. 5YR5/6明赤褐色軟質
  - 10YR4/3(1)い黄褐色砂質硬質



- P96

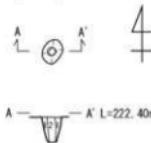
  1. 7.5YR6/6褐色硬質青灰色粘土多く含む 岩含む。
  2. 7.5YR6/6褐色砂質軟質。
  3. 10YR6/6明黄色褐色粘土並びに砂質で軟質 岩含む。
  4. 10YR7/1明灰色粘土土壌で硬質 岩含む。
  5. 10Y7/1明灰色シルト極めて硬質(板状層)。下位に沈積あり。
  6. 5.5YR6/5褐色硬質青灰色粘土含む。
  7. 5YR5/5褐色沙質。
  8. 2.5YR5/3黄褐色沙質軟質。

P97

  1. 10YR4/3に近い黃褐色沙質粘土、岩含む。

第34図 A区 鰐幅ビット(P14・15・23・28・32・37・36・59)平面図・土層断面図(1:50)

P41 (VH1r)



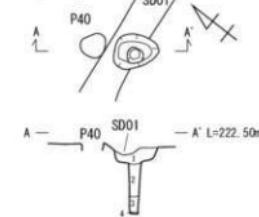
1. 7.SYR5/6褐色砂質
  2. 10YR5/4にぶい黄褐色
- 極めて軟質底面に弱いシルト陥れ痕あり。

P47 (VH1r)



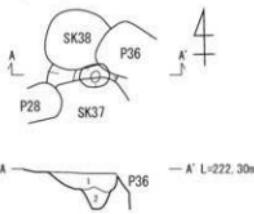
1. 2.5YR5/8明赤褐色
2. 10YR6/3にぶい黄褐色シルト

P53 (VH1q)



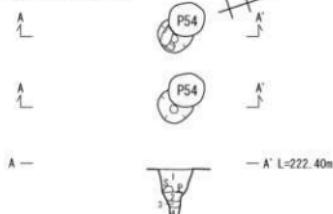
1. 2.SYR4/6褐色青灰褐色砂・シルト多く含む。
2. SYR5/4にぶい黄褐色極めて軟質底少し含む。
3. 2.5Y5/4褐褐色細砂質軟質。
4. 2.5G7/1明オリーブ灰色粘土円板状の粘土。

P55 (VH1r)



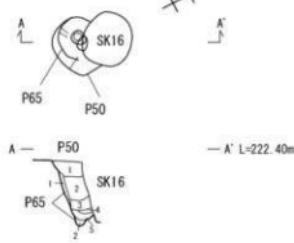
1. 2.5YR5/8明赤褐色砂質軟質 炭や多く含む  
青灰褐色粘土まばらに含む。
2. 7.SYR5/6明褐色軟質灰色シルト・粘土まばらに含む  
橙色砂強い樹状に含む。

P58出土状況図 (VH1r)



1. 2.5YR5/3にぶい赤褐色粘土や多く含む。
2. 5Y4/2灰オーラー色軟質灰・青緑色砂・粘土・炭や多く含む。
3. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質やや硬質。
4. 2.5I4/4オリーブ褐色砂質軟質。

P50, P65 (VH1r)



- SX01 P50
1. 5YR5/8明赤褐色砂質灰色粘土多く含む 炭少し含む  
青緑色砂質土・粘土の混在土・硬質。
  2. 10YR5/6明褐色砂質灰色粘土やや多く含む。
  3. 2.SY5/4褐褐色シルト質灰泥粘土炭土含む。
  4. 5YR6/6褐色軟質粘土多く含む。
  5. 5Y6/4オリーブ黄色砂質下底に強い橙色の砂鉄む。
  6. 10B07/1明青灰色シルト質極めて硬質。
  7. 7.SYR6/6褐色塊状。

P63 (VH2q)



1. 7.5GY6/1灰灰色シルト明褐色細砂斑状に少し含む  
外觀に明褐色沈鐵あり。
2. 2.5Y5/4にぶい黄色1層基質に沈鐵及び  
青緑色砂質灰・赤緑色砂質を含む。
3. 5Y5/2灰褐色シルト層のシルト含む。
4. 7.5YR5/4にぶい褐色細砂質下方の1/3位は  
やや淡黄色の細砂質性い。極めて軟質。
5. 10B07/1明青灰色シルト硬質。  
風化花崗岩少し含む。

0 1m

第35図 A区 軸樞ビット (P41・47・50・53・55・58・63・65) 平面図・土層断面図 (1:50)

#### SK04 [図版 34]

上面が円形状、底面が長方形状で、断面形状は角張った箱状で、周囲に周溝が見られる。長軸 1m12cm、短軸 1m25cm、深さ 38cm～51cm を測る。挟み皿が出土している。

#### SK05 [図版 34]

範囲確認調査の時に確認されていた遺構である。SD01 に切られていた。上面が隅円形状で隅丸方形状を呈していたと見られる。断面形状は角張った箱状で、周囲に周溝が見られる。長軸 1m12cm、短軸 1m25cm、深さ 38cm～51cm を測る。挟み皿と匣鉢が廃棄されていた。

#### SK08 [図版 35]

他の粘土溜土坑の形状と違い楕円形を呈した浅い土坑で、埋土は二層で粘土ブロックが見られた。長軸 83cm、短軸 76cm、深さ 71cm を測る。擂鉢の底部片が出土している。

#### SK09 [図版 35]

炭化物を含んだ粘土の盛り土に上面が覆われていた。隅丸方形状で断面形状は角張った箱状で周囲に溝が見られる。埋土は粘土と赤橙色土との互層で、長軸 1m19cm、短軸 1m12cm を測る。天目茶碗、端反皿、釜の破片と挟み皿、匣鉢が廃棄されていた。

遺物が多く出土し擂鉢、端反皿、縁釉挟み皿、挟み皿、匣鉢、匣鉢蓋が廃棄されていた。

#### SK40 [図版 36]

SK09 に類似しており、P44 に切られている。隅丸方形状で断面形状は角張った箱状で周囲に溝が見られる。埋土は粘土と赤橙色土との互層で、長軸 1m7cm、短軸 1m3cm を測る。遺物が多く出土し擂鉢、端反皿、縁釉挟み皿、挟み皿、匣鉢、匣鉢蓋が廃棄されていた。

## 7. 杭列

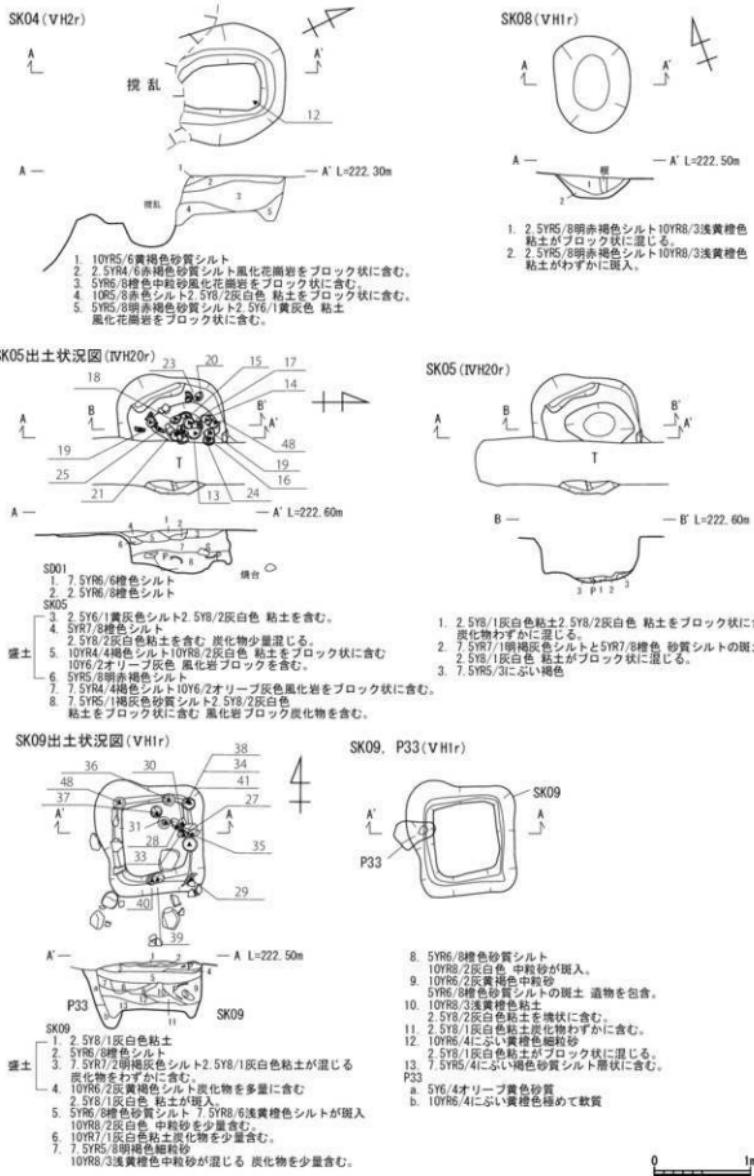
西側には杭列が見られ柵と考えた。杭列は北より P62、P61、P38、P39、P40、P60、P31、P49、P45、P42、P30、P44 で構成され南北 8m を測る。P38、P40、P45、P30 は柵を補助する補助杭と考えた。杭列の杭はそれぞれ掘方が深い。P61 は長軸 51cm 短軸 41cm の楕円形を呈し、深さ 68cm で杭列の中では一番深い。北西風を遮る柵と考えたが、西側が現代の造成工事により滅失し不明のため、この柵列が建物の柱列の一部、あるいは差掛けによる覆い屋根の一部の可能性もある。

## 8. 土壙墓 [図版 35]

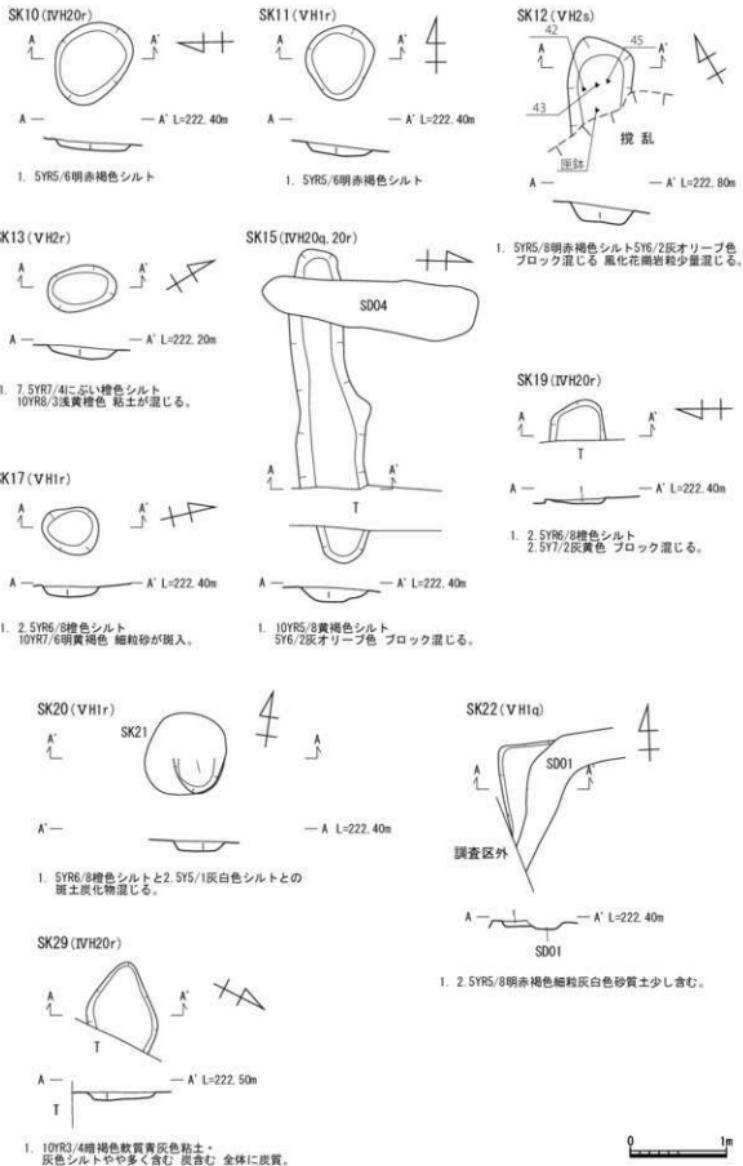
A 区では SK34 が 1 例見られた。東谷に面した見晴らしの良い縁辺部にあり、上面では角礫の集積と凹みが見られた。長軸 1m20cm、短軸 92cm を測り、平面形はやや楕円形状、断面形状は箱状である。埋土は赤褐色系砂質土で、墓壙内より古銭と鉄滓が出土した。古銭は皇宋通宝(32)と開元通宝(27)が各 1 点、不明の古銭が 4 点(28～30、31)の、計六枚の六文銭である。

## 9. 溝

丘陵の東端部を区画すると考えられる L 字状に曲がった溝 SD01、SD02、SD03 と SD04 がある。区画溝は北の SD03、SD04 と南の SD01 が見られ、それぞれの北と南の区画溝は轆轤ピットが密集した部分と区別するための溝と考えられる。SD02 の溝肩部より皇宋通宝と聖宋通宝が各 1 枚出土した。



第36図 A区土坑 (SX01: SK04・05・08・09、P33) 平面図・土層断面図 (1:50)



第37図 A区 土坑(SD01: SK10 ~ 13・15・17・19・20・22・29) 平面図・土層断面図(1:50)

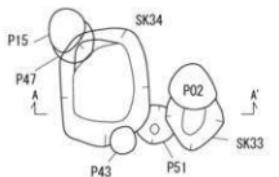
SK34出土状況図(VH1r)



SK33

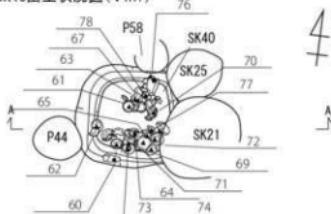
1. 2.SYR5/6明赤褐色砂質砂・シルトやや多く含む 岩少し含む。
- SK34
1. 7.SYR7/1青褐色砂質石炭シルト
2. SYR5/4にぶい赤褐色砂質砂・シルトやや多く含む。軟質。
3. 2.SYR4/6赤褐色砂質砂・シルト含む。軟質。
4. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質砂・シルト多く含む。軟質。
- P51
1. SYR5/6明赤褐色砂質橙色の斑が強い 砂・シルト多く含む。
2. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質砂・シルト多く含む。軟質。
3. 10YR4/3にぶい黄褐色極めて軟質混入物なし。

SK33, SK34, P51(VH1r)

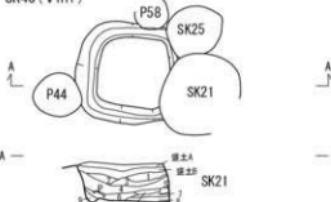


A — SK34 P51 SK33 — A' L=222.30m

SK40出土状況図(VH1r)



SK40(VH1r)

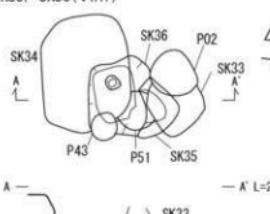


A — — A' L=222.40m

SK40

1. 2.SY6/4にぶい黄色色シルト・粘土橙色砂まばらに含む  
炭やや多く含む。
2. 7.SY5/2灰オリーブ色シルト粘土多く含む  
灰黄色砂少し含む。
3. 10Y6/1緑灰色粘土粘土塊で、  
その隙間に灰質土・シルトが充てん。
4. 2.5Y6/2灰オリーブ色シルト粘土塊で、シルトが班入。
5. 10Y6/1灰色粘土粘土塊で、灰層状に挟む。
6. 10G6/1緑灰色粘土粘土塊すきまは橙色砂。
7. 炭化物層
8. 10Y4/2オリーブ灰色シルト・灰質土
9. 5Y4/3暗オリーブ色細砂質土固塊

SK35, SK36(VH1r)

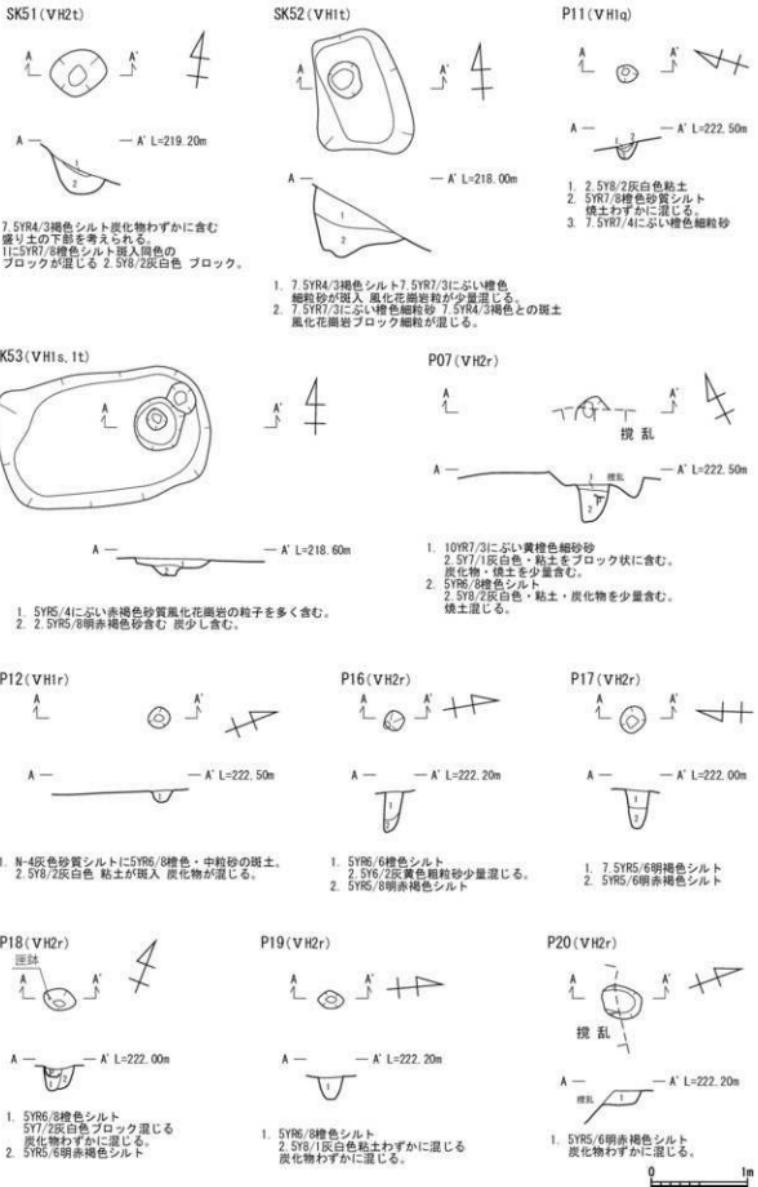


A — — A' L=222.30m

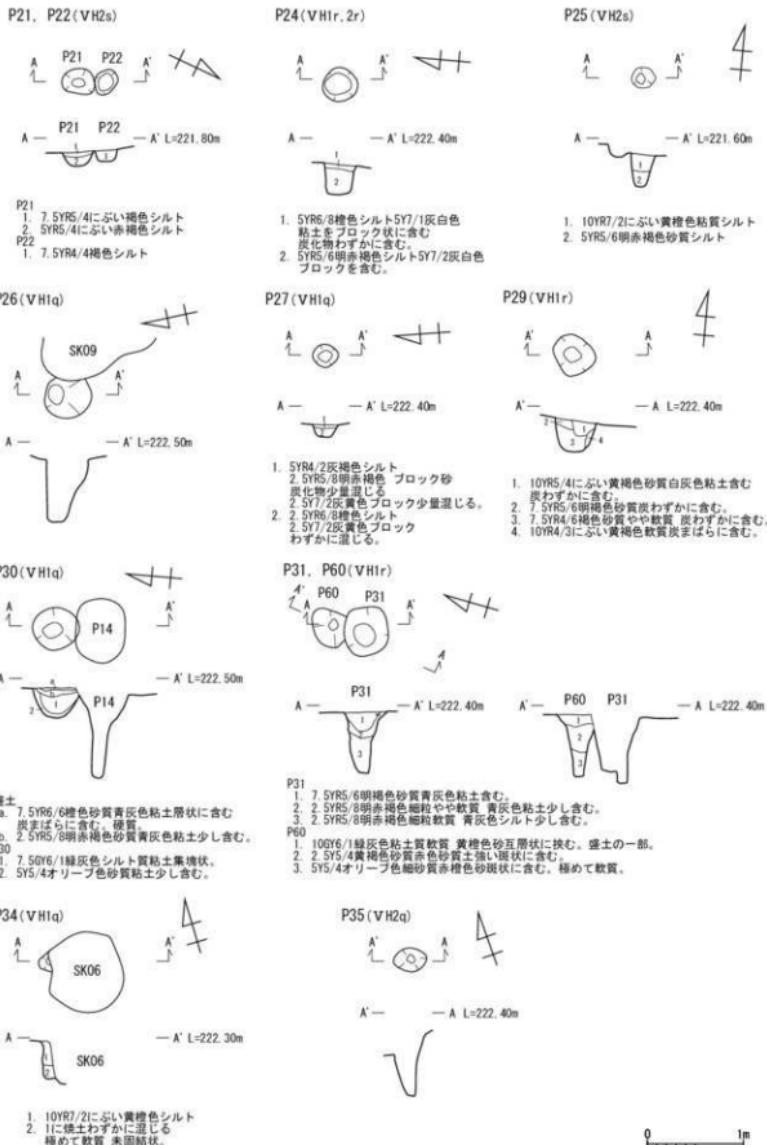
- SK35
1. 5YR5/8明赤褐色や軟質砂・シルト少し含む。
  2. 5YR5/6明赤褐色軟質
  - SK36
  1. 2.SY5/3黄褐色砂質砂・シルト多く含む 岩わずかに含む。

0 1m

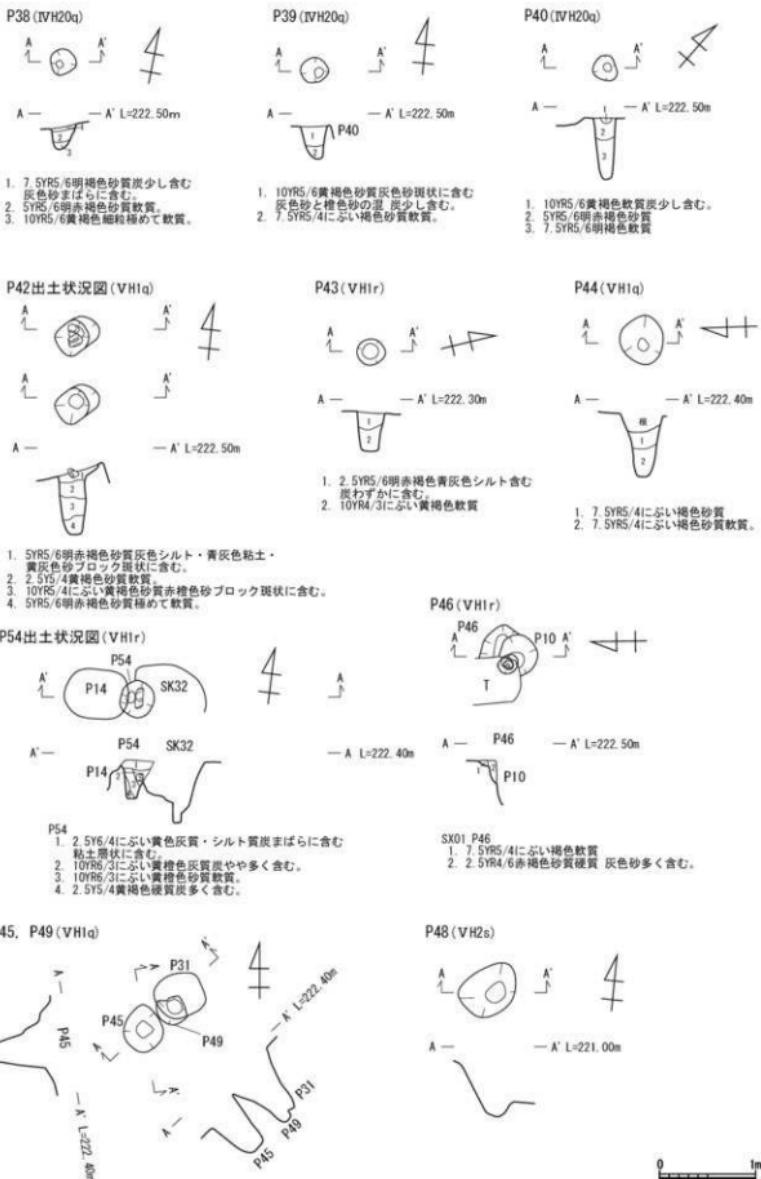
第38図 A区土坑他(SX01:SK33~36・40、P51)平面図・土層断面図(1:50)



第39図 A区土坑他 (SX01: SK51 ~ 53, P7・11・12・16 ~ 20) 平面図・土層断面図 (1:50)

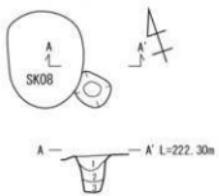


第40図 A区 ピット (SX01:P21・22・24~27・29~31・34・35・60) 平面図・土層断面図 (1:50)

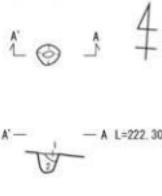


第41図 A区 ピット (SX01:P38 ~ 40・42 ~ 46・48・49・54) 平面図・土層断面図 (1:50)

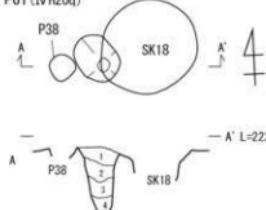
P56(VH1r)



P57(VH1s)



P61(IVH20q)

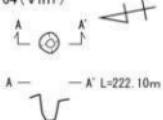


1. 10YR4/4褐色青灰色粘土少し含む。
2. 7.SYR5/4/5い褐色軟質
3. 2.5YR5/6明赤褐色砂質灰黄色砂と淡橙色砂を含む。

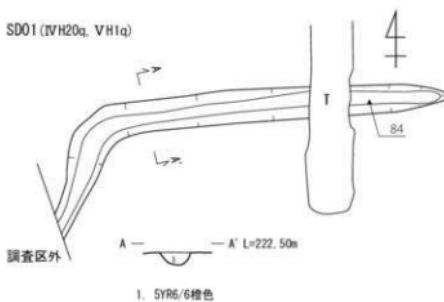
1. 7.SYR5/3灰オリーブ色砂質軟質
2. 7.SYR4/6褐色砂質軟質

1. 2.5YR4/8明赤褐色細砂質軟質
2. 2.5YR4/8明赤褐色砂質灰少し含む
3. 2.5YR5/3黄褐色砂質軟質で軟質
4. SYR4/2オリーブ色細砂質軟質

P64(VH1r)

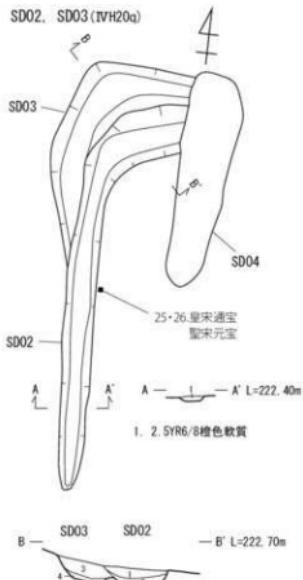


SD01(IVH20q, VH1q)



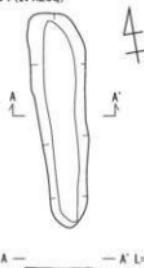
1. 5YR6/6橙色

SD02, SD03(IVH20q)



1. 2.SYR6/8褐色軟質

SD04(IVH20q)



1. 2.SYR5/8明赤褐色シルト
2. 2.SYR5/8明赤褐色シルト炭化物粒子を含む
3. 5YR7/3浅黄色 ブロックを含む。

1. 2.SYR5/8明赤褐色シルト下層は5Y7/3浅黄色 ブロックが混じる。
2. 2.SYR5/8明赤褐色シルトに5Y7/3浅黄色 細粒砂が斑入。
3. 2.5YR5/8明赤褐色シルト
4. 3i: 5Y7/3浅黄色 ブロックが混じる。



第42図 A区 ピット、溝(SX01:P56・57・61・64, SD01～04) 平面図・土層断面図 (1:50)

## 第3節 E区の遺構

### 1. 遺構の概要

E区は丘陵南端西側の緩く傾斜した平坦部である。最上部の標高は222m90cmであるが、丘陵の最高頂部はおそらく北側の造成工事により失われた部分にあったと思われる。調査前、窯道具の匣鉢やピンが散乱し、緩く傾斜した平坦な面が多く見られ、丘陵南東端には窯体の一部が露出していた。窯体の東側が谷状を呈し、E区の北側は造成工事により、東側は地滑りにより、それぞれ滅失し旧地形が失われていたため、平坦面は最近のものと考えて調査を開始したところ想定外の規模の遺構であった。

窯体1基SY01とその西側全面に工房址が広がっていた。丘陵頂部から斜面上部に平坦な作業場を造成し、竪穴2ヶ所SB02・03、竪穴建物2棟SB01、SX06、掘立建物1棟SX03、粘土溜1ヶ所SX02-SK02、轆轤作業場2ヶ所SB05・04とSX02を設けている。E区は丘陵全域で、轆轤から製品選別までの一連作業が行われ、焼き物工場のような状況が窺える。



第43図 D・E区全体図 (1:50)

SY01は床面及び壁面の一部が残存するのみで窯体東側は地滑りで既に流失していた。中軸線はほぼ南北方向、現存長さは2m40cm、燃焼室の幅2m、焼成室床面傾斜26度を測る。燃焼室に分焰柱と小分焰柱3本、焼成室床面では焼台の痕跡が見られた。出入口は西側の壁面から、東側にあったようである。焚き口の床に石が敷かれ、焚き口の西側には丘陵縁辺に添って石垣の様に石が据えられていた。大きいものでは80cm×30cmを測る。大石と大石の間に小石を詰め斜面の土留めも兼ねていたようで1m80cm間の部分が残っていた。石はすべて花崗岩の円礫であった。焚き口の状況から窯前部分が南側に1m前後あったと思われる。また窯に伴う土坑としてSY01-SK01、SY01-SK02、SY01-SK03、SY01-SK04がある。

竪穴として、丘陵最高位の標高222mにある不整形な竪穴SB02とやや下った南側に重んだ形状の竪穴SB03が見られる。SB02、SB03ともに柱の痕跡はない。

竪穴建物はSB01、SX06でいずれも主軸が南北で、入り口が南側にある長方形状竪穴建物で、奥の柱が両隅だけでなく、三本目が入り口に対峙した位置に、つまり二本の間に見られる。

SB01はSB03の東側にあり、竪穴の手前半分には柱が見られず奥半分に一間×一間の柱穴が見られる。

SX06は西北端にあり一間×二間の柱穴が見られる。25個の匣鉢が伏せた状態で出土した。

掘立柱建物SX03は窯SY01の西南側にある大形の掘立柱建物で、一間(4m)×一間(6m)の南側に立て替えの柱が見られた。周りには匣鉢と挟み皿が積み上げられ、窯出し製品の選別作業の建物であった。

轆轤ピットを擁した作業場として、北側斜面を削り平坦部を設けたSB04とSB05の南側、SX02に見られた。SB04とSB05は北側の斜面を削り長軸4m幅の平坦となっている。SX02は丘陵南端部に位置する二段の平坦部である。上段の平坦には大形の土坑も見られた。下段は上段との比高差30cmあり、西側に轆轤ピットが、東側縁辺では小規模であるが土盛造成の石敷(SK07)が見られた。

轆轤ピットはSB04とSB05の南西側にはP121、P117、SB03-P01が、P121、P117、SB03-P01の南西側、丘陵西側縁辺にはP119、P113、P123とP116、P122、P115が見られた。SX02の上段にはP09とP12が、下段にはP03c、P06が北側に、P08、P07は遺跡の中では最南端の遺構である。

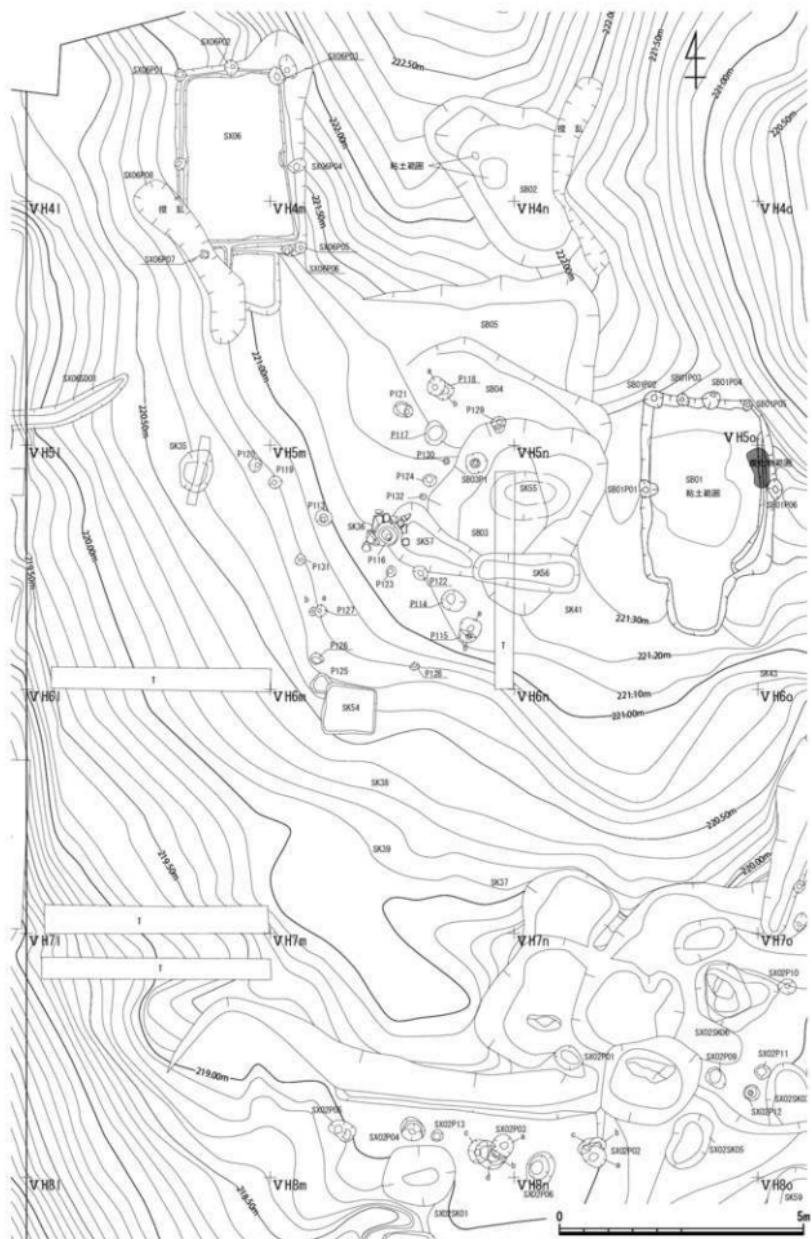
粘土溜 SX02の下段にSX02-SK02で断面が箱形である。

樋 SX02の下段北側沿い、壁際溝の南に柱列が西よりSX02-P06、SX02-P04、SX02-P13、SX02-P03a、SX02-P02が見られた。SX02上段際を利用した差掛けの覆い屋根の柱の可能性もある。

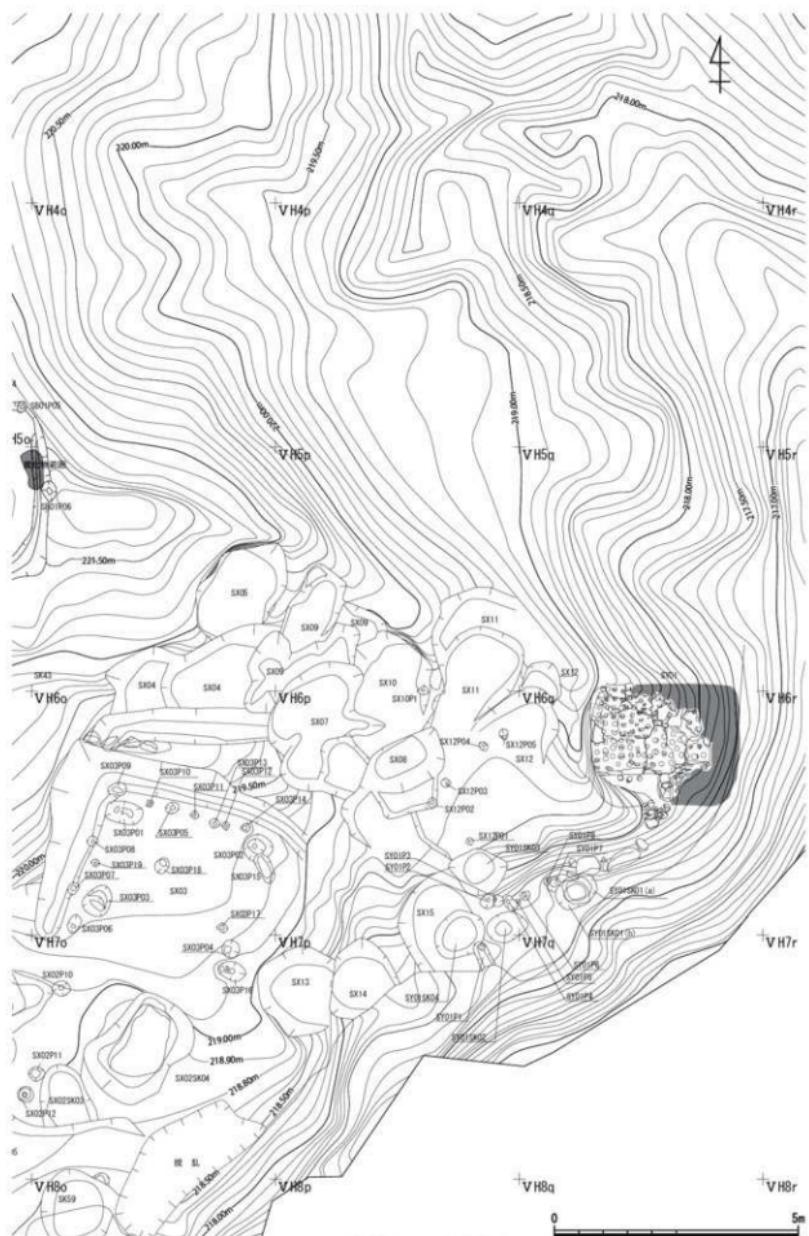
石敷 丘陵南東端でSX02の下段に見られたSK07で、小規模の石敷がありA区の石敷同様に土盛し造成後、花崗岩の円礫を69個敷いていた。

その他の土坑 SX02の上段の南東端、轆轤ピットP12の東側にSK03が見られる。浅い土坑で焼台付き床面ブロックが逆さまに二個東西に並べられていた。

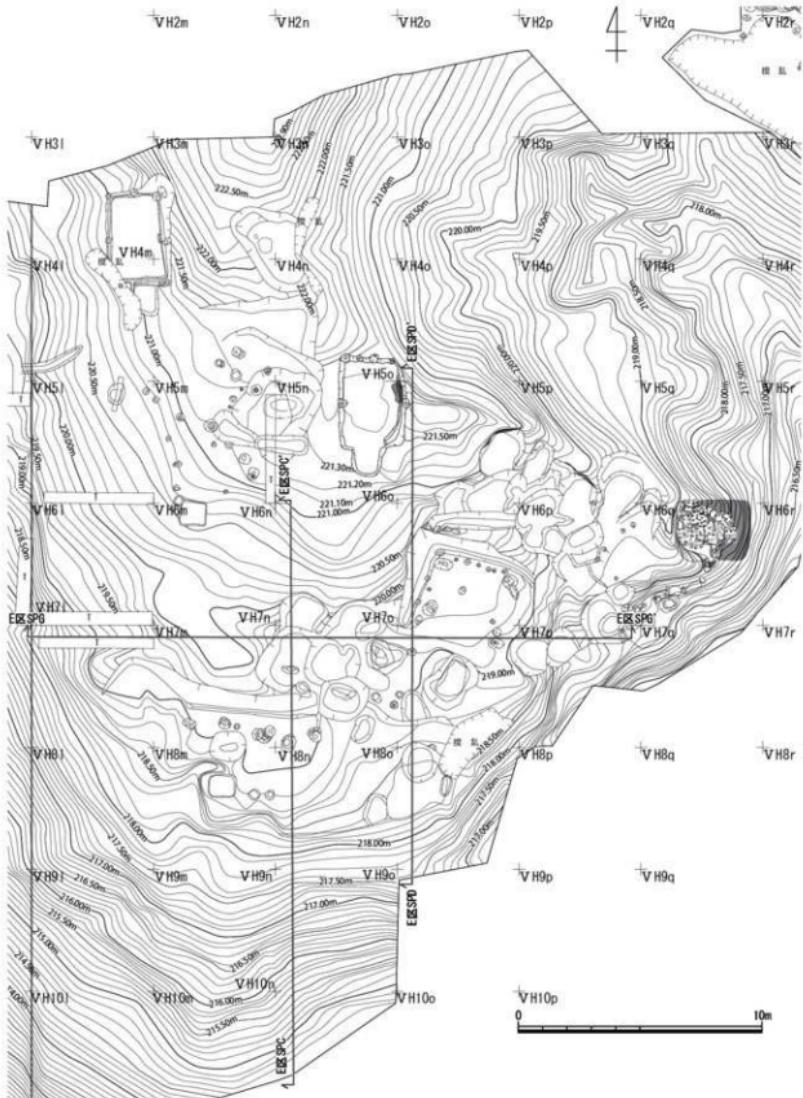
土壤墓 丘陵西端で西側を見おろす場所にSK35はある。花崗岩の角礫により土坑が埋められ、志野の小碗と擂鉢底部片が出土した。



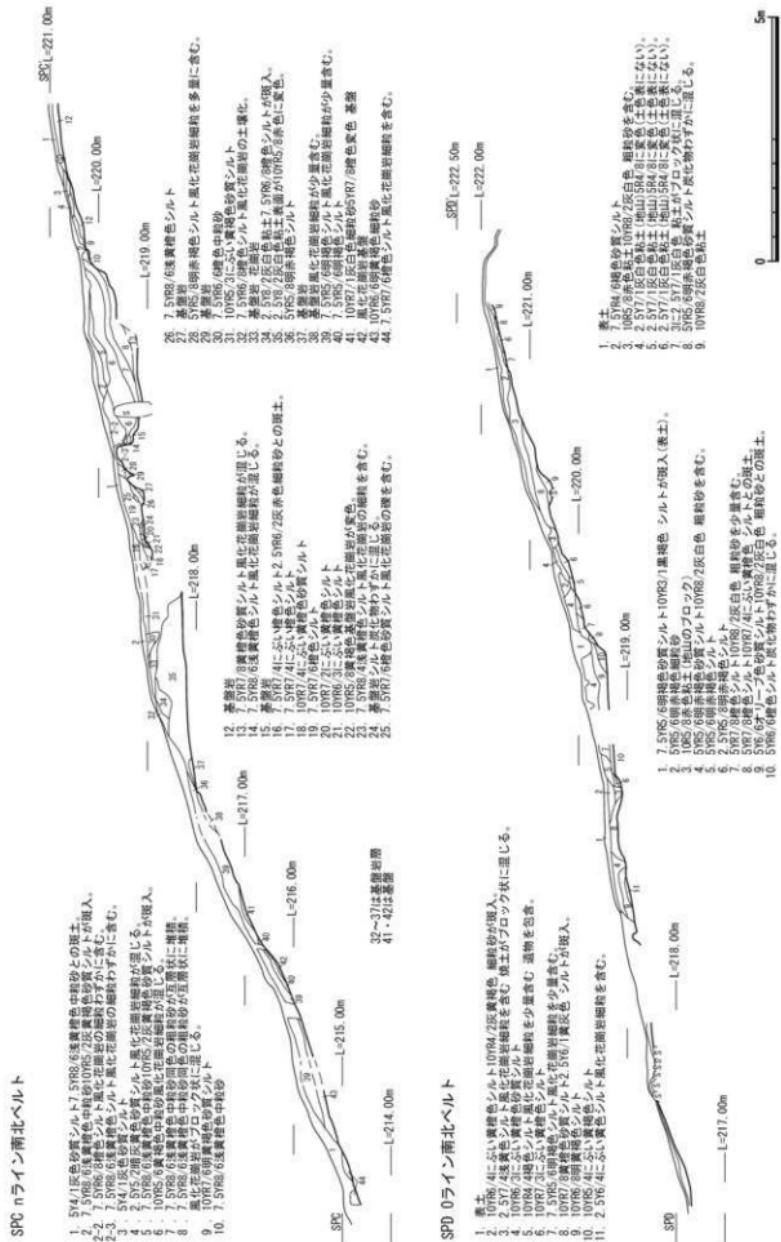
第44図 E区遺構位置図1(西部分)(1:100)



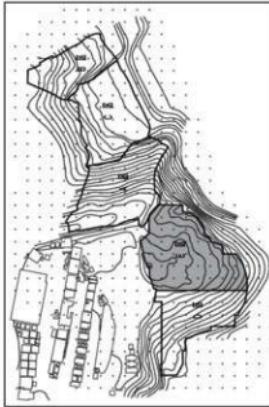
第45図 E区遺構位置図2(東部分) (1:100)



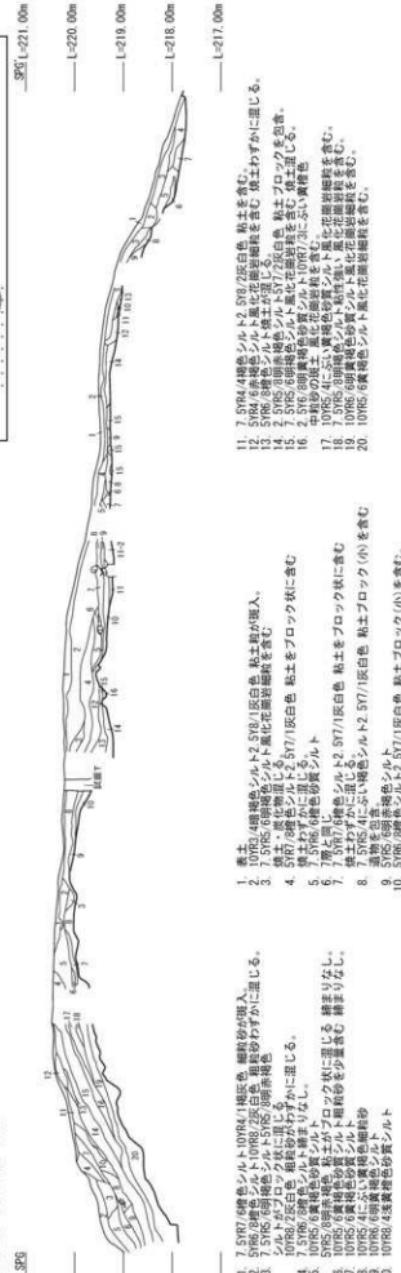
第46図 E区 土層ベルト位置図(1:200)



第47図 E区SPC・SPDライン南北ベルト土解図(1:100)



SPC 7 ライン西東ベルト



1. 7.5R7/6暗褐色シルト107R4/1地灰色、細粒砂が僅入る。
2. 7.5R6/8褐色色シルト107R8/1灰白色、粗粒砂がわずかに混じる。
3. 7.5R5/6明褐色シルト107R5/5暗褐色。
4. 5R7/3灰白色シルト107R7/3灰白色。
5. 7.5R6/6褐色色沙質シルト。
6. 107R6/6褐色色沙質シルト。
7. 107R5/8明褐色色沙質シルト。
8. 107R5/4-5ぶい質褐色細砂。
9. 107R6/4褐色色沙質シルト。
10. 107R6/4褐色色沙質シルト。
1. 基土 7.5R4/4褐色色シルト2.578/1灰白色、粘土を含む。
2. 107R4/4褐色色シルト風化基部を含む。
3. 7.5R5/6明褐色シルト風化基部を含む。
4. 5R7/3灰白色シルト風化基部を含む。
5. 7.5R6/6褐色色沙質シルト。
6. 7R7と4R7褐色色沙質シルト。
7. 107R7/6褐色色沙質シルト2.571/1灰白色、粘土をブロック状に含む。
8. 基土すなわち107R5/4にぶい褐色色シルト2.577/1灰白色、粘土ブロック(小)を含む。
9. 5R6/6褐色色沙質シルト。
10. 5R6/8褐色色沙質シルト2.571/1灰白色、粘土ブロック(小)を含む。
11. 7.5R4/4褐色色シルト2.578/2灰白色、粘土を含む。
12. 5R6/8褐色色シルト風化基部を含む。
13. 5R6/8褐色色シルト風化基部を含む。
14. 2.5R5/8褐色色沙質シルト。
15. 7.5R5/6明褐色色沙質シルト。
16. 2.5R5/8褐色色沙質シルト。
17. 中間の風化基部化花崗岩屑を含む。
18. 5R6/6明褐色色沙質シルト風化基部を含む。
19. 107R6/6明褐色色沙質シルト風化基部を含む。
20. 107R6/6褐色色シルト風化基部を含む。

1. 7.5R5/4にぶい褐色色シルト107R5/4にぶい褐色色等通物を多量に含む。
2. 7.5R5/4にぶい褐色色シルト107R5/4にぶい褐色色等通物を多量に含む。
3. VH7/3暗褐色。
4. 2.5R5/8褐色色シルト。
5. 107R5/4褐色色細砂。
6. 2.5R5/8褐色色細砂。
7. 107R5/4褐色色細砂。
8. 107R5/4褐色色細砂。
9. 107R5/4褐色色細砂。

第48図 E区SPC 7ライン西東ベルト断面図 (1:100)

E 区は北側が造成工事、東側が地滑りにより旧地形が失われている。遺構が見られた部分と遺構立地可能な減失部分を含め丘陵部全体の立地可能面積を復元すると約 1,425m<sup>2</sup>である。1,425m<sup>2</sup>の面積の約 61%、875m<sup>2</sup>が減失し、残った部分 39% の約 550m<sup>2</sup>が遺構である。E 区は遺構立地可能な面積の約 25% を占める 350m<sup>2</sup>に見られた遺構である。

E 区は丘陵の中心地区であり、造成工事と地滑りにより減失した箇所に、窯が少なくとももう 1 基と数カ所の工房が展開していてもおかしくないのである。地形上の制約から窯体の西側、もしくは山側の斜面を削り平な部分を造り出し、工房を設けていたと考えられる。

窯体構造が窯窓と大窯では単純に比較するのは難しいが、窯体、工房、平場を含め施設全体の面積が、施設の整備に伴い広くなってきている。古瀬戸後期の瀬戸市鷺窯跡では、窯窓一基の西側と山側に削り込んだ施設が見られ、大雑把であるが約 500m<sup>2</sup>の範囲に窯体と工房あるいは乾燥施設等が見られる。また古瀬戸系施釉陶器窯の土岐市下石西山窯跡では、一基の窯窓周辺に工房跡と思われる平坦面五面とセットとなる乾燥施設が見られ、窯と周辺施設の範囲は大雑把であるが約 650m<sup>2</sup>の範囲で見られる。瀬戸市曉窯跡では窯体 3 基と工房跡の範囲が大雑把であるが約 425m<sup>2</sup>の範囲である。

## 2. 土層 南北 SPCn ライン、SPD o ライン土層、西東 SPG 7 ラインのベルト土層

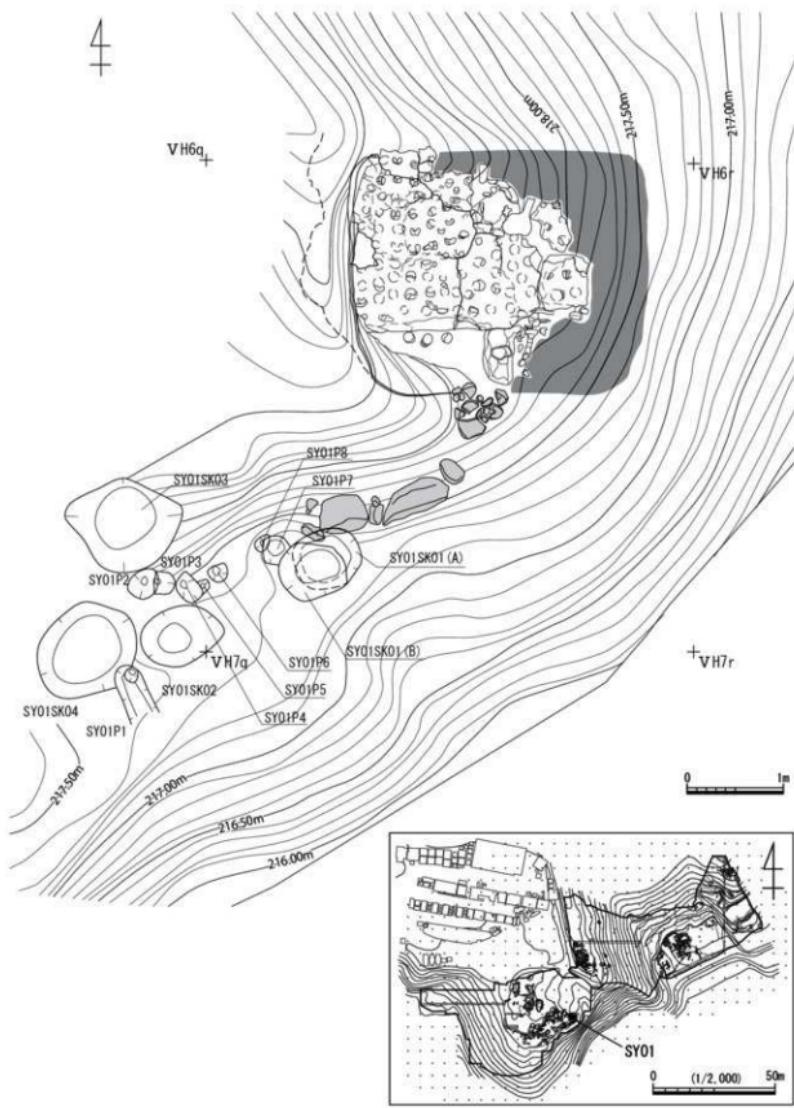
E 区の丘陵頂部平坦面から南側縁辺にかけての平坦面と斜面の土層である。E 区の南北を通した n ライン全長 12m60cm と o ライン全長 10m40cm の土層及び西東を通した 7 ライン全長 12m30cm の土層である。丘陵東側（A 区東側）に比べ南側に緩い傾斜の丘陵で、花崗岩の基盤を削り遺構が形成されており、堆積土も南端になるほど薄くなり、厚い堆積でも 50cm である。基本土層は表土、褐色砂質シルト、赤褐色粘土質土、橙色シルト、基盤となる。平坦面では各層に炭化物などが混在していた。南端では堆積土が薄く基盤がそのまま露呈する部分も見られた。南北側は地山を削った造成である。西側に 1m50cm の厚い土盛造成が見られ 12 層の土層は積み重ねただけでたたき締めた痕跡は見られなかった。南北に広い丘陵であったにもかかわらず、東側と西側それぞれの縁辺部を造成していたのである。

### 3.SY01 [巻頭図版 3、図版 7、図版 8、図版 9、図版 10、図版 11、図版 104]

(1) SY01 床面及び壁面の一部が残存するのみで窯体右側は地滑りで既に流失していた。

露出していた窯体はすでに『瀬戸市史 陶磁史篇四』平成 5 年発行に「窯体部は焼成室上方から煙道部にかけて既に削平されており、現在露出している左側火炎室は、横幅 1m、奥行 30cm 前後で、小分焰柱は四から五本立てられていたものと思われる。なお昇炎壁の高さは 30cm 前後で、焼成室の床面幅は昇炎壁の所で約 2.7cm、最大幅は、そこからやや上方で 2.9m 程度となろう。」と記載されている。

窯体の左側で全体の 1/4 ほどが残っている状況で、現存長さは南北 2m40cm、燃焼室の幅は東西 2m、焼成室床面傾斜 26 度を測る。窯体の燃焼室には分焰柱と小分焰柱 3 本、床面は二枚、焼成室床面に焼台の痕跡が 101 個見られた。床面に残された支柱が、初期は支柱が粘土のみを固めたブロック状から、次に竹と見られる棒状のもの二本を芯として粘土をかためて痕跡が見られた。出入口は東側である。



第49図 E区 SY01窓体と周辺造構平面図(1:50)

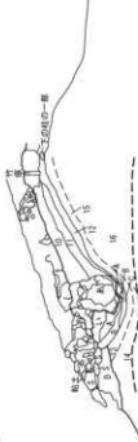
E区 SY01 (VH6q)



第50図 E区 SY01 積体断面図 (1:50)

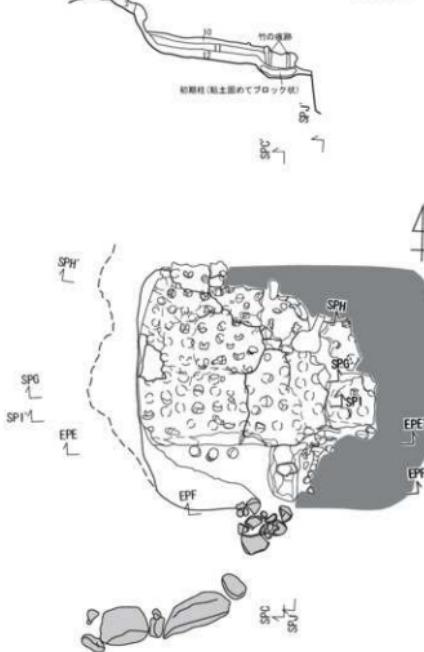
E区 SY01(VH6g)

— 561 —  
L = 218.00



10. 7.8% 8種類の色より選ぶ。サヤヘビが選んでいます。  
11. 真石の「白」と「黒」を多く含む「サヤヘビ」の星が入っています。  
12. 7.8% 8種類の色より選んでいます。  
13. 7.8% 8種類の色より選んでいます。  
14. 粉子「白」の頭部は「白粉子」であるが色が違う。  
15. 2.5% 4種類の色より選んでいます。  
16. 2.5% 4種類の色より選んでいます。

SPH  SPH L=219. 20m



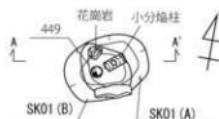
The diagram illustrates the connection between the SPG and the main circuit. The SPG is shown as a small, rounded structure with a central cavity. A thin tube connects it to a larger, more complex circuit board. On the circuit board, there are several components: a resistor labeled '3', a diode labeled '4', a capacitor labeled '6', and a junction labeled '7'. The tube from the SPG enters this junction. To the right of the junction, there is a label 'SPG' followed by a line segment and the text 'L=218, 70m'. The entire assembly is mounted on a printed circuit board.

1. 5Y3R/3赤褐色土色糊に糊む。  
2. 5Y7R/4淡赤褐色粘土ブロック  
3. 5YRA/3-4赤褐色土色糊に糊む。  
4. 10R4/4赤褐色土色糊に糊む。  
5. 2.5Y7/4赤褐色土色糊に糊む。  
6. 5S7T/4赤褐色土色糊に糊む。  
7. 2.5Y3/3淡黄色壁被熱による硬化  
8. 10R4/6淡い赤褐色壁被熱による硬化  
9. 8層と8層が混ざる。  
10. 10E6/4暗赤褐色被熱による硬化 床  
表面近くの2cm程の間に黒斑片が見られる  
よく焼しまる(よくとけて)いる。  
11. 10B6/4暗青色被熱による硬化 床  
12. 10R5/2暗赤褐色被熱による暗青色をおびる  
上部5cmは硬いブロック片が多く見られ  
下部はブロック片は少ない 全体に砂質状の層位である

第51図 E区 SY01 窓体断面土層図(1:50)

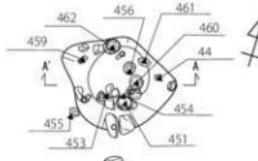
0 1 m

SK01出土状態図 (VH6q)



1. 2.SYR4/8赤褐色細粒質灰土 赤褐色(燒土種)と炭質土の互層。
2. ドン層灰質土質 砂質土 (7.SYR4/6褐色)  
極めて薄れやすい。
3. 2.SYR5/8明赤褐色砂質硬質 被燒砂質ブロック?
4. 7.SYR4/2灰オリーブ色灰質硬質 硬質。
5. 黒灰質核状の集塊。
6. 2.SY5/4黄褐色シルト質細砂質 粘土と淡黄色細砂の混土  
3層分し含む。
7. 10GY6/1灰色粘土部分的に赤・灰質斑合む。
8. 5Y7/4赤褐色粘土層みて砂質 灰斑合む。
9. SPB7/1明青灰色シルト灰質 炭質土斑合む。
10. 10GY6/7緑灰色粘土均質 硬質。
11. 2.SY6/4(ふい)黄色砂質 硬質。
12. 5Y5/2灰オリーブ色灰質 灰質硬質 紅色燒變片含む。
13. 10GY6/1緑灰色粘土少し含む。

SK03出土状態図 (VH6p)



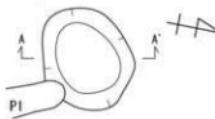
1. 7.SYR4/3褐色灰質灰色砂塊斑状に含む。
2. 10YR3/3暗褐色砂質灰土 上面に炭化物を多く含む  
ラミナあり 灰色砂塊斑状に含む 灰少し含む。
3. 10YR4/4褐色砂質上面に2層より明瞭な炭化物  
ラミナあり 灰質。

SK02出土状態図 (VH6p)



1. 2.SYB4/8赤褐色細粒質硬質 被燒砂壁?
2. 2.SYB4/4(ふい)赤褐色砂質硬質
- シルト・種細縫合む 灰わずかに含む。
3. 7.SYB5/3(ふい)褐色細砂質砂質斑状に含む。
4. 2.SY5/4褐色灰質細砂質 種めて軟質。
5. 灰化土層

SK04 (VH6p)



第52図 E区SY01周辺遺構 (SK01～04) 平面図・土層断面図 (1:50)

窯壁の一部に、既に焼かれた棒状のものを窯壁の壁土と一緒に塗り込めていた痕跡（図版 104）が見られた。焚き口の床には石が敷かれ、焚き口西側には丘陵縁辺に添って石垣の様に石が据えられていた。大きな石は 80cm × 30cm を測り大石と大石の間に小石を詰め斜面の土留めも兼ねて、1m80cm の間に見られた。石はすべて花崗岩の円礫であった。焚き口の状況から窯前部分が南側に 1m 前後あったと思われる。

#### (2) 土坑 SY01-SK01、SY01-SK02、SY01-SK03、SY01-SK04 [図版 12]

丘陵南端の窯前、南西端部の石垣状の石が途切れた位置から、土坑 SY01-SK01、SY01-SK02、SY01-SK03、SY01-SK04 が見られた。

**SY01-SK01** 長軸 90cm、短軸 60cm、深さ 36cm を測る。平面形は梢円。浅い土坑が掘り直され深い土坑になっていた。小分塗柱が 1 個と匣鉢が出土。上層には窯道具のトチン類が詰まり小分塗柱が 1 個と匣鉢が出土。底部には粘土を貼付けたような堆積が見られた。

**SY01-SK02** 長軸 86cm、短軸 60cm、深さ 20cm を測る。平面形は梢円、上層が被熱した砂で充填され、丸碗と窯道具の匣鉢やツク、長脚ピン、ヨリが出土した。

**SY01-SK03** 長軸 1m20cm、短軸 1m、深さ 20cm を測る。平面形は歪んだ梢円。端反皿、丸碗、擂鉢と挟み皿、匣鉢、ツクが出土した。

**SY01-SK04** 長軸 1m10cm、短軸 98cm、深さ 18cm、平面形はやや歪む円形である。

#### 4. 穫穴 SB02、SB03 [図版 37]

竪穴として、丘陵最高位の標高 222m にある不整形な竪穴 SB02 とやや下った南側に歪んだ形状の竪穴 SB03 が見られる。SB02、SB03 ともに柱の痕跡はない。

**SB02** 長軸 4m10cm、短軸 2m78cm、深さ 38cm、平面形は西北が底辺となるような不整形な三角形状で西側に粘土が見られた。端反皿、稜皿、釜、直縁大皿、擂鉢が出土した。

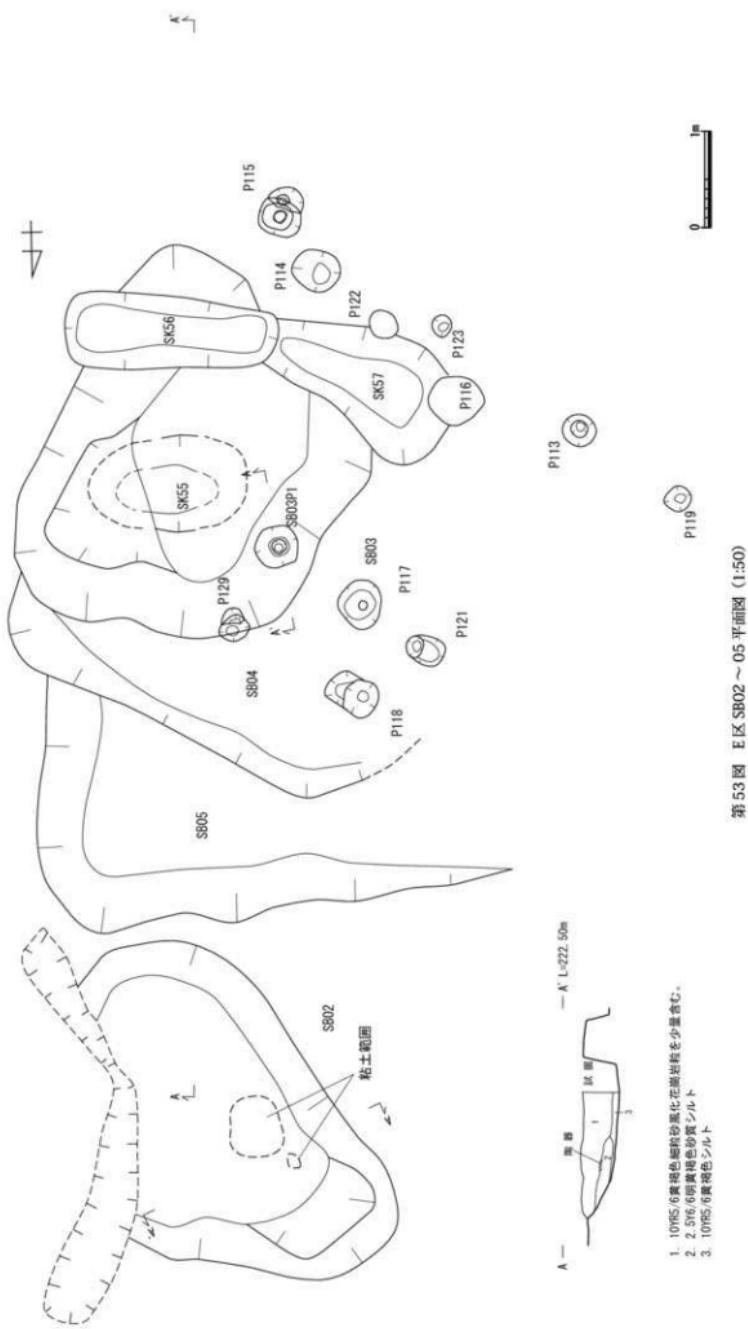
**SB03** 長軸 3m97cm、短軸 3m 平面形は歪んだ方形で SK55・56・57 に切られる。天目茶碗、丸碗、端反皿、釜、直縁大皿、擂鉢、挟み皿、匣蓋、焼台が出土した。

#### 5. 穫穴建物 SB01、SX06 [図版 37、図版 38]

竪穴建物は SB01、SX06 の二棟見られた。いずれも主軸が南北で、入り口が南側にある長方形状竪穴建物で、奥の柱が両隔だけでなく、三本目が入り口に対峙した位置に見られ、奥二本の間の柱は、梁を支える桁と考えた。SB01 は炭化物の集中が見られ、壁際の溝が東側のみであった。SX06 の壁際溝は壁際を巡り、また出土遺物の種類も豊富であった。

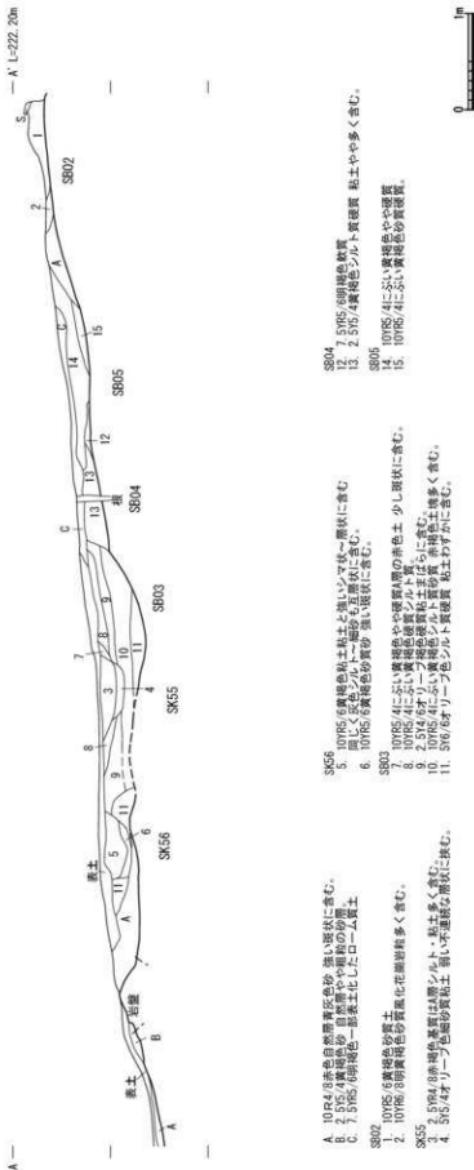
##### **SB01** [図版 37]

SB03 の東側にあり、南に張り出し入り口が付く長方形竪穴建物跡で南側が弓なりになっている。入り口から奥まで 4m90cm、長方形の西側 3m90cm、東側 3m60cm、最大幅 2m76cm を測る。手前半分には柱が見られず奥半分に一間一間の柱穴が見られる。柱穴は 6 ヶ所。北妻は三間で総長 2m20cm、柱間は西から約 60cm、約 60cm、約 80cm を測る。西側柱列は 2m20cm、東側柱列は斜めに 2m10cm の間隔である。方向は北妻で N-94-E、西側柱列で N-5-E である。床面に粘土が広がり北東の壁際に炭化物の集中が見ら



第53図 E区SB02～05平面図(1:50)

1. 1075/6黄褐色細粒砂風化花崗岩粉を少量含む。
2. 2,576/6真黃褐色砂質シルト
3. 1075/6黄褐色シルト

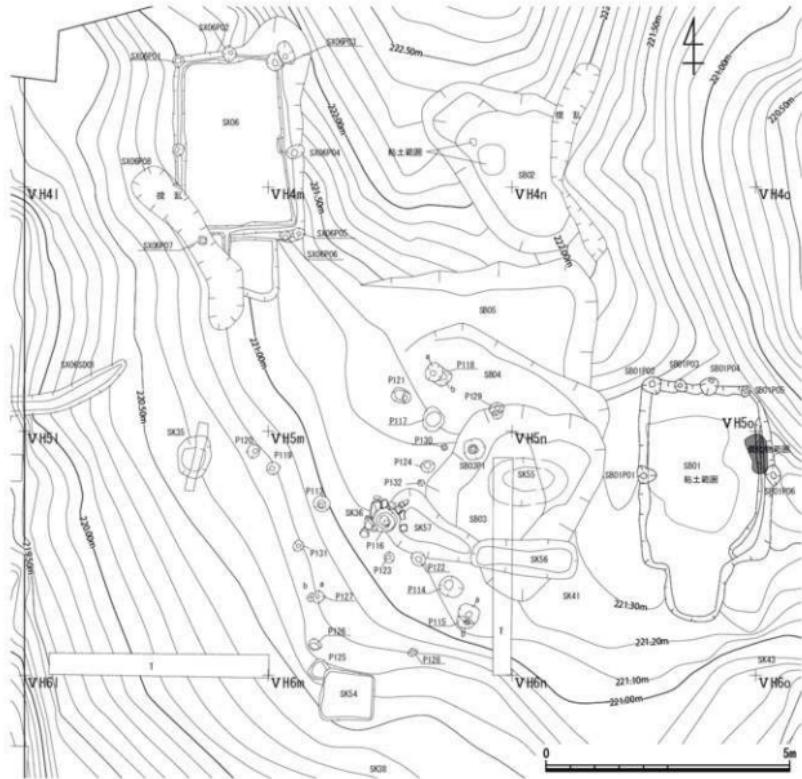


第54図 E区 SB03～05 SPA土層断面図(1:50)

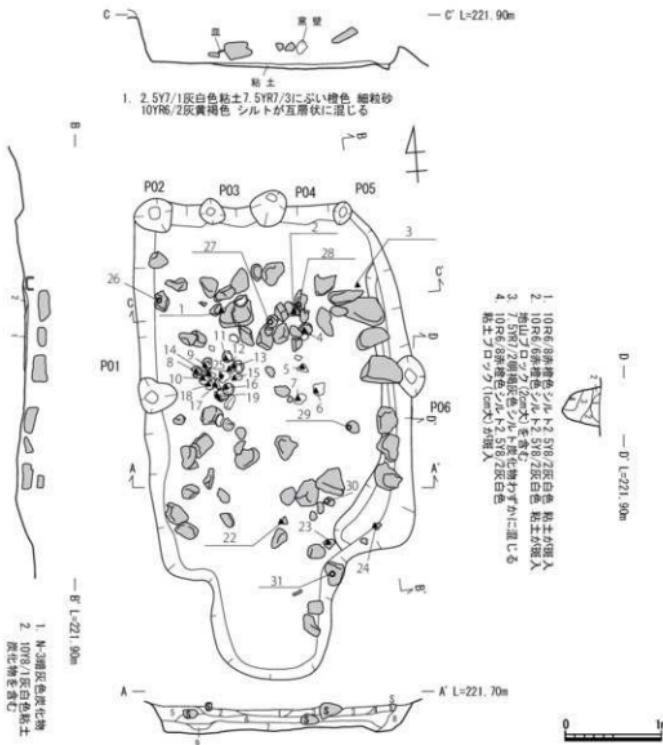
れた。建物廃絶後に石、空壁、匣鉢、挟み皿、縁釉挟み皿、端反皿などが廃棄されていた。

SX06 [图版 38]

E区の西北端にあり、南に張り出しの入り口が付く長方形竪穴建物跡で南西隅が削平で壊されていた。一間二間の建物、入り口から奥まで5m20cm、長方形の西側3m74cm、東側4m12cm、最大幅2m70cmを測る。桁行2間、梁行2間、梁行北妻は総長約2m20cm、柱間は西より約1m10cm、約1m10cm、南妻は総長約2m、東側柱は桁行総長3m90cm、柱間は北から1m90cm、1m65cm、西側柱は桁行総長約3m70cm、柱間は北から1m85cm、約1m75cmを測る。壁際に溝が巡り南側の張り出しに接続する。周溝の深さは3cmから5cmを測る。遺物が多く出土した遺構で完形品の匣鉢が32個見られ、そのうち24個の匣鉢が伏せた状態で出土した。伏せられた匣鉢の上に板でも敷けば床にもなる状況である。匣鉢、挟み皿の窯道具の他に丸碗、天目茶碗、腰折皿、端反皿、丸皿、擂鉢、釜、鍋、縁釉皿、と出土器種が豊富である。竪穴建物の柱8ヶ所でSX06-P01は長軸21cm、短軸21cm、深さ5cm、平面形は方形。SX06-P02は長軸



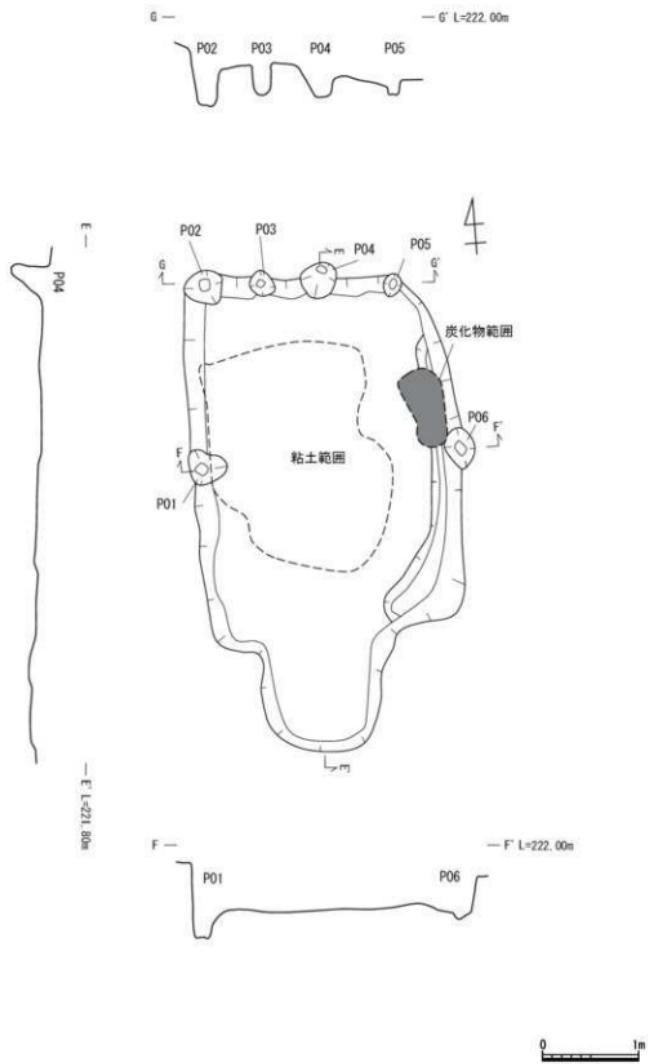
第55図 E区北側全体図(1:100)



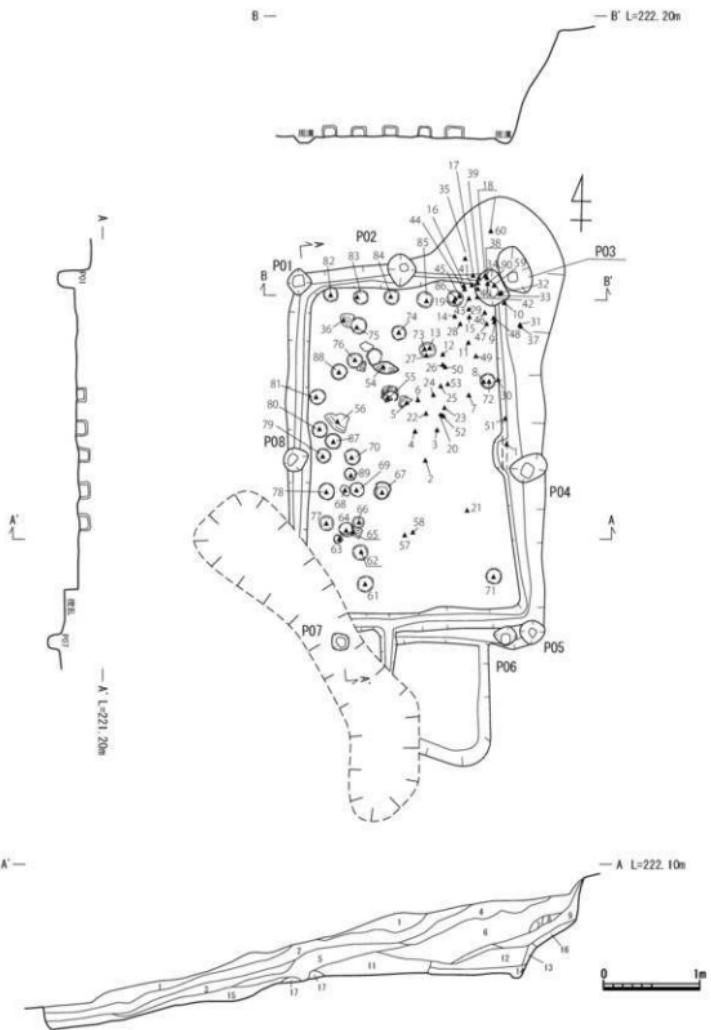
第56図 E区SB01遺物出土状況図・土層断面図(1:50)

第2表 E区SB01出土遺物

番号	遺物番号	西種	巴西	
1	584	埴反皿	221.541	
2		押鉢	221.551	
3		押鉢	221.411	
4	592	埴鉢	221.579	
5	594	埴鉢	221.442	
6	595	埴鉢	221.362	
7		押鉢	221.55	
8	590	抹み皿	221.647	
9		抹み皿	221.556	
10		抹み皿	221.611	
11	591	埴鉢	221.515	
12	593	埴鉢	221.629	
13	589	埴輪抹み皿	221.521	
14		抹み皿	221.537	
15		押鉢	221.414	
16	583	埴反皿	221.509	
17		埴輪抹み皿	221.521	
18	585.586	埴反皿	221.564	
19		587	埴反皿	221.497
20		抹み皿	221.511	
21		抹み皿	221.537	
22		押鉢	221.439	
23		押鉢	221.325	
24		押鉢	221.348	
25		押り石	221.491	
26		塗瓦片	221.534	
27		塗瓦片	221.531	
28		塗瓦(筒瓦付き)片	221.524	
29		塗瓦片	221.542	
30		塗瓦片	221.457	
31		塗瓦片	221.405	



第57図 E区 SB01 平面図・断面図 (1:50)

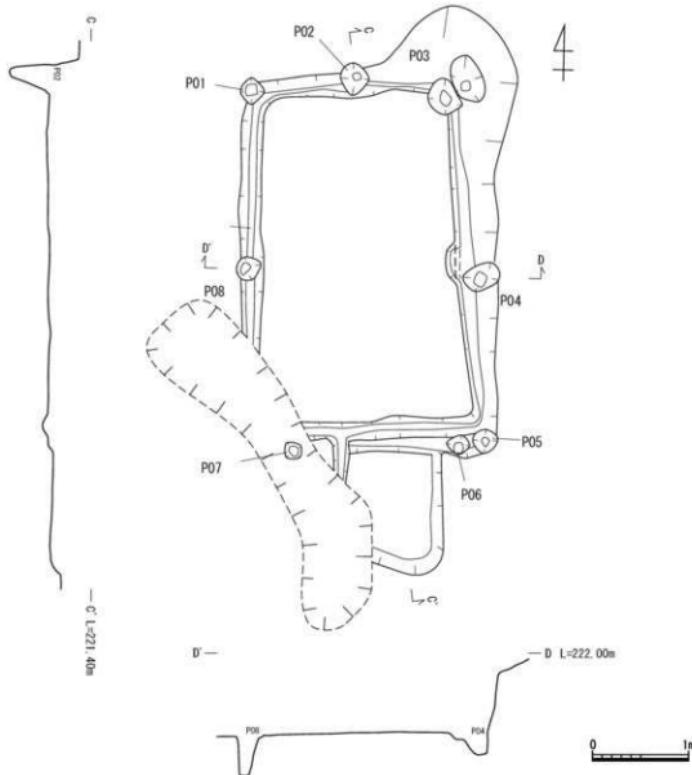


1. 10YR3/2黒褐色シルト(表土)
2. 10YR6/3にぶい黄橙色シルト
3. 7. SYR4/6褐色シルト
4. 5SYR7/6褐色シルト
5. 5SYR7/4にぶい暗褐色シルト
6. 10YR6/3にぶい黄褐色シルト繋まりなし。
7. 7.SYR5/2灰褐色砂質シルト
8. 10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂
9. 2.SYR6/6褐色シルト-10YR8/3浅黄褐色 シルトが斑入り。10YR5/6黄褐色 地山ブロックを含む。
10. 5SYR7/6褐色シルト
11. 10YR6/3にぶい暗褐色砂質シルト
12. 7.SYR5/6明褐色シルト-10YR8/4浅黄褐色 中粒砂 N-7灰白色 粘土がブロック状に混じる。
13. 7.SYR6/3にぶい褐色シルト
14. 2.SYR5/6明褐色シルト
15. N-7灰白色 粘土
16. N-7灰白色地山
17. 10YR5/6黄褐色地山

第58図 E区SX06遺物出土状況図・土層断面図(1:50)

第3表 E区 SX06出土遺物

番号	遺物番号	種類	形状	記号	番号	遺物番号	種類	形状	記号
1	680	環状	環状	680	31	680	環状	環状	31
2	621	環状	環状	621	32	622	環状	環状	32
3	621	環状	環状	621	33	624	環状	環状	33
4	621	環状	環状	621	34	625	環状	環状	34
5	621	環状	環状	621	35	626	環状	環状	35
6	621.005	環状	環状	621.005	36	627	環状	環状	36
7	621.005	環状	環状	621.005	37	628	環状	環状	37
8	709	環状	環状	709	38	629	環状	環状	38
9	621.022	環状	環状	621.022	39	630	環状	環状	39
10	621.022	環状	環状	621.022	40	631	環状	環状	40
11	665	環状	環状	665	41	671	環状	環状	41
12	621.022	環状	環状	621.022	42	672	環状	環状	42
13	621	環状	環状	621	43	673	環状	環状	43
14	621	環状	環状	621	44	674	環状	環状	44
15	621.022	環状	環状	621.022	45	675	環状	環状	45
16	621.022.005	環状	環状	621.022.005	46	676	環状	環状	46
17	621.022.010.002	環状	環状	621.022.010.002	47	677	環状	環状	47
18	621.022	環状	環状	621.022	48	678	環状	環状	48
19	621.022	環状	環状	621.022	49	679	環状	環状	49
20	—	—	—	—	50	680	環状	環状	50
21	621	環状	環状	621	51	681	環状	環状	51
22	621.022	環状	環状	621.022	52	682	環状	環状	52
23	621.022	環状	環状	621.022	53	683	環状	環状	53
24	621	環状	環状	621	54	684	環状	環状	54
25	621	環状	環状	621	55	685	環状	環状	55
26	621.022	環状	環状	621.022	56	686	環状	環状	56
27	621.022	環状	環状	621.022	57	687	環状	環状	57
28	621.022.005	環状	環状	621.022.005	58	688	環状	環状	58
29	621	環状	環状	621	59	689	環状	環状	59
30	621.022	環状	環状	621.022	60	690	環状	環状	60



第59図 E区 SX06 平面図・断面図 (1:50)

30cm、短軸 28cm、深さ 65cm、平面形は方形。SX06-P03 は長軸 49cm、短軸 33cm、深さ 1m48cm、平面形は長楕円。SX06-P04 は長軸 37cm、短軸 24cm、深さ 85cm、平面形は長楕円。SX06-P05 は長軸 25cm、短軸 24cm、深さ 19cm、平面形は楕円。SX06-P06 は長軸 19cm、短軸 18cm、深さ 23cm、平面形は歪む方形。SX06-P07 は長軸 17cm、短軸 17cm、深さ 30cm、平面形は方形。SX06-P08 は長軸 27cm、短軸 23cm、深さ 41cm、平面形は歪む方形を測る。

#### 6. 据立柱建物 SX03 [巻頭図版 7、図版 39、図版 42]

据立柱建物手は SX03 一棟である。窯 SY01 の西南側、北側斜面を削り平坦部に SX03 を設けている。標高 219m に見られる東西に長い大形据立柱建物で、長軸 3m50cm、短軸 2m40cm、西側の斜面との比高差 69cm を測る。平面形は西側と北側が壁となり南東側に広がる長方形を呈する。東西一間半、南北一間の建物跡で、柱間は西側柱列は約 2m 以上、北側柱列は約 2m80cm 以上と推定している。方向は北側柱列で N-104-E、西側柱列で N-24-E。北側、西側ともに掘り方底面に小ピットが見られ、北側で 7ヶ所、西側で 4ヶ所、それぞれ並んで見られ、南側には立て替えの柱が見られた。北側と西側の壁際では匣鉢と挟み皿、粘土ヨリ等の窯道具類の山積みが見られた。窯出し製品の選別作業の建物である。ほとんどの出土遺物が匣鉢と挟み皿であったが天目茶碗、丸皿、端反皿、稜皿、灯明皿なども見られた。

#### 7. 作業場 SB05・04 の南、SX02

轆轤ピットを擁した作業場として、二ヶ所見られた。北側斜面を削り平坦部を設けている。

##### SB05・SB04 [図版 37]

北側斜面を削り平坦部を設けこの南側縁辺部の平坦な部分。SB05 は北側斜面を削り西南側に平坦を造成している。北壁側 4m57cm、東壁側 2m40cm、深さ 47cm を測る。平面形は歪む方形で北側の一部が、SB04 に切られている。SB04 は北側の一辺が見られるのみで 4m10cm を測る。広場の縁辺に轆轤ピットが、北から P121、P117、SB03-P01、P119、P113、P116、P123、P122、P115 が見られた。

##### SX02 [巻頭図版 7、図版 39、図版 40、図版 41]

丘陵最南端部にあり、SX03 の北側（上段部）部分とその南西側（下段部）部分とに分かれ比高差約 60cm ある。上段部では西側に粘土採掘土坑が、東側に巨石を伴った土坑 SK04、SK06 が、下段との境の縁辺部には轆轤ピット P09、P12 が、轆轤ピットの東には床面のブロックが並べられた土坑 SK03 が見られた。下段部では西側に轆轤ピット P03c、P06、P07、P08、と粘土溜土坑 SK02、東側の南東端に石敷の SK07 が見られた。遺構の最終段階には SX03 と一体化して、窯出し直後の製品選別の作業場になっていた様で、西側（平坦面ではない斜面側）に、匣鉢、挟み皿、粘土ヨリ等の窯道具類の山積みが見られた。

#### 8. 轶轤ピット

轆轤ピットは 15 基（第 15 表轆轤ピット一覧参照）見られる。SB04 と SB05 の南西側には P121、P117、SB03-P01 が、丘陵西側縁辺には P119、P113、P123 と P116、P122、P115-a が見られた。SX02 の上段には P09 と P12 が、下段には P03c、P06 が、この北側に P08、P07 が見られる。P08、P07 は最南端の遺構である。なお轆轤ピットの一覧表では SX02 の轆轤ピットは SX02-P07 と表記している。

P121 長軸 39cm、短軸 29cm、深さ 22cm、平面形は隅円長方形。軸穴内から焼台片が出土。“土坑タイプ”と考えられる。

P117 [図版 45] 長軸 45cm、短軸 45cm、深さ 54cm、平面形はやや歪な隅方円形。“土坑タイプ”と考えられる。

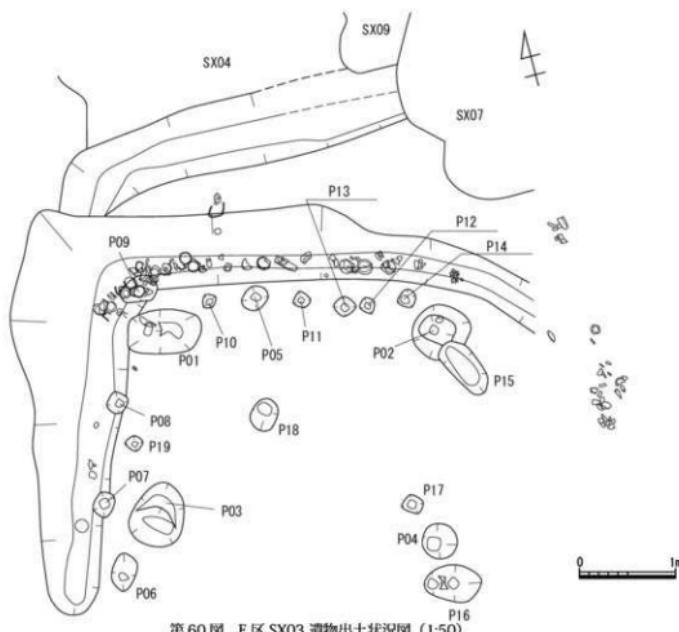
SB03-P01 [図版 44] 長軸 45cm、短軸 41cm、深さ 31cm、平面形はほぼ円。SB を付したが上から掘り込まれおり SB より新しい。土坑部分は礫を含む粘土で埋められ、軸穴上には陶器片で蓋をしている。掘り込み外郭に沿って薄く粘土質土を貼ったように見受けられた。“土坑タイプ”と考えられる。

P119 長軸 26cm、短軸 24cm、深さ 31cm、平面形は隅方円形。軸穴を有する。

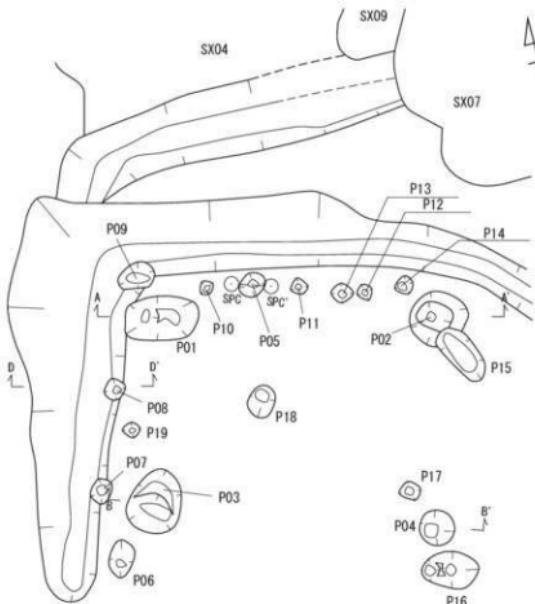
P113 長軸 34cm、短軸 32cm、深さ 56cm、平面形は円形。崩落のため精査できなかったが、轆轤ピットの可能性が高い。

P123 長軸 22cm、短軸 21cm、深さ 36cm、平面形は隅方円形。覆土上部の外周に青色の強い粘土質シルトを貼ったように見受けられ、軸穴の可能性がある。上面では確認できなかった。

P116 [図版 45] 長軸 51cm、短軸 51cm、深さ 24cm、平面形は隅方円形。軸穴下に焼台片を置く。軸は抜き取られたと推察され、強い互層状の粘土で埋め戻しされている。上面では確認できなかったが周りに石積みが見られ、A区で見られた石積みの轆轤ピットの底の可能性があり“土坑タイプ”と考えられる。



第60図 E区 SX03 遺物出土状況図 (1:50)



- 4' 1 -210 50-



1. 7.5YR7/4にぶい橙色砂質シルト  
2.5Y7/2灰黄色シルトが斑入。

P0.1

1. 2.SYR7/8橙色シルト2.5Y7/2灰黄色細粒砂が斑入。
  2. 7.SYR5 6明褐色砂質シルト2.5Y7/2灰黄色 細粒砂が斑入。
  3. 7.SYR4 6褐色シルト
  4. SYR6/8橙色シルト10Y7/1灰白色粘土をブロック状に含む。
  5. SYR6/8橙色シルト10Y7/1灰白色粘土との斑土遺物を包含。

P02

1. 2.5Y7/8黄色シルト  
2. 5Y6/4にふい橙色砂質シルト縦まりなし。



— B' L=219.50m



0



— D' L=220, 20m

P03  
1

1. 2 SYR7/8暗色シルト風化花崗岩細粒を含む。
  2. 1に10Y7/1灰白色 粘土が斑入。
  3. SYR7/4にふい褐色シルト風化花崗岩細粒を含む。
  4. SYR7/4にふい褐色シルト10Y7/1灰白色 粘土がブロック状に混じる。
  5. SYR6/6褐色シルト2 SY8/2灰白色 粘土が斑入。

P04

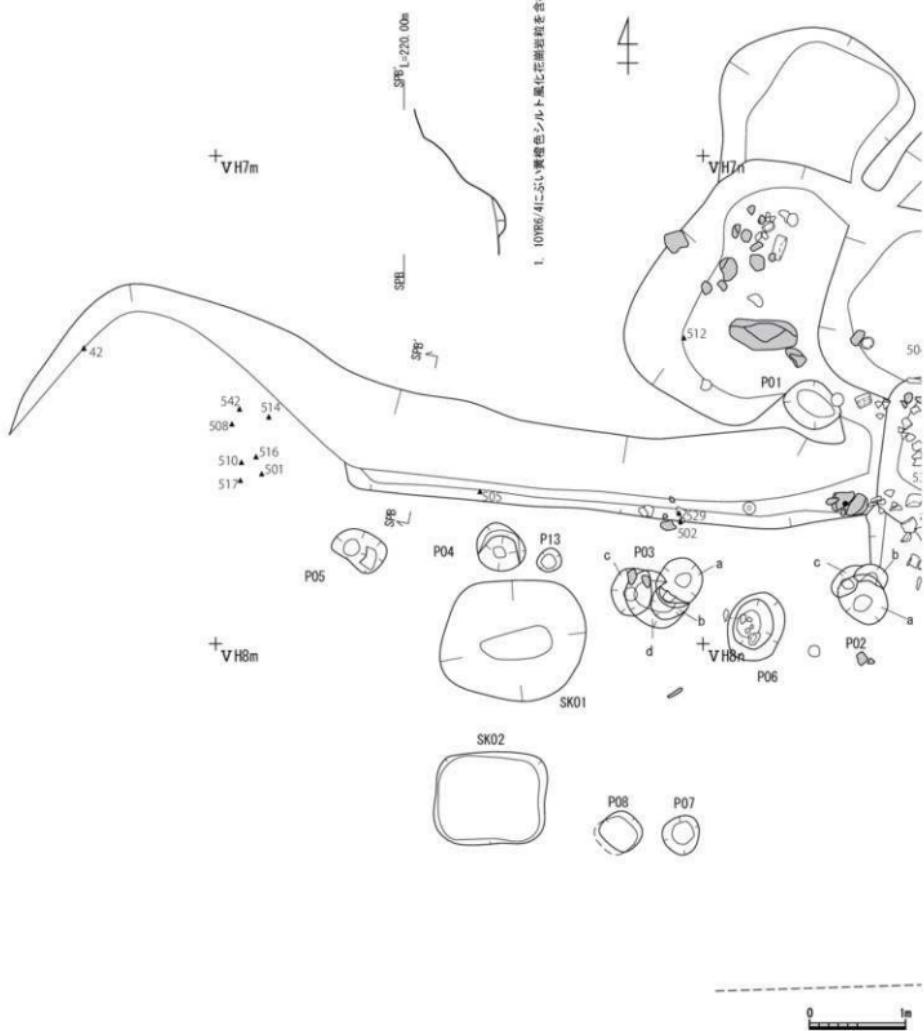
1. 7.SYR7/3にぶい橙色シルト10YT/1灰白色 粘土が斑入。
  2. SYT/2灰白色 粘粒砂10YT/6黄褐色 細粒砂との斑点 黄土わずかに含む。
  3. 10YR5/3にぶい黄褐色 粘粒砂細粒砂まりなし SYT/3浅黄色 細粒砂が斑入。
  4. 2.SY7/2灰黄色 粘粒砂2. 5YR7/8橙色 シルト N-6灰色 粘土が斑入。



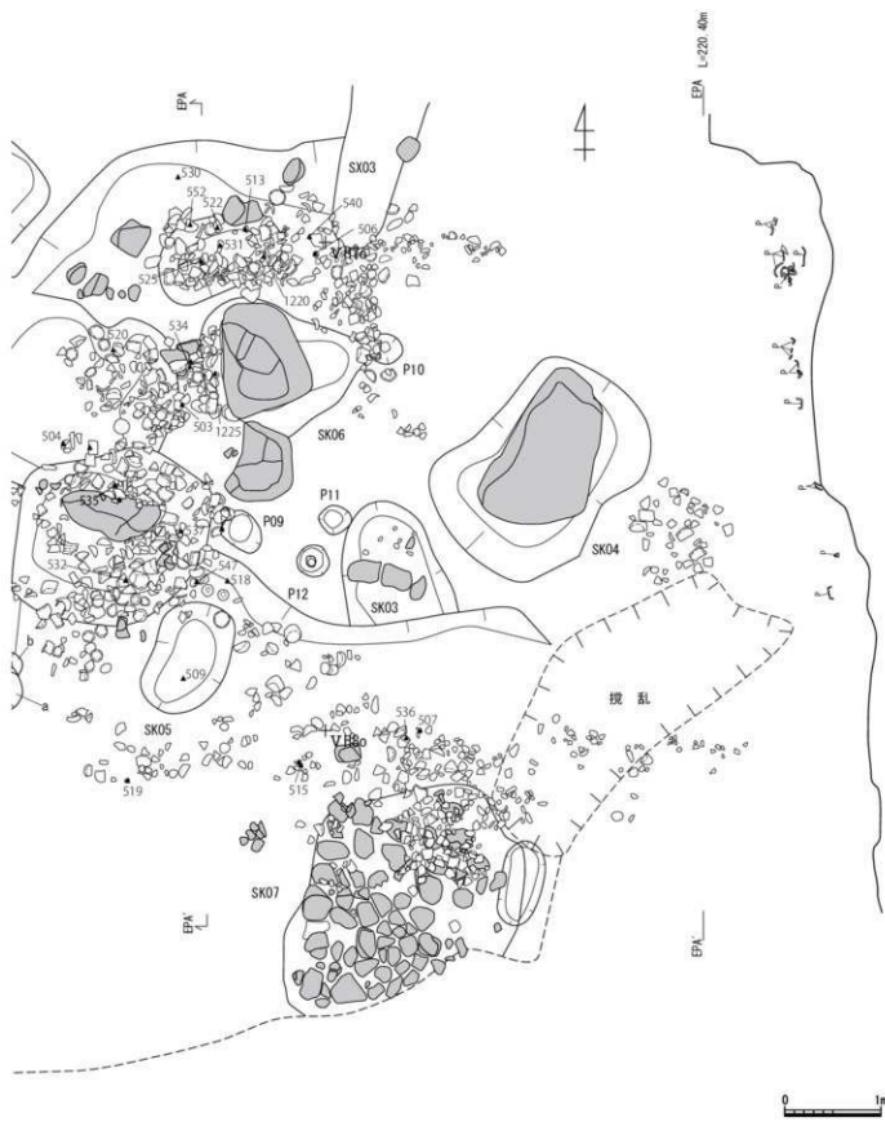
第61図 E区 SX03 平面図・土層断面図 (1:50)



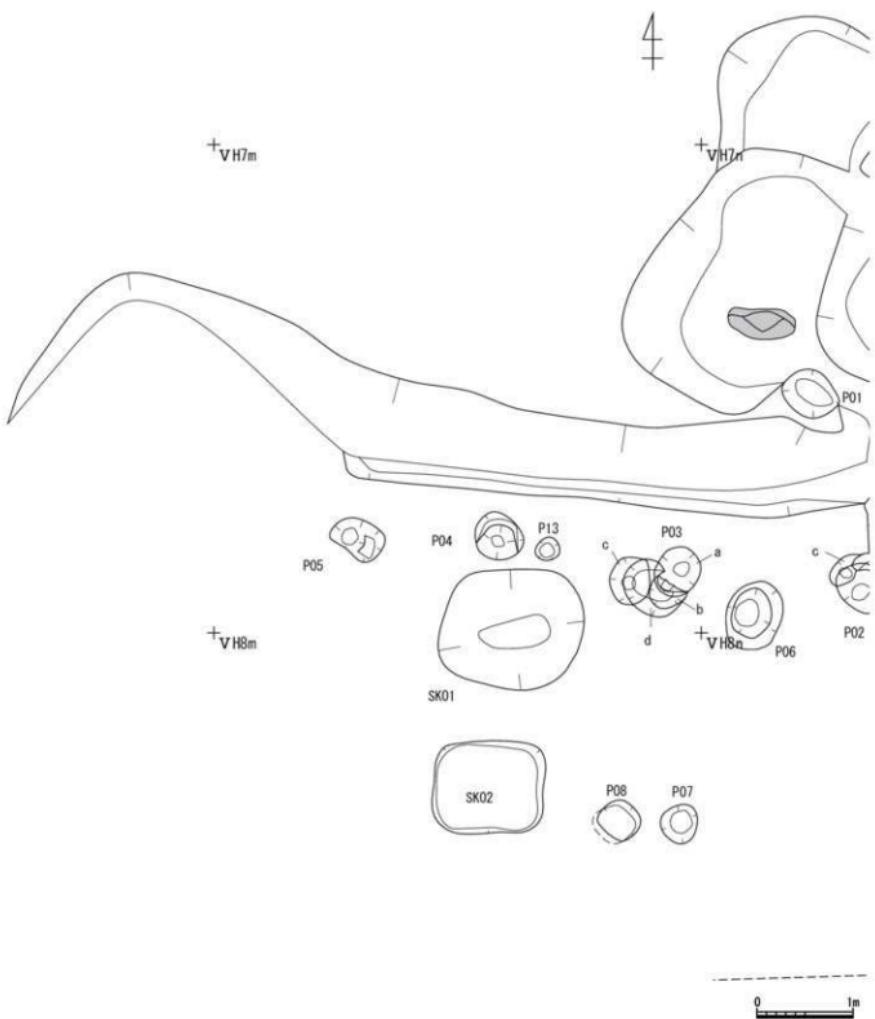
第62図 E区南側(SX02～SX12)全体図(1:100)



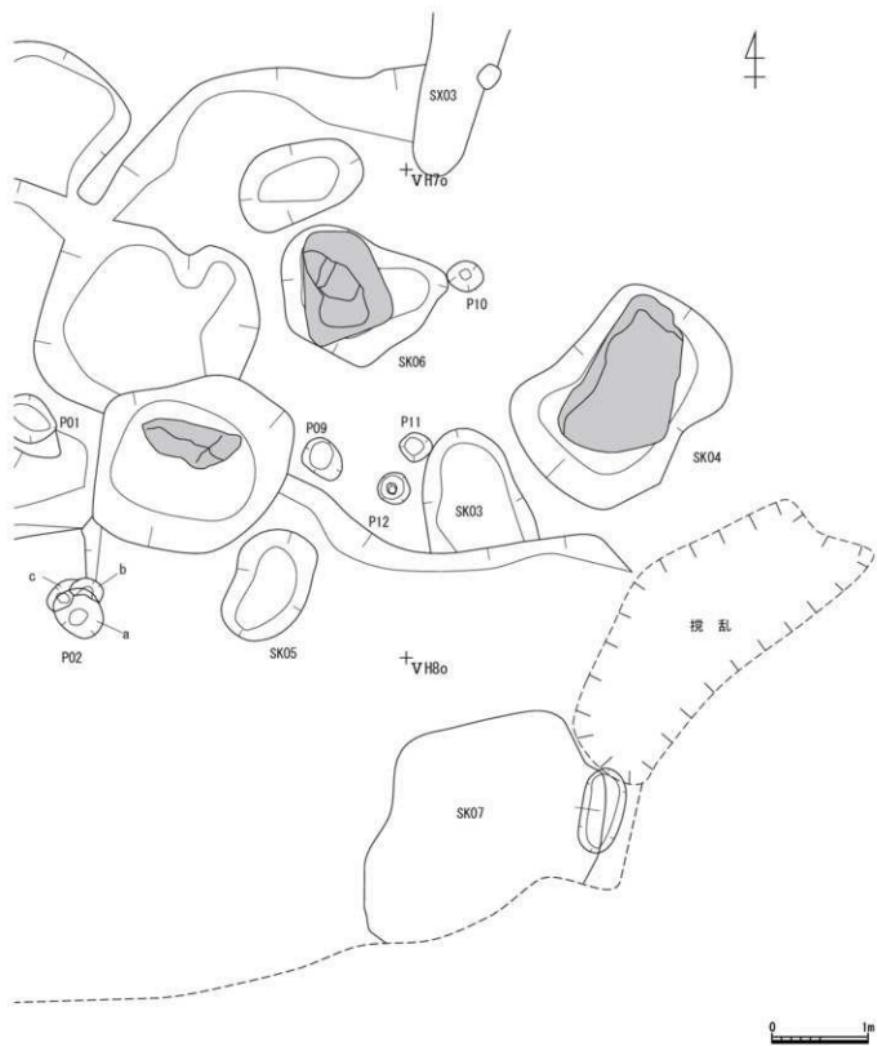
第63図 E区SX02(西侧)遺物出土状況図1(1:50)



第64図 E区 SX02(西侧)遺物出土状況図2(1:50)

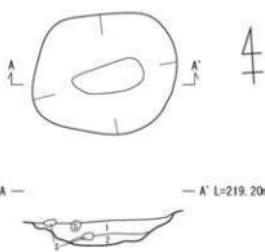


第65図 E区SX02(西侧)遺構平面図1(1:50)



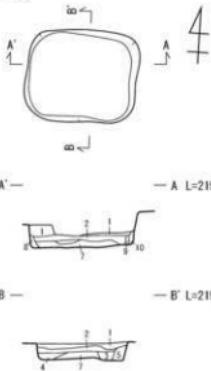
第66図 E区 SX02(西侧)遺構平面図2(1:50)

SK01 (VH7m)



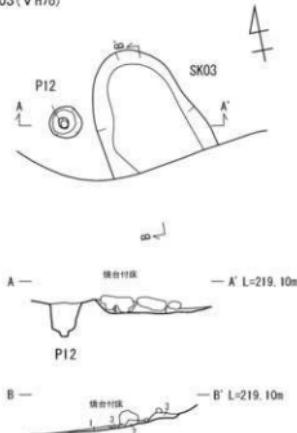
1. 2.5Y5/2細灰黄色砂質シルトを7.5YR7/8黄橙色  
細粒砂の土と風化花崗岩ブロックを含む。
2. 風化珊瑚岩に2.5Y5/2細灰黄色 砂質シルトが混じる。
3. 10YR7/4にぶい黄橙色砂質シルト

SK02 (VH8m)

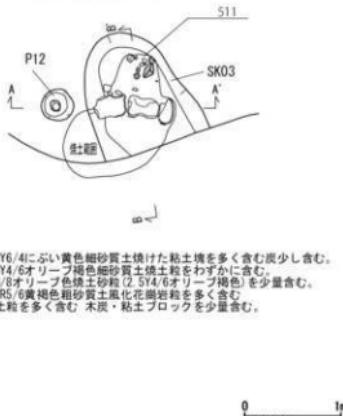


1. 10Y8/1灰白色粘土と10YR7/2にぶい黄橙色 砂質シルトの斑状
2. 7.5YR7/3にぶい黄橙色砂質シルトに7.5YR6/8橙色  
シルトが斑入、風化花崗岩細粒を含む。
3. 10Y8/1灰白色粘土と10YR7/2にぶい黄橙色砂質シルトをわずかに含む。
4. 3に10Y8/1灰白色粘土ブロックがわずかに混じる。
5. 7.5YR7/3にぶい黄橙色砂質シルトに10Y8/1灰白色  
粘土がブロック状に混じる。
6. 10YR7/4にぶい黄橙色砂質シルト
7. 2.5Y5/2細灰黄色シルトと風化花崗岩細粒を含む  
液化物をわずかに含む。
8. 10YR7/4にぶい黄橙色砂質シルト 10Y8/1灰白色粘土が斑入。
9. 2.5Y5/2細灰黄色シルト
10. 2.5Y5/2細灰黄色シルトに10Y8/1灰白色  
粘土が斑入 風化花崗岩細粒を含む。

SK03 (VH7o)

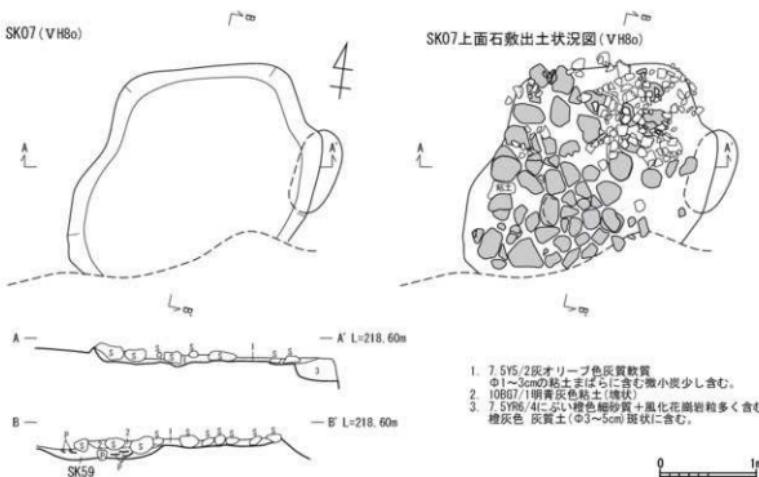
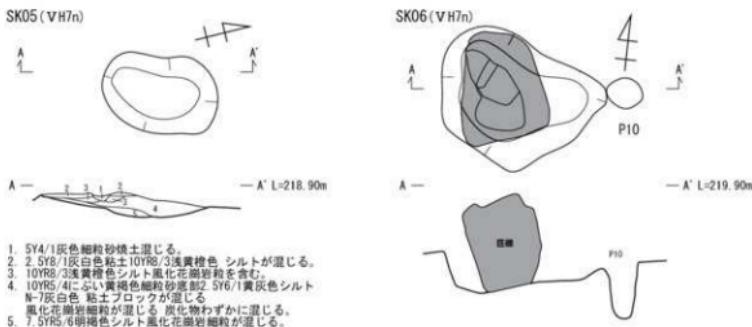
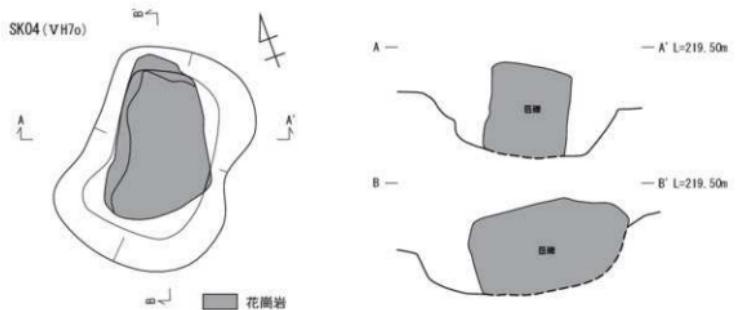


SK03出土状況図 (VH7o)

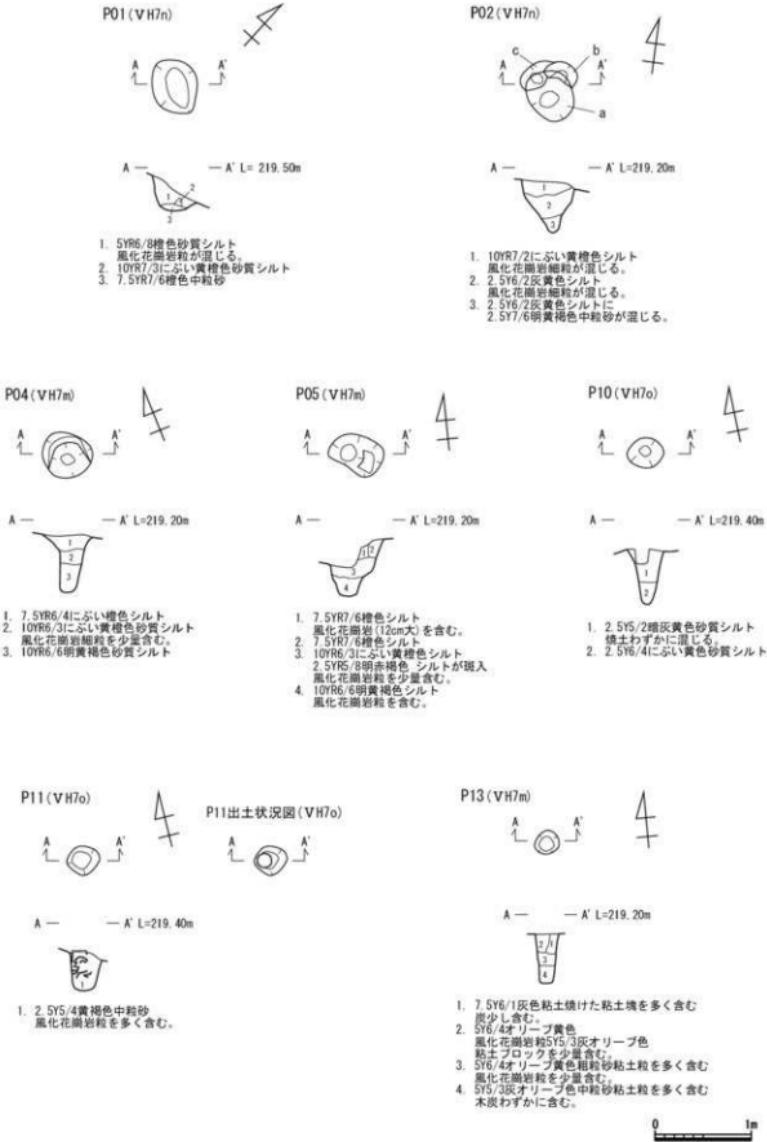


1. 2.5Y6/4にぶい黄色細砂質土焼けた粘土塊を多く含む灰少し含む。
2. 2.5Y6/4オーリーブ緑色細砂質土焼け土塊をわずかに含む。
3. 5Y6/8オリーブ緑色燒土砂粒 (2.5Y4/6オリーブ緑色) を少量含む。
4. 10YR6/6黄橙色粗砂質土風化花崗岩細粒を多く含む  
燒土塊を多く含む 木炭・粘土ブロックを少量含む。

第67図 E区 SX02 土坑 (SK01～03)、鍬轆ビット (P12) 平面図・土層断面図 (1:50)



第68図 E区 SX02 土坑 (SK04 ~ 07) 平面図・土層断面図 (1:50)



第69図 E区 SX02 土坑 (P01・02・04・05・10・11・13) 平面図・土層断面図 (1:50)

P122 [図版 45] 長軸 32cm、短軸 28cm、深さ 43cm、平面形は円形。底部に粘土を詰め軸固定したと考えられる。P115 と類似する。

P115-a 長軸 44cm、短軸 37cm、深さ 55cm、平面形は扇形。軸穴が底面まで届かず粘土の上で固定している。P122 と類似する。

P09 長軸 47cm、短軸 36cm、深さ 42cm、平面形は扇形。“柱穴タイプ”

P12 長軸 48cm、短軸 35cm、深さ 42cm、平面形は扇形。“柱穴タイプ”

P03c 長軸 80cm、短軸 54cm、深さ 67cm、平面形は切り合があり不整形。“柱穴タイプ”

P06 長軸 72cm、短軸 55cm、深さ 67cm、平面形は扇形。“柱穴タイプ”

P08 [図版 44、図版 45] 長軸 41cm、短軸 38cm、深さ 53cm、平面形は扇形。“柱穴タイプ”

P07 長軸 38cm、短軸 38cm、深さ 47cm、平面形は扇形。“柱穴タイプ”

## 9. 粘土溜 [図版 41]

SX02 の下段に SX02-SK02 が見られ、長軸 1m14cm、短軸 96cm、深さ 36cm を測る。上層は粘土が充填され、断面の形状は箱形である。

## 10. 杣列

SX02 の下段北側沿い、壁際溝の南に杣列が西より SX02-P06、SX02-P04、SX02-P13、SX02-P03a、SX02-P02 が見られた。SX02 上段際を利用し、差

掛けの覆い屋根の柱の可能性もある。

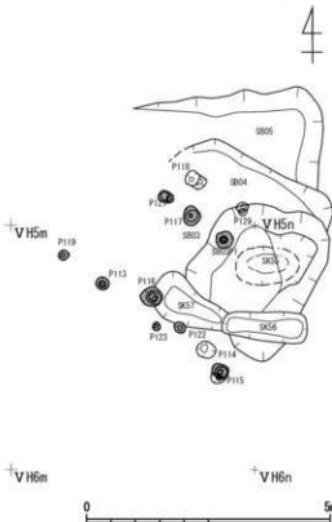
+ VH4m

+ VH4n

4

## 11. 石敷 [図版 40]

丘陵南東端で SX02 の下段縁辺に見られた SK07 で、不整形な凹みに小規模な石敷が見られた。石を設置するために凹みを設けており、石敷には粘土と細かい破片になった挟み皿、匣鉢、粘土ヨリが見られた。花崗岩の円礫は 71 個敷かれていた。



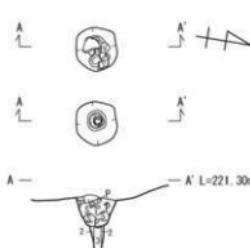
## 12. その他の土坑

SK03、SK04、SK06 SX04、SX05、SX07、SX08、SX09、SX10、SX11、SX12。

SK03 SX02 の上段の南東端、轆轤ピット P12 の東側に SK03 が見られる。浅い土坑で焼台付き床面ブロックが逆さに二個東西に並べられていた。長軸 1m26cm、短軸 1m10cm、深さ 23cm、平面形は長楕円。西側に焼土が見られ竈の可能性もあるが不明。

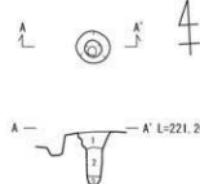
第 70 図 E 区 北側 SB02 ~ 05 轶轤ピット位置図 (1:100)

P01出土状況図



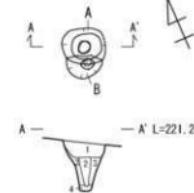
1. 7 SYR7/1明緑灰色粘土皮まばらに含む  
緑色砂質土斑状に含む。
2. 7 SYR5/3灰オリーブ色粘土質黄色砂質土・  
粘土・シルトやや多く含む。
3. 5YS/3灰オリーブ色粘土質黄色砂質土下底に  
青灰色シルトあり  
輪穴上に陶器片の蓋あり。

P113



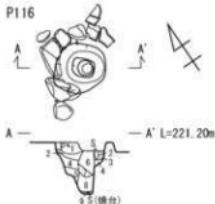
1. 10YR7/2にぶい黄褐色粘質シルト
2. 空洞 埋土なし
3. N-7灰白色粘土

P115



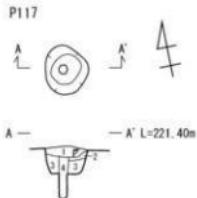
1. 7 SYR6/8褐色シルト SY7/灰白色  
粘土ブロックが混じる。物少混じる。
2. SYR5/4灰白色粘土と 7 SYR6/8褐色  
砂質砂との層。7 SYR6/8褐色  
砂質シルトが侵入。砂土ブロックが混じる。
3. 5Y7/1灰白色粘土と 7 SYR6/8褐色  
砂質シルトが侵入。砂土ブロックが混じる。
4. 5Y7/1灰白色粘土

P116



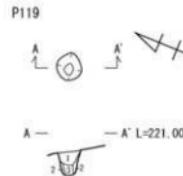
1. SYR5/4明赤褐色硬質土少し含む。
2. 10Y7/1明緑灰色粘土。
3. 7 SYR6/2灰オリーブ色粘土赤褐色の砂を含む。
4. 2 SYR5/3黄褐色シルト灰少し含む。
5. 10YR5/4灰褐色粘土赤褐色の砂を含む。
6. 1層と類似  
強い互層赤褐色砂・粘土・黄灰色シルト。
7. 2 SYR5/3黄褐色砂質のブロック
8. 7 SYR6/1緑色砂質シルト
9. SYR5/6明赤褐色硬質土

P117



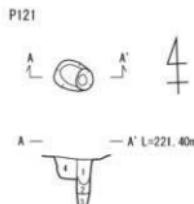
1. 10YR5/4にぶい黄褐色砂質粘土・  
炭まばらに含む。
2. SYR5/4オリーブ灰褐色シルト淡青灰色  
粘土塊含む。弱い瓦層状。
3. 7 SYR5/4にぶい褐色粘土明赤褐色  
砂質土・炭の混在。
4. 10YR4/3にぶい黄褐色粘土炭まばらに含む。

P119



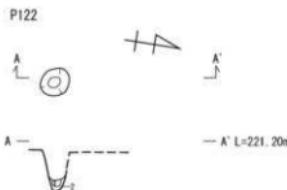
1. 10YR5/4にぶい黄褐色砂褐色土・  
粘土・赤褐色土の混在。
2. 5YR5/4にぶい褐色シルト。
3. 2 SYR5/4黄褐色軟質粘土含む。

P121



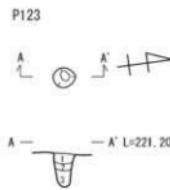
1. 7 SYR5/4にぶい褐色軟質粘土を少し含む  
赤褐色土を多く含む。
2. 7 SYR5/4にぶい褐色軟質粘土。
3. 10YR5/6黄褐色軟質粘土を多く含む。
4. SYR5/6明赤褐色粗塊状の粘土シルト含む。

P122



1. 2 SYR6/8赤褐色シルト質  
外郭は層厚3~5ミリのサビ色。
2. 10YR7/1明緑灰色粘土

P123



1. 10Y5/2オリーブ灰褐色シルト。  
外郭は青味の強い粘土質シルト。
2. 10YR5/4にぶい黄褐色軟質
3. 5Y5/3灰オリーブ色シルト質  
シルト多く含む。



第71図 E区北側轍縫ピット (P01・113・115~117・119・121~123) 平面図・土層断面図 (1:50)

SK04 [図版 41] 巨石を伴った土坑である。長軸 2m28cm、短軸 1m71cm、深さ 73cm、花崗岩の巨石は長軸 1m70cm、短軸 1m10cm、最大厚さ 95cm を測る。平で滑らかな面が露呈していた。

SK06 [図版 41] 花崗岩の巨石を伴った土坑である。長軸 1m70cm、短軸 1m32cm、深さが 50cm。

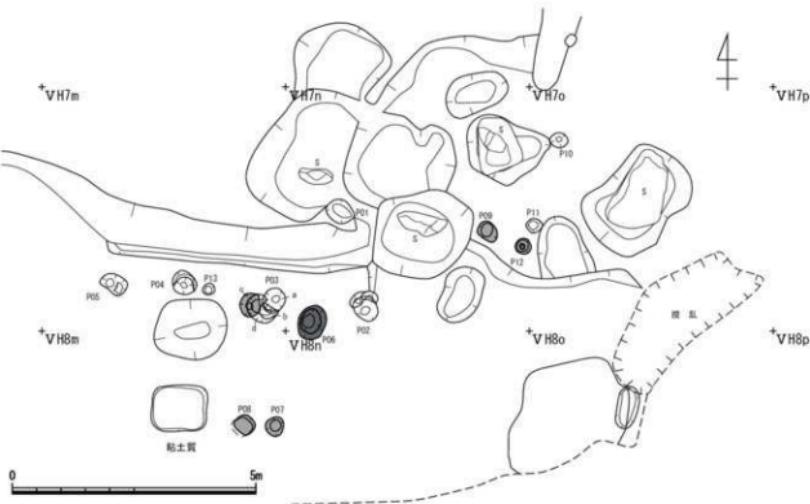
SX04、SX05、SX07、SX08、SX09、SX10、SX11、SX12 で SY01 西側の大形土坑。

SX02 の西側の大形土坑。

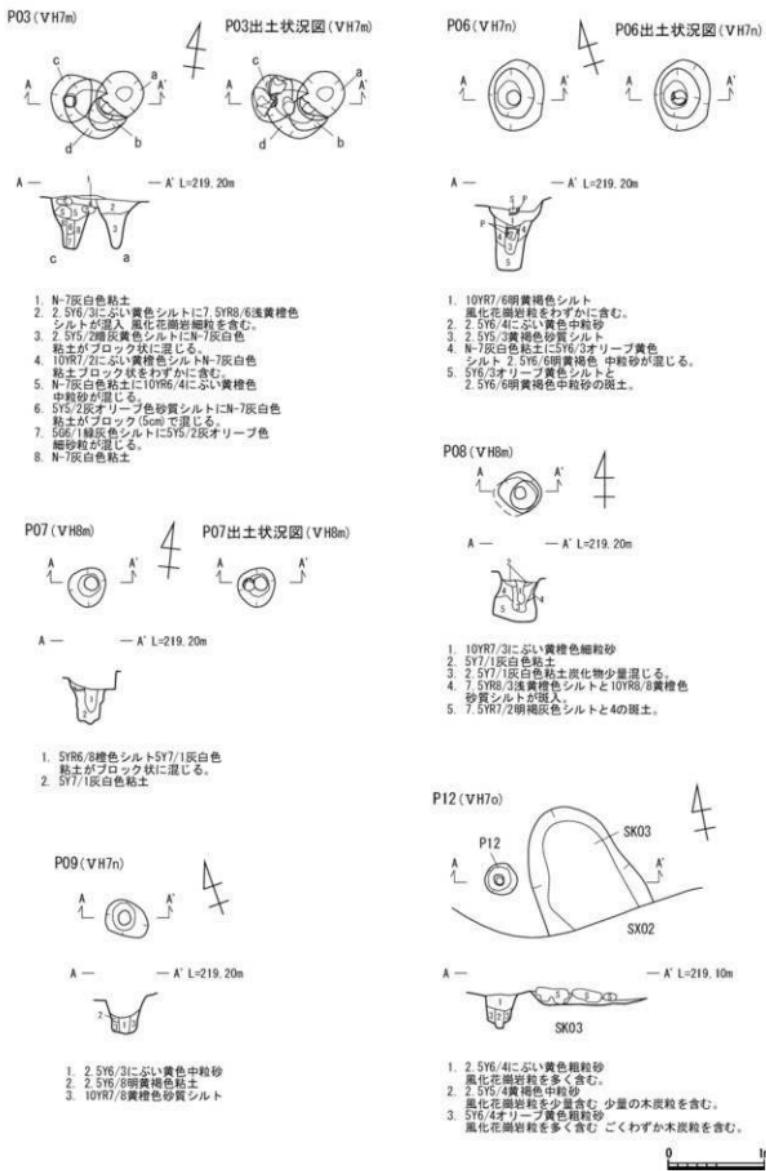
大形土坑はともに粘土採掘坑の可能性がある。粘土は荒く長石粒も多く含むことから製品用の粘土ではなく、窯の補修等のための粘土と思われる。

### 13. 土壌墓 (D 区) [図版 91] SK35

丘陵西端で西側を見おろす場所に SK35 はある。長軸 90cm 短軸 70cm の楕円形で深さ 60cm、花崗岩の大きな角礫を土坑の蓋にして、その下にまた角礫が見られ、長石軸の小碗と擂鉢底部片が出土した。



第 72 図 E 区 南側 SX02 瓢轆ビット位置図 (1:100)



第73図 E区SX02軸樋ピット (P03・06~09・12) 平面図・土層断面図 (1:50)

## 第4節 C区の遺構

### 1. 遺構の概要

C区は丘陵東側の谷間の調査区である。東斜面は上品野西金地遺跡、西斜面はA区となる。C区は水田の耕作放棄で雑草が覆い茂った状況であり、遺構があったとしても水田等により削平にされたと考えていたが、地山直上に残った遺構が良好に見られた。谷底で湧き水が激しく、土量も多く、排水置き場確保のため調査区を細分した。また冬季の調査であったため降雪と氷に悩まされた調査区でもあった。

谷際が標高204m、南側の谷底が標高203mを測り、谷の東側は自然流路が、調査区の西北より柱穴と土坑と区画溝が見られた。土坑SK21からは炭化物を多く含む埋土と拳大の石が出土し、火葬墓と考えられる。柱穴は南側に多く見られ、柱穴の中には打ち込み柱、P105では柱とともに礎板が出土した。

L字形に曲がった溝SD05、SD06、SD14、SD17、SD07、SD08、SD10が見られ、区画溝に区画された建物があったようである。西側にも擾乱とした小規模自然流路が流れ、建物の復元は困難であった。出土遺物が丘陵の工房址と比べ、生焼け製品と窯道具が少なく、焼き上がり良好な製品の器種が多く、また煤が付着した灯台、漆椀、箸、砥石等が見られた事から、C区は製品を集荷し出荷する建物が存在した屋敷地と考えられる。



第74図 C区全体図(1:400)

## 2. 区画溝

SD05 SD06 SD14 SD17 SD07 SD08 SD10 が見られる。

SD06 [図版 46、図版 47] 斜面沿い中央の東西方向の溝で現存長さ 2m81cm、幅 79cm、深さ 17cm を測る。古い段階の溝で SD05・14 に切られており全長は不明であるが西北側斜面際の SD18 と同じ溝の可能性もある。天目茶碗、端反皿、丸皿、縁軸挟み皿、木製品の蓋、箸が出土した。

SD05 [図版 46、図版 47] 北側斜面際の「凸」形を呈した北に出っ張りの見られる新しい溝群で、西より SD18、SD17、SD05、SD14、により構成された区画溝。斜面際の中央区画は角のある方形状、その東の区画は円みのある細長い長方形区画となっている。西側区画溝の有無は小規模自然流路が流れていることから南北溝は不明である。中央区画は西側現存長さ約 3m、北側約 6m60cm、東側約 8m40cm、深い場所は 30cm 浅い場所は 10cm の深さを測る。天目茶碗、端反皿、灯明皿、灯明台、擂鉢、徳利、卸挟み皿、陶丸と蓋、箸、折敷、飾り金具、砥石が出土した。

SD07 西南側の東へ曲がった逆さ L 字形の南北溝である。全長 7m15cm、西側 4m50cm、北側 2m65cm、深さ 9cm で比高差が北から南へ -7cm あり、SD08・09 を切る。

SD08 西北側の南北方向の直線溝で現存長 12m、最大幅短軸 63cm、深さ 20cm で比高差が北から南へ -14cm あり、SD07 に南端が切られている。

SD10 [図版 47] 調査区中央付近の東へ曲がった逆さ L 字形の溝で東に曲がった北側の溝の方が長い。全長 8m、西側 2m80cm、北側やや弧状に 5m20cm、深さ 30cm を測る。比高差が北西コーナーから南へ -7cm、東へ -16cm ある。溝の東端より天目茶碗、小鉢、端反皿、稜花皿、稜皿、丸皿、小瓶、腰折皿が出土した。C 区では新しい溝。

## 3. 土壙墓

SK15 [図版 47] A 区斜面側の下、南西端の角礫が投棄された楕円形土坑である。長軸 1m45cm 短軸 80cm、深さ 39cm、18 個の礫中に片面に擦った痕跡のあるフォルンフェルスが見られた。

SK21 SD05 区画溝の区画された中央南よりの方形土坑で、北側に礫が 9 個集中していた。底部が薄く残る状況で長軸 86cm、短軸 69cm、深さ 10cm を測る。石が見られ墓の可能性がある。

## 4. 土坑

形状が方形で断面がやや角のみられる土坑 SK28、SK29、SK44、SK48 である。

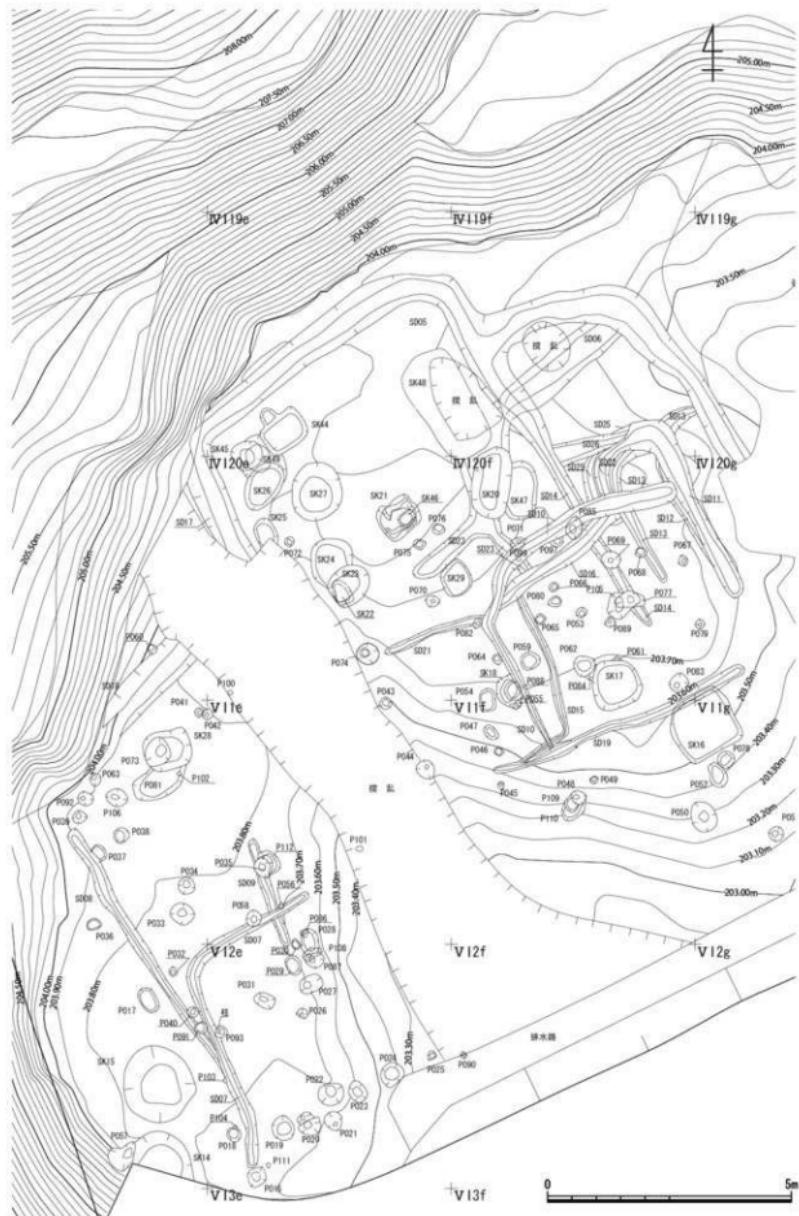
SK28 北西側に P73 より古く P81 を切った長軸 99cm、短軸 79cm、深さ 25cm を測り平面形が歪む方形を呈する。

SK29 SD05 区画溝の中央南よりの方形土坑で、北側に SK21 が見られる。底部のみ薄く残った状況である。長軸 66cm、短軸 64cm、深さ 6cm、平面形は歪む方形。SD023 と接する。

SK44 [図版 48] SD05 区画溝中央北側に見られ、北に凸部のある隅丸方形の長軸 95cm、短軸 70cm 凸部から 98cm、深さ 16cm を測る。北の張り出し凸部は別遺構の可能性もある。SK049 を切る。

角礫が中央に、熙寧元宝、聖宋元宝、無文銭、漆器片、下駄？、端反皿が周りに見られた。

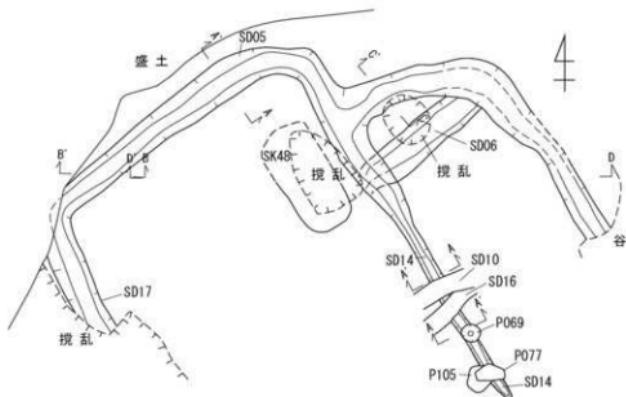
SK48 SD05 区画溝の中央北東側に見られるが撥乱により平面形は不明、南側に窯道具が出土。



第75図 C区(西侧)遺構位置図1(1:400)



第76図 C区(東側)遺構位置図(1:400)



SD05

A — <img alt="Soil profile sketch A-A' showing a vertical column with layers labeled 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69, 70, 71, 72, 73, 74, 75, 76, 77, 78, 79, 80, 81, 82, 83, 84, 85, 86, 87, 88, 89, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 97, 98, 99, 100, 101, 102, 103, 104, 105, 106, 107, 108, 109, 110, 111, 112, 113, 114, 115, 116, 117, 118, 119, 120, 121, 122, 123, 124, 125, 126, 127, 128, 129, 130, 131, 132, 133, 134, 135, 136, 137, 138, 139, 140, 141, 142, 143, 144, 145, 146, 147, 148, 149, 150, 151, 152, 153, 154, 155, 156, 157, 158, 159, 160, 161, 162, 163, 164, 165, 166, 167, 168, 169, 170, 171, 172, 173, 174, 175, 176, 177, 178, 179, 180, 181, 182, 183, 184, 185, 186, 187, 188, 189, 190, 191, 192, 193, 194, 195, 196, 197, 198, 199, 200, 201, 202, 203, 204, 205, 206, 207, 208, 209, 210, 211, 212, 213, 214, 215, 216, 217, 218, 219, 220, 221, 222, 223, 224, 225, 226, 227, 228, 229, 230, 231, 232, 233, 234, 235, 236, 237, 238, 239, 240, 241, 242, 243, 244, 245, 246, 247, 248, 249, 250, 251, 252, 253, 254, 255, 256, 257, 258, 259, 260, 261, 262, 263, 264, 265, 266, 267, 268, 269, 270, 271, 272, 273, 274, 275, 276, 277, 278, 279, 280, 281, 282, 283, 284, 285, 286, 287, 288, 289, 290, 291, 292, 293, 294, 295, 296, 297, 298, 299, 300, 301, 302, 303, 304, 305, 306, 307, 308, 309, 310, 311, 312, 313, 314, 315, 316, 317, 318, 319, 320, 321, 322, 323, 324, 325, 326, 327, 328, 329, 330, 331, 332, 333, 334, 335, 336, 337, 338, 339, 340, 341, 342, 343, 344, 345, 346, 347, 348, 349, 350, 351, 352, 353, 354, 355, 356, 357, 358, 359, 360, 361, 362, 363, 364, 365, 366, 367, 368, 369, 370, 371, 372, 373, 374, 375, 376, 377, 378, 379, 380, 381, 382, 383, 384, 385, 386, 387, 388, 389, 390, 391, 392, 393, 394, 395, 396, 397, 398, 399, 400, 401, 402, 403, 404, 405, 406, 407, 408, 409, 410, 411, 412, 413, 414, 415, 416, 417, 418, 419, 420, 421, 422, 423, 424, 425, 426, 427, 428, 429, 430, 431, 432, 433, 434, 435, 436, 437, 438, 439, 440, 441, 442, 443, 444, 445, 446, 447, 448, 449, 450, 451, 452, 453, 454, 455, 456, 457, 458, 459, 460, 461, 462, 463, 464, 465, 466, 467, 468, 469, 470, 471, 472, 473, 474, 475, 476, 477, 478, 479, 480, 481, 482, 483, 484, 485, 486, 487, 488, 489, 490, 491, 492, 493, 494, 495, 496, 497, 498, 499, 500, 501, 502, 503, 504, 505, 506, 507, 508, 509, 510, 511, 512, 513, 514, 515, 516, 517, 518, 519, 520, 521, 522, 523, 524, 525, 526, 527, 528, 529, 530, 531, 532, 533, 534, 535, 536, 537, 538, 539, 540, 541, 542, 543, 544, 545, 546, 547, 548, 549, 550, 551, 552, 553, 554, 555, 556, 557, 558, 559, 560, 561, 562, 563, 564, 565, 566, 567, 568, 569, 570, 571, 572, 573, 574, 575, 576, 577, 578, 579, 580, 581, 582, 583, 584, 585, 586, 587, 588, 589, 5810, 5811, 5812, 5813, 5814, 5815, 5816, 5817, 5818, 5819, 5820, 5821, 5822, 5823, 5824, 5825, 5826, 5827, 5828, 5829, 5830, 5831, 5832, 5833, 5834, 5835, 5836, 5837, 5838, 5839, 5840, 5841, 5842, 5843, 5844, 5845, 5846, 5847, 5848, 5849, 5850, 5851, 5852, 5853, 5854, 5855, 5856, 5857, 5858, 5859, 5860, 5861, 5862, 5863, 5864, 5865, 5866, 5867, 5868, 5869, 5870, 5871, 5872, 5873, 5874, 5875, 5876, 5877, 5878, 5879, 5880, 5881, 5882, 5883, 5884, 5885, 5886, 5887, 5888, 5889, 58810, 58811, 58812, 58813, 58814, 58815, 58816, 58817, 58818, 58819, 58820, 58821, 58822, 58823, 58824, 58825, 58826, 58827, 58828, 58829, 58830, 58831, 58832, 58833, 58834, 58835, 58836, 58837, 58838, 58839, 58840, 58841, 58842, 58843, 58844, 58845, 58846, 58847, 58848, 58849, 58850, 58851, 58852, 58853, 58854, 58855, 58856, 58857, 58858, 58859, 58860, 58861, 58862, 58863, 58864, 58865, 58866, 58867, 58868, 58869, 588610, 588611, 588612, 588613, 588614, 588615, 588616, 588617, 588618, 588619, 588620, 588621, 588622, 588623, 588624, 588625, 588626, 588627, 588628, 588629, 588630, 588631, 588632, 588633, 588634, 588635, 588636, 588637, 588638, 588639, 588640, 588641, 588642, 588643, 588644, 588645, 588646, 588647, 588648, 588649, 588650, 588651, 588652, 588653, 588654, 588655, 588656, 588657, 588658, 588659, 588660, 588661, 588662, 588663, 588664, 588665, 588666, 588667, 588668, 588669, 588670, 588671, 588672, 588673, 588674, 588675, 588676, 588677, 588678, 588679, 588680, 588681, 588682, 588683, 588684, 588685, 588686, 588687, 588688, 588689, 588690, 588691, 588692, 588693, 588694, 588695, 588696, 588697, 588698, 588699, 5886100, 5886101, 5886102, 5886103, 5886104, 5886105, 5886106, 5886107, 5886108, 5886109, 5886110, 5886111, 5886112, 5886113, 5886114, 5886115, 5886116, 5886117, 5886118, 5886119, 58861100, 58861101, 58861102, 58861103, 58861104, 58861105, 58861106, 58861107, 58861108, 58861109, 58861110, 58861111, 58861112, 58861113, 58861114, 58861115, 58861116, 58861117, 58861118, 58861119, 588611100, 588611101, 588611102, 588611103, 588611104, 588611105, 588611106, 588611107, 588611108, 588611109, 588611110, 588611111, 588611112, 588611113, 588611114, 588611115, 588611116, 588611117, 588611118, 588611119, 5886111100, 5886111101, 5886111102, 5886111103, 5886111104, 5886111105, 5886111106, 5886111107, 5886111108, 5886111109, 5886111110, 5886111111, 5886111112, 5886111113, 5886111114, 5886111115, 5886111116, 5886111117, 5886111118, 5886111119, 58861111100, 58861111101, 58861111102, 58861111103, 58861111104, 58861111105, 58861111106, 58861111107, 58861111108, 58861111109, 58861111110, 58861111111, 58861111112, 58861111113, 58861111114, 58861111115, 58861111116, 58861111117, 58861111118, 58861111119, 588611111100, 588611111101, 588611111102, 588611111103, 588611111104, 588611111105, 588611111106, 588611111107, 588611111108, 588611111109, 588611111110, 588611111111, 588611111112, 588611111113, 588611111114, 588611111115, 588611111116, 588611111117, 588611111118, 588611111119, 5886111111100, 5886111111101, 5886111111102, 5886111111103, 5886111111104, 5886111111105, 5886111111106, 5886111111107, 5886111111108, 5886111111109, 5886111111110, 5886111111111, 5886111111112, 5886111111113, 5886111111114, 5886111111115, 5886111111116, 5886111111117, 5886111111118, 5886111111119, 58861111111100, 58861111111101, 58861111111102, 58861111111103, 58861111111104, 58861111111105, 58861111111106, 58861111111107, 58861111111108, 58861111111109, 58861111111110, 58861111111111, 58861111111112, 58861111111113, 58861111111114, 58861111111115, 58861111111116, 58861111111117, 58861111111118, 58861111111119, 588611111111100, 588611111111101, 588611111111102, 588611111111103, 588611111111104, 588611111111105, 588611111111106, 588611111111107, 588611111111108, 588611111111109, 588611111111110, 588611111111111, 588611111111112, 588611111111113, 588611111111114, 588611111111115, 588611111111116, 588611111111117, 588611111111118, 588611111111119, 5886111111111100, 5886111111111101, 5886111111111102, 5886111111111103, 5886111111111104, 5886111111111105, 5886111111111106, 5886111111111107, 5886111111111108, 5886111111111109, 5886111111111110, 5886111111111111, 5886111111111112, 5886111111111113, 5886111111111114, 5886111111111115, 5886111111111116, 5886111111111117, 5886111111111118, 5886111111111119, 58861111111111100, 58861111111111101, 58861111111111102, 58861111111111103, 58861111111111104, 58861111111111105, 58861111111111106, 58861111111111107, 58861111111111108, 58861111111111109, 58861111111111110, 58861111111111111, 58861111111111112, 58861111111111113, 58861111111111114, 58861111111111115, 58861111111111116, 58861111111111117, 58861111111111118, 58861111111111119, 588611111111111100, 588611111111111101, 588611111111111102, 588611111111111103, 588611111111111104, 588611111111111105, 588611111111111106, 588611111111111107, 588611111111111108, 588611111111111109, 588611111111111110, 588611111111111111, 588611111111111112, 588611111111111113, 588611111111111114, 588611111111111115, 588611111111111116, 588611111111111117, 588611111111111118, 588611111111111119, 5886111111111111100, 5886111111111111101, 5886111111111111102, 5886111111111111103, 5886111111111111104, 5886111111111111105, 5886111111111111106, 5886111111111111107, 5886111111111111108, 5886111111111111109, 5886111111111111110, 5886111111111111111, 5886111111111111112, 5886111111111111113, 5886111111111111114, 5886111111111111115, 5886111111111111116, 5886111111111111117, 5886111111111111118, 5886111111111111119, 58861111111111111100, 58861111111111111101, 58861111111111111102, 58861111111111111103, 58861111111111111104, 58861111111111111105, 58861111111111111106, 58861111111111111107, 58861111111111111108, 58861111111111111109, 58861111111111111110, 58861111111111111111, 58861111111111111112, 58861111111111111113, 58861111111111111114, 58861111111111111115, 58861111111111111116, 58861111111111111117, 58861111111111111118, 58861111111111111119, 588611111111111111100, 588611111111111111101, 588611111111111111102, 588611111111111111103, 588611111111111111104, 588611111111111111105, 588611111111111111106, 588611111111111111107, 588611111111111111108, 588611111111111111109, 588611111111111111110, 588611111111111111111, 588611111111111111112, 588611111111111111113, 588611111111111111114, 588611111111111111115, 588611111111111111116, 588611111111111111117, 588611111111111111118, 588611111111111111119, 5886111111111111111100, 5886111111111111111101, 5886111111111111111102, 5886111111111111111103, 5886111111111111111104, 5886111111111111111105, 5886111111111111111106, 5886111111111111111107, 5886111111111111111108, 5886111111111111111109, 5886111111111111111110, 5886111111111111111111, 5886111111111111111112, 5886111111111111111113, 5886111111111111111114, 5886111111111111111115, 5886111111111111111116, 5886111111111111111117, 5886111111111111111118, 5886111111111111111119, 58861111111111111111100, 58861111111111111111101, 58861111111111111111102, 58861111111111111111103, 58861111111111111111104, 58861111111111111111105, 58861111111111111111106, 58861111111111111111107, 58861111111111111111108, 58861111111111111111109, 58861111111111111111110, 58861111111111111111111, 58861111111111111111112, 58861111111111111111113, 58861111111111111111114, 58861111111111111111115, 58861111111111111111116, 58861111111111111111117, 58861111111111111111118, 58861111111111111111119, 588611111111111111111100, 588611111111111111111101, 588611111111111111111102, 588611111111111111111103, 588611111111111111111104, 588611111111111111111105, 588611111111111111111106, 588611111111111111111107, 588611111111111111111108, 588611111111111111111109, 588611111111111111111110, 588611111111111111111111, 588611111111111111111112, 588611111111111111111113, 588611111111111111111114, 588611111111111111111115, 588611111111111111111116, 588611111111111111111117, 588611111111111111111118, 588611111111111111111119, 5886111111111111111111100, 5886111111111111111111101, 5886111111111111111111102, 5886111111111111111111103, 5886111111111111111111104, 5886111111111111111111105, 5886111111111111111111106, 5886111111111111111111107, 5886111111111111111111108, 5886111111111111111111109, 5886111111111111111111110, 5886111111111111111111111, 5886111111111111111111112, 5886111111111111111111113, 5886111111111111111111114, 5886111111111111111111115, 5886111111111111111111116, 5886111111111111111111117, 5886111111111111111111118, 5886111111111111111111119, 58861111111111111111111100, 58861111111111111111111101, 58861111111111111111111102, 58861111111111111111111103, 58861111111111111111111104, 58861111111111111111111105, 58861111111111111111111106, 58861111111111111111111107, 58861111111111111111111108, 58861111111111111111111109, 58861111111111111111111110, 58861111111111111111111111, 58861111111111111111111112, 58861111111111111111111113, 58861111111111111111111114, 58861111111111111111111115, 58861111111111111111111116, 58861111111111111111111117, 58861111111111111111111118, 58861111111111111111111119, 588611111111111111111111100, 588611111111111111111111101, 588611111111111111111111102, 588611111111111111111111103, 588611111111111111111111104, 588611111111111111111111105, 588611111111111111111111106, 588611111111111111111111107, 588611111111111111111111108, 588611111111111111111111109, 588611111111111111111111110

## 5. 柱穴

P12 P16 P18 P19 P21 P57 P71 P83 P74 P77 P104 P105 が見られる。

柱坑は北側より南側に多い傾向が見られる。柱穴としたが杭坑の可能性もある。礎盤や柱が見られ、建物の復元を試みたが、水田による削平と自然流路のため困難であった。遺物が出土した柱穴である。

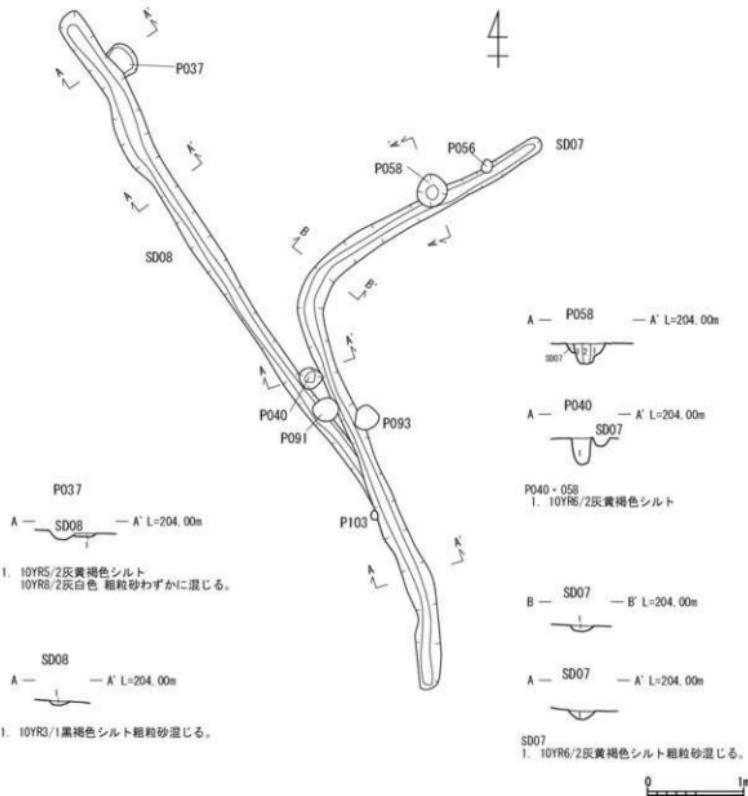
P12 長軸 41cm、短軸 33cm、深さ 57cm を測る。柱痕と柱が見られた。打ち込み杭柱の底のレベルは 202.949m を測る。砥石が出土。

P16 長軸 38cm、短軸 35cm、深さ 27cm を測る。柱が見られた。

P21 長軸 41cm、短軸 35cm、深さ 32cm を測る。碇が出土。

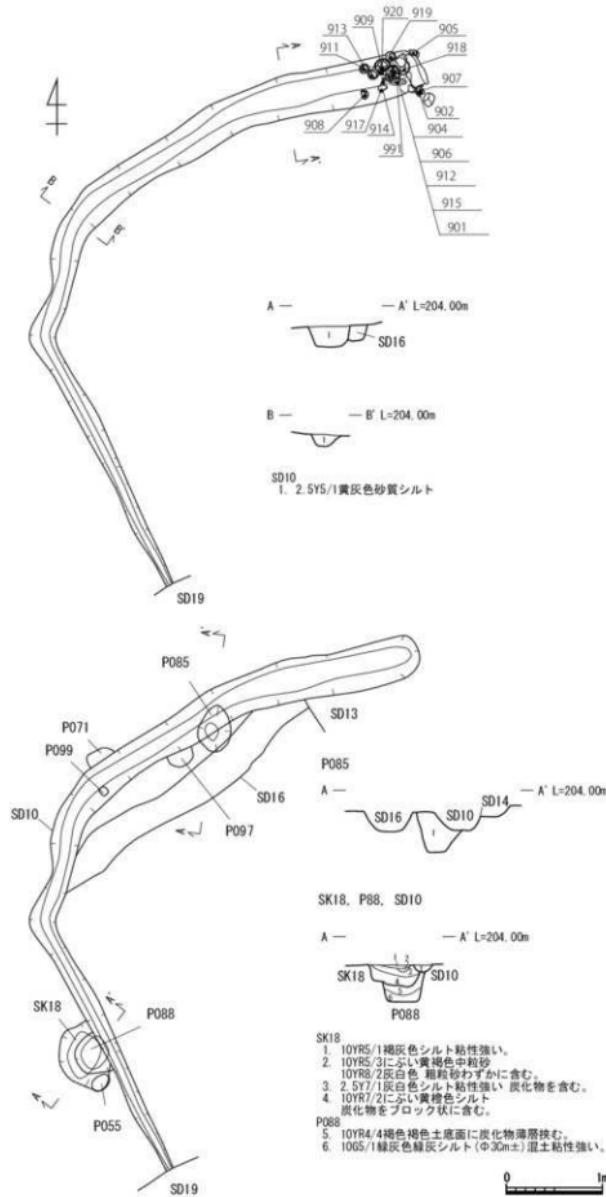
P74 [図版 49] 長軸 44cm、短軸 43cm、深さ 73cm を測る。

P105 [図版 49] 長軸 52cm、短軸 59cm、深さ 47cm を測る。P77 に切られる。礎盤が出土。



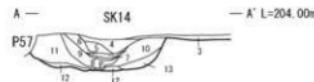
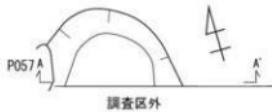
第 78 図 C 区溝他 (SD07・08、P37・40・58) 平面図・土層断面図 (1:50)

SD10出土状況図



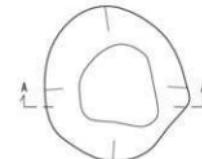
第 79 図 C 区溝他 (SD10, SK18, P71・85・88) 平面図・土層断面図 (1:50)

SK14(VI1d)



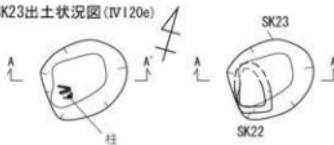
1. 2. SY7/1灰白色シルト
2. 10YR7/2黄褐色細粒砂
3. SY4/1灰色粘質シルト
4. SY5/1灰色シルト
5. SY5/1灰色粘質シルト
6. 10YR7/2黄褐色粘質シルト
7. SY5/1灰色シルト+粗粒砂
8. 2. SY1/1黄灰色砂質シルト
9. SY6/1灰色シルト+中粒砂
10. 2. SY6/1黄灰色シルト
11. 10YR5/2反黄褐色粘質シルト

SK15出土状況図(VI1d)



— A' L=204.00m

SK23出土状況図(IV120e)

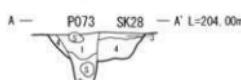
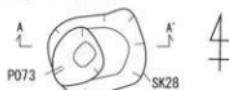


- SK22  
1. 10Y7/1灰白色細粒砂  
10YR5/1褐色シルトを層状に含む。
- SK23  
2. 10YR5/1褐色シルト  
10YR8/2灰白色 粗粒砂を含む 種を含む。  
3. 10Y7/1灰白色細粒砂  
4. 10YR5/1褐色シルト  
5. 10YR5/1褐色砂質シルト

SK21出土状況図(IV120e)

— A' L=204.10m  
※出土遺物は基に伴う石である。

SK28, P073(VI1d)



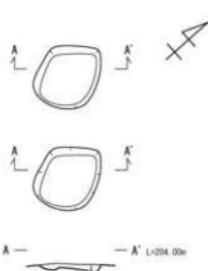
1. 10YR5/2反黄褐色シルト 10Y6/7明青灰色  
中粒砂がブロック状に混じる。
2. 10YR5/2反黄褐色シルト
3. 10YR5/2反黄褐色シルト 炭化物わずかに混じる。
4. 10B6/7明青灰色砂質物に 10YR5/2反黄褐色  
シルトがマーブル状に混入。

1. 10YR5/2反黄褐色砂質シルト炭化物を少量含む。
2. 10Y5/1灰色シルト炭化物を多く含む。
3. 2. SY6/1黄灰色シルト
2. SY6/3淡黄色 粘土をブロック状に含む 炭化物を含む。
4. 10YR6/2褐灰色シルト

0 1m

第80図 C区 土坑(SK14・15・21・23・28、P73) 平面図・土層断面図(1:50)

SK29出土状況図(IV120f)



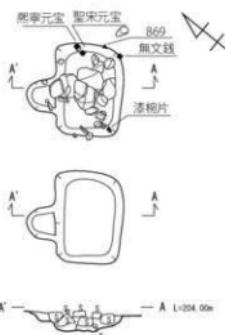
SK48(IV119f)



SK48出土状況図(IV119f)



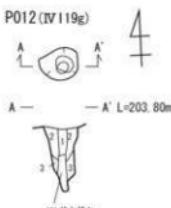
SK44出土状況図(IV119e)



A — A' L=204.00m

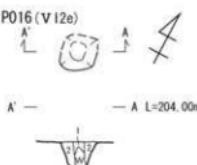
1. 10Y4/1灰色シルト炭化物わずかに混じる。

P012(IV119g)



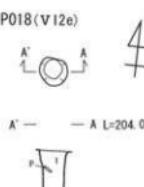
1. 10Y6/1灰色 シルト
2. 10Y4/1灰色シルト粗粒砂を少量含む。
3. 25Y4/1暗オーリーブ灰色 シルト

P016(V12e)



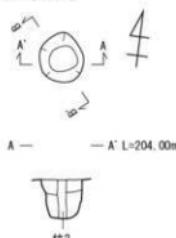
1. 10Y7/8黄褐色粘土ブロック混じる。
2. 10Y5/1褐色シルト

P018(V12e)



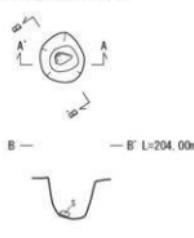
1. 10Y5 0灰黄褐色シルト

P019(V12e)



1. 10Y5/2灰黄褐色 シルト

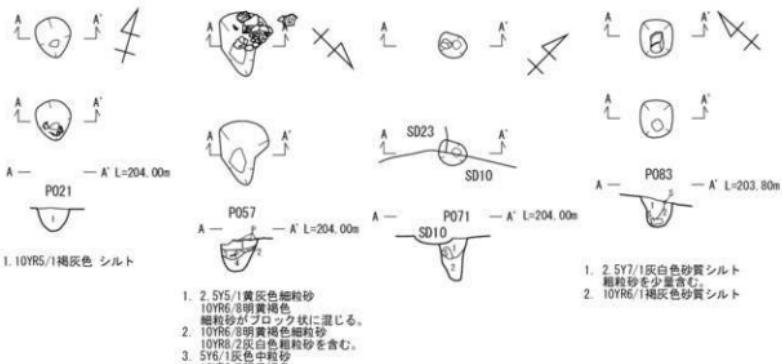
P019出土状況図(V12e)



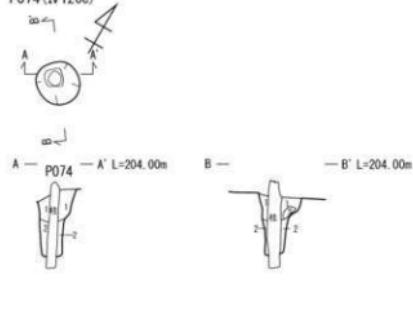
0 1m

第81図 C区土坑、柱穴(SK29・44・48、P12・16・18・19)平面図・土層断面図(1:50)

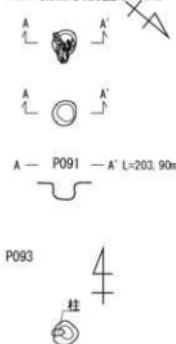
P021出土状況図(VI2e) P057出土状況図(VI2d) P071出土状況図(IV120f) P083出土状況図(IV120f)



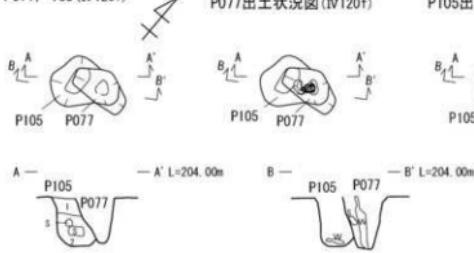
P074 (IV120e)



P091出土状況図(VI2d)



P077, 105 (IV120f)



P105出土状況図(IV120f)



P105 P077



第82図 C区柱穴(SP21・57・71・74・77・83・91・105)平面図・土層断面図(1:50)

## 第3章 出土遺物

### 第1節 出土遺物の概要

桑下東窯跡は調査前すでに窯体1基が露呈し遺物が周辺に散乱していた。散乱した遺物の大部分が窯道具類（粘土ヨリ、匣鉢、挟み皿）で、製品の破片が僅かに見られるのみであった。調査区外の南端に灰原が位置するのだが、灰原は丘陵の一部とともにすでに崩落しており、崖下に灰原の痕跡も見られなかつた。D区、A区、E区が丘陵、C区が谷底になる。

製品の破片については調査区内すべて取り上げカウントした。窯道具（匣鉢、挟み皿）に完形品が多く見られたが、カウントは実施しなかつた。窯道具類については、遺構内出土は製品の破片と同じ扱いで取り上げ、遺構外については取り上げるものは残存率1/4以上のものとし、1/4以下のものについては取り上げなかつた。窯道具類の破片はE区に多く、粘土紐状のヨリ、ピンも目立つ。

調査により出土した遺物の総破片数は24,725点（第4表）と土質の鍋・釜類が104点である。その他に山茶碗、江戸時代の陶器類など535点が出土し、数えた総点数は25,364点である。

出土破片の多い順に、擂鉢8,115点、端反皿7,598点、天目茶碗1,903点、釜1,269点、縁軸皿1,141点、腰折皿627点、壺574点、灯明皿565点、徳利519点、丸皿496点、鍋343点、丸碗336点、筒形容器264点、稜皿256点、甕173点、茶壺106点、茶入75点、大鉢75点、丸皿（ソギ含）61点、中鉢29点、中皿26点、蓋23点、大皿17点、稜花皿17点、小杯・小天目16点、平碗15点、卸目皿27点、瓶12点、桶9点、小壺9点、燭台8点、小鉢7点、香炉6点、小皿4点、水注2点、托2点、の36器種で総破片数は24,725点である。口縁部個体数1,294個体、底部個体数1,553個体を数えた。

千点以上出土した器種は、擂鉢8,115点、端反皿7,598点、天目茶碗1,903点、釜1,269点、縁軸皿1,141点である。擂鉢と釜は碗、皿に比べ形状そのものが大形のため突出した数字になっているが、個体数でみると、擂鉢は口縁部個体数311個と底部個体数205個、端反皿は口縁部個体数471個と底部個体数728個、天目茶碗は口縁部個体数116個と底部個体数132個、釜は口縁部個体数21個と底部個体数24個、縁軸皿は口縁部個体数106個と底部個体数129個である。個体数では端反皿が口縁部個体数471個と底部個体数728個と一番多いのである。図版篇の73頁から78頁の組成・器種別グラフ参照。

特微的な遺物として削り出し輪高台の天目茶碗（213.214.304等）、鎬蓮弁文丸碗（128.220.310.651）、付高台の端反皿、稜花皿、削ぎのある丸皿、稜皿、銅縁軸皿（490.524.525）等が、また特殊な器種として魚形掛花生（464）と狛犬の阿形（298）が見られた。

端反皿の印花文は本窯と同時期の小金山窯跡と同じ印花文（345）も見られたが、新たな花菱（3.227）半菊葉立花（4.5.85.346～348）糸巻（228.356）丸菱（364）梅（365）三つ盛菊（355）が見られた。

他にC区では木製品として折敷、蓋、栓、漆椀、箸が、石製品として硯、砥石が、金属製品として飾り金具とSK44より熙寧元宝、聖宋元宝、無文錢が見られた。なおA区のSK34より皇宋通宝（32）と開元通宝（27）が各1枚、不明の古錢が4枚と鉄滓が出土した。

第4表 桑下東窯跡出土遺物破片表

器種	破片数	比率 %	口縁部個体数	比率 %	底部個体数	比率 %
碗	平碗	15	0.06	1.17	0.09	0.42
	天目茶碗	1,903	7.70	116.99	9.04	132.17
	小杯・小天目	16	0.06	2.41	0.19	2.91
	丸碗	336	1.36	23.25	1.80	27.96
	小計	2,270	9.18	143.81	11.11	163.45
皿	絵輪皿	812	3.28	73.32	5.66	87.09
	絵輪小皿	329	1.33	32.91	2.54	42.65
	鉢皿	27	0.11	2.00	0.15	6.47
	端反皿	7,598	30.73	471.93	36.46	728.62
	丸皿	496	2.01	41.17	3.18	40.63
	丸皿(ソギ)	61	0.25	5.17	0.40	6.48
	丸皿・大皿	17	0.07	0.67	0.05	0.08
	丸皿・中皿	26	0.11	1.00	0.08	1.17
	丸皿・小皿	4	0.02	0.75	0.06	0.99
	穂花皿	17	0.07	2.33	0.18	2.66
瓶・壺	縹皿	256	1.04	22.83	1.76	36.08
	縹折皿	627	2.54	60.65	4.69	103.76
	小計	10,270	41.54	714.73	55.21	1056.67
	瓶	12	0.05	0.08	0.01	0.33
	透利	519	2.10	7.57	0.59	7.49
	水注	2	0.01	0.00	0.00	0.00
	茶入	75	0.30	3.33	0.26	4.57
鉢・盤	茶道	106	0.43	0.67	0.05	0.50
	小鉢	9	0.04	0.33	0.03	0.58
	亞	574	2.32	4.58	0.35	5.92
	小計	1,297	5.25	16.57	1.28	19.40
	大鉢	75	0.30	3.67	0.28	2.17
盆・盤	中鉢	29	0.12	2.75	0.21	0.33
	小鉢	7	0.03	1.33	0.10	0.83
	楕鉢	8,115	32.82	311.71	24.08	205.05
	小計	8,226	33.27	319.46	24.68	208.39
その他	香炉	6	0.02	0.58	0.05	0.83
	釜	1,269	5.13	21.75	1.68	24.80
	調	343	1.39	6.33	0.49	5.90
	托	2	0.01	0.50	0.04	0.99
	蓋	23	0.09	2.67	0.21	0.00
	筒形容器	264	1.07	17.75	1.37	4.65
	桶	9	0.04	0.42	0.03	0.67
	礎台	8	0.03	0.75	0.06	1.24
	灯明皿	565	2.29	45.74	3.53	60.69
	甕	173	0.70	3.42	0.26	5.52
	小計	2,662	10.77	99.91	7.72	105.29
不明	0	0.00	0	0.00	0	0.00
合計	24,725	100.00	1294.48	100.00	1553.19	100.00

第5表 掲載遺物時期別表

\* 時期区分は藤澤編年

器種	合計	区／時期*	後IV新	後IV新～大1	大1	大1～2	大2	大2～3	大3	計
平底	3	E	1	-	1	-	-	-	2	
		C	-	-	1	-	-	-	1	
大口茶碗	91	A	1	3	14	1	1	-	-	20
		E	3	-	9	1	5	-	2	20
		C	1	1	40	1	4	1	3	51
丸瓶	28	A	-	-	9	-	-	-	9	
		E	-	-	7	1	2	-	10	
		C	-	-	7	-	2	-	9	
縦円瓶	27	A	2	-	-	-	-	-	2	
		E	14	1	3	-	-	-	18	
		C	6	-	-	-	-	-	6	
四足盤	341	A	-	122	2	-	-	1	125	
		E	-	126	13	6	-	-	145	
		C	-	63	5	-	-	-	68	
		D	-	3	-	-	-	-	3	
丸皿	42	A	-	-	1	-	5	-	6	
		E	-	-	1	11	-	-	12	
		C	-	-	5	-	19	-	24	
鍍錫丸皿	2	C	-	1	-	-	-	-	2	
灰釉皿	1	E	-	-	-	-	1	-	1	
ツブ皿	1	E	-	-	-	-	1	-	1	
焼化皿	4	A	-	-	1	-	-	-	2	
		E	-	-	2	-	-	-	1	
		C	-	-	1	-	-	-	1	
碗	23	A	-	-	-	4	-	-	4	
		E	-	-	-	12	-	-	12	
		C	-	-	-	7	-	-	7	
鍍錫碗	6	C	-	-	-	6	-	-	6	
灰釉碗	1	C	-	-	-	1	-	-	1	
鍍錫小皿	2	E	-	-	2	-	-	-	2	
鍍錫小皿	1	E	1	-	-	-	-	-	1	
鍍錫浅井皿	38	A	-	11	-	-	-	-	11	
		E	-	5	-	-	-	-	5	
		C	-	20	-	-	-	-	20	
		D	-	2	-	-	-	-	2	
鍍錫正圓盤	1	D	-	-	-	-	-	-	1	
切妻正圓盤	4	E	-	3	-	-	-	-	3	
		C	-	1	-	-	-	-	1	
豆皿	1	C	-	-	-	1	-	-	1	
直線大皿	5	E	3	-	1	-	-	-	4	
		C	1	-	-	-	-	-	1	
皿	3	A	-	-	1	-	-	-	1	
		C	-	-	1	1	-	-	2	
印叶目大皿	1	A	-	-	-	-	-	-	1	
大鉢	1	E	1	-	-	-	-	-	1	
鉢	2	C	-	-	1	1	-	-	2	
浅鉢	2	C	-	-	1	-	-	-	1	
		D	-	-	-	-	-	-	1	
小鉢	2	C	-	-	1	-	-	大1～3 1	2	
双貝小皿	1	C	1	-	-	-	-	-	1	
筒形各型	1	A	-	-	-	-	-	-	1	
水滴	1	C	-	1	-	-	-	-	1	
茶入	2	C	-	-	1	1	-	-	2	
穀利	11	E	-	-	1	1	-	-	1	
		C	-	1	2	5	2	-	10	
匁台	1	A	-	1	-	-	-	-	1	
灯明台	6	A	-	-	2	-	-	-	2	
		C	-	1	-	3	-	-	4	
灯明皿	39	A	-	1	-	-	-	-	1	
		E	-	1	-	2	-	-	3	
		C	-	27	-	8	-	-	35	
釜	28	A	8	-	1	後IV新～大2 3	-	-	12	
		E	6	-	-	-	-	-	6	
		C	6	-	-	後IV新～大2 4	-	-	10	
蓋	2	A	-	-	2	-	-	-	2	
カヌ	8	A	-	-	1	-	-	-	1	
		C	-	-	7	-	-	-	7	
壺	2	A	-	-	-	後IV新～大2 2	-	-	2	
留跡	87	A	12	1	19	-	18	-	-	50
		E	4	1	7	-	5	2	2	21
		C	2	1	7	1	4	-	1	16
小瓶	1	C	-	-	1	-	-	-	-	1
その他	21	A	-	11	4	1	-	-	16	
		E	1	-	1	-	-	-	-	2
		C	-	-	1	1	-	-	-	2
		D	-	-	1	-	-	-	-	1
総計	844		56	33	548	63	139	6	9	844

実測可能なものを出来るだけ図示した出土各製品は、藤澤編年では後期IV新段階から大窯3段階（15世紀末から16世紀後葉）まで見られた。井上編年では大窯I a期から大窯II b期（15世紀末から16世紀後葉）まで見られ、大窯Ia期がほとんどであった。

図示した製品854点の藤澤編年時期別の構成（第5表、第6表）は、後期IV新段階が56点（6.55%）、後期IV新段階から大窯I段階が33点（3.86%）、大窯I段階が548点（64.16%）、大窯I段階から大窯II段階が63点（7.37%）、後期IV新段階から大窯II段階が139点（16.27%）、大窯II段階から大窯III段階が5点（0.58%）、大窯III段階が10点（1.17%）で、大窯I段階が548点（64.16%）と64%の比率を示し圧倒的に多いのである。調査区分に大窯I段階の製品548点を見ると、A区では191点（34.8%）、E区では168点（30.6%）、C区では181点（33%）、D区では8点（1.4%）出土している。

D区は丘陵西側斜面である。A区、E区、C区は出土点数の差も少なく、この大窯I段階が桑下東窯の最盛期と思われ、丘陵と谷部が一体化していたことが窺えるのである。

調査区D区、E区、A区の丘陵部において窯体・工房のセットが、それも丘陵部全面を活用した大規模な工房が見られたのである。丘陵が『作る、焼く、選別』の作業場で、C区の谷が『集荷出荷』に関わる屋敷と想定できるのではないだろうか。

藤澤氏は、大窯が15世紀末から17世紀初頭にかけての120年130年ほど、戦国から織豊期を、大窯I段階から第4段階までの四段階に、さらに各段階を前後二時期に細分されている。後期IV新段階が1460年から1470年代に、大窯I段階が文明8年（1476）から永正2年（1505）、大窯II段階が1530年前後、大窯III段階が1560年代に成立し、1570年代後半には第3段階後半にはいっていた可能性があると考えられている。

井上氏は、大窯が15世紀末から17世紀初めまでの約120年間の大窯IからV期の五期に、戦国期の大窯前期（大窯I・II期）と安土桃山期の大窯後期（大窯III期から大窯V期）に編年され、大窯I期は古式の大窯I a期（1490年から1510年）と新式の大窯I b期（1510年から1530年）に区分、大窯II期は古式の大窯II a期（1530年から1550年）と新式の大窯II b期（1550年から1570年）に区分される。

第6表 調査区分別時期別表

区/時期	後IV新	後IV新~大I	大I	大I~2	大2	大2~3	大3	合計
A	17	14	191	14	29 後IV~大2 5		1	271
E	28	8	168	17	46	2	4	273
C	11	11	181	32	54 後IV新~大 2 5	3	4 大1~3 1	302
D			8					8
合計	56	33	548	63	139	5	10	854

## 第2節 A区出土遺物

(巻頭図版8、図1～図29、図62～図65、図版51～図版76、図版101～図版104)

狭い場所に轆轤ピットが40基も見られた調査区で、遺構数118ヶ所に比べ、遺構内遺物が見られたのが18ヶ所(15%)で、その中で製品が伴った遺構は10ヶ所(8%)と少ない。18ヶ所にSK34は含まれない。匣鉢、匣蓋、挟み皿等の窯道具類が各遺構ともに多いのである。

第7表、第8表は遺構毎の出土器種と藤澤編年による段階表である。A区から271点出土した。時期別点数は後期IV新段階17点(6.2%)、後期IV新段階から大窯第1段階14点(5.1%)、大窯第1段階191点(70.4%)、大窯第1段階から大窯第2段階14点(5.1%)、大窯第2段階34点(12.5%)、大窯第3段階1点(0.3%)の総数271点である。A区では大窯1段階の遺物が、出土した遺物の七割を占めていた。

端反皿の底部内面には菊、梅、かたばみ、花菱などの文様の印花文が見られる。印花文は本窯と同時期の小金山窯跡と同じ印花文も見られたが、新たな花菱(3.227)半菊葉立花(4.5.85.346～348)糸巻(228.356)丸菱(364)梅(365)三つ盛菊(355)が見られた。

窯道具の匣鉢には大形と小形があり、側面に穿かれた匣鉢がある。挟み皿には籠書きの「一」(72.92.151.204～207.420)「二」(421)「×」(133)「×の重ね」(165.166.171.203.418.419)「○」(169.170.423)「◎」(168.424～426)、文字? (172.422)等、窯印が内外面に見られた。

遺物の出土した轆轤ピットはSK01、SK02、SK03、SK24、SK28、SK32、P03、P14、P32の9遺構である。SK01では上面を端反皿(1～5)匣鉢蓋(6)大形匣鉢(7)で覆っていた。端反皿に菊花(2)、花菱(3)立花姿(4.5)の印花文が見られた。SK02は上面西側肩部に擂鉢(8)、挟み皿(9)が出土し軸穴が匣鉢で覆わされていた。SK03は大形匣鉢(11)が軸穴を覆っていた。SK24は挟み皿(46)が、SK28は挟み皿(50.51)、小形匣鉢(52)が、SK32は端反皿(55)、小形匣鉢(56)が、P03は擂鉢(91)が、P14は狛犬の右前脚部分(298)が、P32は天目茶碗(93)、匣鉢、挟み皿、窯壁片が覆っていた。

遺物の出土した粘土溜土坑はSK04、SK05、SK08、SK09、SK40の5遺構である。SK04は挟み皿(12)が北東壁際から、SK05は小形匣鉢(13.15～25)と挟み皿(14)が、SK08は擂鉢(26)が、SK09から天目茶碗(27)、端反皿(28)、釜(29)、挟み皿(30～33)、匣蓋(34)、匣鉢(35～41)は大形匣鉢(35)が1点ある。SK40は縁輪挟み皿(75)、端反皿(76)、擂鉢(77.78)、挟み皿(63.66～68.70.73.74)、匣蓋(64.65.69.71.72)、小形匣鉢(57～62)が出土した。

SU02とSU03は南東端の石敷造成地で造成土中より、天目茶碗(97.127.213)、腰折皿(177)、擂鉢(126.278)、鉢目付大皿(277)等の後期IV新段階と鎌弁文丸碗(128.220)、丸碗(104.218.219)、端反皿は、擂鉢(121～124.279～288)等の大窯第1段階の遺物が主に見られ、大窯第2段階の擂鉢(289～293)も少し見られた。端反皿はSU02(107.109～111)、SU03(225.228～232.224.237.239～

第7表 A区遺構出土遺物一覽表

241.243 ~ 247.252 ~ 254.256 ~ 262.265.267) に生焼け状態のものが多く見られた。

狛犬は頭部が欠損のため全貌がはっきりしないが、口が開いていることから阿形である。右前脚部分のみがP14より出土しそれ以外は遺構に伴っていない。台座部分の破片から他に2点はあったようである。

擂鉢は後期IV新段階から大窓第2段階のものが見られた。擂鉢の中に内面の卸目が非常に密になったもの（125.280.287.288.292.293.404）があり、大窓2段階前半に見られていたものであるが、大窓1段階の範疇と見直されることとなった。

なお土壌墓SK34より古銭と鉄滓が出土した。古銭は皇宋通宝と開元通宝が各1枚、不明の古銭が4枚、計六枚である。

### 第3節 E区出土遺物

(卷頭図版 8、図 30～図 47、図 62～図 65、図版 76～図版 90、図版 101～図版 104)

窓と大規模な工房跡が見られた調査区で、遺構数 132 ケ所、遺構内遺物が見られたのが 28 ケ所 (21%) で、その中で製品が伴った遺構は 26 ケ所 (20%) で A 区の 10 ケ所 (8%) と対照的である。SY01 の窓内遺物はなかった。窓道具類の出土が多く、山アモリン、粘土ヨリの細かいものが至る所から出土し、窓

第8表 E区遺構出土遺物一覧表

遺構番号	器種	登録番号	時期	窓道具	遺構番号	器種	登録番号	時期	窓道具
SY01-SK01				押鉢	SN02	天目茶碗	501.502	大1	抹み皿
SY01-SK02	丸瓶	450	大2	ツケ 呑物ピン、ヨリ			503.504	大2	大形押鉢
SY01-SK03	端反皿	451.452	大1	抹み皿			505～509	大1	小形押鉢
丸瓶	453		大2前半	人形脚鉢			512～514	大1	
抹鉢	455		大1後半	(内底面中央凸出)			510.511	大1か大2	
							515～517	大1か大2	
SN03	美林茶碗	485	律4	大形押鉢			518.521	大1	
端反皿	488		大1				531.533.534	大1	
丸瓶(削ぎ)	486		大2				536.537	大1	
丸瓶	487		大2				520.522	大2	
鉄輪縫合皿	489		大2前半				522.532.533	大2	
銅緑釉縫合皿	490		大2				523	大2前半	
打明皿	491.492		大2				524.525	大2	
SN04	魚形鉢(1花生)	464					526	大1	
天目茶碗	475.476		大1				527.546	大1	
丸瓶	477		大1				528	大2	
端反皿	478～480		大1				530	大1か大2	
丸瓶	481		大2				529	大1	
筆	482						578		
抹鉢	483		大2				SN06	天目茶碗	大2
緑釉組	484		大1						大形押鉢
SN05	緑釉縫合皿	465					529	抹み皿	
SN07	端反皿	466.467					531		
端反皿	468		大2				592	大1	抹み皿
丸瓶(削ぎ)	469		大2前半				593		後期V新
SN10	鉄輪縫合皿	471					594～683	大1	
丸瓶	472		大2				684	大2前半	
SK12	縁皿	473					688		後期V新
SK15	大鉢	474					687	大1	
SB01	端反皿	583.586		大1	抹み皿		685.686	大2	
端反皿	584.585		大1か大2	人形脚鉢			689		後期V新～大1
							690.691		
							SK59	494	抹み皿
							SK55	端反皿	大1
							SK56	端反皿	大1
							620.619		後期V新
							621	大1	
							SK57	端反皿	大1
							622～625	大1	
							626	大1	
							627		後期V新
							628	大1	
その他の	双耳壺	818		大	抹み皿				
	直線大皿	819～821			後期V新				不明石器
	盞	822							
					1205.1206.				
茶入					1209～1211.				
					1213～1216.				
					1218～1220.				
					1222～1229				
					同形容器	828.829.831			
					陶丸	1288			

焚口西側の土坑 SK01 と SK02 からはピンとヨリが充填されたかのように多量に詰まっていた。

第 6 表～第 8 表は遺構毎の出土器種と藤澤編年による段階表である。E 区から 273 点出土した。時期別点数は後期Ⅳ新段階 28 点 (10.2%)、後期Ⅳ新段階から大窯第 1 段階 8 点 (2.9%)、大窯第 1 段階 168 点 (61.5%)、大窯第 1 段階から大窯第 2 段階 17 点 (6.2%)、大窯第 2 段階 46 点 (16.8%)、大窯第 2 段階から大窯第 3 段階 2 点 (0.7%)、大窯第 3 段階 4 点 (1.4%) の、総数 273 点である。E 区では大窯第 1 段階の遺物が六割を占めている。

SY01 の西側周辺では、焚口西側の土坑 SK03 から挟み皿に混じり端反皿 (451～454) と擂鉢 (455) が見られ印花端反皿 (453) が大窯 2 段階である。不整形土坑の SX08 より碁笥底の端反皿 (468)、削ぎの見られる丸皿 (469) が、SX12 より稜皿 (473) が、SX15 より大鉢 (474) が見られ、いずれも大窯 2 段階である。SX04 は SX03 の北側で二つの不整形土坑からなり、天目茶碗 (475.476)、丸碗 (477)、端反皿 (478～480)、碁笥底の丸皿 (481)、魚形掛け花生 (464)、擂鉢が出土した。魚形掛け花生 (464) は一ヶ所にまとまっていたのではなく破片が SX04 内の東西に散らばっていた。

掘立柱建物 SX03 は削り込んだ山側の西側と北側の壁際に匣鉢、挟み皿の窯道具が積み上げられていた。窯道具の積み上げられた中の僅かな製品、天目茶碗 (485)、削ぎの丸皿 (486)、印花丸皿 (487)、端反皿 (488)、碁笥底の稜皿 (489)、銅線軸稜皿 (490)、灯明皿 (491.492) が見られ、大窯 2 段階である。

掘立柱建物 SX03 は製品の選別所で製品の出土点数も 14 器種 319 点と少ない。端反皿 122 点 (38%)、擂鉢 70 点 (22%)、天目茶碗 40 点 (13%)、灯明皿 25 点 (8%)、丸皿 15 点 (5%)、稜皿 13 点 (4%)、釜 11 点 (4%)、削ぎ丸皿 8 点 (3%)、縁釉皿 6 点 (2%)、腰折皿 3 点 (1%) 丸碗 2 点 (1%)、鉢皿 2 点 (1%)、大皿 1 点、稜花皿 1 点である。(% は四捨五入)

SX02 は丘陵南端部の上段と下段の二段になった平坦部で SX03 の南側である。上段部西側は不整形な土坑が切り合い、上段東側には巨石を作った土坑 SK04、SK06 と、上段縁辺に轆轤ビットが見られた。下段部には轆轤ビットと土坑が見られた。上段の不整形土坑東側から下段の縁辺まで、広場の廻りを囲むかの様な、弧状に匣鉢、挟み皿の窯道具が大量に積み上げられていた。その中の僅かな製品に天目茶碗 (501～504)、端反皿 (505～514.516～519.521.522.531～537)、丸皿 (515.520)、銅線軸稜皿 (524.525)、稜花皿 (526)、鉢皿 (527.549)、擂鉢 (529)、徳利 (530)、灯明皿 (528.552)、筒形容器 (578) が見られる。ほとんどが上段からの出土である。稜花皿 (526) は底部に焼成以前に穴が空けられた色見である。端反皿には菊、かたばみの印花文が見られる。

SX02 は上段下段の二段になった平坦部で上段が SX03 から続いた選別所で下段の東側までひろがっていたようである。21 器種 987 点が出土した。端反皿 520 点 (53%)、擂鉢 135 点 (14%)、天目茶碗 119 点 (12%)、灯明皿 46 点 (5%)、丸皿 31 点 (3%)、縁釉小皿 24 点 (3%)、稜皿 24 点 (3%)、腰折皿 22 点 (2%)、縁釉皿 13 点 (1%) 削ぎ丸皿 10 点 (1%)、鉢皿 6 点 (1%)、徳利 6 点 (1%)、茶入 6 点 (1%)、丸碗 5 点 (1%)、稜花皿 5 点 (1%)、壺 4 点 (1%)、鍋 4 点 (1%)、釜 3 点、筒形容器 2 点、大皿 1 点、瓶 1 点である。(% は四捨五入)

SB01 は SB03 の東側にあり、南に張り出し入り口が付く長方形堅穴建物跡で南側が弓なりになっている。建物廃絶後に石、窯壁、匣鉢、挟み皿、縁釉挟み皿 (588.589)、端反皿 (583～587)、擂鉢 (592.593)

など大窯2段階の製品が廃棄されていた。15器種631点が出土した。端反皿255点(41%)、擂鉢234点(37%)、天目茶碗43点(7%)、縁軸皿22点(4%)、釜19点(3%)、縁軸小皿15点(2%)、腰折皿12点(2%)、壺8点(1%)、徳利7点(1%)、鍋5点(1%)、筒形容器4点(1%)、灯明皿4点(1%)、卸皿1点、丸皿1点、稜皿1点である。(%は四捨五入)

SB03は平面形が歪んだ方形でSK55・56・57に切られている。天目茶碗(596)、丸碗(597～599)、端反皿(600.601)、釜(602.603)、直縁大皿(604)、擂鉢(605.606)、匣蓋(613.615.616)が出土。

SK56はSB03の南側の楕円形土坑で腰折皿(620～621)と端反皿(618)が出土。

SK57はSB03の南側、SK56の西側のやや不整形な三角土坑で端反皿(622～625)、腰折皿(626)、擂鉢(627.628)が出土するが、P116の轆轤ピットの石圓いに伴った可能性もある。

SB02は平面形の西北が底辺となるような不整形な三角形状で西側に粘土が見られた。端反皿(629～635)、稜皿(636)、釜(637.638)、直縁大皿(639)、擂鉢(640.641)が出土した。端反皿に小形端反皿(633.634)、印花に菊花弁(629)、先端に○の花弁(630)かたばみ(631.632)が見られた。

SB04は北側の一辺が見られるのみで4m10cmを測る細長い平坦面で端反皿(646～650)と擂鉢(645)(90)が出土した。擂鉢は大窯第3段階前半である。

SX06はE区の西北端にあり、南に張り出しの入り口が付く長方形竪穴建物跡で南西隅が削平で壊されていた。遺物が多く出土した遺構で完形品の匣鉢が32個見られ、そのうち24個の匣鉢が伏せた状態で出土した。伏せられた匣鉢の上に板でも敷けば床にもなる状況である。匣鉢、挟み皿の窯道具の他に鎧蓮弁文丸碗(651)、天目茶碗(652)、腰折皿(653)、端反皿(654～683)、丸皿(684)、擂鉢(685～688)、釜(689)、鍋(690.691)、縁軸皿(692)と出土器種が豊富である。端反皿には花弁の印花(662～683)が見られた。11器種387点が出土した。端反皿206点(53%)、擂鉢78点(20%)、腰折皿32点(8%)、釜26点(7%)、縁軸皿14点(4%)、丸碗10点(3%)、天目茶碗9点(2%)、壺5点(1%)、筒形容器4点(1%)、丸皿3点(1%)である。(%は四捨五入)

遺構以外の出土遺物では削ぎの丸皿(804)は、かたばみの印花が、碁笥底の丸皿(807)、碁笥底の稜皿(810～814)が、生焼けの端反皿(758～767.769～771.775.778.779.782～786.789.793.796.798)が、匣鉢(840)の底部内面に菊花弁が三個直線に並んだ印花文が、その他に茶入も見られた。

## 第4節 D区出土遺物

(図48、図64、図版90、図版91)

D区は丘陵西側の斜面で対面斜面は桑下城跡である。遺構としてはP14のみである。僅かな遺物で15世紀末から19世紀初頭のE区からの流れ込みがほとんどであった。輪禿皿(858)長石軸の小碗(860)、鉄輪汁注ぎ(861)、瀬戸水漬(862)が見られた。

第9表 SX03・02出土遺物破片表

## SX03

器種	破片数	比率	口縁部側体数	比率	底部側体数	比率
碗	天目茶碗	40	12.54	2.42	13.37	0.99
	丸碗	2	0.63	0.17	0.92	0.00
	小計	42	13.17	2.58	14.29	0.99
皿	縁軸皿	6	1.88	0.75	4.15	0.00
	縁軸小皿		0.00		0.00	0.00
	鉢皿	2	0.63	0.25	1.38	0.33
	端反皿	122	38.24	5.50	30.43	6.81
	丸皿	15	4.70	1.75	9.68	2.16
	丸皿(ソギ)	8	2.51	0.92	5.07	0.00
	丸皿・大皿	1	0.31	0.08	0.46	0.00
	棱花皿	1	0.31	0.33	1.84	0.00
	稜皿	13	4.08	0.92	5.07	1.25
	腰折皿	3	0.94	0.42	2.31	0.08
瓶・壺	小計	171	53.61	10.92	60.40	10.64
	瓶		0.00		0.00	0.00
	徳利		0.00		0.00	0.00
	茶入		0.00		0.00	0.00
	壺		0.00		0.00	0.00
鉢・盤	小計	-	0.00	0.00	0.00	0.00
	描鉢	70	21.94	1.58	8.76	1.00
	小計	70	21.94	1.58	8.76	1.00
その他	釜	11	3.45		0.00	0.17
	鍋		0.00		0.00	0.00
	筒形容器		0.00		0.00	0.00
	打明皿	25	7.84	2.99	16.54	3.06
	小計	36	11.29	2.99	16.54	3.23
不明			0.00		0.00	0.00
	合計	14器種	319	100.00	18.07	100.00
合計						
15.86						
100.00						

## SX02

器種	破片数	比率	口縁部側体数	比率	底部側体数	比率
碗	天目茶碗	119	12.06	12.91	16.41	9.70
	丸碗	5	0.51	0.33	0.42	0.00
	小計	124	12.56	13.24	16.83	9.70
皿	縁軸皿	13	1.32	0.83	1.06	0.58
	縁軸小皿	24	2.43	2.25	2.86	1.08
	鉢皿	6	0.61	0.42	0.53	2.07
	端反皿	520	52.68	35.16	44.70	46.09
	丸皿	31	3.14	5.33	6.78	4.30
	丸皿(ソギ)	10	1.01	1.42	1.80	2.33
	丸皿・大皿	1	0.10	0.08	0.11	0.00
	棱花皿	5	0.51	0.75	0.95	2.32
	稜皿	24	2.43	3.17	4.03	5.23
	腰折皿	22	2.23	2.25	2.86	3.08
瓶・壺	小計	656	66.46	51.66	65.68	67.10
	瓶	1	0.10		0.00	0.00
	徳利	6	0.61	0.17	0.21	0.00
	茶入	6	0.61	0.75	0.95	0.00
	壺	4	0.41		0.00	0.42
鉢・盤	小計	17	1.72	0.92	1.17	0.42
	描鉢	135	13.68	5.75	7.31	2.74
	小計	135	13.68	5.75	7.31	2.74
その他	釜	3	0.30	0.42	0.53	0.00
	鍋	4	0.41	0.08	0.11	0.00
	筒形容器	2	0.20	0.17	0.21	0.00
	打明皿	46	4.66	6.42	8.16	5.73
	小計	55	5.57	7.08	9.01	5.73
合計						
21器種						
987						
100.00						
78.65						
100.00						
85.69						
100.00						

第10表 SB01、SX06出土遺物破片表

## SB01

器種	破片数	比率	口縁部個体数	比率	底部個体数	比率
碗	天目茶碗	43	6.81	0.67	4.65	0.67
	丸碗		0.00		0.00	
	小計	43	6.81	0.67	4.65	0.67
皿	縁輪皿	22	3.49	1.42	9.88	0.25
	縁輪小皿	15	2.38	0.67	4.65	0.00
	鉢皿	1	0.16		0.00	0.17
	端反皿	255	40.41	6.67	46.51	7.91
	丸皿	1	0.16	0.08	0.58	0.00
	丸皿(ワギ)		0.00		0.00	0.00
	丸皿・大皿		0.00		0.00	0.00
	棱花皿		0.00		0.00	0.00
	縫皿	1	0.16	0.08	0.58	0.00
	腰折皿	12	1.90	0.67	4.65	0.50
	小計	307	48.65	9.58	66.86	8.82
瓶・壺	瓶		0.00		0.00	0.00
	徳利	7	1.11		0.00	0.17
	茶入		0.00		0.00	0.00
	壺	8	1.27		0.00	0.00
	小計	15	2.38	0.00	0.00	0.17
鉢・盤	插鉢	234	37.08	3.25	22.67	2.25
	小計	234	37.08	3.25	22.67	2.25
その他の	釜	19	3.01	0.25	1.74	0.25
	鍋	5	0.79		0.00	0.25
	筒形容器	4	0.63	0.33	2.33	0.00
	灯明皿	4	0.63	0.25	1.74	0.42
	小計	32	5.07	0.83	5.81	0.92
不明			0.00		0.00	0.00
合計	15器種	631	100.00	14.33	100.00	12.82
						100.00

## SX06

器種	破片数	比率	口縁部個体数	比率	底部個体数	比率
碗	天目茶碗	9	2.33	0.42	0.87	0.99
	丸碗	10	2.58	1.92	4.01	0.92
	小計	19	4.91	2.33	4.88	1.91
皿	縁輪皿	14	3.62	2.33	4.88	1.82
	縁輪小皿		0.00		0.00	0.00
	鉢皿		0.00		0.00	0.00
	端反皿	206	53.23	31.62	66.07	36.84
	丸皿	3	0.78	0.67	1.39	0.99
	丸皿(ワギ)		0.00		0.00	0.00
	丸皿・大皿		0.00		0.00	0.00
	棱花皿		0.00		0.00	0.00
	縫皿		0.00		0.00	0.00
	腰折皿	32	8.27	2.25	4.70	0.67
	小計	255	65.89	36.87	77.04	40.32
瓶・壺	瓶		0.00		0.00	0.00
	徳利		0.00		0.00	0.00
	茶入		0.00		0.00	0.00
	壺	5	1.29	0.33	0.70	0.00
	小計	5	1.29	0.33	0.70	0.00
鉢・盤	插鉢	78	20.16	6.41	13.39	5.81
	小計	78	20.16	6.41	13.39	5.81
その他の	釜	26	6.72	1.42	2.96	1.33
	鍋		0.00		0.00	0.00
	筒形容器	4	1.03	0.50	1.04	0.00
	灯明皿		0.00		0.00	0.00
	小計	30	7.75	1.92	4.01	1.33
不明			0.00		0.00	0.00
合計	11器種	387	100.00	47.86	100.00	49.38
						100.00

## 第5節 C区出土遺物

[図49～図63、図65～図70、図版92～図版106]

C区は丘陵東側の谷間の調査区である。東斜面は上品野西金地遺跡、西斜面はA区となる。

SK20より生焼けの丸碗底部片(867)。SK27より生焼けの端反皿(868)。SK44より生焼けの端反皿(869)。P24より生焼けの端反皿(870)。P50より生焼けの端反皿(871)。P57より内耳鉢(874)と大形匣鉢(875)。SK48より天目茶碗(79)、端反皿(80～83)、縁軸挟み皿(85)、灯明台(86)、播鉢(87,88)。SK49より皿(89)が出土。

SD05は北側斜面際の全体が「凸」形を呈した北に出張りの見られる新しい溝群で区画溝である。天目茶碗(876)、端反皿(877～883)、灯明皿(884)、播鉢(886)、卸挟み皿(885)、陶丸(888)が、卸挟み皿(885)としたが卸皿として作り転用し挟み皿として使用している。蓋(W-9)、箸(W-10～W18)、折敷(W-19,W-20)、飾り金具(M-5,M-6)、砥石(S-13,S-14)が出土した。

SD06は斜面沿い中央の東西方向の溝で天目茶碗(891)、端反皿(892～896)、丸皿(897)、縁軸挟み皿(898)が見られ、生焼け端反皿(896)もある。木製品の蓋(W-9,W-21)、箸(W-10～W-18)が出土した。

SD10中央付近の東へ曲がった逆さL字形の溝、溝の東端より内反り高台の天目茶碗(901)、小鉢(903)端反皿(904,906,907)、稜花皿(905)、稜皿(910～914)、灰釉稜皿(915)、削ぎの丸皿(908,909)、腰折皿(916)小瓶(917)、釜(918)、筒形容器(919)が出土した。生焼け丸皿(906,907)もある。

遺構外では天目茶碗の中に色見(958)と生焼けの天目茶碗(930,936,945,947,951,955,959)が見られた。付け高台の丸碗(967)と生焼けの丸碗(968)、生焼けの端反皿(978,1001,1008)、重巻が螺旋状になった灯明皿(1058,1059,1082)、焼き締めた無釉の丸皿(1092)、鉢(1093,1094)、徳利(1099～1110)、筒形容器(1111)、灯明台(1112～1116)、小形筒形容器(1117～1119)、祖母懐茶壺(1158)等が見られた。

第11表 C区遺構出土遺物一覧表

遺構番号	器種	登録番号	時期	窯道具	遺構番号	器種	登録番号	時期	窯道具
SK20	丸碗	867	大1	押出し模様	その他	天目茶碗(灰釉)	950,946	大2	削
SK27	端反皿	868	大1	押出し模様				大2	削
SK44	端反皿	869	大1	大形匣鉢			962番 965,966	大3	不明石器
P24	端反皿	870	後期古墳	捺込法		小鉢	976		
P50	端反皿	871	大1	小形匣鉢		鉢	1022,1023	大2	
P57	内耳鉢	874		大形匣鉢		丸皿(削)	1024	大2か3	
SD05	天目茶碗	876	大1	捺込法、押造		丸皿(豆皿)	1014	大1～大2	
	端反皿	877～883	大1			鉢	1093	大1	
	灯明皿	884	大1			蓋	1097,1098	大1か大2	
	卸挟み皿	885	大1			蓋	1099,1104		
	蓋	886	大1			蓋	1100,1107	大2	
	蓋	899	後期古墳～大1						
SD06	天目茶碗	891	大1	大形匣鉢		灯明台	1110,1116		
	端反皿	892～896	大1			筒形容器	1117		
	丸皿	897	大2前半			筒形容器	1119,1121		
	縁軸挟み皿	898	大1			蓋	1129～1130		
SD10	天目茶碗	901,902	大2	小形匣鉢		内耳鉢	1132		
	小鉢	903	大1	押造、焼小鉢		鉢	1133	大1	
	端反皿	904,906,907	大1	押造、焼小鉢		片口鉢	1134,1135		
	稜花皿	905	大1			蓋	1149～1157		
	丸皿	908,909	大2前半			蓋	1162		
	縁軸	910～915	大2			蓋	1163		
	蓋	916	後期古墳			茶人	1207,1217, 1219,1221		
	小鉢	917	大1か大2			水滴	1232	後期IV～大1	
	蓋	918				双日小唄	1233	後期Ⅳ～Ⅴ	
	筒形容器	919	大1か大2						

## 第6節 その他の出土遺物

### 1. 石製品 [図65、図66]

A区から断面三角の不明石器（S-3）と敲石（S-7）が、E区から不明石器（S-1.S-2.S-4）、擦り石（S-5.S-6）敲石（S-8.S-9）、台石（S-10）が出土した。C区から硯（S-11.S-12）砥石（S-13～18）が出土した。

### 2. 木製品 [図67～図70、図版105]

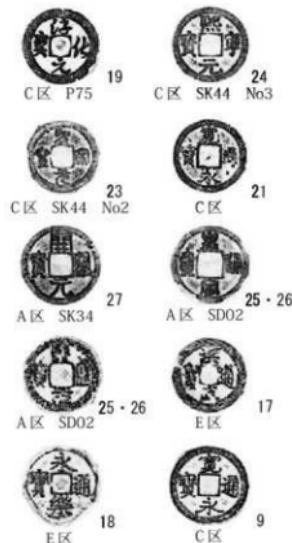
C区からの出土木製品である。杭（W-1～W-4.W-6～W-8）と礎盤（W-5）が見られる。杭はP12（W-1）、P16（W-2）、P77（W-4）、P100（W-3）、礎盤はP105（W-5）から出土。SD05よりつまみの付いた黒漆蓋（W-9）、箸（W-10～W-18）、折敷の側板の再利用（W-19）、折敷の底部（W-20）、が出土。SD06より杭（W-8）、黒漆蓋（W-21）、SD22より箱物（W-31）、SK44より下駄（W-22）が出土した。これら以外は検出時の出土で、杭（W-6.W-7）、下駄差歎（W-23）、栓（W-24）、木製の錘り（W-25）、黒漆椀（W-27.W-28）、柄杓の底（W-29）か、箱物（W-31.W-32.W-34～W-36）の側板で箱物の底部（W-33）には側面に木釘が見える。曲物の底（W-37）、桶の底（W-38）、不明（W-26.W-30）がありW-26は錘り、W-30は真ん中に方形の穴と右端が三角状になっている事から柄付きのT形の道具か。

これら木製品の樹種同定は第4章第2節を参照された  
いが、杭はコナラ、マツ、クヌギ、ヒノキ、クリ、礎盤は  
クリ、蓋、箸、折敷、箱物、曲物の底、桶の底はヒノキ、錘、  
椀はクリ、栓はマツであった。

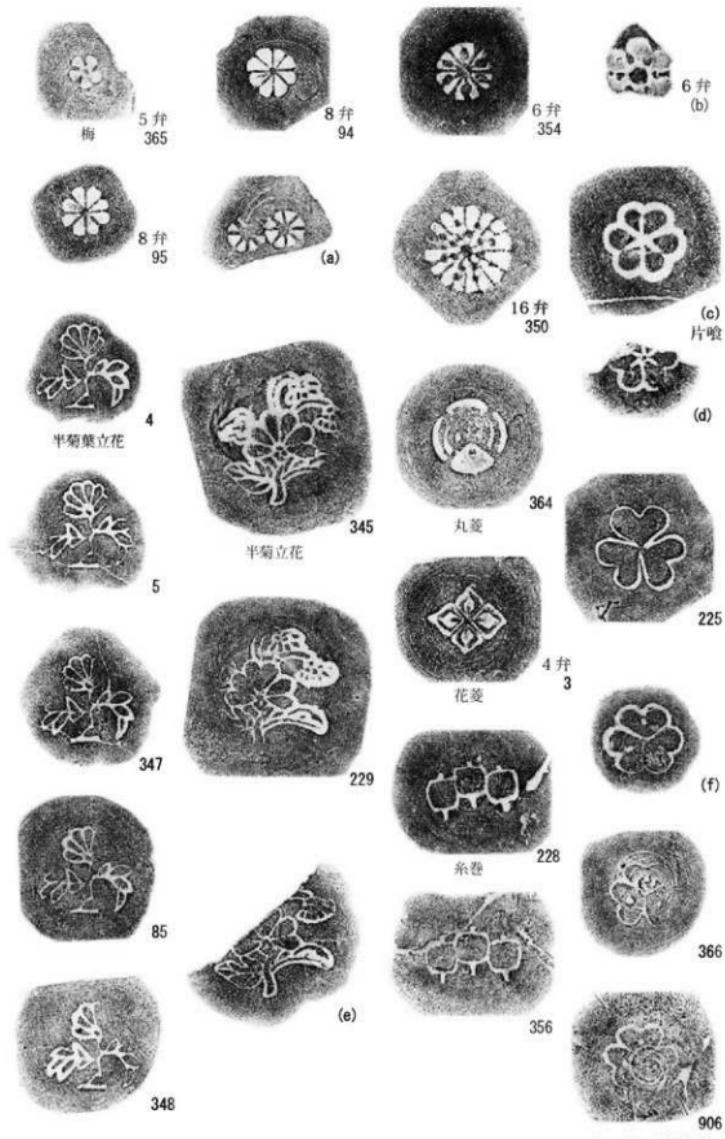
### 3. 金属製品 [図70、図版106]

A区では墓壙SK34より古銭と鐵滓（M-3）が出土した。  
古銭は皇宋通宝（32）と開元通宝（27）が各一枚、不明  
の古銭が四枚（28～30、31）の、計六枚である。その  
他小柄（M-1）、火燧金（M-2）が出土した。

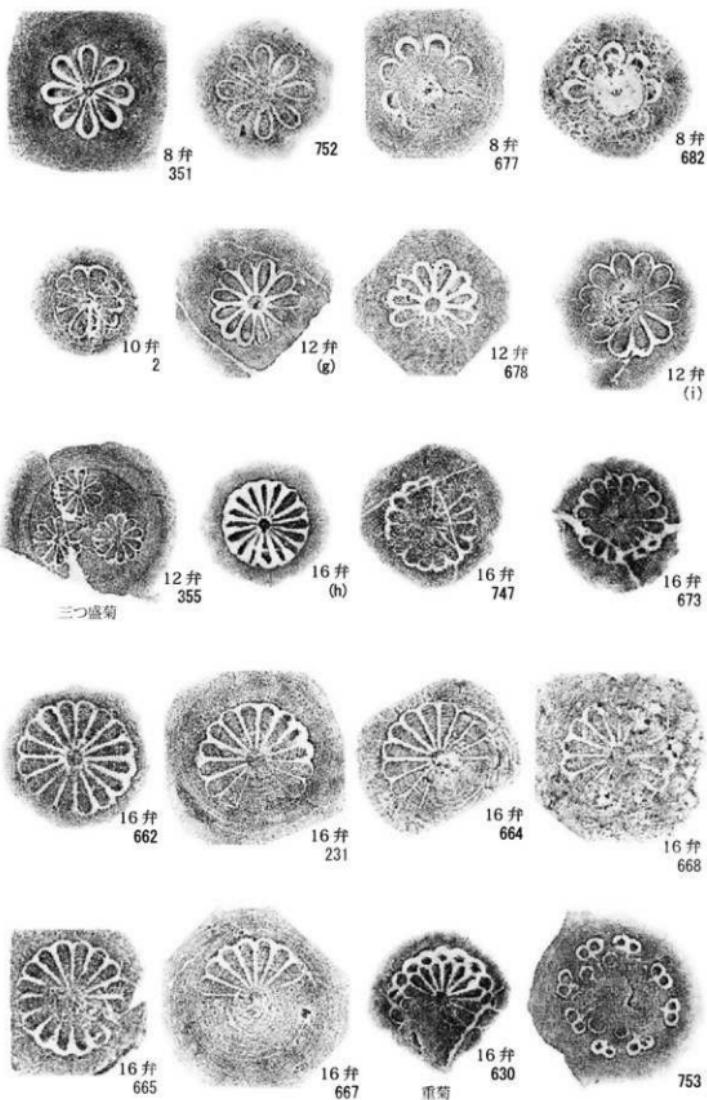
C区ではSK44より熙寧元宝（24）、聖宋元宝（23）、  
無文銭（22）が見られた。SD05より飾り金具（M-5、  
M-6）が出土した。その他飾り金具（M-7）、小刀（M-8）、  
角釘（M-4）が出土した。



第83図 出土古銭拓影(2:3)

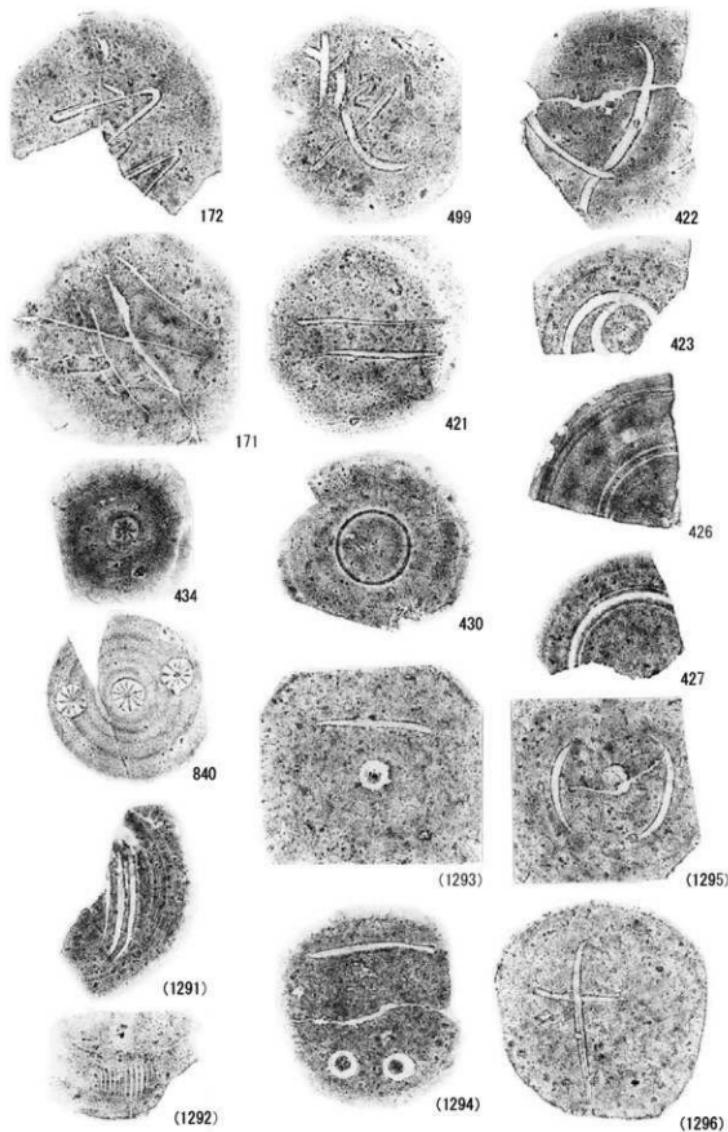


第 84 図 印花文拓影 1 (2:3)



(g ~ i) は実測図なし

第 85 図 印花文拓影 2 (2:3)



第 86 図 窯道具窯印の拓影 1 (1:2)

( ) は実測図なし

## 第4章 自然科学分析

### 第1節 考古地磁気年代推定

藤根 久・Lomtadze Zaur (パレオ・ラボ)

#### 1.はじめに

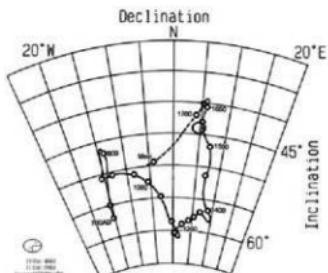
桑下東窯は、瀬戸市上品野町地内の丘陵地斜面に位置する16世紀の窯跡や工房跡などからなる遺跡である。ここでは、窯跡の床面焼土の熱残留磁化を測定し、その磁化方向から窯跡の焼成年代を推定した。

#### 2.考古地磁気年代推定の原理

地球上には地磁気が存在するために、磁石は北を指す。この地磁気は、その方向と強度（全磁力）によって表される。方向は、真北からの角度である偏角（Declination）と水平面からの角度である伏角（Inclination）によって表す。磁気コンパスが北として示す方向（磁北）は、真北からずれており、この間の角度が偏角である。また、磁針をその重心で支え磁南北と平行な鉛直面内で自由に回転できるようにすると、北半球では磁針のN極が水平面より下方を指す。この時の傾斜角が伏角である。現在、この付近の偏角は約7.10°、伏角は約48.07°、全磁力（水平分力）は約30606.77(nT)である（理科年表、2006:いずれも2000年値）。

これら地磁気の三要素（偏角・伏角・全磁力）は、観測する地点によって異なる値になる。全世界地磁気三要素の観測データの解析から、現在の地磁気の分布は、地球の中心に棒磁石を置いた時にできる磁場分布に近似される。また、こうした地磁気は時間の経過とともに変化し、ある地点で観測される偏角や伏角あるいは全磁力の値も時代とともに変化する。この地磁気の変動を地磁気永年変化と呼んでいる。

過去の地磁気の様子は、高温に焼かれた窯跡や灰跡などの焼土、地表近くで高温から固結した火山岩あるいは堆積物などの残留磁化測定から知ることができる。大半の物質は、ある磁場中に置かれると磁気を帯びるが、強磁性鉱物（磁鉄鉱など）はこの磁場を取り除かれた後でも磁気が残る。これが残留磁化である。



第87図 桑下東遺跡窯跡床面焼土の残留磁化と標準曲線

(広岡・藤澤 (2002) に標準曲線にプロット)

考古地磁気では、焼土の残留磁化（熱残留磁化）が、焼かれた当時の地磁気の方向を記録していることを利用する。こうした地磁気の化石を調べた結果、地磁気の方向は少しづつ変化しており、その変化は地域によって違っていることが分かっている。過去2,000年については、西南日本の窯跡や灰跡の焼土の熱残留磁化測定から、その変化が詳しく調べられている（広岡、1977; Shibuya, 1980）。一方、地磁気には地域差が認められるところから、東海地方の地磁気永年変化曲線が求められている（広岡・藤澤、2002；第87図）。

こうした年代のよく分かっている窯跡焼土や火

山岩の熱残留磁化測定などから地磁気永年変化曲線が得られると、逆に年代の確かでない遺跡焼土などの残留磁化測定を行い、先の地磁気永年変化曲線と比較することによって、その焼成時の年代が推定できる。また、年代が推定されている窯跡焼土などについても、土器とは違った方法で焼成時の年代を推定できることから、さらに科学的な裏付けを得ることができる。

この年代推定法が考古地磁気による年代推定法である。ただし、この方法は、<sup>14</sup>C年代測定法など他の絶対年代測定法のように、測定結果単独で年代の決定を決定する方法ではない。すなわち、焼土の熱残留磁化測定から得られる偏角および伏角の値からは複数の年代値が推定されるが、いずれを採用するかは、焼き物等の年代が参考となる。

### 3. 試料採取と残留磁化測定

考古地磁気による年代推定は、a) 測定用試料の採取および整形、b) 残留磁化測定および統計計算を行い、c) 地磁気永年変化曲線との比較を行い、焼成年代を推定する。なお、試料の磁化保持力や焼成以後の二次的な残留磁化の有無などを確認するために、段階交流消磁も行った。

#### a. 測定用試料の採取および整形

試料は、床焼土において、①一辺約4cmの立方体試料を取り出すため、瓦用ハンマーなどを用いて、対象とする部分（良く焼けた部分）の周囲に溝を掘る。②薄く溶いた石膏を試料全体にかけ、試料表面を補強する。③やや固め（練りハミガキ程度）の石膏を試料上面にかけ、すばやく一辺5cmの正方形のアルミ板を押し付け、石膏が固まるまで放置する。④石膏が固まった後、アルミ板を剥し、この面の最大傾斜の方針および傾斜角を磁気コンパス（考古地磁気用に改良したクリノメータ）で測定し、方位を記録すると同時に、この面に方位を示すマークと番号を記入する。⑤試料を掘り起こした後、試料の底面に石膏をつけて補強し持ち帰る。⑥持ち帰った試料は、ダイヤモンド・カッターを用いて一辺3.5cm・厚さ2cm程度の立方体に切断する。この際切断面が崩れないように、一面ごとに石膏を塗って補強し、熱残留磁化測定用試料とする。採取した試料は、17試料である。なお、採取時において2試料が破損した。

#### b. 段階交流消磁、熱残留磁化測定および統計計算の結果

熱残留磁化測定は、リング・コア型スピナー磁力計（SMM-85：㈱夏原技研製）を用いて測定した。磁化保持力の様子や放棄された後の二次的な磁化の有無を確認するため、任意1試料（No.4）について交流消磁装置（DEM-8601：㈱夏原技研製）を用いて段階的に消磁を行い、その都度スピナー磁力計を用いて残留磁化を測定した。その結果、試料の磁化強度は10-2emuと強いことが分かった。さらに、磁化方向は、両者とも中心に向かって直線的に変化し、安定した方向を記録していることが分かった。

以上の理由から、150Oeで消磁した際の残留磁化方向が焼成時の磁化方向であると判断した。そこで、これ以外の段階交流消磁を行っていない試料も、150Oe消磁した後に残留磁化を測定した。

複数試料の測定から得た偏角（Di）、伏角（Ii）を用いて、Fisher（1953）の統計法により平均値（Dm、Im）を求めた。信頼度計数は、2020.68であり、従って伏角および偏角の各誤差が小さな値であった（表1）。求めた熱残留磁化方向は、真北を基準とする座標に対する数値に補正する。偏角は、建設省国土地理院の

第12表 残留磁化測定結果（偏角補正前）

遺構名	試料No.	偏角(°E)	伏角(°)	強度(x10-3 emu)	統計処理項目		統計値
					参考	試料数(n)	
窯跡 (150 Oe)	1	11.3	44.5	58.370			15
	2	10.4	45.5	53.290			
	3	10.8	45.1	33.150	平均偏角 Dm(°E)	11.73	
	4	10.2	45.4	34.300	段階交渉消滅		
	5	12.0	46.1	100.000	平均伏角 Im(°)	45.92	
	6	11.3	45.9	37.960			
	7	11.7	46.5	74.390	誤差角ΔD(°)	1.22	
	8	11.3	45.8	54.530			
	9	11.4	45.8	87.320	誤差角ΔI(°)	0.85	
	10	8.9	45.1	81.440			
	11	11.9	46.3	24.510	信頼度計数(k)	20/20.68	
	12	17.8	46.5	43.550			
	13	11.7	43.3	11.780	平均磁化強度(x10-3 emu)	45.98	
	14	16.5	49.4	0.531			
	15				範囲		
	16	14.6	47.0	1.727	範囲		
	17				範囲		

1990.0年の磁気偏角近似式から計算した7.10°Wを使用した。その結果は、広岡・藤澤（1998）による地磁気変化曲線とともにプロットした。図中測定点に示した楕円は、フッシャー（1953）の95%信頼角より算定した偏角および伏角の各誤差から作成したものである。

#### 4. 焼成年代値の推定

第87図には、広岡・藤澤（2002）による東海地方の地磁気永年変化（実線）の一部曲線とともに床面焼土の磁化方向を示した。

磁化方向は、標準曲線の1,500～1,600年間にプロットされた。年代の推定は、磁化方向の中心もつとも近い標準曲線上に移動して推定した。その結果、A.D.1,540±10年と推定された。

第13表 窯跡の焼成年代推定

遺構	遺物年代	残留磁化による推定年代
窯跡	16世紀	A.D.1,540±10年

#### 引用文献

- Fisher, R.A. (1953) Dispersion on a sphere. Proc.Roy.Soc.London A, 217, 295-305.  
 広岡公夫（1977）考古学地磁気および第四紀古地磁気研究の最近の動向. 第四紀研究, 15, 200-203.  
 広岡公夫・藤澤良祐（2002）東海地方の地磁気永年変化曲線. 考古学と自然科学, 45, 29-54.  
 理科年表（2006）国立天文台編, 丸善, 1030p.  
 Shibuya, H. (1980) Geomagnetic secular variation in Southwest Japan for the past 2,000 years by means of archaeomagnetism. 大阪大学基礎工学部修士論文, 54p

## 第2節 出土木製品の樹種同定

黒沼保子（パレオ・ラボ）

### 1. はじめに

桑下東窓跡は瀬戸市上品野町に位置し、水野川北岸の丘陵上に立地する遺跡である。ここではC区から出土した木製品41点の樹種同定を行なった。

### 2. 試料と方法

試料は調査区05Cから出土した木製品41点である。剃刀を用いて試料の3断面（横断面・接線断面・放射断面）から切片を採取し、ガムクロラールで封入してプレパラートを作製した。これを光学顕微鏡で観察・同定し、写真撮影を行なった。

### 3. 結果と考察

樹種同定の結果、針葉樹ではマツ属複維管束亜属、ヒノキ、カヤの3分類群、広葉樹ではクリ、コナラ属アカガシ亜属、コナラ属クヌギ節、コナラ属コナラ節、サクラ属？、フサザクラの6分類群、合計9分類群が確認された。結果の一覧は第14表に示す。

以下に同定根拠となった木材組織の特徴を示し、光学顕微鏡写真を図版に示す。

#### (1) マツ属複維管束亜属 *Pinus Subgen. Diploxyylon* マツ科 第88図 1a-1c(No.24)

仮道管、垂直・水平樹脂道、放射組織、放射仮道管からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は比較的緩やかで、晩材部は広い。大型の樹脂道を薄壁のエビセリウム細胞が囲んでいる。分野壁孔は窓状で、放射仮道管の水平壁は内側へ向かって鋸歯状の突起がみられる。

マツ属複維管束亜属は暖帯から温帯下部に分布する常緑高木で、アカマツとクロマツがある。材は油気が多く、韌性は大である。

#### (2) ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* (Siebold et Zucc.) Endl. ヒノキ科 第88図 2a-2c(No.33)

仮道管、放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は急である。樹脂細胞は主に晩材部に接線状に配列する。分野壁孔はトウヒ型～ヒノキ型で1分野に2個存在する。

ヒノキは温帯から暖帯に分布する。材は加工容易で割裂性は大きく、耐朽性、耐湿性は著しく高く、狂いが少ない。

#### (3) カヤ *Torreya nucifera* Sieb. et Zucc. イチイ科 第88図 3a-3c(No.8)

仮道管と放射組織からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は緩やかで、晩材部の幅は狭い。仮道管壁に2本対になったらせん肥厚がある。分野壁孔はヒノキ型で、1分野に通常4個存在する。

カヤは暖帯から温帯に分布する常緑高木である。材は木理直通、硬堅、緻密で、弹性・耐久力が強く水湿にも強い。

#### (4) クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科 第89図 4a-4c(No.28)

大型の道管が年輪界に並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方

- 向柔組織はいびつな線状となり、道管の穿孔は單一である。放射組織は同性で主に単列である。クリは温帯下部から暖帯に分布する落葉高木で、材は耐朽性・耐湿性に優れ、保存性が高い。
- (5) コナラ属アカガシ亜属 *Quercus* subgen.*Cyclobalanopsis* ブナ科 第89図 5a-5c(No.26)  
円形でやや大型の道管が単独で放射方向に配列する放射孔材である。軸方向柔細胞は短接線状～いびつな線状となり、道管の穿孔は單一である。放射組織は同性で、単列のものと広放射組織がある。  
アカガシ亜属は主に暖帯に分布する常緑高木で、イチイガシ、アカガシ、ハナカガシ、ツクバネガシ、アラカシなど8種がある。材はきわめて堅硬、弹性が強く、強韌である。
- (6) コナラ属クヌギ節 *Quercus* sect. *Aegilops* ブナ科 第89図 6a-6c(No.4)  
年輪界はじめ大型の道管が並ぶ環孔材で、晚材部では急に径を減じた円形で厚壁の小道管が単独で放射方向に配列する。軸方向柔組織はいびつな線状で、道管の穿孔は單一である。放射組織は同性で、単列のものと広放射組織がある。  
クヌギ節は暖帯に生育する落葉高木で、クヌギ・アベマキがある。材は全体的に重硬である。
- (7) コナラ属コナラ節 *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科 第90図 7a-7c(No.1)  
大型の道管が年輪界に沿って1～3列並び、晚材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状で、道管の穿孔は單一である。放射組織は同性、単列と広放射組織の2種類がある。  
コナラ節は温帯下部および暖帯に分布する落葉高木で、カシワ・ミズナラ・コナラ・ナラガシワがある。材は全体的に重硬である。
- (8) サクラ属？ *Prunus* s.l. バラ科 第90図 8a-8c(No.40)  
やや小型の道管が散在する散孔材である。道管の穿孔は單一、放射組織は1～5細胞幅程度、上下端が方形細胞の異性である。横断面において道管の配列が正確に観察できなかったため、サクラ属？とした。  
サクラ属は温帯に生育する落葉または常緑の高木または低木である。サクラ属はさらにサクラ亜属、スマモ亜属、モモ亜属、ウワズミザクラ亜属などに分類され、25種がある。材は全体的に重硬である。
- (9) フサザクラ *Euptelea polyandra* Siebold et Zucc. フサザクラ科 第90図 9a-9c(No.41)  
小型の道管がほぼ単独で密に分布する散孔材で、晚材部でやや小型化する。道管の穿孔は階段状で、階段数はかなり多い。放射組織は6～10列幅程度の異性で、細胞高は1mm以上ある。  
フサザクラは温帯から暖帯上部に分布する落葉高木である。谷筋に多く生育し、瘦せ地にもよく生える。材はやや重硬で割れにくいや、脆い。

#### 4.まとめ

樹種同定結果ではヒノキが過半数を占めており、次にマツ属複維管束亜属、クリの順に数が多い。その他の樹種は1点ずつ検出された。1点のみ検出されたフサザクラは、樹皮はサクラに似るが、大径材が出ず材質もあまりよくないため、あまり有用ではなく、他の遺跡における検出例も少ない。

瀬戸市に所在する巡間E窯跡、鳳山C窯跡など山茶碗の中世窯では、燃料材としてマツ属複維管束亜属とクリの使用例が多い（植田、2003・2005a）。さらに同じく瀬戸市に所在する14世紀から15世紀に操業されていた鷺古窯では、マツ属複維管束亜属とヒノキが多く利用されているほか、本遺跡で検出さ

れたクリ、サクラ属、アカガシ亜属などの広葉樹も多種類検出されている（植田、2005b）。

本遺跡の近隣に所在する上品野蟹川遺跡において、中世・近世の遺構で花粉分析が行なわれている。これによると中世以降はイチイ科・イヌガヤ科・ヒノキ科、アカガシ亜属、シノノキ属が減少し、マツ属複雑管束亞属およびコナラ属コナラ亜属を主とした森林の存在が復元されており（新山・鈴木、1998）、二次林要素の強い森林であったことがわかる。本遺跡において利用されていた樹種は、花粉分析においても確認できるほか、窓跡における利用傾向とも類似していることから、木製品の製作には遺跡周辺に生育していた樹木を利用したと推測される。

第14表 桑下東遺跡出土木製品の樹種同定結果

樹種番号	調査区	グリッド	遺物	樹種	木取の	
W-1	5C	IV 119g	P12 No.1	コナラ属	芯持丸木	
W-2	5C	V 12e	P16 No.1	マツ属複雑管束亞属	芯持丸木	
W-3	5C	V 11e	P100	マツ属複雑管束亞属	芯持丸木（引脚加工）	
W-4	5C	IV 120f	P77 No.1	クヌキ属	芯持丸木（引脚加工）	
W-5	5C	IV 120f	P105 No.2	タリ	削材	
W-6	5C	IV 119f	焼灰(?)	ヒノキ	芯持丸木（引脚加工）	
W-7	5C	IV 118h	焼灰(?)	タリ	芯持丸木（引脚加工）	
W-8	5C	IV 119f	SD06 No.13	カヤ	芯持丸木（引脚加工）	
W-9	5C	IV 119e	SD05 No.16	ヒノキ	削材	
W-10	5C	IV 119e	SD05 No.22	ヒノキ	削材	
W-11	5C	IV 119e	SD05 No.39	マツ属複雑管束亞属	分割削材	
W-12	5C	IV 119e	SD05 No.8	ヒノキ	分割削材	
W-13	5C	IV 119e	SD05 No.36	ヒノキ	削材	
W-14	5C	IV 119e	SD05 No.18	ヒノキ	削材	
W-15	5C	IV 119e	SD05 No.33	ヒノキ	削材	
W-16	5C	IV 119e	SD05 No.17	ヒノキ	分割削材	
W-17	5C	IV 119e	SD05 No.29	ヒノキ	分割削材	
W-18	5C	IV 119e	SD05 No.52	ヒノキ	分割削材	
W-19	折板	5C	IV 119e	SD05 No.01	ヒノキ	削材
W-20	5C	IV 119e	SD05 No.5+6	ヒノキ	削材	
W-21	5C	IV 119f	SD06 No.1	ヒノキ	削材	
W-22	下點	5C	IV 119e	SK44 No.4	ヒノキ	削材
W-23	5C	IV 118g	No.36	マツ属複雑管束亞属	削材	
W-24	5C	IV 119g	焼灰	マツ属複雑管束亞属	芯持削材	
W-25	5C	IV 119e	No.40	タリ	芯持丸木	
W-26	不明	5C	IV 119e	焼灰	アカガシ属	削材
W-27	5C	IV 119g	No.42	漆櫻	漆木取の	
W-28	5C	IV 118g	No.8 漆櫻	タリ	漆木取の	
W-29	5C	IV 118e	焼灰(?)	ヒノキ	削材	
W-30	5C	IV 118f	No.18	マツ属複雑管束亞属	削材	
W-31	5C	IV 120f	SD22	ヒノキ	削材	
W-32	5C	IV 119e	No.47	ヒノキ	削材	
W-33	5C	IV 119e	No.38	ヒノキ	削材	
W-34	5C	IV 119e	No.41	ヒノキ	削材	
W-35	5C	IV 119g	焼灰	ヒノキ	削材	
W-36	5C	IV 119g	No.41 ①	ヒノキ	削材	
W-37	曲物或 桶底	5C	IV 118f	No.19	ヒノキ	削材
W-38	5C	IV 118g	No.44	ヒノキ	削材	
39	5C	IV 118h	焼灰砂	ヒノキ	削材	
40	5C	IV 118e	焼灰色砂 うるし	サクラ属	削材	
41	5C	IV 119e	No.49	フササグラ	削材	

#### 引用文献

植田弥生（2003）「巡間E窓跡遺跡出土炭化材の樹種同定」、愛知県教育サービスセンター・愛知県埋蔵文化財センター編

「巡間E窓跡」：79-82、愛知県埋蔵文化財センター。

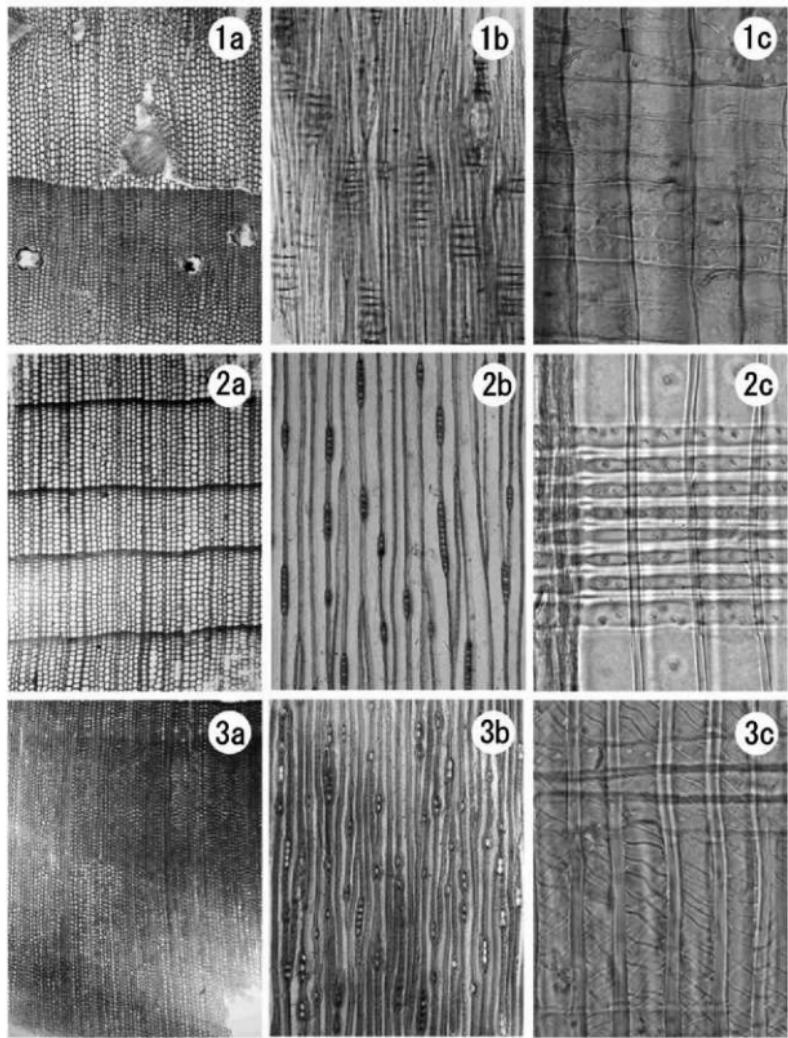
植田弥生（2005a）「炭化材の樹種同定」、愛知県教育サービスセンター・愛知県埋蔵文化財センター編

「鍋山C窓跡・慾作・鍛場遺跡I」：60-62、愛知県埋蔵文化財センター。

植田弥生（2005b）「炭原および工房跡から出土した炭化材の樹種同定」、愛知県教育サービスセンター・愛知県埋蔵文化財センター編

「新山雅広・鈴木茂（1998）『上品野蟹川遺跡の自然科學分析』、瀬戸市埋蔵文化財センター編

「上品野蟹川遺跡」：82-98、瀬戸市埋蔵文化財センター。

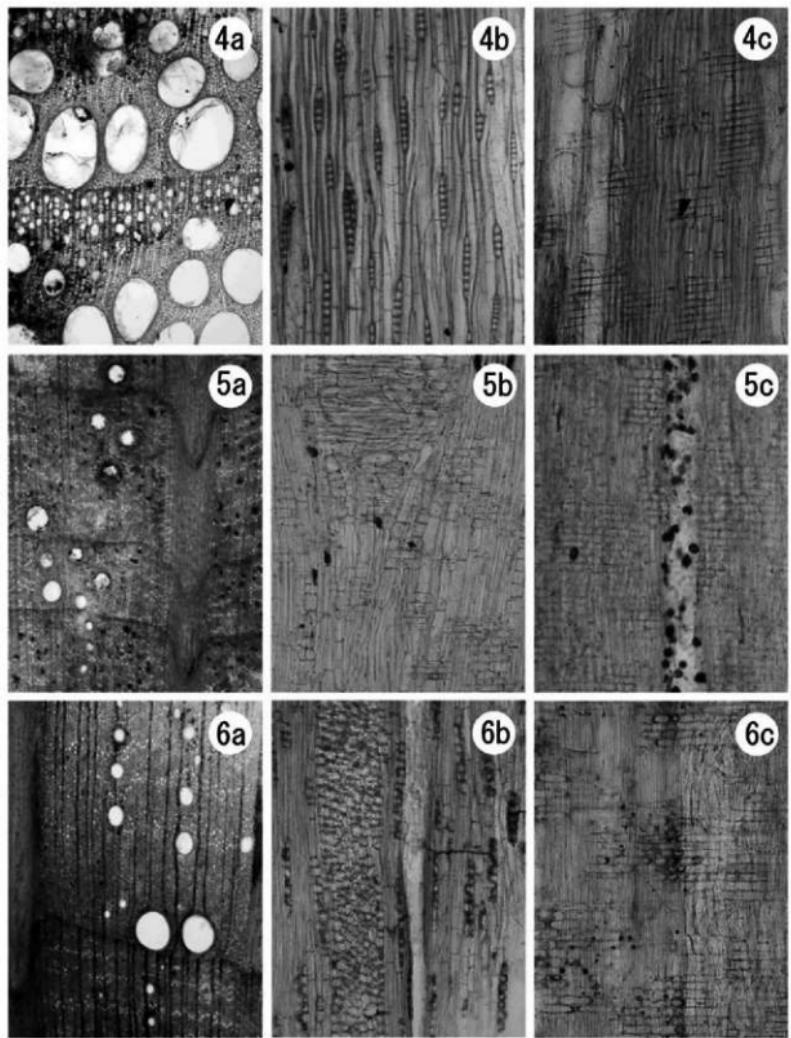


第88図 出土材の光学顕微鏡写真 (a:横断面,b:接線断面,c:放射断面)

1a-1c. マツ属複維管束亜属 (No. 24:a:500 μ m,b:200 μ m,c:50 μ m)

2a-2c. ヒノキ (No. 33:a:500 μ m,b:200 μ m,c:50 μ m)

3a-3c. カヤ (No. 8:a:500,b:200 μ m,c:50 μ m)

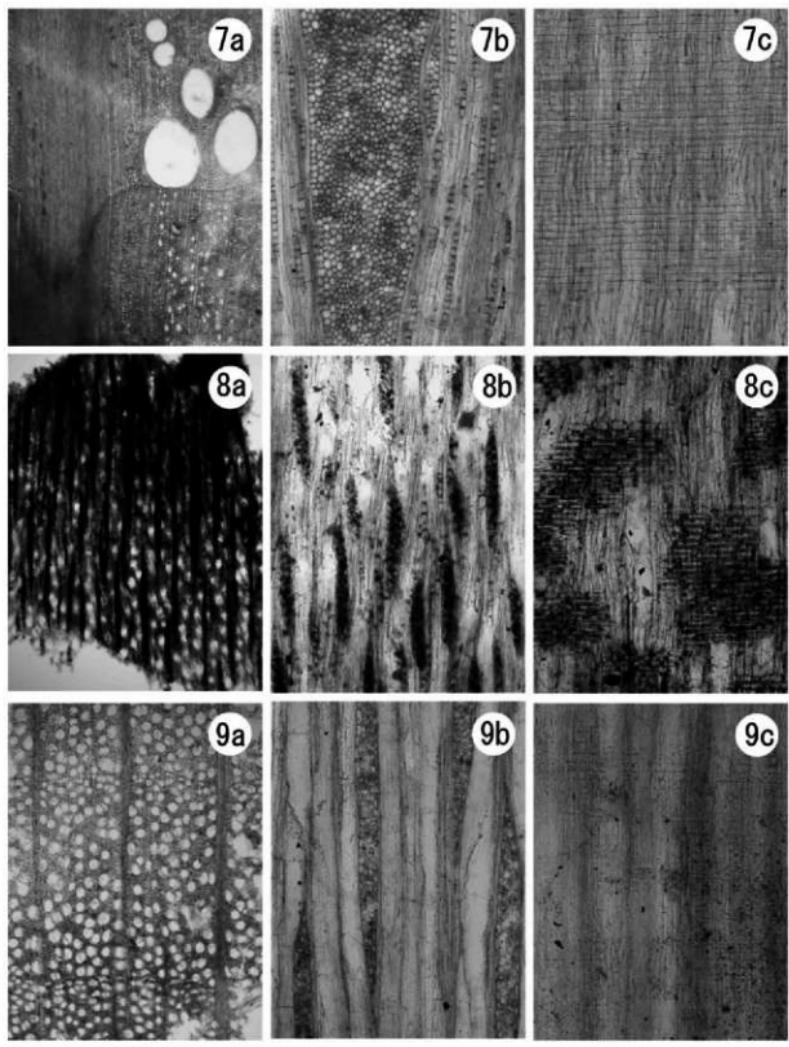


第89図 出土材の光学顕微鏡写真 (a: 横断面, b: 接線断面, c: 放射断面)

4a-4c. クリ (No. 28.a:500 μ m.b:200 μ m.c:200 μ m)

5a-5c. コナラ属アカガシ亜属 (No. 26.a:500 μ m.b:200 μ m.c:200 μ m)

6a-6c. コナラ属クヌギ節 (No. 4. a:500 μ m. b:200 μ m.c:200 μ m)



第90図 出土材の光学顕微鏡写真 (a:横断面,b:接線断面,c:放射断面)

7a-7c. コナラ属コナラ節 (No.1:a:500 μ m,b:200 μ m,c:200 μ m)

8a-8c. サクラ属? (No.40:a:500 μ m,b:200 μ m,c:200 μ m)

9a-9c. フザザクラ (No.41:a:500 μ m,b:200 μ m,c:200 μ m)

## 第5章 総括

### 第1節 輸轆ピット

#### 1.はじめに

ロクロピットは轆轤を設置した軸棒を固定した穴、ロクロ軸木穴で、二段構造を持っている。

桑下東窯跡よりロクロピットがA区から40基、E区から15基、の轆轤ピット総数55基（第15表）を検出した。A区では約50m<sup>2</sup>の範囲に轆轤ピット40基が集中し、密集した轆轤ピットは土坑群の様相を呈していた。今迄の常識では考えられないロクロピットの数とA区の密度である。窯跡のロクロピットについての覚え書きである。

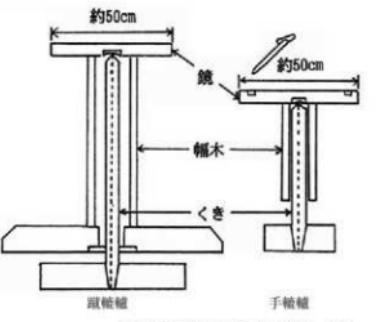
#### 2.桑下東窯跡の轆轤ピット

桑下東窯跡で見られたロクロピット55基をその形状により二つの型に分類した。

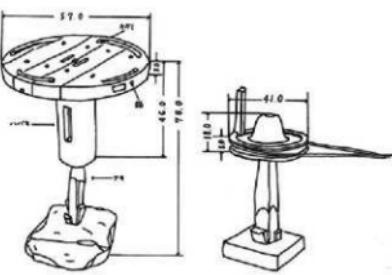
1類は従来のロクロピットで柱穴型とした（第92～第94図）轆轤ピットである。長軸径40cmから60cm、短軸径40cmから60cm、深さ62cmから78cmを測る。平面形は、やや角のある円形あるいは歪んだ円形等の円形で軸穴は中央にある。1類の柱穴型は31基検出した。

2類は土坑型（第95図、第96図）とした轆轤ピットである。平面形は円形か開円方形で、上半に土坑状の掘り込み部分と下半の柱穴状掘り込み部分から成る「土坑」プラス「ロクロピット」である。長軸径71cmから89cm、短軸径60cmから81cm、深さ97cmから127cmを測る。2類の土坑型は24基である。

ロクロピットが密集していたA区では1類の柱穴型が20基、2類の土坑型を20基検出した。



陶磁器の轆轤『日本民具辞典』より



『窯業民俗資料調査報告1(瀬戸市)』より

第91図 輪轤

### 3. 柱穴型轆轤ピット

1類は“柱穴タイプ”的轆轤ピットで、従来のロクロピットである。平面形は、やや角のある円形あるいは歪んだ円形等の円形である。二段構造の穴で、上部が粘土で充填される例が多い。断面形はだいたいが深鉢形で、軸穴は中央にある。軸穴の蓋として、匣鉢や挟み皿、欠損した製品、粘土塊あるいは石で塞いでいる。軸穴は、掘り込み中位で一度突き固められ、軸穴周りは、礫、焼台で固定している。下半の軸周囲に焼台を円形に敷き削り貫かれたSK25もある。軸穴底面に、粘土や版築様の粘土を挟み、レンズ状の堆積となり、軸受けと考えられる。そして底が硬化していた。

長軸径は40cmから60cmが多く、最小径24cm、最大径67cmである。短軸径は40cmから60cmが多く、最小径18cmが見られたが削平され軸部のみの数値で、最小径は26cmと思われ最大径は63cmである。

深さ62cmから78cmが多く、浅い26cmが見られるが削平された数値であるため、最深い深さは50cmと思われ、最深が1mである。

1類の“柱穴タイプ”的轆轤ピットは、長軸径40cmから60cm、短軸径40cmから60cm、深さ62cmから78cmが平均的な数値と思われる。

### 4. 土坑型轆轤ピット

2類は“土坑タイプ”的轆轤ピットで、平面形は円形か椭円形で、上半に土坑状の掘り込み部分と下半の柱穴状掘り込み部分から成る轆轤ピットである。「土坑」プラス「ロクロピット」である。

上半の土坑は周りが素掘りのままのものと、角礫による石組みを伴うもの（「井戸」に似たもの）が見られる。石組は土坑の掘り込みの壁沿いに積まれ、石組みを伴う例としてSK21、SK06、SK07、E区P116がある。土坑下部に大礫を伴う例も見られることから壁だけでなく底にも埋設した可能性がある。

軸穴は上部土坑の掘り込みの中位付近からで、軸穴底面に版築様の粘土や層厚1～2cmの薄い粘土敷きが見られ、軸受けと考えられる。軸穴底面の軸受け粘土はうすい扁平状（「せんべい」とやや厚い「丸餅」の様）であった。

長軸径は71cmから89cmが多く、最小径16cmが見られたが削平のためと思われ、最小径は30cm前後か、最大径は101cmである。短軸径は60cmから81cmが多く、最小径20cmが見られたが削平された数値で、最小径は25cm前後と思われる。最大径は95cmである。

深さは97cmから127cmが多く、浅い21cmが見られたが削平された数値であるため、最も深い深さは54cm前後と思われる。最深が1m37cmである。

2類の“土坑タイプ”的轆轤ピットは、長軸径71cmから89cm、短軸径60cmから81cm、深さ97cmから127cmが平均的な数値と思われる。なお、据え直しの痕跡がSK06（2本）、SK27（3本）で見られた。

### 5. 柱穴型と土坑型について

土坑タイプ2類の轆轤ピットは土坑型と称した様に、土坑状の掘り込みの中にロクロピットが見られるものである。1類柱穴型と比較すると2類土坑型の特徴として四点指摘できる。

①形状がひと回り大きくなっている。長軸で30cm、短軸で20cm、大きくなり、軸穴の深さも最小差でも35cmは深い。軸底までの深さが最小差で35cmを測り軸底までの深さが1m以上測る例が10例ある。

②上部土坑の掘り方が、垂直で角ある箱状を呈する。SK18とSK21。

③軸木上端（上部土坑の底）の幅が46cm、68cmと幅が広い。1類の柱穴型では軸木上端の幅は最大でも44cmで40cmが多く見られる。

④上部土坑周りに角礫による石組み（「石組み井戸」類似）がある。SK21、SK06、SK07、E区P116の4例見られる。埋土中から灰、炭化物、焼土や水の痕跡はなく、炉でも井戸でもない。石組は土坑の掘り込みの壁沿いに積まれている。ロクロ軸と壁の間を幅広くするためか、崩れ易くなり周りの壁に角礫を積み上げ壁の崩落を防ぐためか、とも考えられる。

## 6. 軸轆の構造

軸轆の構造などについて、加藤唐九郎編『原色陶器大辞典』に詳しい説明がありこれを抜粋した。

また昭和十一年刊行の『陶器大辞典』中の「ろくろ 軸轆」に図が見られ第97図に転載した。

【構造および種類】軸轆は成形用の円盤とこれを支える軸木とからなり、軸木の下端は地中に埋めて固定する。軸木の頂部に水平に安定している円盤は、手または足、あるいは動力によって旋回運動を起す。軸木と円盤の接点には摩滅防ぐため陶磁器や鋼鉄製の頭を嵌入し、円盤の表面はおおむね陶工が座って作業する床と同じ高さにある。主として木製または金属製であるが、外に土製、石製、石膏製、陶磁製のものもある。木製は最も通用されるところでわが国・朝鮮とともに櫛材が多く用いられる。……

【中国】……『清国窯業視察報告』（北村弥一郎）…景德鎮における陶車は手動式で概してわが国の手軸轆と似ており、円盤はたいてい直径96cmより1.3mに至り、厚さは6cm前後とする。円盤と軸木との接触部分には陶製の軸受けがある。また軸木を囲んで四本の木杵があり、木杵の下端に陶製の輪環を付す。軸木の頂端は堅木でつくり減損すれば取り替える。陶工は腰板に踞坐し両手を前方に開き、両手で回棒を持ち円盤上に穿たれた孔にこれを挿入し円盤を回転させる。回棒には竹製・木製があり、長さ1m内外とする。ただし大器をつくる場合は補助工に円盤を旋回させ、器物によっては補助工三人を要することがある。福建省德化窯の陶車は脚車で、その制式は景德鎮および石湾窯のものと異なり、またわが国におけるとも異なる。すなわち木製円筒脚があつて軸木の上に載っている。円筒脚の上端平面に九本の杙を直角に打ち込みこれに竹片を組み付けて円坐をつくり、これを骨として上に泥土を塗布して成形用円盤をつくる。円盤の直径はたいてい54cmより60cmを普通とする。そしてこれを旋回させるには、陶工は陶車前に踞坐し右足を上げて円盤の縁辺を蹴り回すものとする。また遅緩な回転を要する時はこれを手でおこなうことがあり、そのため円盤の縁端に小盃を埋め込み手掛けりとする。広東省石湾窯の陶車は円盤の直径約74cm、地孔に装置した軸木の上に載る円盤の高さは地上よりほぼ15cmのところにある。陶車の使用は必ず造坯工と補助工の二人でし、補助工は陶車のかたわらに立ち屋裏より懸垂した吊り繩を手にして身体を固定させ、足を上げて円盤の上部を蹴り動かし造坯工は陶車に対して踞坐し、その両足を左右に開いて器物を成形する。徳化窯の式と共にその構造はわが国の手軸轆に似ているが操作は蹴軸轆に似たものである。

【朝鮮】朝鮮の軸轆は輪台の字を当て、材は多く櫛制、軸木のみは壇木を使用する。全部蹴軸轆で、その複盤式はわが国九州地方の蹴軸轆に非常に類似する。上盤の径約48cm、厚さ9cmばかり。下盤はその中央に軸木を通す円孔を有する。上下両盤は四本の木杵によって連結され、軸木は上盤を

受け下盤の円孔を通り下端は地中に固定される。陶車全体は直径 90cm 内外に掘られた穴に装置され、上盤はあたかも地上平面と平均する。工人はかたわらに掘った穴に木板を架し、これに腰掛け下盤を囲りつつ器物を成形する。

【日本】……わが国においては単盤式の手轆轤と複盤式の蹴轆轤が並用され、各陶業地の伝統に従い両者は相対立の勢力を示している。手轆轤の行われる地方は尾張（愛知県）・美濃（岐阜県）・磐城（福島県）・京都などを主とし、また瀬戸轆轤ともいう。構造は大体成形用円盤とその円盤の裏面中央に中空の円筒を取り付け、中に軸木を挿入して円盤を支持し、円盤と軸木との接点には陶磁製や鉄製の頭を嵌入して摩滅を避ける。軸木の下端は地中に固定する。寸法は地方によりやや異同があるが、大体円盤の径 54cm より 66cm、厚さ 75cm より 90cm、円筒の外径 14.5cm、円筒の長さ 42cm である。『窯業民俗資料調査報告 1（瀬戸市）』では手轆轤 第 91 図はカガミ（円盤）径 57cm、ロクロ台の高さ 46cm、クキの台まで高さは 78cm を測る。クキの台は花崗岩を方形に粗削りしたものの中心に約 10cm 角の孔を穿ちそこにクキを立てている。

クキの台の孔がロクロビットの軸穴径である。桑下東窯跡の軸穴径を測ると 1 類が 7cm から 16cm で、2 類が 12cm から 20cm と 2 類が軸穴も一回り大きくなっている。

1 類の軸径は、SK01 が 16cm、SK02 が 10cm、SK16 が 10cm、SK25 が 7cm、SK28 が 12cm、P02 は 14cm、P03 は 13cm、P32 は 7cm、P37 は 11cm、P63 は 7cm、SX02-P06 は 12cm を測る。

2 類の軸径は、SK18 が 12cm、SK21 が 15cm、SK24 が 20cm、P14 は 22cm、P53 は 13cm を測る。

それまでのロクロビットより一回り大きなロクロビット、土坑型轆轤ビット 2 類が見られた。

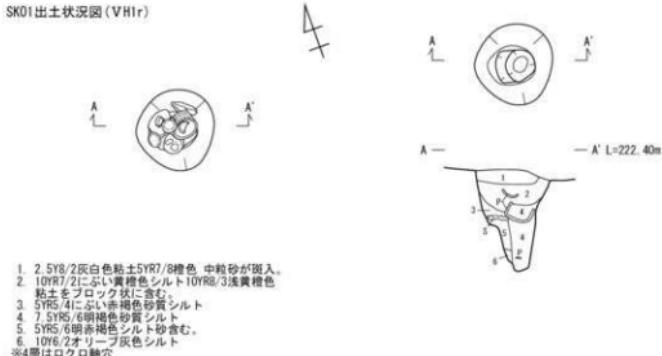
土坑型轆轤ビット 2 類が大形製品を作るためか、轆轤の構造的な違いか、轆轤の場所が固定化されたことから等、いずれに起因するか、現状では想起できる資料に乏しく、今後類例の増加が期待されるのである。

第15表 桑下東窓跡 機械ピット一覧

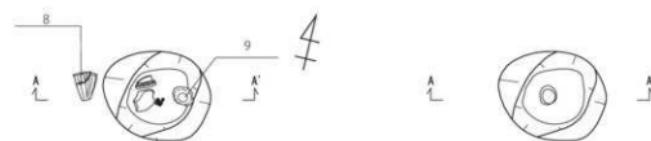
柱穴型 31基 土坑型 24基  
例 0.5~0.50m 0.7~0.70cm

区	道標 No.	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm	深さ cm	埋土	平面形	型	方位	断面形状	軸穴: 上部	軸穴: 斜り	軸穴: 底
1	A1K_SK01	0.5	0.46	62		3層	不規則	柱穴		深跡	無		
2	SK02	0.67	0.55	72		3層	不規則	柱穴	N.72° E	深跡	中位小窪	粘土	
3	SK03	0.65	0.63	63		2層	円	柱穴		深跡	無	明赤褐色砂?	
4	SK06	0.83	0.76	71		3層	不規則	土坑	N.14° E	箱段	2本	云斑褐色	
5	SK07-P13	0.42	0.7	32	104	半卓 長方形	土質 骨	N.88° E	箱	深跡	周西沈黙	東側 褐粘土	
6	SK16	0.55	0.5	69			円	柱穴	N.47° W	深跡	2段	粘土無	
7	SK18	0.98	0.95	45	132	3層	不規則	土坑	N.21° E	箱段		硬化	
8	SK21	0.86	0.79	43	79	122	4層	円	土坑	N.9° E	箱段		調査み 全面
9	SK23	1.01	0.81	60	77	137	3層	圓円方形	土坑	N.9° E	箱段		
10	SK24	0.71	0.54	35	74	109	2層	圓円方形	土坑		箱段		シルト敷き
11	SK25	0.59	0.52	75			円	柱穴		深跡		機台引り残土	
12	SK26	0.62	0.36	68		3層	圓円方形	土坑	N.52° W	箱段		押跡片	
13	SK27	0.84	0.71	18	100	1層	圓円方形	土坑		(箱段) 3本			
14	SK28	0.49	0.48	71		2層	円方形	柱穴		深跡	無	押跡・壁・粘土地	
15	SK30	0.75	0.73	80	81	121	3層	圓円方形	土坑	N.55° W	箱段	小窪・押跡	
16	SK31	0.6	0.52	58			圓円方形	柱穴	N.58° E	箱	壁	粘土	
17	SK32	0.73	0.64	43	108	3層	不規則	土坑		箱段	周反面		
18	SK37	0.89	0.76	43	118	3層	圓円方形	土坑	N.26° E	箱段	3本	板築様硬質シート	
19	SK38	0.67	0.62	71		2層	長円			日ぼ東西	深跡		
20	SK39	0.6	0.7	31	66	97	3層	方	土坑	北西・南東	箱段	大窪	
21	P01	0.28	0.25	54			円	土坑		箱	粘土		
22	P02	0.5	0.45	82			円方	柱穴		箱			
23	P03	0.42	0.38	30	62	92	3層	円	柱穴	N.21° W	箱段	粘土	
24	P04	0.16	0.2	21		2層	円	土坑		深跡	周埋没跡		
25	P05	0.38	0.32	40	54	2層	円	土坑	N.21° W	茂殖段			
26	P06	0.22	0.21	24		2層	円	土坑		深跡	周埋没跡	沈跡	
27	P08	0.29	0.26	73		2層	圓円方形	柱穴	N.57° E	深跡	機台片		
28	P10	0.44	0.4	69		3層	円	柱穴		深跡	粘土	板築様硬質シート	
29	P14	0.65	0.51	31	96	127	3層	圓円方形	土坑	N.88° E	柱穴片	赤色系土	粘土層
30	P15	0.45	0.38	21	66	2層	長円	柱穴	N.20° E	箱段	粘土無		
31	P32	0.42	0.42	40	60	100	4層	柱穴	N.30° W	深跡		壁側平坦	
32	P37	0.42	0.4	26	78	3層	円方	柱穴	N.49° W	深跡			
33	P41	0.24	0.18	26		2層	円方	柱穴	N.39° E	箱			
34	P47	0.42	0.43	17	63	2層	圓円方形	柱穴	北西・南東	箱段	軸穴直立せず		
35	P92	0.52	0.44	76		2層	長円	柱穴	N.50° E	深跡			
36	P53	0.45	0.37	19	71	90	3層	長円	土坑	N.38° W	凸凹		扁平な粘土
37	P55	0.72	0.26	38			單眼	圓円方形	土坑		箱段		
38	P58	0.35	0.3	50		2層	円	柱穴		深跡			
39	P63	0.22	0.2	42		3層	土坑		N.40° E	深跡	周埋没跡		
40	P65	0.4	0.4	68			円方	柱穴		深跡	段		
41	P14	0.34	0.32	56		3層	円	柱穴	N.50° W	深跡			
42	P115-a	0.44	0.37	55	17	72		圓円方形	柱穴	N.72° W		粘土	
43	P116	0.51	0.51	24	53	77	3層	圓円方形	土坑	N.43° W	深跡段		機台片
44	P117	0.45	0.45	25	51	76	2層	圓円方形	土坑	N.46° E	凸凹		
45	P119	0.26	0.24	31		3層	圓円方形	柱穴	N.49° E	箱			
46	P121	0.39	0.29	23	54	76	2層	圓円方形	土坑	N.60° W	箱段		機台片
47	P122	0.32	0.28	43		2層	円	柱穴	N.45° W	深跡		粘土質シルト	
48	P123	0.22	0.21	36		3層	圓円方形	柱穴	N.35° W	深跡			
49	SB03-P01	0.45	0.41	31	56	87	3層	円	土坑	箱段	周底片		
50	SK02-P03C	0.8	0.54	67		2層	不規則	柱穴	N.111° E	深跡	無		
51	SK02-P06	0.72	0.55	67		5層	柱円	柱穴	N.23° E	深跡			
52	SK02-P07	0.38	0.38	47		2層	柱円	柱穴	N.38° W	箱	深跡・撲み面		
53	SK02-P08	0.41	0.38	53		5層	圓円方形	柱穴	N.48° W	箱	粘土		
54	SK02-P09	0.47	0.36	42		3層	圓円方形	柱穴	N.56° W	箱			
55	SK02-P12	0.48	0.35	42		3層	圓円方形	柱穴	N.46° W	箱段			

SK01出土状況図(VH1r)



SK02出土状況図1(VH1r)



SK02出土状況図2(VH1r)

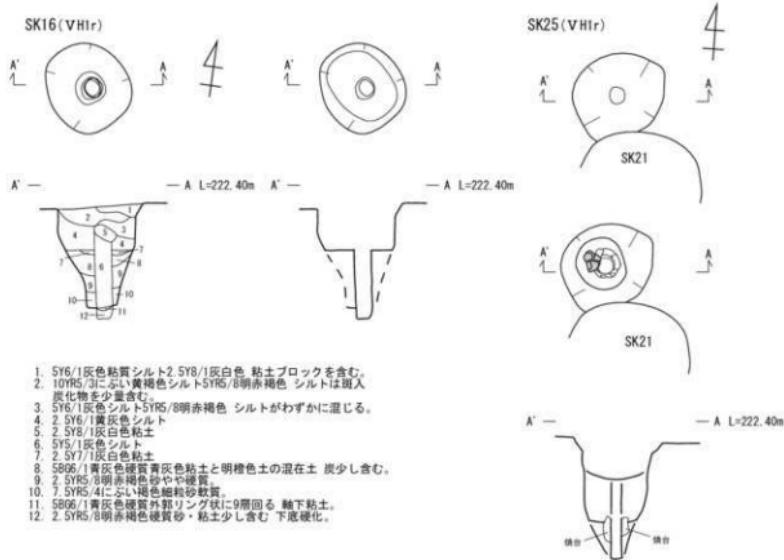


SK02出土状況図3(VH1r)

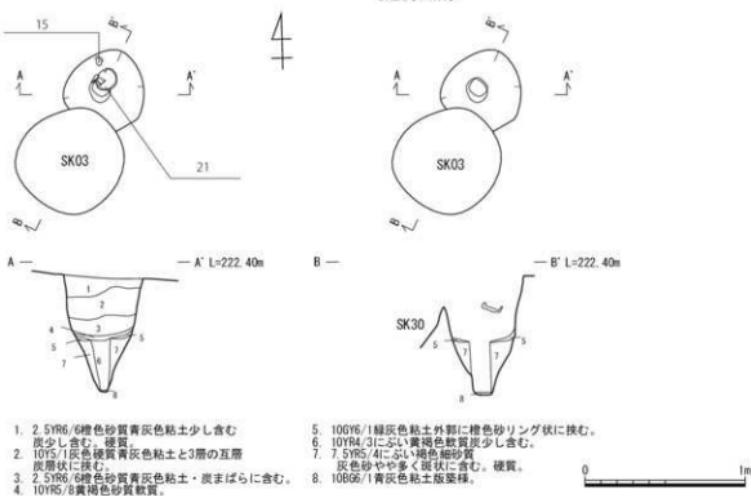


0 1m

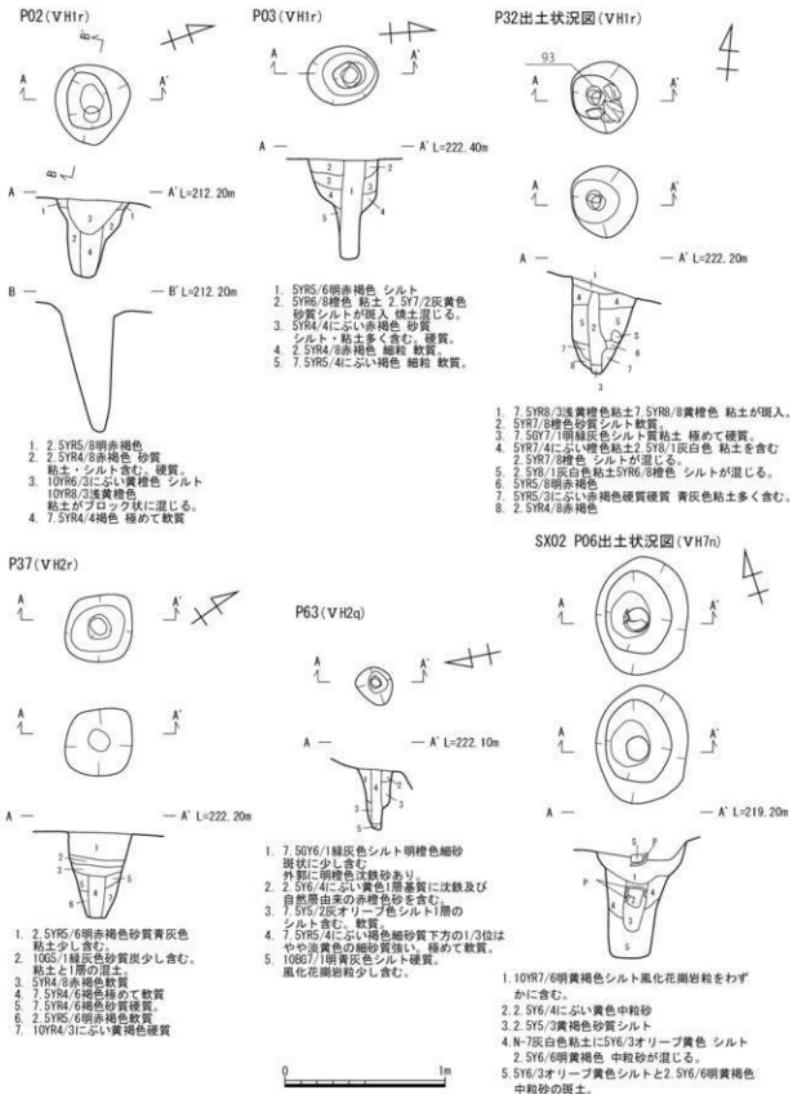
第92図 軸轆ビット1類(柱穴) SK01・02 (1:30)



#### SK28出土状況図 (VHlr)

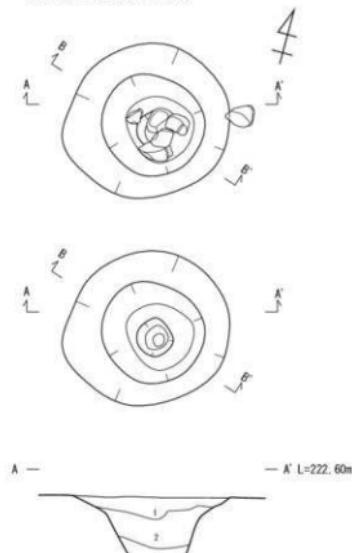


第 93 図 縱幅ビット 1 類 (柱穴) SK16・25・28 (1:30)

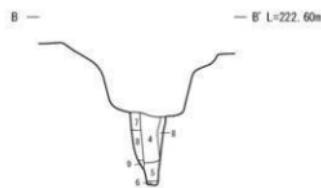
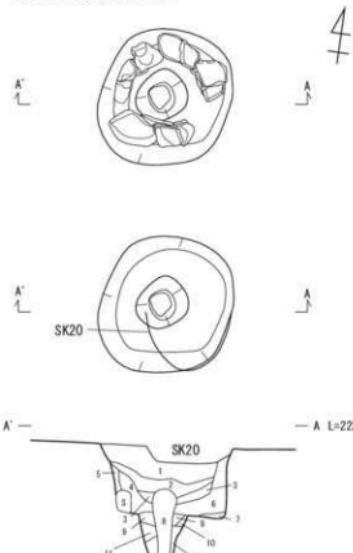


第94図 箱軸ピット1類(柱穴) P02・03・32・37・63、SX02、P06 (1:30)

SK18出土状況図 (IVH20q)



SK21出土状況図 (VIIr)

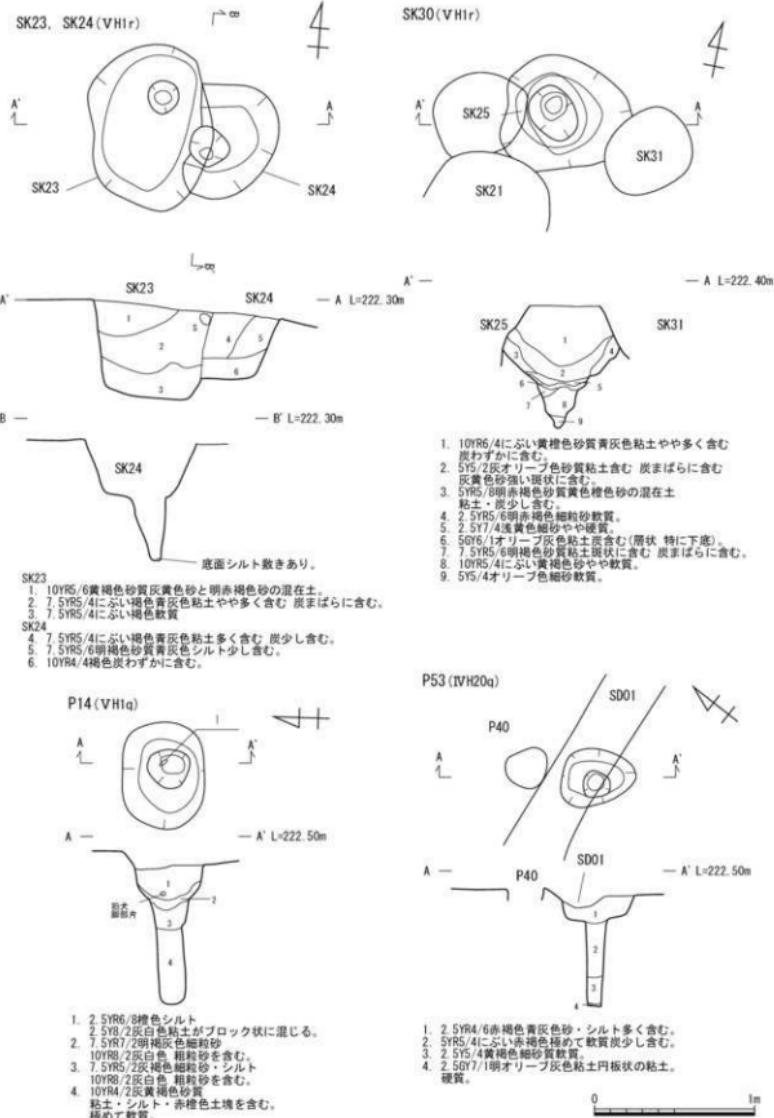


1. 2. SYR5/8明赤褐色シルト粘土多く含む  
炭やや多く含む。  
炭褐色砂質土の斑塊。
2. 7 SYR5/4にぶい褐色シルト粘土含む。
3. 10YR5/4にぶい黄褐色砂質  
淡灰色砂塊やや多く含む。
4. 2.5Y5/4黄褐色砂質軟質。
5. 7 SYR5/4褐色シルト粘土質硬質。
6. 10R6/1明赤褐色シルト粘土質硬質。
7. 10R6/1明赤褐色シルト粘土質硬質。  
外郭に崩落0.5cmの橙色砂块ねじ。
8. 10YR5/4にぶい黄褐色砂質土層少し含む。
9. 10Y6/2オーリーブ灰色細砂質シルト硬質。

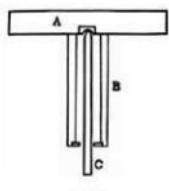
1. 2. SYR6/8橙色シルト2.5Y6/1灰白色 粘土が斑入  
炭化物少量混じる。
2. 10YR5/4にぶい黄褐色軟質青灰色粘土まばらに含む  
炭わずかに含む。
3. 10YR4/4褐色軟質炭度わずかに含む。
4. SYR6 8褐色やや硬質灰色シルト含む。
5. SYR6 8褐色やや硬質灰色シルト、青灰色粘土やや多く含む  
炭やや多く含む。
6. SYR5/8明赤褐色やや硬質灰色シルト・青灰色粘土まばらに含む。
7. 7 SYR5/4にぶい褐色砂質軟質。
8. 2.5Y4/3オーリーブ褐色砂質底面にシルト歛き 樹根貫入。軟質。
9. 7 SYR5/4にぶい褐色砂質0.1cm前後の粘土。  
砂や砂塊を含む。
10. 2.5Y5/6明赤褐色やや硬質。
11. 10YR5/4にぶい黄褐色砂質中2cm前後の青灰色粘土を含む。
12. 2.5Y5/8明赤褐色砂質やや硬質。

0 1m

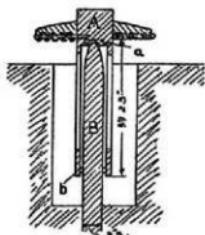
第95図 軸轆ピット2類（土坑）SK18・21（1:30）



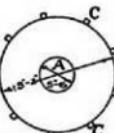
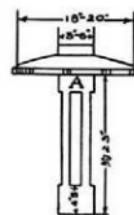
第96図 軸轆ピット2類(土坑)SK24・30、P14・53(1:30)



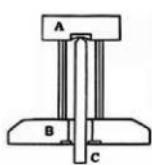
手轍轍



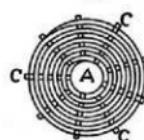
輻轍



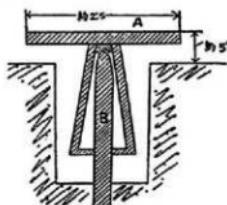
德化窯陶車



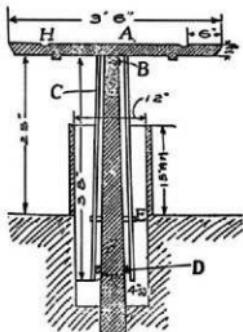
輻轍



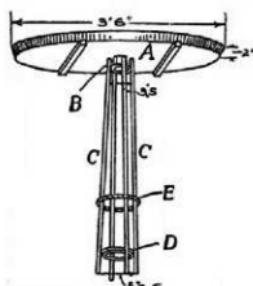
德化窯陶車



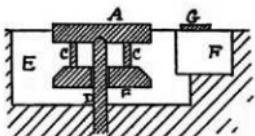
石窯陶車



景德鎮陶車



景德鎮陶車



朝鮮轍轍

$3'6'' = 3\text{ 尺} 6\text{ 寸}$   
「尺」寸

『陶器大辭典』より

第97図 轛轍

## 第2節 桑下東窯跡の遺構変遷

### 1.はじめに

桑下東窯跡は水野川北側の丘陵部に立地し、窯と大規模な工房址が見られる大窯1期操業の窯跡である。調査区は丘陵に沿った形で西からD区、E区、A区、C区、となり、D区、E区、A区が丘陵部分となる。A区とE区の間に谷状を呈した地滑り痕が見られ、旧地形が失われていたため、この辺りの遺構について不明であるが、状況から窯や工房址があったと考えられる。窯は丘陵の頂部近くの斜面にSY01（窯体の一部）が一基見られた。灰原はSY01の下方に広がっていたと思われるが、地滑り等の為すでに滅失していた。輪轤ピットのあり方から遺構の変遷をたどってみた。

### 2.輪轤の設置数について

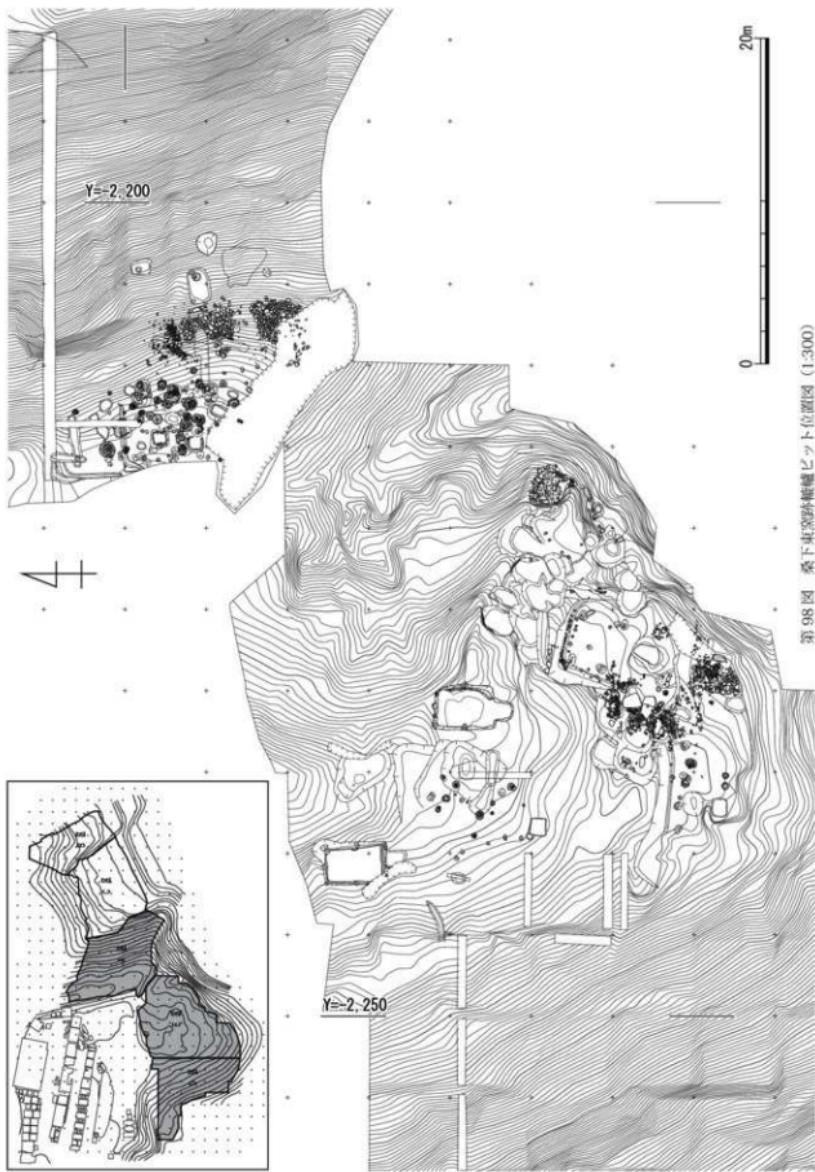
今迄の常識では考えられないロクロピットの数と密度である。桑下東窯跡ではA区40基、E区15基のロクロピット総数55基（第15表）で、これまでの調査で窯跡から二桁数字のロクロピット例はないのである。瀬戸市内窯跡のロクロピット例（第16表）をみると、13窯跡より22基の輪轤ピットがみられ、1基が6窯跡、2基が5窯跡、3基が2窯跡である。

特筆すべきはA区において約50m<sup>2</sup>の範囲に輪轤ピットが40基集中し、密集した輪轤ピットは土坑群の様相を呈していた。このような狭い場所に何度も繰り返し設置する理由はなんであろうか。輪轤を回すスペース、仕事の範囲を考えればとても同時期に同時に稼働していたとはどうてい考えられない状況である。出土遺物は後期IVから大窯3段階の時期の製品がみられ、大窯1段階が出土遺物中64%を占めている。

第16表 瀬戸市内輪轤ピット一覧表

	遺跡名	時期／世紀	古瀬戸様式	山茶碗型式	住所	輪轤数	遺構
1	広久手12号窯跡	11末～12前葉		3型式	瀬戸市吉野町184	1	上坑1の内側
2	広久手7・17号窯跡	13中葉～後葉		7～8型式	瀬戸市宮地町42	2	工房跡P14 P15
3	太子A窯跡	13中葉	前期Ⅲ 輪用	7型式	瀬戸市太子町36-1	1	工房跡
4	五葉窯跡	13末～14前葉	中期I・II期	8型式	瀬戸市計原町13	2	作業場RP1RP2
5	伊併田窯跡	13中葉～後葉		7～8型式	瀬戸市計原町124	2	工房跡
6	小田妻4578号窯跡	13前葉～後葉	前期I b	6型式後半～8型式	瀬戸市本郷町20	3	SBO1
7	晩3～5号窯跡	13末～14中葉	中期IV～後期I期	8～9型式	瀬戸市曉町3	2	工房跡
8	中洞窯跡	13末～14初頭	中期I 前半	8型式	瀬戸市上品野町154	1	SK08可能性
9	下半田川C窯跡	13後半～14前半		7型式末～8型式初期	瀬戸市下半田川町1493	1	
10	細屋田A窯跡	13前葉～中葉	前期II	8型式	瀬戸市東白坂町	2	2基
11	塙草B窯跡	13中葉～後葉		7～8型式	瀬戸市塙草町1-3	1	1基
12	遙間E窯跡	14後葉	後期I	9型式	瀬戸市遙間15	1	SY01 SK04
13	小長曾陶器窯跡	14末15初頭	後期II 室町	9型式	瀬戸市東白坂町1	3	工房跡
14	桑下東窯跡	16前半			瀬戸市上品野町1373	55	工房跡

第98図 桑下東深井町ピット位置図(1:300)



10m

第99図 A・E区鉢植ビット位置図 (1:250)



### 3. 輪轂ピットについて

ロクロビットを形状から 1 類の柱穴型（第 92 図～第 94 図）と 2 類の土坑型（第 95 図、第 96 図）に分類した。形状の違いは、輪轂の構造的な違いなのか、技術向上と生産性の向上のために新たな輪轂（例えばひき輪轂、蹠輪轂）を導入したからなのか、あるいは工房の中での輪轂作業場所を確定（輪轂の固定化）したからなのか、断定できる資料はないが、その可能性は指摘できよう。

ロクロ軸木穴が埋まらないように施あるいは匣鉢等を蓋代わりにして塞ぎ、次の使用に備えているが、桑下東窓跡でもロクロ軸木穴を石と匣鉢で塞いだ状況の輪轂ピットが SK01、SK02、SK03、SK18、SK28、SK31、SK32 の 7 例見られる。輪轂ピット群となった A 区は繰り返し掘られているため、仮に蓋代わりの匣鉢や石があったとしても、新しい輪轂設置により壊されなくなった可能性がある。E 区の輪轂ピットについては密集状況ではないので蓋をした痕跡があつてもよいのだが、その痕跡はなかった。ロクロ軸木穴の蓋については、他の窓跡でも蓋のない例もあり、蓋の有る無しがロクロビットの決定とはならない。

製作する期間のみ、ロクロを設置したため、痕跡として狭い場所に、密集した状況で 40 基ものロクロビットが見られたのではないだろうか。使用期間がすぎればロクロは持ち去られ、ロクロ軸木穴はそのまま放置された。そして次に使用する時、再利用せず新たな場所に設置した。前と同じ場所にこだわらなかったのか、あるいは時が過ぎロクロ軸木穴が埋もれ、位置がわからなくなっていたためか、いずれの場合でも新たに設置している。時にはそのまま再利用となったこともあったかもしれないが、多くの輪轂ピットは新たな整地後に設置しているのである。そのため平面プランとして単体での確認が困難であった。

いずれにしても輪轂ピットの数の多さを考えれば、生産工程の整備確立に伴い、生産能力の向上が図ら

第 17 表 各期別造構一覧表

\* SY-00 は想定した窓 \*\* 列は東側谷部より

	I 期	II 期	III 期	IV 期		
窓体	(E 区) SY-00*	(E 区) SY-00*	(E 区) SY-01 (A 区)	(E 区) SY-01 (A 区)		
工房	(E 区) SB02・03	(E 区) SB04 SB05・01 SB02 上段		SX02 FB9 SX03・06		
土坑 (粘土採掘)		(E 区) SX04・05 SX07・10・11		SX08・12 SX13・14・15		
区画	A 区 溝 SD02・03	A 区 溝 SD01 SK22	P62・61・60 P31・49・42 P44 SD04			
石敷			SX01	SX02-SK07 SX01		
土坑	A 区 SK51・53	A 区 SK50・52				
土坑 (粘土溜)	A 区 SK05	A 区 SK08・40	SK09	SK02 SK04		
輪轂	A 区 1 列 ** P01 SK27 P25 2 列 SK26 P05 3 列 P03 P65 4 列 P11 SK30 6 列 SK32 P58	A 区 1 列 SK24 SK38 P52 2 列 P25 SK28 P115 3 列 P14 P06 SK02-P03 SK02-P06 SK02-P09 SK02-P12	P117 P119 P113 P23 SK39 P115 SX02-P03 SX02-P06 SX02-P09 SX02-P12	1 列 P02 SK02 P08 P121 P37 2 列 P10 P113 SK31 SK16 P04 3 列 SK25	P07 P08 P121 SK01 SK23 P09 P116 P122 3 列 SK21 P08 4 列 SK18 P53	1 列 P32 2 列 P47 SK01 SK23 P09 P116 P122 3 列 SK21 P08 4 列 SK18 P53
輪轂計	11	9	9	10	6	
各期計	11	9		19	16	

れ、その一つとしてロクロを増やし、生産器種を限定することで、短期に大量の製品製作を可能にした。そしてこの時期に生産が飛躍的に上がったと考えるのが妥当ではないだろうか。

#### 4. 遺構の変遷

瀬戸市内では一窯でロクロ 1 基から 2 基で、出土遺物の時期型式から、一つの型式では 1 基、一型式以上では 2、3 基となっており、一窯で一型式ロクロ 1 基が生産単位のようにもみられる。瀬戸市内の窯跡調査の成果より、一窯でロクロ 1 基から 2 基ということから、桑下東窯跡のロクロを 2 基で一組として捉えた。地滑りによって失われた部分を復元するのは困難であるが、出土遺物の時期幅、轆轤ピットの総数と作業空間の広さ等から、A 区南側の E 区に別の窯 1 基（第 100 図下段）SY-00 があったと想定した。

轆轤ピットは 2 基で一組を基本とし、作業ができる間隔を約 1m 程度、遺構の切り合い関係等を考慮し、55 基の轆轤ピットを含め遺構を見ると、南北に列を成すような分布状況の A 区、丘陵縁辺部に沿って並んで分布する E 区と轆轤ピットの分布にも違いが見られ、E 区の轆轤ピットの分布は他の窯跡にも見られるあり方と言えよう。A 区 E 区毎に遺構を第 I 期、第 II 期、第 III 期、第 IV 期に捉えた。

##### 第 I 期 窯 SY-00 工房址 SB02 SB03（第 100 図）

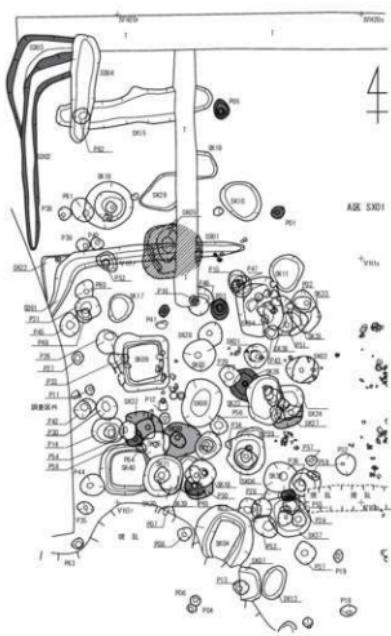
E 区 窯は丘陵南側縁辺に 1 基（SY-00）、窯の西側丘陵の頂部縁辺の狭い範囲に作業場が広がっていたと思われる。窯、作業場とも地滑りにより滅失しているが、窯の西側、丘陵頂部縁辺（標高 221m）西側に不整形な工房址 SB02 と SB03 が南北に見られるが、轆轤ピットはない。頂部縁辺の標高 221m から 222m50cm の中に作業空間があったと考えられる。

A 区 丘陵東側の縁辺（標高 222m）の平坦に轆轤ピットが 11 基、轆轤ピットと区切るかのように北側には溝（SD02、SD03）があり、溝より北には遺構が見られず作業場との区画溝と考えた。轆轤ピットは谷に面し、柱穴型の轆轤ピットが 7 基と多く、粘土溜め土坑（SK08）の回りには土坑型の轆轤ピットが見られる。轆轤ピットの北端は P05、分布は全面へ散らばった感じの広がりでやや南側に偏った傾向がある。そして轆轤ピットより低い標高 219m の斜面中程に土坑（SK51、SK53）が見られる。

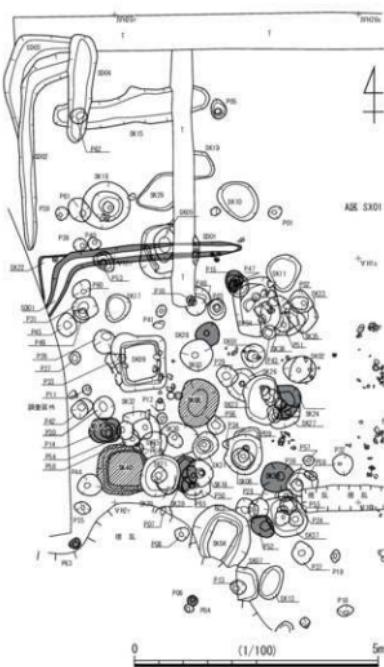
##### 第 II 期 窯 SY-00 工房址 SB04（第 100 図）

E 区 窯は段丘南側縁辺に 1 基（SY-00）、窯の西側丘陵に作業場が広がっていたと思われる。窯の西側、丘陵頂部縁辺に不整形な工房址 SB04 が、SB04 の東南側には粘土探掘坑とおぼしき SX04、SX05、07、SX10、SX11 が見られ、粘土探掘坑の粘土は荒く長石粒も多く含むことから製品用の粘土ではなく、窯の補修等のための粘土と思われる。轆轤ピットはない。作業範囲が標高 220m の位置まで下がっている。

A 区 丘陵東側の縁辺（標高 222m）の平坦に轆轤ピットが 9 基あり、轆轤ピットの北側には溝（SD01、SK22）があり、溝より北には遺構が見られず作業場との区画溝と考えた。轆轤ピットは南側の狭い範囲にまとまる感があり、谷に面して南北に並んだような状況が見られる。三列並び、柱穴型の轆轤ピットは 5 基ある。粘土溜め土坑（SK40）は形状が四角になり内側の回りに溝が巡っている。轆轤ピットが南側にまとまるというのは窯 SY-00 の近い場所に轆轤ピットがあるということでもある。轆轤ピットの東側は谷で、焼成不良品や破損品が廃棄されていた。そして轆轤ピットより低い標高 218m の斜面中程に



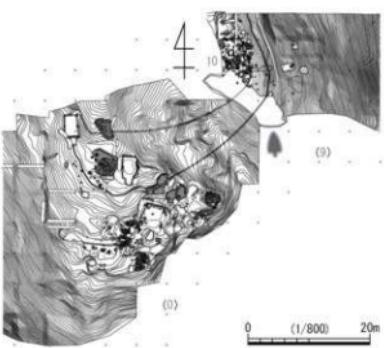
### I期 A区幅幅ピット(11)



## Ⅱ期 A区軸幅ピット(9)



I期 E+A区



1期 E・A区

第100図 遺構変遷図 I・II期 A区、E・A区

は土坑（SK50、SK52）と土坑の南側地山直上で焼土が見られた。窯 SY-00 の操業はこの段階で終了。

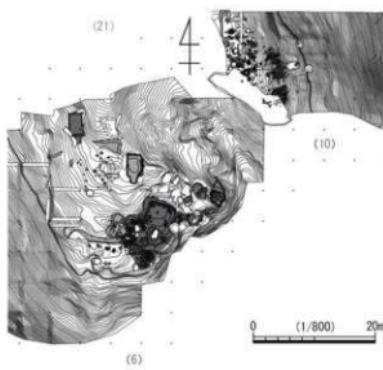
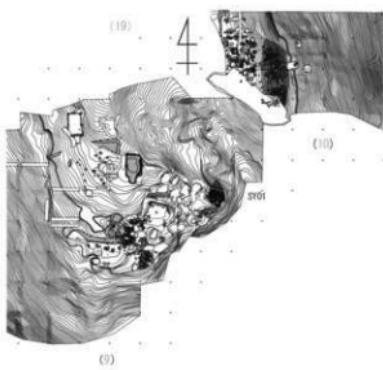
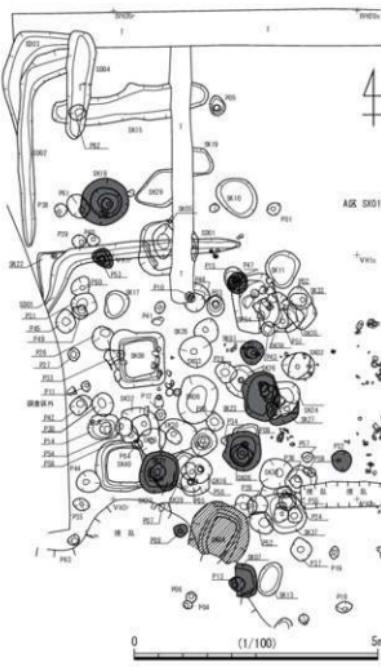
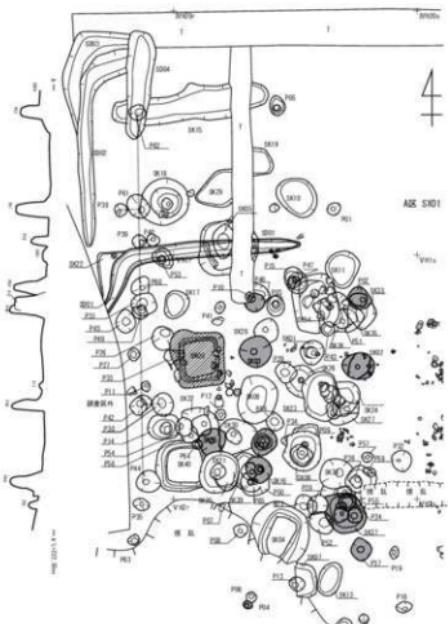
#### 第III期 窯 SY01 工房址 SB01 SB05 SX02 上段 谷側部分造成含む SX01（第 101 図）

E 区 II 期と状況が一変する。新たな窯 SY01 が SY-00 の西側に築かれ、それに伴い SY01 の西北側の標高 221m から 222m の平坦部に SB01 と SB05 が、西南側には平坦部を削りだした SX02 上段部（標高 219m より 220m）が見られる。丘陵頂部に近い北部側建物を伴う工房と丘陵縁辺部の南部側轆轤ビット列とは作業内容が違っていたと思われる。SB01 は出入り口のある南北に長い方形の竪穴建物の工房で、南が入り口で奥に 1 間 × 1 間の柱が見られる。全体を柱の規模から 2 間 × 1 間の建物の工房であるが、入り口から手前半分に柱はなく、床には粘土が厚く堆積し、北東壁側に炭化物が見られた。床面から匣鉢、挟み皿が多く出土したことから、選別乾燥の工房と考えられる。SB05 は SB01 の北西に接し、北側を削り込み東西に長い平坦部が設けられ、南側に 1 基轆轤ビット P117 がある。SB05 前方約 2m の西南の丘陵縁辺（標高 221m 前後）に轆轤ビット P119、P113、P123、P115 が並んで見られる。SX02 は SB01 の南側で丘陵南端の法面を削りだし東西に細長い平坦部（標高 219m）を造成し、北側には水切り用の溝を設け、轆轤ビット SX02-P03、SX02-P06 が見られられる。この細長い平坦部の東側の縁辺にも轆轤ビット SX02-P09 と SX02-P12 が並んで見られ、SX02-P09 と SX02-P12 の西側に見られる不規則な大形土坑は窯補修等の粘土を採掘した採掘坑の可能性もある。

A 区 大きく変化し作業効率が飛躍的に向上したものと思われる。SY01 の窯が新設され、轆轤ビット群の東側部分の谷に面した縁辺部を造成することにより、轆轤作業空間を拡張した。縁辺を盛土し、東側に幅約 4m 長さ約 10m の平坦部分を造成した。地山から 2m を測る盛土をして更に地表に石を敷くという手の込んだ地業である。造成地が縁辺で雨による崩壊を避けるため地表に河床の円礫（花崗岩）を敷いたと考えられる。石敷全体が谷方向に下がった（東に傾斜）状況が遺構としての完掘状態であったため、傾斜が不可解であったが、造成後から調査に至る間に敷石の重みで谷側に傾斜したと解釈した。A 区の西側には柵が設けられている。柵とした杭列は P62、P61、P38、P39、P40、P60、P31、P49、P45、P42、P30、P44 で構成され P38、P40、P45、P30 は柵を補助する補助杭で、北西風を遮る柵と考えたが、杭列の西側が現代の造成工事により滅失し不明で、この柵列が柱列とすれば建物の一郎、差掛けによる覆い屋根の一部などの可能性もある。粘土溜め土坑（SK09、SK04）の形状は方形で、板が回りを巡っていた痕跡と見られる溝が巡る。轆轤ビットは平場の南側、谷に面して並列した状況で 10 基、土坑型が 6 基見られる。作業効率が飛躍的に上がった時期と思われる。

#### 第IV期 窯 SY01 工房址 SX02 南部 SX03、SX06 造成含む SX01（第 101 図）

E 区 SY01 北西側に三ヶ所工房が見られる。標高 221m の縁辺部分を削り竪穴建物の工房 SX06 が、その南東側の平坦部に 4 基の轆轤ビットが、北側に P121、SB03-P01、縁辺側（標高 221m 10cm）に P116、P122 がある。SX06 は竪穴建物で南に入り口があり、長方形を呈した 1 間 × 2 間の壠立柱建物である。床面から匣鉢が 19 個伏せた状態で出土したことから、伏せた匣鉢の上に板を敷けば床になり、製品の乾燥、あるいは倉庫として使用されていたと考えられる。SX03 は窯 SY01 に一番近接する遺構で丘陵の北側斜面（標高 219m ~ 220m）を大規模に切り込み平坦部を造成し、切り込んだ西側と北側に溝



第101図 遺構変遷図 III・IV期 A区、E・A区

のある掘立て建物である。SX03は桑下東窯跡で一番大きな埴立柱建物で立て替えも見られ、匣鉢、挟み皿が山積みの出土状況から窯出し後の製品を選別した建物と見られる。SX03の南側、SX02上段からも匣鉢、挟み皿が山積みの状況で出土しており、この辺りまで選別場所が広がっていたようである。SX02下段部（標高218m60cmより219m）は丘陵の南端で桑下東窯跡の南西端の遺構でもあり丘陵南端の斜面を削りだし平坦部に轆轤ピットSX02-P08、SX02-P07が並んで見られる。粘土溜め土坑SX02-SK02の形状は方形である。また南東端には規模が2m×2mと小さい範囲のA区SX01同様の石敷SX02-SK07が見られ、丘陵縁辺部では上面に石を敷くことにより造成部分の流失崩壊を防いでいたと考えられる。SX03の北東側で不規則な大形土坑SX08、SX12～SX115が見られる。大形土坑は窯SY01の補修等の粘土を採掘した採掘坑の可能性もある。

A区 西側の柵がなくなり、石敷北側部分から匣鉢、挟み皿が重なって出土していることから、SX01でも、窯出し直後の選別作業が行われていた。轆轤ピットは10基で土坑型が6基、谷に面して南北に5基がほぼ一列に見られる。3基の轆轤ピットが南側に偏っていたが、北側にも轆轤ピットが設置されるようになった。轆轤ピット土坑型に角礫を積み上げた石組み井戸の様な新しい轆轤ピットSK06、SK07、SK21が3基見られ、角礫積みの轆轤ピットの出現は設置場所が固定化された結果といえよう。粘土溜め土坑は2基でⅢ期と同様であるがSK05が新たに増え、SK09はⅢ期に統いて使用されたと考えた。

## 5. I期からIV期について

桑下東窯跡のA区E区の遺構について、主に轆轤ピットのあり方より、I期からIV期に分け遺構変遷を試みた。（第17表 各期別遺構一覧表を参照）

I期は、頂部近辺の比較的平な部分を利用し、不整形な形状の竖穴が見られる。作業空間を標高で見ると頂部222m90cmから221mまでの間、1m90cmの比高差の中で作業が行われていた。丘陵全体から見れば規模も小規模である。窯体SY-00に伴う工房である。

II期は、I期の平らな部分を拡張し、縁辺に即した細長い平らな面を造成するなど作業空間をI期より広げ、不整形な竖穴が見られる。窯の補修に使用した粘土を採掘したと考えられる新たな土坑、粘土採掘土坑が見られる。作業空間の標高は頂部から221m前後までの範囲で、全体の規模もI期とほとんど同じである。窯体SY-00に伴う工房である。

III期は、作業空間が大きく変化した時期で、窯SY01が新たに築かれ、大規模に造成された作業場、規格化した建物等、丘陵全体が整備され、生産体制が一変したようである。窯の西南側には粘土採掘土坑が見られる。作業空間の標高は頂部から219mまでと広がり、作業効率が格段に上がった時期と考えられる。SY01に伴う工房である。

IV期は、作業空間がIII期より広がり最大規模となっている。作業空間の標高は頂部から218mまでの範囲である。造成可能な縁辺には平な作業場を造成した。それぞれの作業場毎に作業内容が異なり、丘陵全体で製作・焼成・選別の一連作業が集約され確立した時期と考えられ、「北工房」では製作が、「南工房」では焼成と選別が、行われていた。SY01に伴う工房である。

### 第3節 まとめ

桑下東窯は、頂部より造成可能なぎりぎりの傾斜までの間、丘陵の南北 43m 東西 37m の範囲内で、山側の斜面を削り平坦面を拡張し、窯に伴う各施設を整備している。

平な部分を造成した作業場が A 区 SX01 と SB05.SB04 の南側と SX02 の北側と南西部の四ヶ所に、A 区 SX01 では石敷があった。豊穴 SB02.SB03 が二ヶ所、豊穴建物は SB01.SX06 が二棟、掘立柱建物は SX03 が一棟、粘土溜は六ヶ所 A 区では五ヶ所 SK04.SK05.SK08.SK09.SK40、E 区では一ヶ所 SX02-SK02 が、轆轤ピットは 55 基、A 区 40 基 E 区 15 基である。丘陵の南東端に石敷を施した大規模造成地と大規模大規模な轆轤工房 A 区 SX01、南東端に窯体 1 基 SY01 が、その西側に選別施設 SX02・SX03、工房（轆轤ピット）、乾燥施設 SB01、倉庫 SX06 である。

総破片数 24,725 点 36 器種出土し、藤澤編年の後期IV新段階から大窯 3 段階（15 世紀末から 16 世紀後葉）まで見られた。実測可能な製品 854 点の時期別の構成より大窯第 1 段階が操業の最盛期である。

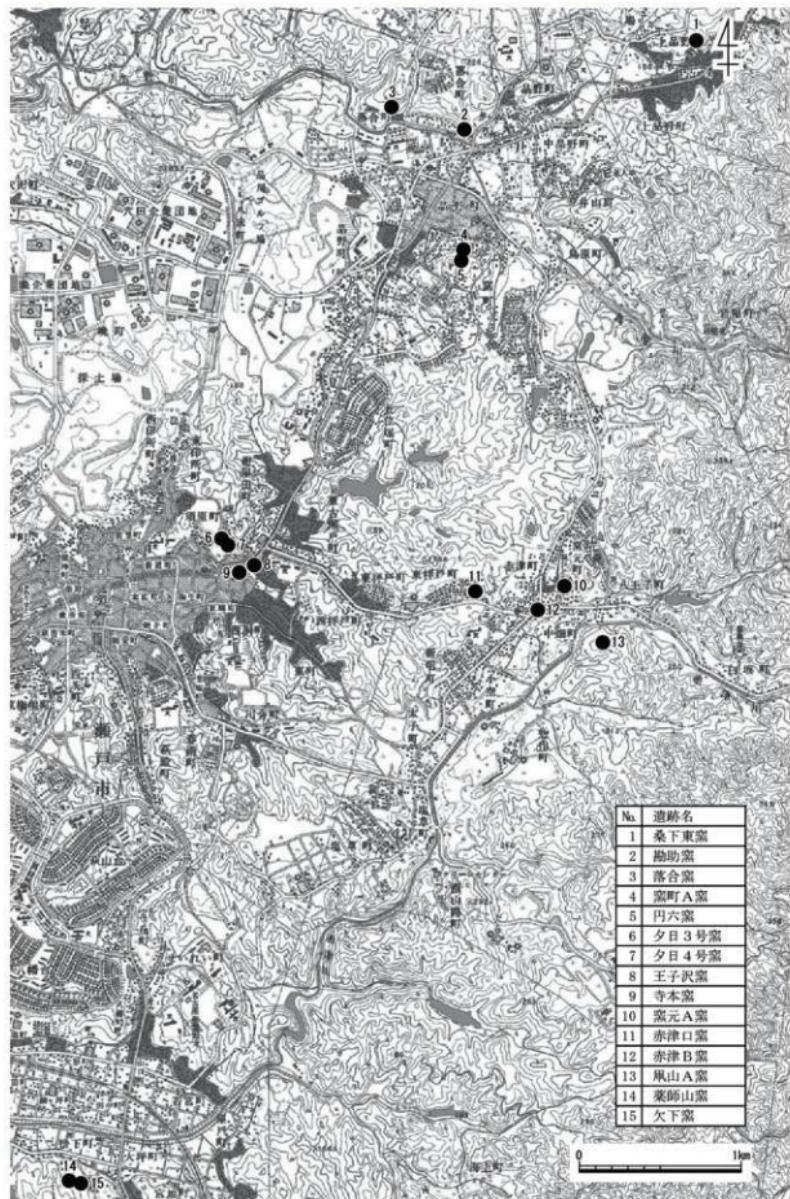
窯跡の遺構について、古瀬戸後期以前の窯跡の工房は一棟ないし二棟であった。古瀬戸後期の鶴窯跡では一基の窯窓のまわりに工房跡が 11 ヶ所あり、その中に乾燥施設が見られる。古瀬戸系施釉陶器窯の土岐市下石山西窯跡では一基の窯窓の周辺に工房跡と思われる平坦面五面とセットとなる乾燥施設が存在している。大窯と窯構造が違い単純にこれらと比較することは難しいが、桑下東窯跡と規模、選別作業施設の掘立柱建物の存在、轆轤ピット等の遺構構成の違いが際立っている。

轆轤工房、掘立柱建物など施設の充実が見られ、丘陵全体で轆轤から製品選別までの一連作業が営まれ、さながら焼き物工場のような状況である。また丘陵の東谷 C 区には区画溝に区画された建物があり、出土遺物が丘陵の工房と比べ器種が豊富で生焼け製品が少なく、焼き上がり良好な製品が多いことから C 区は製品を集荷し出荷する建物があった屋敷と考えられる。

藤澤氏は窯跡の分布から同時操業窯数の検討を行い、後期IV古段階の窯跡が 20 ヶ所、大窯第 1 段階の窯跡が 14 ヶ所と窯の減少等により、生産がより集約的に行われ「窯大将組織」が成立していた可能性を指摘されているが、桑下東窯跡は「窯大将組織」が遺跡から窺える最初の調査例となった。

土壙墓（第 103 図～第 105 図）が A 区の轆轤ピット群の下層、SK34 と E 区の西縁辺部、SK35、と C 区の SK44、B 区の西側斜面の上段 SK30 では大窯 1 期の伏せた擂鉢が、下段 SK12 では江戸期の墓が見られることから、時代を問わず丘陵縁辺の見晴らしのよい場所に墓が設けられていたようである。

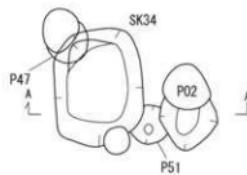
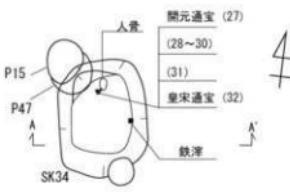
また桑下東窯跡に隣接する上品野西金地遺跡は、繩文時代から江戸時代の複合遺跡で戦国期の遺構から大窯前半の遺物が出土し、窯道具も見られ、丘陵東斜面から南東斜面に大窯前半の遺物包含層が確認されていることから、調査区の北側に桑下東窯に従事した工人集団の居住域があった可能性が想起される。



第102図 大窯跡位置図(1:30,000)

SK34出土状況図

SK33, SK34, P51



SK33  
1. 2. 5YR5/6明赤褐色砂質砂・シルトやや多く含む。炭少し含む。

SK34

1. 7. 50Y7/1黒褐色長石混シルト

2. 5YR5/4にぶい赤褐色砂質砂・シルトやや多く含む。軟質。

3. 2. 5YR4/6赤褐色砂質砂・シルト含む。軟質。

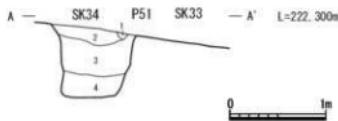
4. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質砂・シルト多く含む。軟質。

P51

1. 5YR5/6明赤褐色砂質褐色土の斑が強い。砂・シルト多く含む。

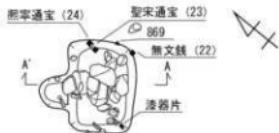
2. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質砂・シルト多く含む。軟質。

3. 10YR4/3にぶい黄褐色極めて軟質混入物少ない。



SK44出土状況図

SK44

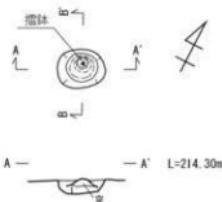


1. 10Y4/1灰色シルト炭化物わずかに混じる。

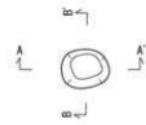


第103図 土壌第1 A区SK34 C区SK44 平面図・土層断面図(1:50)

SK30出土状態図

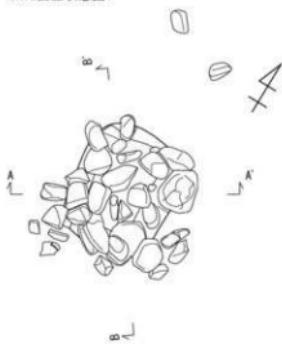


SK30



1. 10YR6/4にぶい黄褐色砂質シルト

SK12出土状態図1



1. 10YR4/6褐色砂質シルト

2. 7.5YR5/8明褐色シルト

3. 10YR6/8明褐色シルト



石の下より銛・数珠玉・キセル・人骨出土。

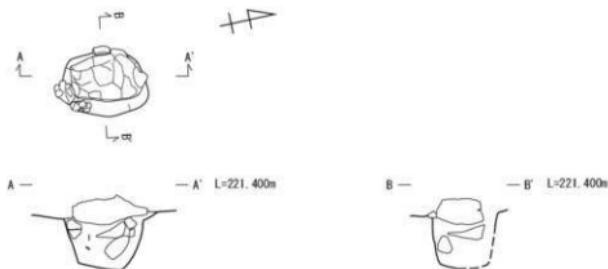


m

0 1m

第104図 土壙墓2 B区 SK12・30 平面図・土層断面図(1:50)

SK35出土状態図1



1. SYR6/6橙色シルト焼土わずかに混じる。

SK35出土状態図2



SK35出土状態図3



第105図 土壙墓3 E区SK35 平面図・土層断面図(1:50)

## 参考・引用文献目録

### A. 発掘調査報告書

- 『妙土窯跡発掘調査報告書』 笠原町教育委員会 1976  
『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第35集 小田妻古窯跡群』 財団法人愛知県埋蔵文化財センター 1992  
『上之山・愛知県瀬戸市吉田・吉田奥遺跡群 広久手古窯跡群 発掘調査報告書』 瀬戸市教育委員会 1992  
『仮供田窯跡』 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター 1993  
『下半田川C窯跡』 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター 1994  
『曉窯跡 第3・4・5号窯跡の調査』 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター 1995  
『太子A窯跡』 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター 1997  
『瀬戸市内遺跡詳細分布調査報告書』 瀬戸市教育委員会 1997  
『八床9・10号窯跡』 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター 1998  
『陶邑窯跡群 泉北若竹保育園移転新築用地 豊田地区・STK99地点』 小谷城郷土館発掘調査団 2001  
『塙草B窯跡』 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター 2002  
『国指定史跡小長曾陶器窯跡』 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター 2002  
『元屋敷陶器窯跡発掘調査報告書』 土岐市教育委員会 2002  
『市内遺跡調査報告IV 五葉窯跡』 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター 2003  
『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第118集 巡問E窯跡』  
財団法人愛知県教育サービスセンター・愛知県埋蔵文化財センター 2003  
『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第119集 金萩遺跡』  
財団法人愛知県教育サービスセンター・愛知県埋蔵文化財センター 2004  
『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第124集 宇トダ窯跡・中洞窯跡』  
財団法人愛知県教育サービスセンター・愛知県埋蔵文化財センター 2004  
『下石西山窯跡発掘調査報告書』 土岐市教育委員会財団法人・土岐市埋蔵文化財センター 2004  
『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第109集 鶴窯跡』  
財団法人愛知県教育サービスセンター・愛知県埋蔵文化財センター 2005  
『耐屋田A窯跡』 財団法人瀬戸市文化振興財團 2009

### B. 論文等

- 井上喜久男 「美濃窯の研究(一) -15~16世紀の陶器生産-」『東洋陶磁 第15・16号』 東洋陶磁学会 1988  
『尾張陶磁』 ニュー・サイエンス社 1992  
『近世の瀬戸・美濃』『東洋陶磁史—その研究と現在—』 東洋陶磁学会 2002  
『日本陶磁の流れ(10)・(11)』『陶説 第604・605号』 2003  
『美濃桃山陶の成立と展開』『東洋陶磁 第36号』 東洋陶磁学会 2007  
『瀬戸窯における陶製貯犬の製作年代』『愛知県陶磁資料館研究紀要15』 愛知県陶磁資料館 2010  
尾野 善裕 「一五・一六世紀における流通・海運の変革—東海地方沿岸遺跡の検討—」  
『国立歴史民俗博物館研究報告 第113集』 国立歴史民俗博物館 2004  
神崎 宣武 「暮らしの中の焼きもの 日本人の生活と文化4』 ぎょうせい 1982  
間口 広次 「美濃・妙土窯の復元とその構造について」『物質文化(33)』 物質文化研究会 1979  
猪崎 彰一 「概説—施釉の器と茶陶のはじまり」『日本陶磁全集9 瀬戸 美濃』 中央公論社 1976  
藤澤 良祐 「瀬戸大窯発掘調査報告」「研究紀要V」瀬戸市歴史民俗資料館 1986  
『大窯期工人集団の史的考察—瀬戸・美濃系大窯を中心とした—』『国立歴史民俗博物館研究報告 第46集』  
国立歴史民俗博物館 1992  
『瀬戸・美濃大窯編年の再検討』『財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要第10輯』 2002  
『瀬戸・美濃大窯の生産と流通』『戦国時代の考古学』 高志書院 2003  
『瀬戸窯跡群』 同成社 2005  
『中世瀬戸窯の乾燥場遺構』『吉岡康輔先生古稀記念論集 陶磁器の社会史』 2006  
『中世瀬戸窯の研究』 高志書院 2008  
橋本 鉄男 「ろくろ ものと人間の文化史 31』 法政大学出版 1979  
本田 静雄 「陶磁の歴史」求龍堂 1976  
吉岡 康暢 「15・16世紀の窯業生産」『東日本における中世窯業の基礎的研究』 国立歴史民俗博物館 1993

### C. その他

- 『原色陶器大辞典』 淡交社 1972  
『日本民具辞典』 株式会社ぎょうせい 1997  
『陶器大辭典 五巻』 五月書房 複刻版 1980  
『張州雑誌 第十二巻』 愛知県郷土資料刊行会 1976  
『瀬戸市史 陶磁史篇二』 瀬戸市 1981  
『瀬戸市史 陶磁史篇 四』 瀬戸市 1993  
『愛知県史 別編 窯業2 中世・近世 瀬戸系』 愛知県 2007  
『窯業民俗資料調査報告1(瀬戸市)』 愛知県教育委員会 1974  
『美濃の古陶』 光琳社 1976  
『日本やきもの集成3』 平凡社 1980  
『陶磁器の文化史』 国立歴史民俗博物館 1998  
『列島に伝がる大窯製品 -東日本の様相-』 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター 1999  
『列島に華開く大窯製品 -西日本の様相-』 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター 2000  
『瀬戸大窯とその時代』 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター 2001  
『シンポジウム 「戦国・織豊期の陶磁器流通と瀬戸・美濃大窯製品・東アジア的視野から-」資料集』  
財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター 2001  
『土岐市収藏品図録II—収藏品にみる美濃窯の歴史—』 土岐市美濃陶磁歴史館 2004  
『愛知県史研究 第13号』 愛知県 2009

遺構一覽表

遺構一覽表

調査区	道路名	Y・x(°)	断面形	埋 土	上部土(下限)	中部土(下限)	下部土(下限)	形状(下限)	深さ	平面形	方位	備 考
A	SK38	VH-1r	深溝	王2層	(0.67)	0.62	0.71	やや長い円	ほぼ東西	P36に切られた。島上斜面上敷きに覆われていた。斜面上に土砂があるが、斜面上に砂取られたのである。		
A	SK39	VH-1r	路段	王3層(傾き方:左傾)	(0.60)	0.70	0.310±0.60	[南北]	[西北・南東]	SK40・VH-2rに切られた。島上斜面上敷きに覆われた。斜面上に土砂があるが、斜面上に砂取られたのである。		
A	SK40	VH-1r	路 間溝	王3層(傾き方:左傾)(色:土)	(1.07)	1.03	0.360±0.40	方	N48°- E	P44に切られた。島上斜面上敷きに覆われた。大部分が斜面上に切られた。SK49と重複する。		
A	P01	VH-20c	路		0.28	0.25	0.54	円内上坡タイプ RP7°		第1種の横断面で上面は灰色土(かみいろど)である。傾き度はかなり大きいが、斜面上に砂取られた。		
A	P02	VH-1r	深溝	王3層(傾き方:左傾)	0.30	0.45	0.82	円内のある方(右傾)	[西北・南東]	傾きが直立しない低い傾きから傾きが大きくなっている。島上斜面から傾きが大きくなっている。		
A	P03	VH-1r	路段	王3層(上部粘土・中層砂質粘土)	0.42	0.38	0.300±0.62	円	N-21°- W	島上斜面上に土砂が明るく見えられる。上面は灰色土(かみいろど)である。傾きが大きくなっている。斜面上に砂取られたが、斜面上に砂取られた。		
A	P04	VH-2r	深溝	王2層(傾き方:左傾)	(0.16)	(0.20)	(0.21)	円上坡タイプ RP7°		上面は灰色土(かみいろど)である。島上斜面上に砂取られたが、斜面上に砂取られた。		
A	P05	VH-20c	路段	王2層(傾き方:左傾)	0.38	0.32	0.140±0.40	円内上坡タイプ RP7°	N-21°- W	小土手タイプ RP7°の上面の傾斜されたものと考えられる。		
A	P06	VH-2r	深溝	王2層(傾き方:左傾)	(0.22)	(0.21)	(0.24)	円上坡タイプ RP7°		上面は灰色土(かみいろど)である。島上斜面上に砂取られたが、斜面上に砂取られた。		
A	P07	VH-2r	深溝	王3層	0.33	0.28	0.52	[圓内方]	N-80°- E	現地に丸い塊状で見られる。		
A	P08	VH-2r	深溝	王2層(傾き方:左傾)	(0.28)	(0.26)	(0.23)	[圓内方]	N-57°- E	現地に丸い塊状で見られる。		
A	P09	VH-1r	路	單	(0.54)	(0.27)	0.14	圓内方	N-11°- W	現地に丸い塊状で見られる。		
A	P10	VH-1r	深溝	王3層(傾き方:左傾)	(0.46)	(0.40)	0.69	円		斜面上に砂取されたが、島上斜面上に砂取されたが、斜面上に砂取された。		
A	P11	VH-1q	跡	王3層(左傾・右傾・斜)	0.21	0.18	0.17	中央のある円		現地に丸い塊状で見られる。		
A	P12	VH-1r	跡	單	0.22	0.20	0.13	圓内方	N-30°- W	島上斜面上に砂取されたら構造		
A	P13	VH-2r	深溝	RP7°(柱 砂質粘土)	(0.31)	(0.28)	円内のある方			SK07とセットとなる上坡タイプ RP7°の側面部分		
A	P14	VH-1q	跡	王3層	0.65	0.51	0.310±0.96	圓内方(土坑タイプ RP7°)	N-88°- E	上面は灰色土(かみいろど)である。底盤の一部が斜面に沿って傾いており、傾き度が大きい。		
A	P15	VH-1r	路段		0.45	0.38	0.210±0.35	圓内方	N-20°- E	上面は灰色土(かみいろど)である。		
A	P16	VH-2r	深溝	王3層(赤褐色)	0.19	0.19	0.46	圓内方	N-45°- W	オーバーハングする小ピット		
A	P17	VH-2r	深溝	王3層(赤褐色)	0.28	0.24	0.39	圓内方	N-48°- W			
A	P18	VH-2r	路	王3層(赤褐色)	0.34	0.22	0.26	圓内方	N-83°- E	斜面と被われる傾きより上位に押出(ほばれ出し)する。		
A	P19	VH-2r	跡	單(赤褐色)	0.27	0.18	0.23	圓内方	N-9°- E			
A	P20	VH-2r	跡	單(赤褐色)	(0.42)	(0.32)	0.15	[圓内方]	N-30°- E	南北に壊滅で不明		
A	P21	VH-2s	跡	王3層(赤褐色)	0.33	0.28	0.18	[圓内不整方]	N-20°- W	上面は瓦砾状の崩壊固化物崩壊。新しい崩壊と思われる。		
A	P22	VH-2s	跡	單(赤褐色)	(0.27)	(0.22)	0.14	[圓内方]	N-54°- W	上面は瓦砾状の崩壊固化物崩壊。新しい崩壊と思われる。		
A	P23	VH-2r	深溝		(0.47)	(0.36)	0.71	円のみのあるやや長い方	N-5°- W	SK04に切られた。柱斜面付近と考えられる。		
A	P24	VH-1-2r	跡	王3層(赤褐色)	0.35	0.34	0.32	圓内方	N-41°- W	島上斜面上敷きに覆われれる。		
A	P25	VH-2s	跡	王3層(左傾)	(0.23)	(0.23)	0.40	不整方	N-29°- E	斜面と被る傾きの塊状の凹みがあり、斜面に沿って走る傾きがある。		
A	P26	VH-1q	跡	王3層(赤褐色)	0.53	0.48	0.64	圓内方				
A	P27	VH-1q	跡	王3層(赤褐色)	0.23	0.23	0.13	圓内方	N-38°- E	柱斜面を含む柱斜面(柱上部倒壊上)に覆われれる。		
A	P28	VH-2r	深溝	深溝(赤褐色)	0.43	0.39	0.65	[圓内]	[東北・西]	断面形状アラウダガオザイ以外。柱斜面と考えられる。		
A	P29	VH-1r	跡	柱(左傾・右傾)	0.42	0.37	0.34	円のみのある方	N-36°- W	柱上部倒壊上に覆われる。内部に砂質土を載せた柱を生れたように考えられる。		
A	P30	VH-1q	跡	2層	(0.46)	0.43	0.30	圓	N-30°- W			
A	P31	VH-1q	跡	王3層(赤褐色)	0.49	0.45	0.62	圓内方	N-60°- E	孤立柱基礎と被る傾きの柱(500)の柱斜面付近で切られれている。		
A	P32	VH-1r	跡	王3層(左傾)	0.42	0.42	0.40±0.60	円のみの長い方	N-30°- W	上面は石敷・積み重ねの転落した塊状の凹みである。柱斜面に覆われる。		
A	P33	VH-1r	跡	砂質土	(0.47)	(0.30)	0.64	[圓内]		柱斜面と被る傾きの柱斜面(柱上部倒壊上)に覆われれる。		
A	P34	VH-1r	跡	赤褐色(柱斜面)	(0.16)	(0.29)	0.39	[南北]		サクラ木架構の柱斜面が覆われる。		
A	P35	VH-2q	跡	赤褐色(柱斜面)	(0.29)	(0.24)	0.64	円のみの強い方	N-41°- W	上面は柱(斜面)の倒壊面であるが、倒壊した跡面に残り残されている。		
A	P36	VH-1r	跡	王2層(柱斜面)	(0.46)	0.56	0.420±0.63	[圓内方]	[西北・南東]	柱斜面をうつし柱基礎と被る傾きの柱(500)の柱斜面付近で切られれている。		
A	P37	VH-2r	跡	王2層(柱斜面)	(0.42)	0.40	0.26±0.62	円のみのある方	N-49°- W	塊状の塊状の柱斜面に覆われる。典型的な柱斜面(柱斜面)と被る。		
A	P38	VH-20q	跡	王3層(左傾)	0.26	0.25	0.26	円のみのある方	N-43°- E	復工(放棄工事)の跡面から新しいビットと被る。		
A	P39	VH-20q	跡	王3層(赤褐色)	0.26	0.26	0.34	円のみのある方	N-42°- W	復工(赤褐色放棄工事)の跡面から新しいビットと被る。		
A	P40	VH-20q	跡	王3層(赤褐色)	0.26	0.24	0.62	円のみのある方	N-43°- W	復工(赤褐色放棄工事)の跡面から新しいビットと被る。		
A	P41	VH-1r	跡	王2層(柱斜面)	0.24	0.18	0.26	円のみのある方	N-39°- E	柱斜面をうつし柱基礎と被る傾きの柱(500)の柱斜面付近で切られれている。		
A	P42	VH-1q	跡	王3層(赤褐色)	0.45	0.33	0.71	円のみのある方	N-48°- E	柱斜面をうつし柱基礎と被る傾きの柱(500)の柱斜面付近で切られれている。		
A	P43	VH-1r	跡	王3層	0.27	0.27	0.41	圓				
A	P44	VH-1q	跡	王3層(赤褐色)	(0.46)	(0.47)	(0.64)	やや角のある円	N-53°- W	孤立柱基礎と被る傾きの柱(500)の柱斜面付近で切られれている。		
A	P45	VH-1q	跡	赤褐色(柱斜面)	0.46	0.41	0.46	やや角のある円	N-5°- W	柱斜面をうつし柱基礎と被る傾きの柱(500)の柱斜面付近で切られれている。		

## 遺構一覧表

調査区	遺構番号	特征	断面形	埋土	長軸 (上端)	長軸 (下端)	短軸 (上端)	短軸 (下端)	深さ	平面形	方位	備考	
A	P46	VH-1r	—	赤褐色土系	(0.40)	(0.27)	0.25	[左]				P10に切られるが、P10の振りり部分の可能性もある。手すりは施設で不明。	
A	P47	VH-1r	階段	赤褐色土系	(0.42)	0.43	0.17(0.46)	[開口方]	[北西・南東]			SK34を切る。軽井戸の底立っていない。	
A	P48	VH-2r	深溝	赤褐色土系	0.62	0.48	0.60	やや長い側円門	N-40° E			右側に切られるが、複数建物壁と推測される複数の柱跡がある。	
A	P49	VH-1r	深溝	赤褐色土系 砂質土	(0.29)	(0.29)	0.69	[開口方]	[北西・南東]			SK16に切られる。武蔵に渡つて改修されたが埋立地のみられ、手すりは施設で不明。	
A	P50	VH-1r	深溝	—	0.58	0.48	0.60	円のみの振り方	N-45° E			SK33に切られる。武蔵に渡つて改修されたが埋立地のみられ、手すりは施設で不明。	
A	P51	VH-1r	深溝	赤褐色土系	(0.38)	0.40	0.56	円				SK33に切られる。砂質土は施設で不明。	
A	P52	VH-2r	深溝	赤褐色土系 砂質土	(0.52)	(0.44)	0.76	やや長い円門	N-50° W			砂質土は施設で不明。	
A	P53	VH-20q <sup>a</sup> VH-14q <sup>b</sup>	凸凹 柱頭・壁・上 部(部)	—	0.45	0.37	0.19(0.71)	円門	N-38° W			底面勾配7°~20°傾斜して改修され、P53を切る。柱頭・壁・上部(部)が改められた。	
A	P54	VH-1r	跡	—	1.2幅	0.38	(0.34)	0.40	やや角のある円門	[北西・南東]			周辺は土塁をもつて改修され、柱頭・壁・上部(部)が改められた。
A	P55	VH-1r	[階段]	赤褐色土系 砂質土	(0.72)	(0.26)	0.38	[開口方]	不明			SK37・38・24・28・36に切られるが、砂質土は施設で不明。柱頭・壁・上部(部)が改められた。	
A	P56	VH-1r	跡	—	1.2幅	(0.38)	0.32	0.37	圓門方	N-37° W			段上部粘土書きに覆われた。
A	P57	VH-1r	跡	[單層] 赤褐色 土系砂質土	0.21	0.21	0.19	赤な方	N-53° E			SK18に切られる。柱頭・壁・上部(部)が改められた。	
A	P58	VH-1r	深溝	—	1.2幅	(0.30)	0.50	円				SK32・40・P64 多切る。断面は手すり状から柱頭・壁・上部(部)が改められた。	
A	P59	VH-1r	深溝	[單層]	(0.29)	(0.17)	0.44	[門]					
A	P60	VH-1q	深溝	—	1.2幅(赤 褐色土系 砂質土)	(0.38)	0.37	0.63	円のみのある不整方				
A	P61	VH-20q	深溝	赤褐色土系 砂質土	(0.51)	(0.41)	0.68	やや長い円門	N-40° W			SK18に切られる。柱頭・壁・上部(部)が改められた。	
A	P62	VH-20q	深溝	赤褐色土系 砂質土	(0.38)	(0.32)	0.60	円のみの振り方	N-56° E			周辺は土塁をもつて改修され、柱頭・壁・上部(部)が改められた。	
A	P63	VH-2q	深溝 2	1.3幅(赤 褐色土系 砂質土)	(0.22)	(0.20)	0.42	円のみの振り方	N-40° E			上部は複数並んでいたが、柱頭・壁・上部(部)が改められた。	
A	P64	VH-1r	深溝	赤褐色土系 砂質土	(0.20)	(0.20)	0.62	やや内角のある円					
A	P65	VH-1r	[深溝 1]	—	(0.4)	(0.4)	0.68	[円のみの振り方] [タイプ別]				垂直する直線すべてに切られる。	
A	SD01	VH-1r	迎面形	2層	3.63	0.35	0.15	[左] 字形	N-83° E			断面はSK16に施設で考慮されるが、夫半は切られた。	
A	SD02	VH-2q	迎面形	2層	4.4	0.5	0.2	[左] 字形	N-43° E			内側に鋸と直角、区画溝? 垂り土を切る。方向は不明。	
A	SD03	VH-2q	迎面形	2層	2.37	0.4	0.15	[左] 字形	N-73° E			区画溝? 方向は柱頭で計測。	
A	SD04	VH-2q	迎面形	2層	2.23	0.55	0.2	西北方向の柱頭	N-53° E			周辺は土塁をもつて改修され、柱頭・壁・上部(部)が改められた。	
C	SK004	V-17q+3	階級	—	(3.6) (3.51)	2.54	2.39	0.52	圓門方	N-61° E			
C	SK014	V-12d	迎面形	1.0層	(1.42) (0.89)	0.74	0.53	0.5	[左] 字形	N-51° E		P17に切られる。手すりは調査区外へ延びる。	
C	SK015	V-12d	迎面形	0層	1.45	0.76	0.8	0.77	0.39	椭門	N-83° E		縫隙
C	SK016	V-11g	段階形	5層	1.34	1.18	1.26	1.13	0.15	やや左の直角	N-57° E		SD19に切られる。
C	SK017	V-12b	迎面形	4層	0.99	0.79	0.97	0.76	0.24	赤んだら門	N-68° E		P61・84 を明る。
C	SK018	V-12b	迎面形	4層	(0.7) (0.47)	0.44	0.42	0.21	[左] 字形	N-51° E		SD10より古く、P08より新しい。P55を切る。	
C	SK019	V-12b	迎面形	1層	0.73	0.68	0.61	0.59	0.15	赤んだら門	N-59° E		P95・96、SD20と切り合ひ、SD20より新しい。
C	SK020	V-12b	迎面形	4層	1.47	1.1	0.76	0.35	0.19	やや左の直角椭門	N-9.9° E		SD23、SK47と切り合ひ
C	SK021	V-12b	内側	4層	0.86	0.73	0.69	0.54	0.1	やや左の直角	N-48° E		SK46より新しい。
C	SK022	V-12b	内側	1層	(0.36) (0.28)	0.33) (0.26)	0.16	0.16	[左] 字形	N-53° E		SK23より新しい。	
C	SK023	V-12b	内側	4層	0.87	0.56	0.77	0.45	0.22	椭門	N-59° E		SK22・24と切り合ひ
C	SK024	V-12b	段階式直面	1層	0.98	0.67	0.73	0.61	0.21	[左] 柱門	N-54° E		SK23と切り合ひ
C	SK025	V-12b	[範囲]	1層	(0.61) (0.43)	0.44	0.33	0.16	[左] 柱門	N-43° W		南北半分を範囲に埋められる。	
C	SK026	V-12b	[範囲]	2層	1.07	0.84	0.7	0.58	0.14	赤んだら門	N-33° E		SK49を切る。
C	SK027	V-12b	段階形	3層	1.15	0.68	1.16	0.69	0.19	赤んだら門	N-32° E		
C	SK028	V-11j	[範囲]	2層	0.99	0.29	0.79	0.52	0.25	[左] 字形	N-70° E		P73より古く、P81を明る。
C	SK029	V-12b	迎面形	1層	0.66	0.54	0.64	0.5	0.06	赤んだら門	N-47° W		SD23と接着する。
C	SK044	V-11b	跡	1層	0.95	0.76	0.98	0.51	0.16	南北に集められた	N-51° E		北辺の振り出しで構造の可能性、SK49を明る。
C	SK045	V-12b	迎面形	2層	0.65	0.33	0.59	0.32	0.16	赤んだら門	N-98° E		SK49と切り合ひ
C	SK046	V-12b	内側	1層	0.36	0.26	0.29	0.2	0.05	赤んだら門	N-45.6° E		SK21に切られる。
C	SK047	V-12b	内側	4層	1.19	1.01	0.56	0.49	0.09	[やや左の直角] 柱門	N-2.2° W		SK20と切り合ひ
C	SK048	V-11j+1	[範囲]	1層	0.98	0.98	0.98	0.98	0.08	柱門	N-26° E		南北半分に柱を規則に埋められる。
C	SK049	V-12b	迎面形	3層	1.15	0.56	0.83	0.52	0.36	赤んだら門	N-42° W		SK26・44・45に切られる。
C	P02	V-1-1b	跡	—	0.37	0.3	0.08	直角門	N-71° W				
C	P03	V-1-1b	段階	—	0.22	0.2	0.06	圓門方	N-36° W				
C	P04	V-1-1b	段階	—	0.2	0.18	0.03	やや左の圓門	N-138° W				
C	P05	V-1-1b	段階	—	0.51	0.44	0.09	左な字門	N-6.6° E				
C	P06	V-1-1b	段階	—	0.27	0.25	0.26	左な字門	N-84° W				
C	P07	V-1-1b	段階	—	0.25	0.2	0.11	左な字門	N-88° W				
C	P08	V-1-1b	段階	—	0.49	0.24	0.11	左な字門	N-10° W				
C	P09	V-1-1b	段階	—	0.39	0.32	0.2	左な字門	N-71° W				
C	P10	V-1-1b	段階	—	0.32	0.25	0.19	左な字門	N-32° W				
C	P11	V-1-1b	段階	—	0.22	0.2	0.27	左な字門	N-92° W				
C	P12	V-1-1b	深溝	2層(下平地 上・平地)	0.41	0.33	0.37	円門	N-99° W		柱筋・材材取り・柱穴・打ち込み杭・柱底レベル 202.940m		
C	P13	V-1-1b	跡	赤褐色土系	0.32	0.27	0.02	赤な字門	N-91° W				
C	P16	V-1-2e	迎面形	2層	0.38	0.39	0.27	圓門方	N-46° E				
C	P17	V-1-2e	段階	1層	0.56	0.34	0.03	赤んだら門	N-24° W				
C	P18	V-1-2e	段階	1層	0.29	0.29	0.44	やや左の圓門	N-48° -W				
C	P19	V-1-2e	深溝	2層	0.5	0.45	0.36	やや左な圓門方	N-41° -W				
C	P20	V-1-2e	深溝	2層	0.47	0.34	0.3	左形	N-73° E		P20は a, b あり		
C	P21	V-1-2e	深溝	1層	0.41	0.35	0.32	やや左な円門	N-34° -W				

## 造構一覧表

番号	造構名	形状	埋土	長軸 (上端)	短軸 (下端)	初期 (上端)	初期 (下端)	深さ	平面形	方位	備考
C P22	V 1-2e	造台形	2層	0.53	0.44	0.45	0.36	0.45	やや左なき圓円方	N -30° - W	
C P23	V 1-2e	造台形	1層	0.42	0.36	0.36	0.36	0.36	やや左なき圓円方	N -47° - W	
C P24	V 1-2e	造台形	2層	0.48	0.44	0.44	0.44	0.44	やや左なき圓円方	N -38° - E	
C P25	V 1-2e	林	1層	0.2	0.16	0.07	不整方	N -44° - E			
C P26	V 1-2e	深林	1層	0.22	0.2	0.2	0.2	0.2	圓円方	N -52° - W	
C P27	V 1-2e	造台形	3層	0.5	0.33	0.4	0.4	0.4	圓円方長方	N -11° - W	
C P28	V 1-1e	林形	1層	0.53	0.37	0.37	0.37	0.37	圓円方	N -40° - W	
C P29	V 1-2e	深林形	1層	0.4	0.31	0.06	0.06	0.06	やや左なき圓円方	N -22° - W	
C P30	V 1-2e	深林形	1層	0.22	0.16	0.03	0.03	0.03	やや左なき圓円方	N -38° - W	
C P31	V 1-2e	林形	3層	0.43	0.3	0.24	0.24	0.24	やや左なき圓円方	N -61° - W	
C P32	V 1-2d	造台形	1層	0.18	0.17	0.171	0.171	0.171	やや左なき圓円方	N -47° - W	
C P33	V 1-1d	林形	4層	0.47	0.42	0.29	0.29	0.29	圓円方	N -51° - W	
C P34	V 1-1d	林形	1層	0.33	0.33	0.46	0.46	0.46	圓円方	N -27° - W	
C P35	V 1-1e	V. 地状	3層	0.42	0.38	0.42	0.42	0.42	圓円方	N -39° - E	
C P36	V 1-1d	深林形	1層	0.3	0.24	0.07	0.07	0.07	やや左なき円	N -32° - E	
C P37	V 1-1d	深林形	1層	0.35	0.23	0.03	0.03	0.03	1方	N -43° - W	
C P38	V 1-1d	深林形	1層	0.32	0.31	0.04	0.04	0.04	圓円方	N -37° - W	
C P39	V 1-1d	深林形	3層	0.27	0.24	0.24	0.24	0.24	やや左なき圓円方	N -45° - E	
C P40	V 1-2d	深林形	1層	0.22	0.21	0.25	0.25	0.25	やや左なき圓円方	N -36° - E	SD17 + 8に切られる
C P41	V 1-1d	林形	1層	0.19	0.17	0.06	0.06	0.06	やや左なき円	N -41° - E	
C P42	V 1-1d	深林	1層	0.23	0.19	0.27	0.27	0.27	圓円方	N -43° - E	
C P43	V 1-1e	林形	2層	0.25	0.24	0.27	0.27	0.27	圓円方	N -45° - E	
C P44	V 1-1e	山丘	2層	0.4	0.37	0.35	0.35	0.35	やや左なき	N -34° - W	
C P45	V 1-1f	深林形	1層	0.16	0.12	0.14	0.14	0.14	やや左なき圓円方	N -21° - W	
C P46	V 1-1f	深林形	1層	0.18	0.16	0.03	0.03	0.03	圓円方	N -45° - E	
C P47	V 1-1f	林形	1層	0.35	0.23	0.19	0.19	0.19	圓円方長方	N -47° - W	
C P48	V 1-1f	深林形	2層(崩削)	0.3	0.26	0.31	0.31	0.31	やや左なき圓円方	N -54° - W	a, b, c の順りでb, c→b→a
C P49	V 1-1f	林形	1層	0.16	0.15	0.2	0.2	0.2	やや左なき圓円方	N -37° - W	
C P50	V 1-1g	深林形	3層	0.65	0.53	0.58	0.58	0.58	やや左なき圓円方	N -28° - W	
C P51	V 1-1g	深林形	2層	0.3	0.28	0.29	0.29	0.29	やや左なき圓円方	N -30° - W	
C P52	V 1-1g	造台形	2層	0.52	0.38	0.2	0.2	0.2	不整形	N -37° - W	
C P53	V 1-20	深林形	1層	0.22	0.18	0.18	0.18	0.18	圓円方	N -43° - E	
C P54	V 1-20	深林	1層	0.46	0.42	0.06	0.06	0.06	圓円方	N -31° - W	
C P55	V 1-1f	深林	1層	0.2	0.14	0.05	0.05	0.05	圓円方	N -54° - E	
C P56	V 1-1e	深林形	1層	0.14	0.11	0.03	0.03	0.03	やや左なき圓円方	N -29° - E	
C P57	V 1-2d	深林形	4層	0.66	0.5	0.36	0.36	0.36	不整形	N -48° - E	SK14を切る
C P58	V 1-1e	林形	1層	0.32	0.3	0.23	0.23	0.23	圓円方	N -36° - E	
C P59	V 1-20	深林	2層	0.4	0.36	0.16	0.16	0.16	やや左なき圓円方	N -45° - E	
C P60	V 1-20 d	林形	1層	0.2	0.18	0.08	0.08	0.08	やや左なき圓円方	N -49° - W	
C P61	V 1-20	林形	1層	0.19	0.12	0.12	0.12	0.12	1方	N -48° - E	SK17に切られる
C P62	V 1-20	林形	6層	0.45	0.42	0.3	0.3	0.3	やや左なき円	N -60° - E	
C P63	V 1-1d	深林	2層	0.27	0.23	0.3	0.3	0.3	やや左なき円	N -1° - E	
C P64	V 1-20	深林形	1層	0.21	0.19	0.18	0.18	0.18	やや左なき円	N -48° - W	
C P65	V 1-20	深林形	1層	0.23	0.19	0.03	0.03	0.03	圓円方	N -50° - E	
C P66	V 1-20	林形	1層	0.2	0.18	0.16	0.16	0.16	圓円方	N -50° - E	
C P67	V 1-20	深林	1層	0.2	0.18	0.27	0.27	0.27	圓円方	N -23° - E	
C P68	V 1-20	深林	1層	0.21	0.2	0.29	0.29	0.29	やや左なき圓円方	N -47° - E	
C P69	V 1-20	深林形	1層	0.38	0.37	0.23	0.23	0.23	円	N -41° - E	SD14を切る
C P70	V 1-20e	深林形	1層	0.26	0.23	0.28	0.28	0.28	やや左なき圓円方	N -44° - E	
C P71	V 1-20e	深林形	2層	0.3	0.24	0.27	0.27	0.27	圓円方	N -58° - E	SD10に切られる
C P72	V 1-20e	深林形	1層	0.2	0.19	0.22	0.22	0.22	やや左なき圓円方	N -36° - E	
C P73	V 1-1d	深林形	2層(2)	0.56	0.51	0.51	0.51	0.51	やや左なき圓円方	N -51° - E	
C P74	V 1-20e	深林形	2層	0.44	0.43	0.73	0.73	0.73	やや左なき圓円方	N -44° - W	
C P75	N 1-20e	深林形	2層	0.53	0.52	0.73	0.73	0.73	圓円方	N -46° - W	
C P76	N 1-20e	深林形	2層	0.42	0.42	0.004	0.004	0.004	やや左なき圓円方	N -48° - W	
C P77	N 1-20e	深林形	1層	0.61	0.55	0.53	0.53	0.53	不整形	N -37° - E	
C P78	V 1-1g	深林形	1層	0.33	0.34	0.09	0.09	0.09	圓円方	N -37° - E	
C P79	V 1-20	林形	1層	0.19	0.18	0.15	0.15	0.15	圓円方	N -43° - E	
C P80	N 1-20	深林	1層	0.29	0.21	0.14	0.14	0.14	左直円	N -48° - E	
C P81	V 1-1d	深林形	2層	0.66	0.66	0.13	0.13	0.13	不整形	N -31° - E	SK28 + PT3に切られる
C P82	V 1-20e	深林	—	0.2	0.17	0.23	0.23	0.23	やや左なき圓円方	N -37° - E	
C P83	V 1-20e	深林形	2層	0.4	0.34	0.35	0.35	0.35	圓円方	N -47° - E	
C P84	V 1-20	—	—	0.33	0.18	0.1	0.1	0.1	—	—	SK17, P62に切られる
C P85	V 1-20	造台形	1層	0.45	0.35	0.25	0.25	0.25	不整形	N -46° - E	SD10に切られる
C P86	V 1-1e	深林形	1層	0.18	0.16	0.16	0.16	0.16	やや左なき円	N -45° - E	P28に切られる
C P87	V 1-1e	深林形	2層	0.44	0.34	0.34	0.34	0.34	圓円方	N -35° - W	
C P88	N 1-20	深林	2層	0.45	0.47	0.37	0.37	0.37	やや左なき円	N -59° - E	
C P89	N 1-20	林形	1層	0.2	0.19	0.12	0.12	0.12	圓円方	N -38° - E	
C P90	V 1-2 f	林形	—	0.13	0.13	0.11	0.11	0.11	圓円方	N -52° - W	
C P91	V 1-2d	深林形	—	0.25	0.25	0.17	0.17	0.17	やや左なき円	N -32° - E	
C P92	V 1-1d	深林形	2層	0.31	0.27	0.41	0.41	0.41	圓円方	N -40° - W	0
C P93	V 1-2e	—	—	0.25	0.23	—	—	—	やや左なき圓円方	N -30° - W	
C P94	V 1-20d	—	—	0.13	0.12	0.04	0.04	0.04	—	—	
C P95	V 1-20e	—	—	0.16	0.21	0.07	0.07	0.07	1方	N -32° - E	
C P96	V 1-20e	—	—	0.25	0.16	0.08	0.08	0.08	1方	N -30° - W	
C P97	N 1-20	造台形	1層	0.27	0.16	0.11	0.11	0.11	圓円方	N -32° - W	
C P98	N 1-20	—	—	0.48	0.41	—	—	—	やや左なき円	N -36° - E	
C P99	N 1-20	—	—	0.09	0.08	—	—	—	圓円方	N -42° - W	
C P100	N 1-20e	—	—	0.09	0.09	—	—	—	圓円方	N -48° - W	
C P101	V 1-1e	—	—	0.15	0.11	—	—	—	やや左なき円	N -77° - E	
C P102	N 1-2a	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
C P103	V 1-1e	—	—	0.1	0.07	—	—	—	やや左なき円	N -4° - E	
C P104	V 1-2 e	—	—	0.1	0.07	—	—	—	円	N -26° - E	
C P105	N 1-20	深林形	2層	0.52	0.59	0.47	0.47	0.47	やや左なき圓円方	N -33° - E	P77に切られる
C P106	V 1-1d	造台形	1層	0.46	0.37	0.24	0.24	0.24	やや左なき円	N -45° - W	

## 遺構一覧表

調査区	遺構番号	サブ	断面形	埋土	長軸 (上端)	長軸 (下端)	短軸 (上端)	短軸 (下端)	深さ	平面形	方位	備考		
C	P107	V I-14	深溝	—	0.3	0.27	—	—	0.35	圓円方	N-35°-W			
C	P108	V I-2e	深溝	—	0.42	0.22	—	—	0.47	E	N-47°-E			
C	P109	V I-1f	浅溝	[1層]	[0.35]	0.29	0.1	[1方]	—	N-34°-E				
C	P110	V I-1f	浅溝	—	[0.63]	0.46	—	0.11	[円]	N-27°-E				
C	P111	V I-2e	—	—	0.09	0.07	—	—	0.11	やや歪な円	N-33°-W			
C	P112	V I-1e	窓	2層	0.51	0.36	—	—	0.26	—	N-39°-W			
C	S004	V I-1b	浅溝	垣石	1.33	0.29	0.14	—	0.14	円周	N-37°-W	小溝		
C	S005	V I-1b-e	浅溝	5層	14.7	0.85	0.18	—	—	方盤調査?	N-57°-W	西内派に植土、因難寺(碑、植物含む)有り、N-58°-W(壁脚側近辺)、最上層は砂利層		
C	S006	V I-1b	浅溝	垣石斜面	2.81	0.79	0.17	東西方向の溝跡	—	—	N-30°-E	S005・14に切らせるがS006・14未調査		
C	S007	V I-2e	窓	逆台形	1層	7.101	0.29	0.09	[円]	字型の溝跡	N-56°-W	北高差北→南へ7cm、SD08-9を切り		
C	S008	V I-1d	逆台形	1層	5.72	0.33	0.05	東北方向の溝跡	N-33°-W	北高差北→南へ14cm、SD17に切られる				
C	S009	V I-1e	—	異色土	2.31	0.26	0.04	東北方向の溝跡	N-19°-E	北高差北→南へ8cm、SD17に切られる。SD7に				
C	S010	V I-20	逆台形	1層	8	0.46	0.25	[円]	字型の溝跡	N-47°-E	北高差北→南へ7cm、コーナー東へ16cm、C区では新しい溝跡			
C	S011	V I-20	逆台形	1層	3.58	0.5	0.17	[円]	字型の溝跡	N-28°-W	北高差北→南へ11cm、SD22と同じ溝跡。SD10に切る。SD12を切る			
C	S012	V I-20	逆台形	[1層]	2.46	0.16	0.09	東北方向の溝跡	N-32°-W	北高差北→南へ7cm、SD10・11に切られる				
C	S013	V I-20	逆台形	2層	4.64	0.38	0.08	[円]	字型の溝跡	N-33°-E	北高差北→南へ11cm			
C	S014	V I-19	逆台形	2層	6.46	0.79	0.13	東北方向の溝跡	N-32°-W	北高差北→南へ14cm、北東に傾斜、北へ7cm→南へ7cm				
C	S015	V I-20	林	—	4	0.18	0.1	[円]	字型の溝跡	N-20°-W	北高差北→南へ14cm、南面コーナー西5.5cm			
C	S016	V I-20	逆台形	2層	2.7	0.35	0.15	東東西方向の溝跡	N-53°-E	北高差北→南へ19cm、P05を切る				
C	S017	V I-20	逆台形	5層	3.69	0.84	0.16	方盤調査?	N-21°-E	SD05と同様溝跡				
C	S018	V I-20	逆台形	[1層]	2.03	0.73	0.2	[円]	字型の溝跡	N-42°-E	P 68と切り合いであり			
C	S019	V I-20	逆台形	1層	5.57	0.24	0.1	東東西方向の溝跡	N-67°-E	北高差北→西へ17cm、SD10・15、SK10を切る				
C	S020	V I-20	逆台形	1層	4.96	0.38	0.1	東北方向の溝跡	N-24°-W	北高差北→南へ44cm、SK19に切られる				
C	S021	V I-20	林	[1層]	2.11	0.2	0.05	東北方向の溝跡	N-65°-E	北高差北→南へ4cm、SD10・19に切られる				
C	S022	V I-20	逆台形	2層	2.82	0.64	0.1	[円]	字型の溝跡	N-25°-W	SD11と同様溝跡、SD12を切る			
C	S023	V I-20	逆台形	2層	1.65	0.43	0.05	東東西方向の溝跡	N-50°-E	SD15と接続、SK20に切られる				
C	S025	V I-19	逆台形	1層	1.94	0.24	0.08	[円]	字型の溝跡	N-3°-E	SD26に切れる。溝跡のなかでもっとも古い溝跡			
C	S026	V I-20	逆台形	2層	1.41	0.45	0.06	東東西方向の溝跡	N-73°-E	SD13に切られる				
D	P14	VH-5	林	3層	[0.46]	[0.41]	[0.07]	不整形	N-22°-E					
E	SK035	V H-5	逆台形	1層	0.87	0.49	0.69	[0.23]	0.6	なんだ棚?	N-24°-E	聖母がいる人		
E	SK036	V H-5	浅圓形	1層	—	—	—	—	—	P116を切る。(○)字型に繩が配列 東西1.2m×南北0.8m				
E	SK037	V H-6	m	—	—	—	—	—	—	U字型に繩北0.7m×東西0.57m				
E	SK038	V H-6	m	—	—	—	—	—	—	東西0.9m×南北0.6mに繩配列				
E	SK039	V H-6	m	—	—	—	—	—	—	東西0.5m×南北0.5mに繩配列				
E	SK040	V H-7	m	—	—	—	—	—	—	東西1.78×南北0.5mに繩配列				
E	SK041	V H-5	n	—	—	—	—	—	—	東西0.7×南北0.7mに植物・繩配列				
E	SK042	V H-5	n	—	—	—	—	—	—	東西1.6×南北0.6mに繩配列				
E	SK043	V H-5	n	—	—	—	—	—	—	東西0.3×南北0.6mに繩配列				
E	SK054	V H-6	m	逆台形	3層	1.11	0.99	1	0.88	0.37	やや歪な円形	N-92°-E	P125を切る。	
E	SK055	V H-5	m	浅圓形	—	[0.56]	[0.56]	[0.51]	[0.51]	[0.22]	—	—	SK03と切り合いでハート内のため詳細は不明	
E	SK056	V H-5	m	浅圓形	—	2.17	1.94	0.79	0.32	0.36	やや歪な圓内方	N-95°-W	SK03を左に	
E	SK057	V H-5	m	逆行形	9層	[2.0]	1.55	1.17	0.55	0.35	不整形圓内方	N-55°-W	SK36・56、P122に切られる	
E	SK058	V H-8	m	逆行形	3層	[1.15]	[0.97]	[1.01]	[0.86]	[0.22]	不整形圓内方	N-24°-W	SK02 SK07を右に切られる	
E	SK059	V H-8	m	逆行形	3層	1.5	0.98	1.66	1.22	0.29	なんだ棚?	N-5°-W	SK02 SK07を右に切られる	
E	P113	VH-5	m	深溝	3層	0.34	0.32	—	0.56	円	N-50°-W	網状のため耕作できなかったが、クロロビットの凹面部分が少ない。		
E	P114	VH-5	m	深溝	1層	0.49	0.42	—	0.56	円の強い方	N-61°-W	—		
E	P115-a	VH-5	m	深溝	—	0.7	0.64	—	0.37	0.56(0.17)	圓内方	N-72°-W	P122と類似、縮穴が底面まで届かず土上上で開拓	
E	P115-b	VH-5	m	深溝	—	[0.32]	—	—	0.28	—	—	—		
E	P116	VH-5	m	深溝	—	[0.51]	—	—	—	0.24	圓内方	N-43°-W	小土坑タイプクロロビット。	
E	P117	VH-5	m	凸	[2.3]	[1.9]	[0.45]	—	—	0.24	0.25(0.51)	やや歪な圓内方	N-46°-E	小土坑タイプクロロビット。
E	P118-a	VH-4	m	深溝	4層	0.38	0.35	—	0.42	圓内方	N-30°-E	—		
E	P118-b	VH-4	m	[1層]	[0.31]	—	—	—	0.16	圓内方	N-56°-W	—		
E	P119	VH-5	m	跡	—	0.26	0.24	—	0.31	圓内方	N-40°-E	小土坑クロロビットと考えられるが不明。細孔を多く持つ。		
E	P120	VH-4	m	林	2層	0.28	—	—	0.54	圓内方	N-40°-E	上層は近づめ地盤でされたような質感		
E	P121	VH-4	m	段段	[2.3]	0.39	—	—	0.29	0.22(0.54)	圓内方	N-60°-W	縮穴から細石片出土。小規模な土坑タイプクロロビットと考えられる	
E	P122	VH-5	m	深溝	3層	0.32	0.28	—	0.43	円	N-45°-W	底部に植土を認め地盤を固定したと考えられる。P115-aと同様、縦溝の外縁に青色の強い粘土質シルトを有する。		
E	P123	VH-5	m	深溝	3層	0.22	0.21	—	0.36	圓内方	N-33°-W	SK04もしくはQ3に関連するピットの可能性がある。		
E	P124	VH-5	m	深溝	3層	0.26	0.26	—	0.51	やや角のある円	N-66°-W	—		
E	P125	VH-5	m	深溝	[0.38]	0.42	—	0.07	不整形	N-54°-W	SK54に切られる			
E	P126	VH-5	m	林	单	0.25	0.22	—	0.16	圓内方	N-44°-W	—		
E	P127-a	VH-5	m	林	[单](植土質シルト)	0.24	0.21	—	0.11	方	N-41°-E	—		
E	P127-b	VH-5	m	跡	[赤色地	[0.17]	—	—	0.10	圓内方	N-37°-E	—		

遺構一覽表

## 遺構一覧表

調査区	遺構番号	特征	断面形	埋土	長軸 (上端)	長軸 (下端)	短軸 (上端)	短軸 (下端)	深さ	平面形	方位	備考
E	SN03	V H-60	—	(5.12)	(4.02)	—	0.56	[方型]	N-47. W	東西2間以上、南北2.4間以上の横跡		
E	P01	V H-60	Ⅱ深溝	5層	0.76	0.46	0.48	0.48	—	円形	N-36. W	柱脚は西側柱列で約2m以上、北側柱列で約2.8m以上と想定
E	P02	V H-60	—	2層	0.60	0.56	0.39	0.39	—	円形	N-34. W	[方型]は北側柱列で約10.4、西側柱列で約24.0、北・西切妻面に範囲を小1%が北端で7.4m、西端で4.5mまで
E	P03	V H-60	—	5層	0.66	0.55	0.69	0.69	—	楕円	N-36. E	
E	P04	V H-70	—	4層	0.36	0.36	0.66	0.66	—	楕円	N-31. W	
E	P05	V H-60	—	1層	0.27	0.22	0.16	0.16	—	楕円	N-37. E	
E	P06	V H-60	—	—	0.36	0.26	0.54	0.54	—	楕円	N-36. E	
E	P07	V H-60	—	—	0.24	0.19	0.32	0.32	—	楕円	N-38. E	
E	P08	V H-60	—	—	0.20	0.19	0.14	0.14	—	楕円	N-43. E	
E	P09	V H-60	—	—	0.39	0.26	0.09	0.09	—	楕円	N-43. E	
E	P10	V H-60	—	—	0.14	0.13	0.09	0.09	—	楕円	N-34. E	
E	P11	V H-60	—	—	0.17	0.15	0.07	0.07	—	楕円	N-44. W	
E	P12	V H-60	—	—	0.15	0.15	0.07	0.07	—	楕円	N-31. W	
E	P13	V H-60	—	—	0.19	0.19	0.1	0.1	—	心丸	N-33. W	
E	P14	V H-60	—	—	0.18	0.16	0.08	0.08	—	心丸	N-49. E	
E	P15	V H-60	—	—	0.64	0.31	0.21	0.21	—	長楕円	N-27. W	
E	P16	V H-70	—	—	0.59	0.38	0.5	0.5	—	長楕円	N-26. W	
E	P17	V H-60	—	—	0.2	0.17	0.1	0.1	—	楕円	N-48. W	
E	P18	V H-60	—	—	0.32	0.29	0.24	0.24	—	心丸	N-35. W	
E	P19	V H-60	—	—	0.19	0.15	0.09	0.09	—	心丸	N-38. W	
E	遺物											
E	SN04	V H-50	林	3層	(3.76)	(1.49)	0.92	0.92	—	—	—	SM5を切る。(断面図120参照)
E	SN05	V H-50	—	—	2.39	1.41	0.93	0.93	—	不整形	N-46. E	SM4を切らる。(断面図120参照)
E	SN06	V H-3+4m	沿面形	6層	5.82	2.71	0.69	0.69	—	凸凹形	N-3. W	万台山北壁 N-88.E、東側柱列北壁 N-3.W
E	P01	V H-3I	深溝	—	—	0.21	0.21	—	方形	N-46. W	航行2.4間、幅1.2間、南面に張り出しの行く建物	
E	P02	V H-3I	深溝	—	0.3	0.28	0.65	0.65	—	方形	N-39. W	梁行、北側柱列約2.2m、柱間は西より約1.1m、約1.1m、南面は新規約2m
E	P03	V H-3.I	—	—	0.49	0.33	1.48	1.48	—	長楕円	N-29. W	東側柱列航行能約3.7m、柱間は北から約1.8m、約1.7m
E	P04	V H-3.I	深溝	—	0.37	0.24	0.85	0.85	—	長楕円	N-61. E	航行能航行能約3.7m、柱間は北から約1.8m、約1.7m
E	P05	V H-4.I	—	—	0.25	0.24	0.19	0.19	—	楕円	N-59. E	建物の外壁面が高さ約3.7m、柱間は北から約1.8m、約1.7m
E	P06	V H-4.I	—	—	0.19	0.18	0.23	0.23	—	心丸	N-52. E	床面には頗る高さ約2.2m、柱間は北より約1.8m、約1.7m
E	P07	V H-4.I	林	—	0.17	0.17	0.30	0.30	—	方形	N-87. W	床面には頗る高さ約2.2m、柱間は北より約1.8m、約1.7m
E	P08	V H-3.I	深溝	—	0.23	0.23	0.41	0.41	—	心丸	N-62. W	
E	SD01	V H-4.I	逆台形	2層	2.4	0.42	0.09	0.09	—	—	N-46° - W	SM006から少し引く。南北柱面と確定。西は田字で不明。やや北側に傾く。壁は風化毛岩台面部分と灰黄色土色に分かれ。切り込みの位置が異なる。
E	SM07	V H-3+5.p	窓型	—	2.82	2.44	0.28	0.28	—	不整形	—	SM009 b-5307 ~ 09a
E	SM08	V H-6.p	—	—	2.73	1.45	1.56	1.56	—	不整形	—	SM7 + 10 + 11を切る
E	SM09	V H-5+6.p	楕円	—	3.27	1.63	0.69	0.69	—	不整形	—	SM09は+5.6を切り。(断面図120参照) SM09 b-5307 ~ 09a
E	SK10	V H-5.p	—	—	2.34	2.0	0.66	0.66	—	不整形	—	SM7 + 8に切り、SM09を切り
E	SK11	V H-5.p	—	—	3.16	1.98	0.68	0.68	—	不整形	—	SM09, 12に切られる
E	SK12	V H-6.p *	—	—	1.97	1.34	0.63	0.63	—	不整形	—	SK11を切り、SK8, SKY-SK03に切りられる
E	P01	V H-6.p	—	—	0.15	0.14	0.11	0.11	—	楕円	N-61. W	
E	P02	V H-6.p	—	—	0.2	0.18	0.28	0.28	—	楕円	N-44°. W	
E	P03	V H-6.p	—	—	0.18	0.18	0.25	0.25	—	楕円	N-42°. W	
E	P04	V H-6.p	深溝	1層	0.19	0.18	0.30	0.30	—	不整形	N-48°. W	
E	P05	V H-6.p	—	—	0.2	0.18	0.47	0.47	—	不整形	N-28°. W	
E	SK13	V H-7.p	浅溝形	—	1.86	1.77	0.71	0.71	—	不整形	—	SK14を切る
E	SK14	V H-7.p	—	—	1.63	1.24	0.39	0.39	—	不整形	—	SK13に切られる
E	SK15	V H-7.p	逆台形	—	(2.18)	1.70	0.89	0.89	—	不整形	—	SKY01-SK02 + 03 + 04に切られる
B	SK002	V H-19	箱型+中央柱付一段	3層	0.87	0.62	0.47	0.32	0.61	—	N-56. E	南北半幅を規定し縦される面積に取りが傾ける
B	SK003	V H-18.p	動形	1層	1.314	1.007	1.02	0.89	0.54	楕円	N-30. W	南北半幅4面による複雑
B	SK006	V H-14.p	深溝形	1層	0.61	0.22	0.51	0.18	0.02	不整形	N-61. E	
B	SK007	V H-14.p	動形	—	1.1	0.76	0.54	0.31	0.51	[不整形]楕円	N-20. W	SK34を切る。難解
B	SK008	V H-14.p	動形	1層	0.63	0.41	0.63	0.39	0.21	[不整形]楕円	—	
B	SK009	V H-14.p	動形	2層	0.82	0.39	0.73	0.46	0.49	[不整形]楕円	—	手差
B	SK010	V H-14.p	動形	1層	(0.79)	(0.81)	0.34	0.23	0.28	[不整形]楕円	—	手差
B	SK011	V H-14.p	浅溝形	1層	1.16	0.86	0.86	0.69	0.3	[不整形]楕円	N-72.8. W	南北半幅で縦される。SK02に切られる
B	SK012	V H-16.p	逆台形	3層	1.27	0.96	1.03	0.58	0.46	手差+不整形	N-7. W	SK33と切る
B	SK013	V H-16.p	動形	1層	0.47	0.37	0.39	0.19	0.32	楕円	N-58. E	
B	SK030	V H-14.p	逆台形	1層	0.5	0.32	0.4	0.26	0.18	[不整形]楕円	N-66. E	SK04に切られる
B	SK031	V H-14.p	動形	3層	1.09	0.77	0.59	0.30	0.56	—	N-21. W	SK7に切られる
B	SK032	V H-16.p	逆台形	2層	0.76	0.58	0.65	0.45	0.21	手差+不整形	N-37. W	SK33を切る。P15と接する
B	SK033	V H-16.p	[逆台形]	3層	0.65	0.33	0.54	0.35	0.28	手差+不整形	N-37. W	SK12と接し、SK32に切られる
B	SK034	V H-14.p	逆台形	2層	0.83	0.62	0.51	0.34	0.25	手差+不整形	N-106. E	
B	P01	V H-18.p	浅溝	—	0.28	—	0.05	0.05	—	手差+不整形	N-26. E	SK02の上に張り出
B	P15	V H-16.p	—	2層	0.3	0.3	0.66	0.66	—	楕円	N-85. E	上端側付近
B	SH01	V H-15.p	動	3層	0.99	—	1.17	1.17	手差+不整形	N-51. W	右側端部	
B	SD01	V H-16.p	逆台形	1層	2.26	1.14	0.26	0.26	—	南北方向の溝跡	N-38°. E	SH01から伸びる
B	SD02	V H-6.p	逆台形	1層	—	—	—	—	—	—	ST01に接する南北溝として欠番	
B	SD03	V H-6.p	—	—	—	—	—	—	—	—	ST01に接する南北溝として欠番	
B	SD04	V H-14.p	逆台形	2層	4.52	1.3	0.55	0.55	—	南北方向の溝跡	N-78°. E	SK11に切りあらわす
B	SD05	V H-14.p	逆台形	—	—	—	—	—	—	—	南北方向の溝跡(1.3段)	

## 遺物一覧表

写真順序	登録番号	遺物番号	器種	口径	底径	高さ	口縁残存率	底部残存率	ダリヤ式	文様	幽浮輪年	月上輪年
51	1	A SK001	環足鉢	9.0	4.9	2.19	5/12	5/12	V Htr	天.1	—	
51	2	A SK001	環足鉢	8.6	5.0	2.3	12/12	12/12	V Htr	天.1	—	
51	3	A SK001	環足鉢	10.6	6.7	2.7	2/12	10/12	V Htr	天.1	大王.a	
51	4	A SK001	環足鉢	8.8	5.25	2.4	12/12	12/12	V Htr	天.1	—	
51	5	A SK001	環足鉢	9.1	4.95	2.4	9/12	12/12	V Htr	天.1	—	
51	6	A SK001	環足鉢	13.3	6.1	2.9	9/12	12/12	V Htr	天.1	—	
51	7	A SK001	環足鉢	15.7	12.5	9.7	12/12	12/12	V Htr	天.1	—	
8	8	A SK002	環足鉢	27.0	—	12.7	2/12	—	V Htr	天.2	—	
9	9	A SK002	環足鉢	11.9	5.4	3.0	10/12	12/12	V Htr	天.2	—	
10	10	A SK002	環足鉢	14.3	7.1	2.8	6/12	12/12	V Htr	天.2	—	
11	11	A SK003	環足鉢	16.47	15.6	10.4	11/12	12/12	V Htr	天.2	—	
12	12	A SK004	環足鉢	12.5	6.0	2.6	12/12	12/12	V Htr	天.2	—	
12	13	A SK005	環足鉢	14.3	6.0	2.7	8/12	12/12	V Htr	天.2	—	
14	14	A SK005	環足鉢	12.2	6.4	5.1	4/12	7/12	V Htr	天.2	—	
15	15	A SK005	環足鉢	12.2	7.0	5.6	6/12	6/12	V Htr	天.2	—	
16	16	A SK005	環足鉢	12.1	5.8	4.8	10/12	12/12	V Htr	天.2	—	
17	17	A SK005	環足鉢	11.0	5.6	4.9	6/12	12/12	V Htr	天.2	—	
18	18	A SK005	環足鉢	11.8	6.2	5.2	3/12	5/12	V Htr	天.2	—	
52	19	A SK005	環足鉢	11.7	5.6	4.1	11/12	12/12	V Htr	—	—	
20	20	A SK005	環足鉢	10.2	6.0	4.2	3/12	8/12	V Htr	—	—	
21	21	A SK005	環足鉢	11.6	6.0	4.2	10/12	12/12	V Htr	—	—	
22	22	A SK005	環足鉢	11.4	6.4	4.0	6/12	12/12	V Htr	—	—	
52	23	A SK005	環足鉢	11.5	6.1	3.9	12/12	12/12	V Htr	—	—	
52	24	A SK005	環足鉢	11.9	5.7	3.9	12/12	12/12	V Htr	—	—	
52	25	A SK005	環足鉢	12.0	5.6	4.0	8/12	12/12	V Htr	—	—	
26	26	A SK008	環足鉢	9.2	6.3	—	9/12	—	V Htr	現存酒	—	
27	27	A SK009	天日井瓶	11.7	—	5.45	3/12	—	V Htr	天.1	—	
52	28	A SK009	環足鉢	11.2	6.3	2.4	11/12	9/12	V Htr	天.1	—	
52	29	A SK009	土面小口鉢	14.2	—	4.7	3/12	—	V Htr	現存酒・天.1	—	
52	30	A SK009	環足鉢	11.85	5.1	2.7	12/12	12/12	V Htr	—	—	
52	31	A SK009	環足鉢	11.8	5.7	2.7	12/12	12/12	V Htr	—	—	
52	32	A SK009	環足鉢	12.0	4.6	1.9	12/12	12/12	V Htr	—	—	
52	33	A SK009	環足鉢	10.7	4.0	2.6	8/12	4/12	V Htr	—	—	
52	34	A SK009	環足鉢	13.5	6.8	2.8	12/12	12/12	V Htr	—	—	
35	35	A SK009	環足鉢	12.0	6.9	—	3/12	—	V Htr	—	—	
36	36	A SK009	環足鉢	12.6	5.3	4.3	12/12	12/12	V Htr	—	—	
37	37	A SK009	環足鉢	11.4	6.1	4.3	12/12	12/12	V Htr	—	—	
38	38	A SK009	環足鉢	11.8	7.1	4.3	12/12	12/12	V Htr	—	—	
39	39	A SK009	環足鉢	12.6	6.6	5.6	12/12	12/12	V Htr	—	—	
52	40	A SK009	環足鉢	11.9	5.5	5.6	12/12	12/12	V Htr	—	—	
41	41	A SK009	環足鉢	12.2	6.6	5.5	12/12	12/12	V Htr	—	—	
53	42	A SK112	壺	13.8	6.0	2.3	9/12	12/12	V Htr	天.1	—	
43	43	A SK112	環足鉢	14.0	6.0	2.3	2/12	5/12	V Htr	天.1	—	
44	44	A SK112	環足鉢	13.0	5.5	2.2	6/12	6/12	V Htr	天.1	—	
45	45	A SK112	環足鉢	12.4	6.0	3.2	4/12	2/12	V Htr	天.1	—	
46	46	A SK124	環足鉢	11.2	5.8	2.0	2/12	6/12	V Htr	—	—	
47	47	A SK124	鍍地鍍金鉢	12.3	5.8	2.55	3/12	12/12	V Htr	—	—	
48	48	A SK005	環足鉢	11.9	7.0	4.3	4/12	4/12	V Htr	—	—	
49	49	A SK124	鍍地鍍金鉢	11.6	6.9	4.6	8/12	7/12	V Htr	—	—	
50	50	A SK208	環足鉢	12.6	5.8	2.3	5/12	12/12	V Htr	—	—	
51	51	A SK208	環足鉢	14.2	6.0	2.4	3/12	2/12	V Htr	—	—	
52	52	A SK208	環足鉢	13.0	6.0	4.0	5/12	12/12	V Htr	—	—	
53	53	A SK209	環足鉢	13.6	6.2	3.3	9/12	12/12	V Htr	—	—	
54	54	A SK209	環足鉢	16.4	11.7	11.7	12/12	12/12	V Htr	—	—	
55	55	A SK32	環足鉢	11.5	6.1	3.0	12/12	12/12	V Htr	天.1	—	
56	56	A SK32	環足鉢	11.6	5.9	5.3	12/12	12/12	V Htr	—	—	
57	57	A SK409	環足鉢	12.2	6.3	5.2	3/12	12/12	V Htr	—	—	
58	58	A SK409	環足鉢	11.5	6.0	4.9	6/12	6/12	V Htr	—	—	
53	59	A SK409	環足鉢	11.5	5.7	4.1	10/12	11/12	V Htr	—	—	
60	60	A SK409	環足鉢	11.6	6.5	3.3	12/12	12/12	V Htr	—	—	
61	61	A SK409	環足鉢	11.4	5.9	4.0	12/12	12/12	V Htr	—	—	
53	62	A SK409	環足鉢	12.0	5.8	4.3	12/12	12/12	V Htr	—	—	
63	63	A SK409	環足鉢	11.5	5.0	2.05	12/12	12/12	V Htr	—	—	
64	64	A SK409	環足鉢	11.8	5.1	2.3	11/12	12/12	V Htr	—	—	
65	65	A SK409	環足鉢	11.6	5.8	2.2	12/12	12/12	V Htr	—	—	
66	66	A SK409	環足鉢	11.8	6.0	2.1	9/12	12/12	V Htr	—	—	
67	67	A SK409	環足鉢	12.0	5.5	2.4	12/12	12/12	V Htr	—	—	
53	68	A SK40	環足鉢	11.7	5.0	2.5	12/12	12/12	V Htr	—	—	
53	69	A SK40	環足鉢	11.5	5.4	1.6	12/12	12/12	V Htr	—	—	
70	70	A SK40	環足鉢	11.65	5.15	2.5	12/12	12/12	V Htr	—	—	
71	71	A SK40	環足鉢	13.75	5.9	2.7	12/12	12/12	V Htr	—	—	
53	72	A SK40	環足鉢	13.6	6.2	2.4	12/12	12/12	V Htr	—	—	
73	73	A SK40	環足鉢	11.8	5.0	高2.8 低1.7	11/12	12/12	V Htr	—	—	
74	74	A SK40	環足鉢	12.0	5.2	高2.7 低1.7	12/12	12/12	V Htr	—	—	
75	75	A SK40	鍍地鍍金鉢	11.2	5.0	2.75	3/12	3/12	V Htr	天.1	—	
53	76	A SK40	環足鉢	11.0	6.5	2.3	11/12	12/12	V Htr	天.1	—	
77	77	A SK40	環足鉢	31.6	—	5.0	2/12	—	V Htr	天.2	—	
78	78	A SK40	環足鉢	—	—	10.0	3.4	4/12	V Htr	天.1	大王.a	
79	79	C SK48	天日井瓶	10.8	—	6.3	2/12	—	V Htr	天.1	—	
53	80	C SK48	環足鉢	11.5	6.25	2.75	3/12	12/12	V Htr	天.1	大王	
54	81	C SK48	環足鉢	10.9	6.0	2.65	5/12	10/12	V Htr	天.1	—	
54	82	C SK48	環足鉢	12.8	6.1	2.9	2/12	5/12	V Htr	天.1	—	

## 遺物一覧表

登録順位	登録番号	区	遺物番号	器種	口径	底径	高さ	口縁残存率	底盤残存率	ダラット	文様	幽浮輪年	月上輪年	
54	83	9	94-48	環状鉢	12.0	6.9	2.95	4/12	12/12	V H30e	印伝	大1	—	
54	84	9	S-3001	環状鉢	9.0	5.2	2.3	12/12	12/12	V H30e	印伝	大1	—	
55	85	9	94-48	研磨棒み抜	—	5.7	1.8	—	12/12	V H30e	印伝	大1	—	
54	86	9	94-48	灯明竹	12.0	16.0	21.2	6/12	12/12	V H30e	印伝	大1	—	
54	87	9	94-48	環鉢	20.4	9.0	12.0	2/12	12/12	V H30e	印伝	大1	—	
54	88	9	94-48	環鉢	23.0	11.0	12.0	1/12	12/12	V H30e	印伝	大1	—	
54	89	9	S-349	環鉢	11.4	5.0	3.2	10/12	12/12	V H30e	印伝	大1	—	
90	90	9	S-3004	環鉢	—	10.6	8.8	4/12	—	—	—	大3?	大1 a	
91	91	9	S-723	環鉢	29.1	—	9.2	1/12	—	V H30e	鏡か斜・大1	—	—	
92	92	9	S-726	環鉢	14.0	7.2	3.2	8/12	12/12	V H30e	印伝	—	—	
93	93	9	S-732	大口茶碗	11.6	—	5.3	9/12	—	V H30e	印伝	大2	—	
94	94	9	S-745	環状鉢	—	4.9	1.1	—	12/12	V H30e	印伝	大1	—	
94	95	9	S-745	環状鉢	8.00	4.6	2.1	7/12	12/12	V H30e	印伝	大1	—	
96	96	9	S-745	環状鉢	11.45	6.55	2.83	4/12	12/12	V H30e	印伝	大1	—	
97	97	9	S-3002	大口茶碗	12.2	—	5.6	2/12	—	V H30e	鏡か斜・大1	—	—	
98	98	9	S-3002	大口茶碗	12.3	—	6.2	3/12	6/12	V H30e	印伝	大1	—	
99	99	9	S-3002	大口茶碗	12.0	—	6.0	10/12	—	V H30e	印伝	大1	—	
100	100	9	S-3002	大口茶碗	11.5	—	5.3	4/12	—	V H30e	印伝	大1	—	
55	101	9	S-3002	大口茶碗	12.0	—	5.9	5/12	—	V H30e	印伝	大1	—	
102	102	9	S-3002	大口茶碗	11.0	—	5.6	4/12	2/12	V H30e	鏡か斜・大1	—	—	
103	103	9	S-3002	大口茶碗	—	4.4	2.4	—	12/12	V H30e	印伝	大1	—	
55	104	9	S-3002	丸瓶	10.95	5.61	5.8	3/12	12/12	V H30e	印伝	大1	—	
105	105	9	S-3002	研磨棒み抜	12.0	5.15	2.6	11/12	12/12	V H30e	印伝	大1	—	
106	106	9	S-3002	研磨棒み抜	12.0	6.01	2.35	7/12	12/12	V H30e	印伝	大1	—	
107	107	9	S-3002	環状鉢	8.35	5.2	2.0	10/12	12/12	V H30e	印伝	大1	—	
108	108	9	S-3002	環状鉢	10.8	6.1	2.53	3/12	6/12	V H30e	印伝	大1	—	
109	109	9	S-3002	環状鉢	11.1	6.7	2.8	11/12	12/12	V H30e	印伝	大1	—	
110	110	9	S-3002	環状鉢	11.2	6.0	2.83	7/12	12/12	V H30e	印伝	大1	—	
111	111	9	S-3002	環状鉢	11.0	5.8	2.73	12/12	12/12	V H30e	印伝	大1	—	
112	112	9	S-3002	環状鉢	11.7	6.3	2.8	7/12	8/12	V H30e	印伝	大1	—	
113	113	9	S-3002	環状鉢	11.7	6.1	2.8	7/12	12/12	V H30e	印伝	大1	—	
114	114	9	A-S3002	環状鉢	10.9	6.35	2.2	6/12	11/12	V H30e	印伝	大1	—	
115	115	9	A-S3002	環状鉢	11.32	5.58	1.52	3/12	12/12	V H30e	鏡か斜・環状鉢	天1	—	
56	116	9	A-S3002	環状鉢	11.5	6.2	1.52	3/12	12/12	V H30e	印伝	大1	—	
117	117	9	A-S3002	環状鉢	11.7	5.53	1.28	3/6/12	12/12	V H30e	鏡か斜×2+拂み皿	天1	—	
118	118	9	A-S3002	環状鉢	14.1	—	8.1	3/12	—	V H30e	鏡か斜・大2	—	—	
119	119	9	A-S3002	環状鉢	—	11.2	10.2	—	5/12	V H30e	鏡か斜・大2	—	—	
120	120	9	A-S3002	環鉢	—	9.2	4.4	—	12/12	V H30e	鏡か斜・大2	—	—	
121	121	9	A-S3002	環鉢	—	24.8	—	8.9	4/12	V H30e	印伝	大1	—	
122	122	9	A-S3002	環鉢	—	28.4	9.8	10.1	7/12	4/12	V H30e	印伝	大1	—
123	123	9	A-S3002	環鉢	—	36.0	—	12.3	3/12	V H30e	印伝	大1	—	
124	124	9	A-S3002	環鉢	—	28.1	8.9	11.6	6/12	12/12	V H30e	印伝	大1	—
125	125	9	A-S3002	環鉢	—	36.8	—	9.5	3/12	—	V H30e	3輪の大2箇	大1 a	—
126	126	9	A-S3002	環鉢	—	28.0	9.4	10.8	3/12	2/12	—	後古鏡	大1 a	—
127	127	9	A-S3002	大口茶碗	13.4	—	6.0	9/12	—	V H30e	後古鏡	—	—	
128	128	9	A-S3002	丸瓶操作	12.0	—	4.7	2/12	—	V H30e	大1	—	—	
129	129	9	A-S3002	環状鉢	11.2	6.0	3.5	2/12	—	V H30e	大1	—	—	
130	130	9	A-S3002	丸瓶	13.45	5.2	2.2	12/12	12/12	V H30e	—	—	—	
131	131	9	A-S3002	拂み皿	11.8	5.15	2.5	9/12	12/12	V H30e	—	—	—	
132	132	9	A-S3002	環鉢	12.0	—	—	3/12	12/12	V H30e	押跡+押蓋	—	—	
133	133	9	A-S3002	環鉢	F-14.6	F-6.61	F-3.2	F-10/12	F-12/12	V H30e	—	—	—	
57	134	9	A-S3002	環状鉢	E-10.7	E-7.13	E-3.96	E-10/12	E-12/12	V H30e	鏡か斜×2	天1	—	
135	135	9	A-S3002	環状鉢	11.05	6.2	4.3	9/12	12/12	V H30e	—	—	—	
136	136	9	A-S3002	環鉢	11.3	6.7	4.2	8/12	12/12	V H30e	—	—	—	
137	137	9	A-S3002	環鉢	10.9	6.2	4.4	12/12	12/12	V H30e	—	—	—	
138	138	9	A-S3002	環鉢	10.0	5.6	3.15	10/12	12/12	V H30e	—	—	—	
139	139	9	A-S3002	環	13.2	—	7.0	2/12	—	V H30e	—	—	—	
140	140	9	A-S3002	環	14.0	11.4	9.8	9/12	12/12	V H30e	—	—	—	
141	141	9	A-S3002	環	14.4	11.3	9.9	7/12	12/12	V H30e	—	—	—	
142	142	9	A-S3002	環	15.2	13.0	10.1	12/12	12/12	V H30e	—	—	—	
143	143	9	A-S3003	環	15.5	12.2	11.1	6/12	12/12	V H30e	—	—	—	
144	144	9	A-S3003	環	15.1	12.0	10.3	7/12	12/12	V H30e	—	—	—	
145	145	9	A-S3003	環	15.2	11.8	11.4	10/12	12/12	V H30e	—	—	—	
57	146	9	A-S3003	環	15.2	12.5	11.2	9/12	12/12	V H30e	—	—	—	
147	147	9	A-S3003	環	15.4	11.8	11.2	8/12	12/12	V H30e	—	—	—	
148	148	9	A-S3003	環	14.8	11.9	9.8	12/12	12/12	V H30e	—	—	—	
149	149	9	A-S3003	環	16.0	12.3	10.6	12/12	12/12	V H30e	—	—	—	
150	150	9	A-S3003	環	14.8	12.1	10.7	12/12	12/12	V H30e	—	—	—	
151	151	9	A-S3003	環	16.4	13.6	10.2	12/12	12/12	V H30e	—	—	—	
152	152	9	A-S3003	環	14.2	10.8	10.8	12/12	12/12	V H30e	—	—	—	
153	153	9	A-S3003	環	15.65	14.42	F-10.58	F-12/12	F-12/12	V H30e	押跡+拂み皿	天1	—	
154	154	9	A-S3003	環	19.6	14.1	9.2	5/12	12/12	—	—	—	—	
155	155	9	A-S3003	環	20.4	16.8	7.0	11/12	12/12	V H30e	—	—	—	
156	156	9	A-S3003	環	19.8	15.7	7.1	4/12	5/12	—	—	—	—	
157	157	9	A-S3003	環	11.6	6.5	4.3	5/12	7/12	—	—	—	—	
158	158	9	A-S3003	環	11.2	5.0	4.4	12/12	12/12	V H30e	—	—	—	
159	159	9	A-S3003	環	12.3	6.1	4.8	12/12	12/12	V H30e	—	—	—	
160	160	9	A-S3003	環	11.8	5.8	5.1	10/12	12/12	V H30e	—	—	—	
161	161	9	A-S3003	環	11.3	6.0	4.2	11/12	12/12	V H30e	—	—	—	

## 遺物一覧表

直付職名	登録番号	直付種番号	器種	口径	底径	高さ	口縁残存率	底盤残存率	ダリヤ式	文様	側溝幅	月上編年
58	1002	A. S.003	鉢	11.0	6.3	4.8	11/12	12/12	V H10			—
	1003	A. S.003	鉢	11.0	6.0	4.3	8/12	12/12	V H10			—
	1004	A. S.003	鉢	12.2	6.4	4.6	11/12	12/12	V H10			—
59	1005	A. S.003	鉢	20.8	15.4	7.3	6/12	12/12	V H10	文様		—
	1006	A. S.003	鉢	24.0	15.0	8.2	10/12	12/12	V H10	文様		—
59	1007	A. S.003	深文様	11.1	6.1	3.0	7/12	7/12	V H10	深文	A.1	A.1.a
	1008	A. S.003	深文様	11.0	5.5	2.0	4/12	6/12	B/H20	文様		—
	1009	A. S.003	深文様	11.0	5.4	2.1	7/12	7/12	V H10	深文		—
	1010	A. S.003	深文様	13.0	5.0	1.7	3/12	6/12	V H10	深文		—
59	1011	A. S.003	深文様	14.3	6.2	2.1	10/12	12/12	V H10	文様		—
60	1012	A. S.003	深文様	14.5	6.4	1.9	6/12	10/12	V H10	深文		—
60	1013	A. S.003	深文様+文織	11.0	5.2	2.3	10/12	12/12	V H10	文織		—
	1014	A. S.003	深文様+文織	12.0	6.0	2.7	11/12	12/12	V H10	文織		—
	1015	A. S.003	深文様+文織	12.7	6.0	2.7	4/12	12/12	V H10	文織		—
	1016	A. S.003	深文様+文織	12.0	5.6	3.2	9/12	12/12	V H10	文織		—
	1017	A. S.003	深文様	10.6	5.0	2.2	4/12	6/12	V H10	深文		—
	1018	A. S.003	深文様	12.1	6.4	2.3	9/12	12/12	—			—
	1019	A. S.003	深文様	11.0	6.0	2.2	12/12	12/12	V H10	深文		—
	1020	A. S.003	深文様	11.1	5.5	2.3	12/12	12/12	V H10	深文		—
	1021	A. S.003	深文様	11.0	5.2	2.4	12/12	12/12	V H10	深文		—
	1022	A. S.003	深文様	12.0	6.0	2.4	8/12	12/12	V H10	深文		—
	1023	A. S.003	深文様	12.2	5.8	2.4	9/12	10/12	V H10	深文		—
	1024	A. S.003	深文様	12.0	5.9	2.3	7/12	12/12	V H10	深文	A.1	—
	1025	A. S.003	深文様	12.0	5.50	2.6	6/12	12/12	B/H20	深文	A.1	—
	1026	A. S.003	深文様	12.0	5.4	2.9	11/12	12/12	V H10	深文	A.1	—
	1027	A. S.003	深文様	12.0	5.2	2.7	6/12	12/12	V H10	深文		—
	1028	A. S.003	深文様+文織	12.7	6.65	2.75	7/12	10/12	V H10	文織		—
	1029	A. S.003	深文様	12.3	5.3	3.0	6/12	12/12	V H10	深文	A.1	—
	1030	A. S.003	深文様	12.0	6.1	2.6	12/12	12/12	V H10	深文		—
	1031	A. S.003	深文様	12.4	6.2	2.0	12/12	12/12	V H10	深文		—
	1032	A. S.003	深文様	12.5	6.7	2.3	9/12	12/12	V H10	深文		—
	1033	A. S.003	深文様	12.8	5.6	2.8	8/12	12/12	V H10	深文		—
	1034	A. S.003	深文様	13.0	5.7	2.3	11/12	12/12	V H10	深文		—
	1035	A. S.003	深文様	13.4	5.6	2.4	8/12	12/12	V H10	深文		—
	1036	A. S.003	深文様	13.2	6.2	2.7	7/12	12/12	V H10	深文		—
	1037	A. S.003	深文様	12.5	5.2	3.2	9/12	12/12	V H10	深文		—
	1038	A. S.003	深文様	12.5	6.0	2.0	7/12	12/12	V H10	深文		—
	1039	A. S.003	深文様	13.6	5.6	2.7	8/12	12/12	V H10	深文		—
	1040	A. S.003	深文様	13.9	5.7	2.4	9/12	12/12	V H10	深文		—
	1041	A. S.003	深文様	12.5	6.7	2.3	9/12	12/12	V H10	深文		—
	1042	A. S.003	深文様	12.8	5.6	2.8	8/12	12/12	V H10	深文		—
	1043	A. S.003	深文様	13.0	5.7	2.3	11/12	12/12	V H10	深文		—
	1044	A. S.003	深文様	13.4	5.6	2.4	8/12	12/12	V H10	深文		—
	1045	A. S.003	深文様	13.2	6.2	2.7	7/12	12/12	V H10	深文		—
	1046	A. S.003	深文様	12.5	5.2	3.2	9/12	12/12	V H10	深文		—
	1047	A. S.003	深文様	12.5	6.1	2.6	12/12	12/12	V H10	深文		—
	1048	A. S.003	深文様	12.5	6.1	2.6	12/12	12/12	V H10	深文		—
	1049	A. S.003	深文様	12.0	5.6	2.7	8/12	12/12	V H10	深文		—
	1050	A. S.003	深文様	12.0	5.7	2.4	9/12	12/12	V H10	深文		—
60	1051	A. S.003	深文様	14.8	7.8	2.8	12/12	12/12	V H10	—		—
60	1052	A. S.003	深文様+文織	12.1	6.1	4.0	12/12	12/12	V H10	文織		—
62	1053	A. S.003	深文様	12.0	6.0	2.7	12/12	12/12	V H10	文織	A.1	—
62	1054	A. S.003	深文様	11.9	5.7	2.3	12/12	12/12	V H10	文織	A.1	—
63	1055	A. S.003	深文様	11.9	5.3	2.3	12/12	12/12	V H10	文織	A.1	—
63	1056	A. S.003	深文様	12.0	5.6	2.3	12/12	12/12	V H10	文織	A.1	—
62	1057	A. S.003	深文様	12.5	6.1	2.6	12/12	12/12	V H10	文織	A.1	—
60	1058	A. S.003	深文様	11.1	4.9	2.3	9/12	12/12	V H10	文織		—
	1059	A. S.003	深文様	11.6	5.6	2.3	12/12	12/12	V H10	文織		—
	1060	A. S.003	深文様	12.1	6.1	4.0	12/12	12/12	V H10	文織		—
	1061	A. S.003	深文様	12.0	6.4	2.7	12/12	12/12	V H10	文織		—
	1062	A. S.003	深文様	12.1	5.8	2.8	10/12	12/12	V H10	文織		—
	1063	A. S.003	深文様	12.0	6.1	4.0	12/12	12/12	V H10	文織		—
	1064	A. S.003	深文様	12.2	6.2	2.8	4/12	12/12	V H10	文織		—
	1065	A. S.003	深文様	11.9	5.1	2.7	5/12	12/12	V H10	文織		—
	1066	A. S.003	深文様	12.0	6.2	2.7	5/12	12/12	V H10	文織		—
	1067	A. S.003	深文様	11.9	5.1	2.7	4/12	12/12	V H10	文織		—
	1068	A. S.003	深文様	12.0	6.0	2.7	5/12	12/12	V H10	文織		—
	1069	A. S.003	深文様	11.9	5.4	2.7	4/12	12/12	V H10	文織		—
	1070	A. S.003	深文様	12.0	6.0	2.7	6/12	12/12	V H10	文織		—
	1071	A. S.003	深文様	11.9	5.1	2.7	5/12	12/12	V H10	文織		—
	1072	A. S.003	深文様	12.0	5.9	2.7	4/12	12/12	V H10	文織		—
	1073	A. S.003	深文様	11.9	5.1	2.7	5/12	12/12	V H10	文織		—
	1074	A. S.003	深文様	12.0	5.9	2.7	4/12	12/12	V H10	文織		—
	1075	A. S.003	深文様	11.9	5.1	2.7	5/12	12/12	V H10	文織		—
	1076	A. S.003	深文様	12.0	5.9	2.7	4/12	12/12	V H10	文織		—
	1077	A. S.003	深文様	11.9	5.1	2.7	5/12	12/12	V H10	文織		—
	1078	A. S.003	深文様	12.0	5.9	2.7	4/12	12/12	V H10	文織		—
	1079	A. S.003	深文様	11.9	5.1	2.7	5/12	12/12	V H10	文織		—
	1080	A. S.003	深文様	12.0	5.9	2.7	4/12	12/12	V H10	文織		—
	1081	A. S.003	深文様	11.9	5.1	2.7	5/12	12/12	V H10	文織		—
	1082	A. S.003	深文様	12.0	5.9	2.7	4/12	12/12	V H10	文織		—
	1083	A. S.003	深文様	11.9	5.1	2.7	5/12	12/12	V H10	文織		—
	1084	A. S.003	深文様	12.0	5.9	2.7	4/12	12/12	V H10	文織		—
	1085	A. S.003	深文様	11.9	5.1	2.7	5/12	12/12	V H10	文織		—
	1086	A. S.003	深文様	12.0	5.9	2.7	4/12	12/12	V H10	文織		—
	1087	A. S.003	深文様	11.9	5.1	2.7	5/12	12/12	V H10	文織		—
	1088	A. S.003	深文様	12.0	5.9	2.7	4/12	12/12	V H10	文織		—
	1089	A. S.003	深文様	11.9	5.1	2.7	5/12	12/12	V H10	文織		—
	1090	A. S.003	深文様	12.0	5.9	2.7	4/12	12/12	V H10	文織		—
	1091	A. S.003	深文様	11.9	5.1	2.7	5/12	12/12	V H10	文織		—
	1092	A. S.003	深文様	12.0	5.9	2.7	4/12	12/12	V H10	文織		—
	1093	A. S.003	深文様	11.9	5.1	2.7	5/12	12/12	V H10	文織		—
	1094	A. S.003	深文様	12.0	5.9	2.7	4/12	12/12	V H10	文織		—
	1095	A. S.003	深文様	11.9	5.1	2.7	5/12	12/12	V H10	文織		—
	1096	A. S.003	深文様	12.0	5.9	2.7	4/12	12/12	V H10	文織		—
	1097	A. S.003	深文様	11.9	5.1	2.7	5/12	12/12	V H10	文織		—
	1098	A. S.003	深文様	12.0	5.9	2.7	4/12	12/12	V H10	文織		—
	1099	A. S.003	深文様	11.9	5.1	2.7	5/12	12/12	V H10	文織		—
	1100	A. S.003	深文様	12.0	5.9	2.7	4/12	12/12	V H10	文織		—
	1101	A. S.003	深文様	11.9	5.1	2.7	5/12	12/12	V H10	文織		—
	1102	A. S.003	深文様	12.0	5.9	2.7	4/12	12/12	V H10	文織		—
	1103	A. S.003	深文様	11.9	5.1	2.7	5/12	12/12	V H10	文織		—
	1104	A. S.003	深文様	12.0	5.9	2.7	4/12	12/12	V H10	文織		—
	1105	A. S.003	深文様	11.9	5.1	2.7	5/12	12/12	V H10	文織		—
	1106	A. S.003	深文様	12.0	5.9	2.7	4/12	12/12	V H10	文織		—
	1107	A. S.003	深文様	11.9	5.1	2.7	5/12	12/12	V H10	文織		—
	1108	A. S.003	深文様	12.0	5.9	2.7	4/12	12/12	V H10	文織		—
	1109	A. S.003	深文様	11.9	5.1	2.7	5/12	12/12	V H10	文織		—
	1110	A. S.003	深文様	12.0	5.9	2.7	4/12	12/12	V H10	文織		—
	1111	A. S.003	深文様	11.9	5.1	2.7	5/12	12/12	V H10	文織		—
	1112	A. S.003	深文様	12.0	5.9	2.7	4/12	12/12	V H10	文織		—
	1113	A. S.003	深文様	11.9	5.1	2.7	5					

## 遺物一覧表

直付職	登録番号	直付種番号	器種	口径	底径	高さ	口縁残存率	底部残存率	ダミーパ	文様	幽浮輪年	月上輪年
64	246	A	縦文瓶	11.4	6.4	2.8	10/12	12/12	—	天1	—	
	247	A	縦文瓶	11.0	6.3	2.8	5/12	2/12	V H1n	天1	—	
	248	A	縦文瓶	11.2	6.7	2.8	11/12	12/12	—	天1	—	
	249	A	縦文瓶	11.0	6.3	2.8	8/12	12/12	—	天1	—	
	250	A	縦文瓶	11.2	5.5	2.5	9/12	12/12	—	天1	—	
	251	A	縦文瓶	11.0	5.8	2.8	10/12	4/12	—	天1	—	
	252	A	縦文瓶	11.2	6.5	2.8	11/12	12/12	—	天1	—	
	253	A	縦文瓶	11.4	6.6	2.8	10/12	12/12	—	天1	—	
	254	A	縦文瓶	11.4	6.7	2.8	7/12	7/12	IV H20k	天1	—	
	255	A	縦文瓶	11.0	6.5	2.8	7/12	12/12	—	天1	—	
	256	A	縦文瓶	11.2	6.6	3.0	8/12	12/12	—	天1	—	
	257	A	縦文瓶	11.42	6.7	2.7	9/12	12/12	IV H20k	天1	—	
	258	A	縦文瓶	11.53	6.25	2.8	13/12	12/12	—	天1	—	
	259	A	縦文瓶	11.62	6.8	2.8	12/12	12/12	—	天1	—	
64	260	A	縦文瓶	11.7	5.7	2.9	8/12	12/12	IV H20k	天1	—	
	261	A	縦文瓶	11.62	6.25	2.8	10/12	12/12	—	天1	—	
	262	A	縦文瓶	11.8	6.4	2.7	12/12	12/12	—	天1	—	
	263	A	縦文瓶	11.8	7.0	2.7	11/12	6/12	—	天1	—	
	264	A	縦文瓶	11.75	6.6	3.1	9/12	12/12	—	天1	—	
	265	A	縦文瓶	11.95	7.1	3.0	9/12	12/12	IV H20k	天1	—	
	266	A	縦文瓶	11.2	7.0	3.9	4/12	4/12	—	天1	—	
64	267	A	縦文瓶	11.0	6.35	2.8	8/12	12/12	V H1n	天1	—	
	268	A	縦文瓶	10.8	5.9	2.4	10/12	10/12	—	天1	—	
65	269	A	上縁付茎	13.0	12.6	18.1	6/12	6/12	—	現存削・丸1	—	
	270	A	上縁付茎	14.2	—	7.7	2/12	—	—	現存削・丸1	—	
	271	A	上縁付茎	13.7	—	8.3	4/12	—	—	現存削・丸1	—	
	272	A	上縁付茎	14.8	—	8.7	2/12	—	V H1n	現存削・丸1	—	
	273	A	上縁付茎	—	11.8	9.8	—	12/12	V H1n	現存削・丸1	—	
	274	A	上縁付茎	—	9.4	7.8	—	8/12	V H1n	天1・2	—	
65	275	A	上縁付茎	—	12.0	13.7	—	12/12	V H1n	現存削・丸1	—	
	276	A	縦文	19.2	—	11.7	4/12	—	B H20k	天1・2	天1a	
65	277	A	縦付付大皿	80.8	13.6	11.3	4/12	6/12	B H20k	現存削	—	
	278	A	縦文	27.6	9.8	10.0	3/12	3/12	V H1n	現存削	—	
	279	A	縦文	42.0	—	14.4	4/12	—	V H1n	天1	—	
	280	A	縦文	36.0	10.6	14.4	3/12	2/12	V H1n	天1	—	
	281	A	縦文	29.2	10.8	11.3	3/12	4/12	V H1n	天1	—	
	282	A	縦文	29.2	9.1	10.9	3/12	2/12	V H1n	現存削・丸1	—	
65	283	A	縦文	28.1	10.4	10.3	5/12	12/12	V H1n	天1	—	
	284	A	縦文	29.6	9.5	11.2	4/12	7/12	V H1n	天1	—	
	285	A	縦文	30.6	9.1	10.6	5/12	12/12	V H1n	天1	—	
	286	A	縦文	28.8	10.2	11.8	3/12	3/12	B H20k	天1・2	—	
	287	A	縦文	36.2	11.0	13.8	12/12	12/12	—	天1	—	
	288	A	縦文	39.6	—	16.1	3/12	—	V H1n	天1	—	
	289	A	縦文	29.4	9.2	12.2	11/12	12/12	B H20k	天2・削平	—	
	290	A	縦文	29.8	9.5	12.2	6/12	12/12	B H20k	天2・削平	—	
	291	A	縦文	28.6	10.0	11.9	1/12	6/12	—	天2	—	
	292	A	縦文	30.2	11.6	16.7	5/12	1/12	—	天2	—	
66	293	A	縦文	28.3	10.3	15.2	7/12	7/12	—	天2	—	
	294	A	縦文	12.4	7.2	2.2	4/12	4/12	V H1n	天1a	天1a	
	295	A	縦文	16.7	13.9	10.8	5/12	5/12	B H20k	—	—	
	296	A	縦文	11.9	5.9	4.0	4/12	12/12	V H1n	—	—	
	297	A	小形	最大幅3.2	—	厚2.12	—	—	現存削・部分削	—	—	
76	298	A	鉢	最大幅6.2	前後幅9.0	堆存高14.0	—	—	H1n・部分削 H20k・削平 V H1n・V H20k B H20k・V H30	—	天1a	
	299	A	鉢	最大幅5.1	前後幅4.3	堆存高1.3	—	—	V H20k	—	天1a	
	300	A	鉢	最大幅6.1	前後幅4.6	堆存高1.6	—	—	V H20k	—	天1a	
	301	A	鉢	最大幅1.1	前後幅1.0	—	—	—	V H20k	—	天1a	
	302	A	鉢	最大幅1.2	前後幅1.0	—	—	—	V H30	—	天1a	
	303	A	鉢	12.4	—	5.8	6/12	—	V H20k	現存削・丸1	—	
	304	A	鉢	11.8	4.5	5.8	10/12	12/12	V H1n	天1	—	
	305	A	鉢	11.8	4.5	7.2	4/12	12/12	V H20k	天1	—	
	306	A	鉢	12.2	4.1	6.6	5/12	12/12	V H20k	天1	—	
	307	A	鉢	11.2	—	5.7	3/12	—	V H20k	天1・2	—	
	308	A	鉢	12.0	—	5.6	2/12	—	V H1n	天1	—	
	309	A	鉢	12.0	5.4	6.5	12/12	8/12	V H20k	天1	—	
	310	A	鉢	12.0	—	4.7	2/12	—	V H1n	通行	天1	—
	311	A	鉢	11.8	5.6	6.3	7/12	12/12	V H20k	天1	天1a	
	312	A	鉢	—	5.8	1.7	—	—	5/12	V H1n	天1	—
	313	A	鉢	8.2	5.0	2.1	2/12	3/12	V H19f	天1	—	
67	314	A	鉢	8.8	5.3	2.4	5/12	8/12	V H19f	天1	天1a	
	315	A	鉢	8.9	5.8	2.1	3/12	3/12	V H30	天1	—	
	316	A	鉢	9.4	5.1	2.5	4/12	6/12	V H19f	天1	—	
	317	A	鉢	10.8	5.3	2.6	9/12	12/12	V H20k	現存削	—	
	318	A	鉢	11.4	6.1	2.7	12/12	12/12	V H20k	天1	—	
	319	A	鉢	11.2	6.2	2.7	8/12	12/12	V H19f	天1	—	
68	320	A	鉢	11.2	7.0	2.6	11/12	12/12	V H20k	天1	—	
	321	A	鉢	11.0	6.3	2.8	11/12	8/12	V H20k	天1	—	
	322	A	鉢	11.3	6.8	2.8	12/12	12/12	V H20k	天1	—	
	323	A	鉢	11.2	6.2	2.6	12/12	12/12	V H20k	天1	—	
	324	A	鉢	11.0	6.4	2.6	4/12	12/12	V H19f	天1	—	
	325	A	鉢	11.4	6.2	2.7	10/12	12/12	V H20k	天1	—	
	326	A	鉢	11.7	6.0	2.6	12/12	10/12	V H20k	天1	—	

## 遺物一覧表

写真順番	登録番号	式道番号	器種	口径	底径	高さ	口縁残存率	底盤現存率	ダリヤ式	文様	幽浮輪年	月上輪年	
68	327	△	環足盤	11.0	6.1	2.8	6/12	9/12	V 13a		△	-	
	328	△	環足盤	11.4	6.3	2.8	7/12	12/12	B/H20w		△	-	
	329	△	環足盤	11.7	6.6	2.8	11/12	12/12	B/H20w		△	-	
	330	△	環足盤	11.3	4.3	2.7	10/12	10/12	B/H20w		△	-	
	331	△	環足盤	11.2	6.5	2.5	6/12	12/12	V 13a		△	-	
	332	△	環足盤	11.3	6.2	2.8	12/12	12/12	B/H20w		△	-	
	333	△	環足盤	11.6	6.7	2.8	9/12	12/12	B/H20w		△	-	
	334	△	環足盤	11.0	6.1	2.8	8/12	12/12	B/H20w		△	-	
	335	△	環足盤	11.8	6.4	2.8	11/12	12/12	B/H20w		△	△上a	
	336	△	環足盤	11.4	6.4	2.8	7/12	11/12	B/H20w		△	-	
	337	△	環足盤	11.4	6.7	2.7	3/12	12/12	V H1a		△	-	
	338	△	環足盤	11.2	5.8	2.7	4/12	6/12	B/H20w		△	-	
	339	△	環足盤	11.2	6.1	2.8	9/12	12/12	B/H20w		△	-	
	340	△	環足盤	11.4	6.0	2.8	7/12	5/12	B/H20w		△	-	
	341	△	環足盤	11.6	6.4	2.8	2/12	5/12	B/H20w		△	-	
	342	△	環足盤	11.7	6.4	2.7	1/12	12/12	B/H20w		△	-	
68	343	△	環足盤	12.0	6.1	2.7	10/12	12/12	B/H20w		△	-	
	344	△	環足盤	12.1	7.1	2.8	1/12	11/12	V H1a		△	-	
	345	△	環足盤	11.4	6.2	2.8	5/12	12/12	V H1a	印模	△	△上	
	346	△	環足盤	9.5	5.2	2.5	8/12	12/12	V H1a	印模	△	-	
	347	△	環足盤	9.4	5.6	2.8	8/12	11/12	B/H20w	印模	△	-	
68	348	△	環足盤	9.2	5.4	2.8	12/12	12/12	B/H20w	印模	△	-	
	349	△	環足盤	—	3.2	1.7	—	8/12	V H1a	印模	△	△+2	
	350	△	環足盤	11.5	6.0	2.8	8/12	11/12	V H1a	印模	△	-	
	351	△	環足盤	—	6.0	2.8	—	12/12	V H2a	印模	△	-	
	352	△	環足盤	11.9	6.6	3.0	4/12	5/12	B/H20w	印模	△	-	
	353	△	環足盤	9.4	5.2	2.7	1/12	12/12	V 110f	印模	△	-	
	354	△	環足盤	9.0	5.0	2.1	7/12	12/12	V 36a	印模	△	-	
	355	△	環足盤か丸皿	7.2	4.9	1.3	—	10/12	V H1a	印模	△	△+2	
	356	△	環足盤	11.4	5.8	3.1	10/12	10/12	B/H20w	印模	△	-	
	357	△	環足盤	12.2	7.0	2.8	3/12	6/12	B/H20w		△	-	
68	358	△	環足盤	11.2	7.0	2.5	3/12	6/12	V H2a		△	-	
	359	△	環足盤	11.2	6.2	2.4	5/12	12/12	V H2a		△	△上a	
	360	△	環足盤	10.4	5.9	3.3	6/12	12/12	V 36a		△	-	
	361	△	環足盤	10.7	5.6	2.5	3/12	8/12	V 36a		△	-	
	362	△	環足盤	11.0	5.8	2.7	5/12	12/12	V 36a		△	-	
	363	△	環足盤	11.7	6.2	2.9	3/12	6/12	V 36a		△	-	
	364	△	丸皿	11.7	6.8	2.8	3/12	12/12	V 36a		△	-	
69	365	△	丸皿	11.8	6.6	2.8	10/12	8/12	V 36a		△	-	
	366	△	丸皿	9.0	5.2	2.4	11/12	12/12	V H1a		△	△上	
	367	△	丸皿	8.1	4.8	2.2	1/12	3/12	V 36a	ノギ	△	-	
	368	△	丸皿	11.1	5.0	2.8	4/12	4/12	V H1a	鉢輪	△	-	
	70	369	△	丸皿	11.4	6.5	2.7	2/12	3/12	V 36a		△	-
	370	△	丸皿	12.3	5.0	2.1	1/12	7/12	V H1a	鉢輪	△	-	
	371	△	環足盤	11.1	5.05	2.65	6/12	12/12	新H20w++	新H20w	△	-	
	372	△	丸皿	11.5	5.6	2.9	1/12	10/12	V 36a	新H20w	△	-	
	373	△	環足盤	10.2	4.8	2.2	4/12	10/12	V H1a	新H20w	△	-	
	374	△	環足盤	11.8	6.8	2.1	6/12	6/12	V 36a	新H20w	△	△上b	
	375	△	環足盤	11.1	5.8	2.0	3/12	6/12	V 36a	新H20w	△	-	
	376	△	環足盤	11.4	4.9	2.2	3/12	12/12	V 36a	新H20w	△	-	
	377	△	環足盤か丸皿	10.9	5.3	2.9	4/12	6/12	V 36a	新H20w	△	-	
	378	△	環足盤か丸皿	12.2	5.8	2.7	12/12	12/12	V 36a	新H20w	△	-	
	379	△	丸皿	12.4	5.6	2.8	1/12	7/12	V 36a	新H20w	△	-	
	380	△	丸皿	12.9	5.9	2.6	4/12	6/12	V 36a	新H20w	△	-	
71	381	△	環足盤	15.0	—	3.0	3/12	—	B/H15a		△	△+2	
	382	△	環足盤	17.6	—	4.1	5/12	—	B/H10a		△	△+2	
	383	△	環足盤	17.8	14.8	1.05	1/12	—	V H1a		△	△+2	
	384	△	環足盤	27.6	8.4	10.3	1/12	4/12	V 36a	新H20w	△上a	-	
	385	△	環足盤	29.6	8.8	11.3	5/12	12/12	V H1a	新H20w	△上a	-	
	386	△	環足盤	30.4	11.2	11.9	2/12	3/12	B/H20w	新H20w	△上a	-	
	387	△	環足盤	21.0	8.6	11.0	2/12	5/12	V 36a	新H20w	△上a	-	
	388	△	環足盤	27.0	9.8	11.0	3/12	4/12	B/H20w	新H20w	△上a	-	
	389	△	環足盤	27.4	9.8	10.9	2/12	3/12	V H1a	新H20w	△上a	-	
	390	△	環足盤	26.7	9.4	10.9	2/12	6/12	B/H20w	新H20w	△上a	-	
	71	391	△	環足盤	28.8	9.1	12.2	5/12	11/12	B/H10w		△	-
	71	392	△	環足盤	28.3	9.4	12.3	6/12	12/12	V 36a	天子手平	△	-
	393	△	環足盤	29.3	9.8	11.1	2/12	10/12	B/H20w		△	-	
	71	394	△	環足盤	29.8	9.9	11.4	4/12	12/12	V 36a	天子手平	△上a	-
	395	△	環足盤	28.2	9.2	12.3	12/12	12/12	B/H10w	天子手平	△上a	-	
	396	△	環足盤	30.3	10.3	11.8	11/12	12/12	B/H10w	天子手平	△上a	-	
	397	△	環足盤	30.2	9.6	11.6	3/12	2/12	B/H10w	天子手平	△上a	-	
	398	△	環足盤	30.6	9.6	12.1	3/12	12/12	B/H10w	天子手平	△上a	-	
	399	△	環足盤	28.5	9.5	11.8	3/12	7/12	B/H20w	天子手平	△上a	-	
	400	△	環足盤	28.8	8.7	12.7	2/12	4/12	B/H20w	天子手平	△上a	-	
	401	△	環足盤	29.6	9.6	11.9	10/12	12/12	B/H10w	天子手平	△上a	-	
	72	402	△	環足盤	29.6	9.9	12.3	8/12	12/12	B/H10w	天子手平	△上a	-
	403	△	環足盤	28.8	9.7	12.0	9/12	12/12	B/H20w	天子手平	△上a	-	
	73	404	△	環足盤	36.9	10.2	13.9	5/12	5/12	V H1a	天子手平	△上a	-
	405	△	丸皿	—	11.2	9.6	—	—	—	新H20w	天子手平	-	-
	406	△	円形盤	11.0	4.5	2.8	11/12	12/12	B/H10w	天子手平	△上a	△上a	
	407	△	丸皿	11.1	4.9	3.2	10/12	12/12	V H1a	新H20w	天子手平	-	-
	408	△	丸皿	12.3	6.3	3.1	11/12	12/12	B/H20w	天子手平	△	-	
	409	△	丸皿	12.8	6.3	2.7	12/12	12/12	V H1a	新H20w	△	-	
	410	△	丸皿	13.3	6.8	2.6	12/12	12/12	V H1a	新H20w	△	-	

## 遺物一覧表

直付編	登録番号	区道番号	器種	口径	底径	高さ	口縁残存率	底盤残存率	ダリヤ式	文様	側溝幅	月上幅
73	411	3	深皿	13.0	6.5	2.5	12/12	12/12	V柄		—	—
	412	3	深皿	13.3	6.7	2.5	12/12	12/12	V柄		—	—
73	413	3	深皿	14.7	6.6	2.6	11/12	12/12	V柄		—	—
	414	3	深皿	11.7	5.8	2.3	12/12	12/12	V柄		—	—
	415	3	深皿	12.0	6.1	2.3	12/12	12/12	V柄		大1+2	—
73	416	3	深皿	11.0	5.0	2.4	10/12	12/12	V柄		—	—
	417	3	深皿	11.5	5.4	2.0	12/12	12/12	V柄		—	—
	418	3	深皿	11.0	5.0	2.3	12/12	12/12	V柄	底部に十字文	—	—
73	419	3	深皿	11.7	4.8	2.8	6/12	12/12	V柄	十字文	—	—
74	420	3	深皿	12.0	6.0	2.5	11/12	12/12	V柄	系	—	—
	421	3	深皿	12.6	5.8	2.6	11/12	12/12	V柄	系	—	—
	422	3	深皿	12.7	5.4	2.3	4/12	12/12	V柄	2横	—	—
	423	3	深皿	12.0	6.2	2.7	3/12	2/12	V柄	2横	—	—
	424	3	深皿	12.4	6.4	1.7	5/12	7/12	V柄	2横+十文字	—	—
74	425	3	深皿	13.0	5.8	2.0	8/12	12/12	B-H208	印文	—	—
	426	3	深皿	10.8	5.0	2.4	3/12	4/12	V柄	印文	—	—
	427	3	深皿	12.4	6.0	2.5	3/12	4/12	V柄	印文	—	—
	428	3	深皿	11.2	5.0	2.2	3/12	4/12	B-H208	印文	—	—
	429	3	深皿	13.0	7.0	1.8	6/12	6/12	B-H208	印文	—	—
	430	3	深皿	11.6	5.0	2.4	4/12	12/12	V柄	印文	—	—
	431	3	深皿	11.0	5.0	2.1	4/12	11/12	B-H208	印文	—	—
	432	3	深皿	13.0	6.0	2.4	11/12	8/12	B-H109	印文	—	—
	433	3	深皿	12.6	5.4	2.7	3/12	12/12	B-H208	印文	—	—
74	434	3	深皿	11.8	5.0	2.2	2/12	12/12	V柄	印文	—	—
74	435	3	深皿	12.0	6.1	3.4	4/12	6/12	V柄	印文	大1	—
74	436	3	深皿	11.9	8.5	5.6	11/12	12/12	B-H109	印文	—	—
74	437	3	深皿	—	6.0	4.0	10/12	12/12	V柄	印文	大1	—
	438	3	深皿	11.2	6.0	3.8	12/12	12/12	V柄	印文	大1	—
75	439	3	深皿	15.2	6.0	6.7	3/12	12/12	V柄	印文+帯4mm	大1	大1 a
75	440	3	深皿	10.9	5.7	3.3	8/12	8/12	V柄	—	大1	—
	441	3	深皿	12.0	6.0	4.0	12/12	12/12	V柄	—	—	—
	442	3	深皿	11.1	6.7	5.0	12/12	11/12	V柄	—	—	—
75	443	3	深皿	10.8	6.0	6.0	12/12	12/12	V柄	△?	—	—
	444	3	深皿	—	6.3	2.5	—	12/12	V柄	△?	—	—
	445	3	深皿	—	6.4	2.7	—	12/12	V柄	△?	—	—
	446	3	深皿	14.1	—	0.6	3/12	—	V柄	—	—	—
	447	3	深皿	18.9	14.3	8.7	10/12	12/12	B-H109	—	大1	—
75	448	3	深皿	10.6	—	9.45	3/12	—	V柄	—	—	—
	449	E-SY01 SK01	擦跡	11.6	6.8	4.7	11/12	12/12	—	—	—	—
75	450	E-SY01 SK02	苟皿	11.4	4.8	6.75	6/12	12/12	—	—	大2	大1 a
	451	E-SY01 SK03	端反屈	12.0	—	2.1	1/12	—	—	—	大1	大1 a
	452	E-SY01 SK03	端反屈	11.0	—	1.8	1/12	—	—	—	大1	大1 a
75	453	E-SY01 SK03	苟皿	10.5	5.8	2.95	5/12	12/12	—	印文	大2前	大2 a
	454	E-SY01 SK03	端反屈	15.0	—	1.2	2/12	—	—	—	大1	大1 a
	455	E-SY01 SK03	擦跡	28.0	—	6.95	1/12	—	—	—	大1 極平	大1 b
	456	E-SY01 SK03	裸肉皿	12.0	5.6	1.8	12/12	12/12	—	—	—	—
	457	E-SY01 SK03	裸肉皿	12.4	5.4	2.5	2/12	1/12	—	—	—	—
	458	E-SY01 SK03	裸肉皿	12.2	5.8	2.3	1/12	12/12	—	—	—	—
	459	E-SY01 SK03	裸肉皿	12.6	5.4	2.95	2/12	12/12	—	—	—	—
	460	E-SY01 SK03	裸肉皿	13.1	5.3	2.7	12/12	12/12	—	—	—	—
	461	E-SY01 SK03	裸肉皿	14.0	6.6	2.75	7/12	6/12	—	—	—	—
75	462	E-SY01 SK03	擦跡	16.4	12.9	9.5	12/12	12/12	—	—	—	—
	463	E-SY01 SK03	擦跡	18.0	—	6.7	4/12	—	—	—	—	—
	464	E-SY04	花生	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	465	E-SY05	深皿	12.0	5.8	2.3	4/12	5/12	—	—	大1	—
77	466	E-SX07	端反屈	上:12.7 下:10.9	F:5.1	4.2	5/12/12 F:8/12	1/12	—	端反屈+拂皿	大1	—
	467	E-SX07	端反屈	11.6	6.4	2.5	1/12	12/12	—	印文	大1	—
	468	E-SX08	端反屈	10.2	4.8	2.4	4/12	3/12	—	大2	—	—
77	469	E-SX08	丸皿	11.0	5.7	3.4	4/12	12/12	—	ソギ	大2前	—
	470	E-SX08	裸肉皿	12.4	5.6	1.5	5/12	6/12	—	ヘラ	—	—
	471	E-SX10	端反屈	14.0	7.9	2.7	3/12	11/12	—	鉢	大1	—
77	472	E-SX11	丸皿	10.7	5.9	3.4	3/12	12/12	—	大2	—	—
77	473	E-SX12	種皿	10.0	4.8	2.7	4/12	8/12	—	大2	—	—
	474	E-SX15	大鉢	34.6	—	6.2	1/12	—	—	大2	—	—
	475	E-SX04	丸皿	11.8	—	6.0	4/12	—	—	大1	大1 a	—
	476	E-SX04	丸皿	—	4.7	2.7	—	3/12	—	大1か	大1 a	—
	477	E-SX04	丸皿	11.6	—	6.0	1/12	—	—	大1	大1 a	—
	478	E-SX04	端反屈	8.2	4.9	2.0	12/12	12/12	—	小	大1	大1 a
	479	E-SX04	端反屈	10.8	F:5.3	L:2.5 F:2.6	1/12	2/12	—	頭ね	大1	大1 a
77	480	E-SX04	端反屈	上:14.4 下:12.3	F:6.8	S:2.9 F:4.2	3/12 F:6/12	1/12/12	—	頭ね	大1	大1 a
	481	E-SX04	丸皿	10.0	5.0	2.1	1/12	4/12	V柄	—	大2	大1 a
	482	E-SX04	空	16.0	—	5.0	3/12	—	—	—	大1	大1 a

## 遺物一覧表

写真順序	登録番号	文種	日付	成種	高さ	直径	直縫或半身	底座現存率	ダットコード	文様	幽浮年	身上編年		
483	E-SX04	蝶形	26.6	10.8	11.7	2.1	1/12	1/12	—	印花	大2	大1 a		
77	E-SX04	蝶形	13.0	5.8	2.7	5/12	12/12	—	—	印花	大1	大1 a		
77	E-SX03	蝶形	11.35	4.3	5.9	5/12	12/12	—	—	印花	大1	大1 a		
486	E-SX03	蝶形	9.3	5.1	3	4/12	12/12	—	—	人2 頭平	大1 a	—		
78	E-SX03	蝶形	9.2	5.5	2.8	5/12	12/12	—	—	印花	大2	大1 b		
488	E-SX03	蝶形	8.3	5.0	2.2	10/12	12/12	—	—	小	大1	大1 a		
78	E-SX03	蝶形	11.25	6.3	2.9	4/12	12/12	—	—	人2 頭平	大2	大1 a		
490	E-SX03	蝶形	11.1	6.5	3.4	3/12	6/12	V HfP	網状地	印花	大2	大1 a		
491	E-SX03	C型	10.0	4.3	2.4	7/12	11/12	—	—	印花	大2	大1 a		
492	E-SX03	灯明形	9.85	4.25	2.45	10/12	12/12	—	—	印花	大2	大1 a		
493	E-SX03	蝶形	12.0	4.0	2.2	4/12	12/12	—	—	印花	大2	大1 a		
494	E-SK59	蝶形	12.0	6.0	1.8	11/12	12/12	—	—	ヘラ	—	—		
495	E-SX03	蝶形	11.3	5.5	1.65	3/12	11/12	V HfP	ヘラ	—	—			
78	E-SX03	蝶形	13.2	5.3	2.0	10/12	12/12	V HfP	—	—	—	—		
501	E-SX02	蝶形	12.4	—	6.1	3/12	—	—	—	印花	大1	大1 a		
502	E-SX02	蝶形	—	—	4.4	0.75	12/12	—	—	印花	大1	大1 a		
503	E-SX02	蝶形	12.0	—	5.3	3/12	—	—	—	印花	大2	大1 a		
504	E-SX02	蝶形	—	—	3.2	0.8	12/12	—	—	印花	大2	大1 a		
505	E-SX02	蝶形	11.0	6.4	2.6	2/12	4/12	—	—	印花	大1	大1 a		
506	E-SX02	蝶形	10.7	5.8	2.0	7/12	12/12	—	—	印花	大1	大1 a		
507	E-SX02	蝶形	—	—	10.8	—	—	—	—	印花	—	—		
508	E-SX02	蝶形	11.2	5.4	2.9	3/12	1/12	—	—	印花	大1	大1 a		
509	E-SX02	蝶形	11.3	6.5	2.75	9/12	12/12	—	—	印花	大1	大1 a		
510	E-SX02	蝶形	—	—	6.0	1.4	—	—	—	印花	大1・大2	大1 a		
511	E-SX02	蝶形	—	—	6.0	0.5	—	—	—	印花	大1・大2	大1 a		
512	E-SX02	蝶形	—	—	8.9	5.0	2.5	6/12	7/12	—	印花	大1	大1 a	
513	E-SX02	蝶形	—	—	11.4	6.0	3.15	3/12	6/12	—	印花	大1	大1 a	
79	E-SX02	蝶形	11.4	6.6	2.55	10/12	12/12	—	—	六あり 色見?	大1	—		
515	E-SX02	丸皿	11.2	5.4	4.3	3/12	3/12	—	—	唐ね 二面けんせん	大1・大2	大1 a		
516	E-SX02	蝶形	—	—	6.0	0.6	—	—	—	印花	大1・大2	大1 a		
517	E-SX02	蝶形	—	—	6.0	1.0	—	—	—	印花	大1・大2	大1 a		
518	E-SX02	蝶形	—	—	5.8	2.3	—	—	—	印花	大1	大1 a		
519	E-SX02	蝶形	—	—	6.0	0.5	—	—	—	印花	大1・大2	大1 a		
520	E-SX02	丸皿	—	—	8.7	5.0	2.5	7/12	12/12	—	印花	大1	大1 a	
521	E-SX02	蝶形	—	—	8.7	5.2	2.5	10/12	12/12	V HfP	印花	—	—	
78	E-SX02	蝶形	10.8	5.4	3.7	11/12	12/12	—	—	唐ね 二面けんせん	大1	大1 a		
79	E-SX02	丸皿	10.8	5.8	3.1	4/12	7/12	V HfP	ソギ	大2 頭平	大1 b			
79	E-SX02	蝶形	—	—	11.0	5.2	3.0	9/12	5/12	V HfP	網状地 似-B48 と組合	大2	—	
79	E-SX02	蝶形	—	—	11.5	6.0	3.0	10/12	12/12	—	網状地	大2	大1 a	
79	E-SX02	蝶形	—	—	6.0	3.2	—	—	9/12	—	色見?	大1	—	
527	E-SX02	蝶形	10.0	—	1.9	1/12	—	—	V HfP	—	—	大1 a		
528	E-SX02	灯明形	—	—	9.8	4.4	2.3	10/12	12/12	V HfP	—	—		
529	E-SX02	蝶形	—	—	28.0	—	3.8	1/12	—	—	大1	大1 a		
80	E-SX02	蝶形	—	—	8.2	14.0	—	—	12/12	V HfP	—	大1・大2		
80	S31	E-SX02	蝶形	—	—	12.5	7.0	2.3	6/12	—	唐ね 二面けんせん	大1	大1 a	
80	S32	E-SX02	蝶形	—	—	13.0	5.9	5.0	11/12	11/12	—	唐ね 二面けんせん	大2	大1 a
80	S33	E-SX02	蝶形	—	—	12.0	5.8	2.8	12/12	12/12	V HfP	印花	—	—
80	S34	E-SX02	蝶形	—	—	12.0	5.8	3.4	9/12	9/12	—	唐ね	大1	大1 a
80	S35	E-SX02	蝶形	—	—	12.1	5.4	3.25	6/12	7/12	V HfP	唐ね 印花	大2	大1 b
80	S36	E-SX02	蝶形	—	—	12.4	5.8	2.0	2/12	10/12	—	唐ね	大1	大1 a
80	S37	E-SX02	蝶形	—	—	11.8	5.1	1	3/12	E 6/12	—	唐ね	大1	大1 a
80	S38	E-SX02	蝶形	—	—	F 10.8	F 5.5	F 2.0	F 6/12	F 12/12	—	唐ね	—	—
80	S39	E-SX02	蝶形	—	—	11.6	5.4	2.2	11/12	12/12	V HfP	唐ね	—	—
80	S40	E-SX02	蝶形	—	—	11.7	4.4	2.3	12/12	12/12	—	唐ね	—	—
80	S41	E-SX02	蝶形	—	—	11.5	5.7	2.15	7/12	12/12	V HfP	—	—	
80	S42	E-SX02	蝶形	—	—	15.4	8.2	2.6	9/12	12/12	—	唐ね	—	—
80	S43	E-SX02	蝶形	—	—	11.3	5.9	2.1	12/12	12/12	V HfP	—	—	
80	S44	E-SX02	蝶形	—	—	11.9	5.4	2.3	12/12	12/12	V HfP	—	—	
80	S45	E-SX02	蝶形	—	—	12.4	6.2	2.6	9/12	12/12	V HfP	—	—	
80	S46	E-SX02	蝶形	—	—	11.9	5.7	2.6	12/12	12/12	V HfP	—	—	
80	S47	E-SX02	蝶形	—	—	11.9	5.6	3.2	10/12	12/12	—	唐ね	—	—
80	S48	E-SX02	蝶形	—	—	11.8	5.4	2.7	10/12	12/12	V HfP	—	—	
80	S49	E-SX02	蝶形	—	—	12.0	5.0	1.5	4/12	11/12	V HfP	—	—	
80	S50	E-SX02	蝶形	—	—	11.4	4.6	2.8	12/12	12/12	V HfP	—	—	
80	S51	E-SX02	蝶形	—	—	11.6	5.6	2.5	12/12	12/12	V HfP	—	—	
80	S52	E-SX02	蝶形	—	—	11.2	4.4	3.7	9/12	12/12	—	唐ね	大1	大1 a
80	S53	E-SX02	蝶形	—	—	11.3	6.0	4.8	12/12	12/12	V HfP	—	—	
80	S54	E-SX02	蝶形	—	—	11.3	6.8	4.8	9/12	12/12	V HfP	—	—	
80	S55	E-SX02	蝶形	—	—	12.0	7.1	4.5	12/12	12/12	V HfP	—	—	
80	S56	E-SX02	蝶形	—	—	11.8	7.2	5.0	8/12	12/12	V HfP	—	—	
80	S57	E-SX02	蝶形	—	—	11.2	6.2	4.5	12/12	12/12	V HfP	—	—	
80	S58	E-SX02	蝶形	—	—	11.7	6.0	4.4	9/12	11/12	V HfP	—	—	
80	S59	E-SX02	蝶形	—	—	12.7	7.0	4.7	5/12	12/12	V HfP	—	—	
80	S60	E-SX02	蝶形	—	—	11.3	6.2	4.2	12/12	12/12	V HfP	—	—	
80	S61	E-SX02	蝶形	—	—	11.6	6.9	4.2	7/12	10/12	V HfP	—	—	
80	S62	E-SX02	蝶形	—	—	11.5	6	4.3	9/12	12/12	V HfP	—	—	

## 遺物一覧表

写真順番	登録番号	区・道直系番号	器種	口径	底径	高さ	口縁残存率	底盤残存率	ダリヤ式	文様	側溝幅	月上編年	
563	E-SX02	898		11.0	6.6	4.2	11/12	12/12	V-Hm		—		
564	E-SX02	898		11.4	6.5	5.0	11/12	12/12	V-Hm		—		
565	E-SX02	898		11.7	6.4	3.8	10/12	12/12	V-Hm		—		
566	E-SX02	898		12.1	6.3	4.9	12/12	12/12	V-Hm		—		
567	E-SX02	898		11.4	7.2	4.4	12/12	12/12	V-Hm		—		
568	E-SX02	898		11.2	6.6	4.2	10/12	12/12	V-Hm		—		
569	E-SX02	898		11.0	4.9	3.9	6/12	12/12	V-Hm		—		
570	E-SX02	898		11.7	7.0	4.3	8/12	12/12	V-Hm		—		
571	E-SX02	898		11.0	5.6	3.9	12/12	12/12	V-Hm		—		
572	E-SX02	898		11.7	6.3	4.6	12/12	12/12	V-Hm		—		
81	573	E-SX02	898	12.0	8.0	4.6	12/12	12/12	V-Hm	3条×2箇	—		
	574	E-SX02	898	9.8	5.9	1.5	—	12/12	V-Hm	2箇	—		
	575	E-SX02	898	12.0	7.2	6.4	8/12	12/12	V-Hm		—		
	576	E-SX02	898	11.3	7.7	6.1	12/12	12/12	V-Hm		—		
	577	E-SX02	898	12.1	10.5	7.0	12/12	8/12	V-Hm		—		
	578	E-SX02	898	12.0	11.8	7.8	9/12	12/12	V-Hm		—		
	579	E-SX02	898	12.0	11.9	7.7	12/12	12/12	V-Hm		—		
	580	E-SX02	898	15.2	13.3	10.3	10/12	12/12	V-Hm		—		
	581	E-SX02	898	15.2	12.2	9.8	10/12	12/12	V-Hm		—		
	582	E-SX02	898	21.0	18.0	7.9	3/12	4/12	V-Hm	3条×2箇	—		
	583	E-SX01	898	10.6	5.1	2.9	2/12	9/12	V-Hm	印伝	大1a	大1a	
	584	E-SX01	898	—	6.0	1.8	—	4/12	印伝	大1a・大2	大1a		
	585	E-SX01	898	—	5.8	2.3	—	3/12	V-Hm	印伝	大1a・大2	大1a	
	586	E-SX01	898	—	6.2	2.7	—	1/12	V-Hm	印伝	大1	大1a	
	587	E-SX01	898	—	7.0	2.7	—	4/12	V-Hm	印伝	大1・大2	大1a	
	588	E-SX01	898	11.1	5.8	2.0	2/12	2/12	V-Hm	印伝	大1	大1a	
	589	E-SX01	898	12.0	5.4	2.4	6/12	8/12	V-Hm	印伝	大1	—	
	590	E-SX01	898	11.7	5.2	3.0	11/12	12/12	—	印伝	—	—	
	591	E-SX01	898	12.0	5.4	2.9	5/12	7/12	—	印伝	—	—	
	592	E-SX01	898	32.0	—	4.45	1/12	—	—	大2	—	—	
	593	E-SX01	898	—	13.0	12.7	—	2/12	—	大2・大3	—	—	
	594	E-SX01	898	—	12.0	5.8	—	4/12	—	—	—	—	
	595	E-SX01	898	15.8	14.0	9.65	3/12	3/12	—	—	—	—	
	596	E-SX03	898	11.5	5.4	4.6	1.4	12/12	V-Hm	大1	—		
	597	E-SX03	898	11.0	5.4	6.0	2/12	3/12	V-Hm	大1	—		
	598	E-SX03	898	11.9	5.7	6.6	8/12	12/12	—	大1	—		
	599	E-SX03	898	—	5.2	4.3	—	8/12	V-Hm	大1	—		
	600	E-SX03	898	10.9	5.8	2.7	1/12	1/12	V-Hm	大1	—		
81	601	E-SX03	898	11.1	5.1	1.1	7/12	12/12	—	印伝・撚組	大1	大1a	
	602	E-SX03	898	15.0	—	15.4	3/12	—	—	後古新	大1	—	
	603	E-SX03	898	15.8	—	11.7	4/12	—	—	後古新	大1	—	
81	604	E-SX03	898	直線人面	—	9.2	4/12	—	—	後古新	—	—	
	605	E-SX03	898	直線	—	8.0	4/12	—	—	大1	—	—	
	606	E-SX03	898	—	10.0	5.5	—	3/12	—	後古新	大2	—	
82	607	E-SX03	898	27.5	9.4	11.6	12/12	12/12	—	後古新	—	—	
	608	E-SX03	898	29.0	9.5	11.7	3/12	12/12	—	後古新	—	—	
	609	E-SX03	898	—	5.5	2.6	—	12/12	V-Hm	ヘラ	—	—	
82	610	E-SX03	898	11.5	6.0	6.0	12/12	12/12	—	ヘラ	—	—	
	611	E-SX03	898	11.5	4.9	4.2	6/12	6/12	V-Hm	1文字	—	—	
	612	E-SX03	898	11.1	5.2	2.2	10/12	12/12	V-Hm	—	後古新	大1a	
82	613	E-SX03	898	12.8	5.2	2.6	10/12	12/12	V-Hm	—	大1	—	
	614	E-SX03	898	13.5	6.1	2.7	2/12	12/12	—	印伝	—	—	
	615	E-SX03	898	13.5	5.4	2.3	4/12	6/12	V-Hm	—	—	—	
	616	E-SX03	898	14.0	6.2	2.7	6/12	12/12	V-Hm	—	大1a	—	
	617	E-SX55	898	11.3	6.6	2.6	10/12	6/12	—	後古新	—	—	
82	618	E-SK56	898	10.9	6.0	4.5	11/12	12/12	V-Hm	印伝	大1	大1a	
	619	E-SK56	898	10.3	5.1	2.7	12/12	12/12	V-Hm	後古新	—	—	
82	620	E-SK56	898	11.2	5.2	2.2	11/12	12/12	V-Hm	—	後古新	大1a	
	621	E-SK57	898	13.3	7.1	2.6	8/12	12/12	V-Hm	—	大1	大1a	
	622	E-SK57	898	11.2	6.4	2.7	12/12	11/12	—	大1	大1a	—	
	623	E-SK57	898	11.7	6.3	2.7	11/12	12/12	—	大1	大1a	—	
	624	E-SK57	898	11.4	6.8	2.55	11/12	12/12	—	大1	大1a	—	
	625	E-SK57	898	12.0	7.0	2.65	3/12	6/12	—	大1	大1a	—	
	626	E-SK57	898	12.1	5.6	2.5	11/12	12/12	—	大1	大1a	—	
	627	E-SK57	898	29.6	—	8.9	6/12	—	—	後古新	大1a	—	
	628	E-SK57	898	29.2	10.3	10.9	2/12	12/12	—	大1	大1a	—	
	629	E-SB02	898	8.8	5.0	2.3	2/12	12/12	—	大2	—	—	
82	630	E-SB02	898	10.7	5.8	2.8	4/12	11/12	V-Hm	印伝	大1	—	
	631	E-SB02	898	9.7	4.7	2.3	9/12	6/12	—	印伝	大1	大1b	
	632	E-SB02	898	9.2	5.0	2.4	10/12	12/12	—	印伝	大1	—	
	633	E-SB02	898	7.8	4.6	2.5	1/12	2/12	V-Hm	大1	—		
	634	E-SB02	898	—	—	—	—	—	629と複合	大2	—		
	635	E-SB02	898	11.0	5.4	2.6	9/12	8/12	V-Hm	大1	—		
	636	E-SB02	898	10.7	6.1	2.4	3/12	12/12	—	大2	—		
83	637	E-SB02	898	14.5	—	13.4	12/12	—	—	638と同	—	—	
	638	E-SB02	898	14.0	—	13.3	12/12	—	—	637と同	大1a	—	
	639	E-SB02	898	33.2	—	7.8	1/12	—	—	後古新	大1	—	
	641	E-SB02	898	—	—	10.3	9.8	—	12/12	—	大2・大3	—	
	642	E-SB02	898	13.0	12.0	9.5	2/12	3/12	—	—	—	—	
	643	E-SB02	898	15.4	13.2	9.9	6/12	11/12	—	—	—	—	
	644	E-SB02	898	17.4	15.4	10.1	5/12	6/12	V-Hm	—	—	—	
	645	E-SB04	898	31.1	9.7	11.6	4/12	5/12	—	大3前手	大1a	—	

## 遺物一覧表

登録番号	登録年月	遺物種類番号	器種	口径	底径	高さ	口縁残存率	底部現存率	タリック	文様	地質編年	月上編年
83	640	E-S004	環状瓶	1 中 11.9	1 下 6.1	1.28 F 2.6	0.4/12 F 12/12	1.9/12 F 12/12	—	雷紋	大1	—
83	647	E-S004	環状瓶	12.0	—	1.8	6/12	12/12	—	環状瓶・網目	大1	大1 a
648	E-S004	環状瓶	10.8	6.2	2.5	1/12	4/12	—	—	大1	大1 a	
649	E-S004	環状瓶	11.4	6.2	3.0	3/12	10/12	—	印模	大1	大1 a	
83	650	E-S004	環状瓶	11.8	6.3	5.3	6/12	6/12	V Hm	雷紋 印花	大1	大1 a
83	651	E-S005	丸瓶	12.2	—	5.9	10/12	—	—	雷紋	大1	大1 a
652	E-S005	天日茶碗	11.6	—	5.5	3/12	—	—	—	大2	—	
653	E-S005	腰折瓶	11.1	4.2	2.2	5/12	10/12	—	—	複合繩	—	
654	E-S005	環状瓶	8.6	5.0	2.2	12/12	11/12	—	—	大1	大1 a	
83	655	E-S005	環状瓶	11.3	6.3	3.0	10/12	12/12	—	—	大1	大1 a
656	E-S005	環状瓶	10.9	5.8	3.0	11/12	12/12	—	—	大1	大1 a	
83	657	E-S005	環状瓶	11.2	6.2	2.9	11/12	12/12	—	環状瓶・網目	大1	—
658	E-S005	環状瓶	11.7	6.5	3.0	5/12	1/12	—	—	大1	大1 a	
659	E-S005	環状瓶	11.4	5.3	2.7	2/12	2/12	—	—	大1	大1 a	
660	E-S005	環状瓶	12.2	6.6	2.9	9/12	10/12	—	—	大1	大1 a	
661	E-S005	環状瓶	11.7	6.0	2.4	5/12	12/12	—	—	大1	大1 a	
83	662	E-S005	環状瓶	11.4	6.2	2.7	4/12	12/12	—	印花	大1	大1 a
663	E-S005	環状瓶	11.5	6.4	2.8	5/12	12/12	—	印花	大1	大1 a	
84	664	E-S005	環状瓶	11.6	6.3	3.1	11/12	12/12	—	印花	大1	大1 a
665	E-S005	環状瓶	11.7	6.3	2.9	6/12	8/12	—	—	大1	大1 a	
666	E-S005	環状瓶	11.5	6.2	3.1	3/12	3/12	—	印花	大1	大1 a	
667	E-S005	環状瓶	12.5	6.2	3.2	9/12	11/12	—	印花	大1	大1 a	
668	E-S005	環状瓶	11.5	6.2	2.9	12/12	12/12	—	印花	大1	大1 a	
669	E-S005	環状瓶	11.7	6.0	3.0	11/12	12/12	—	印花	大1	大1 a	
670	E-S005	環状瓶	10.3	6.4	3.0	6/12	12/12	—	印花	大1	大1 a	
671	E-S005	環状瓶	11.2	6.0	2.9	10/12	12/12	—	印花	大1	大1 a	
84	672	E-S005	環状瓶	11.5	6.4	2.9	9/12	12/12	—	印花	大1	大1 a
673	E-S005	環状瓶	11.8	6.1	3.0	3/12	12/12	—	印花	大1	大1 a	
674	E-S005	環状瓶	11.5	6.3	3.0	11/12	12/12	—	印花	大1	大1 a	
675	E-S005	環状瓶	11.6	6.0	2.8	7/12	12/12	—	印花	大1	大1 a	
676	E-S005	環状瓶	11.1	6.7	2.8	12/12	12/12	—	印花	大1	大1 a	
677	E-S005	環状瓶	11.4	6.3	2.9	6/12	9/12	—	印花	大1	大1 a	
678	E-S005	環状瓶	11.6	6.2	3.0	10/12	12/12	—	印花	大1	大1 a	
84	679	E-S005	環状瓶	11.6	6.6	3.1	8/12	12/12	—	印花	大1	大1 a
680	E-S005	環状瓶	11.3	6.2	3.1	10/12	12/12	—	印花	大1	大1 a	
681	E-S005	環状瓶	11.1	6.1	2.9	1/12	12/12	—	印花	大1	大1 a	
682	E-S005	環状瓶	11.4	6.7	2.9	12/12	12/12	—	印花	大1	大1 a	
84	683	E-S005	環状瓶	9.5	4.8	2.4	6/12	12/12	—	印花	大1	大1 a
84	684	E-S005	丸瓶	10.8	5.8	2.7	8/12	12/12	—	ツギ	大2	大2 a
85	685	E-S005	鍔	36.2	10.5	16.7	9/12	12/12	—	—	大2	大2 a
686	E-S005	鍔	20.6	12.3	16.5	5/12	4/12	—	—	大2	大2 a	
85	687	E-S005	鍔	29.0	10.8	11.0	12/12	5/12	—	—	大1	大1 a
688	E-S005	鍔	27.6	11.7	11.5	1/12	2/12	—	—	複合繩	—	
85	689	E-S005	鍔	16.5	11.4	17.0	5/12	11/12	—	複合繩 - 大1	—	
690	E-S005	鍔	12.5	—	6.8	2/12	—	—	—	大1 a	—	
691	E-S005	鍔	—	10.6	—	—	4/12	—	—	大1 a	—	
85	692	E-S005	緑繩瓶	12.6	5.3	3.3	10/12	12/12	—	—	大1	大1 a
85	693	E-S005	鍔	13.5	6.3	2.3	6/12	12/12	V Hm	136	—	
694	E-S005	鍔	12.1	5.5	1.8	9/12	12/12	V Hm	ハラ	—		
85	695	E-S005	鍔	11.6	6.6	5.7	12/12	12/12	—	—	大2	大2 a
696	E-S005	鍔	13.0	5.9	5.0	3/12	8/12	—	—	大1	大1 a	
697	E-S005	鍔	11.6	7.2	4.3	12/12	12/12	—	—	—	—	
86	698	E-S005	鍔	19.5	17.0	6.6	4/12	8/12	V Hm	—	—	
699	E-S005	鍔	19.8	17.0	7.0	5/12	5/12	—	—	—	—	
86	700	E-S005	鍔	20.4	17.9	8.1	5/12	7/12	V Hm	—	—	
701	E-S005	鍔	11.6	6.6	4.6	5/12	12/12	V Hm	—	—		
702	E-S005	鍔	10.8	6.2	4.7	12/12	12/12	—	—	—	—	
703	E-S005	鍔	12.3	6.0	4.9	9/12	12/12	—	—	—	—	
704	E-S005	鍔	12.1	6.0	4.5	8/12	12/12	V Hm	—	—	—	
705	E-S005	鍔	11.5	6.2	4.9	2/12	12/12	—	—	—	—	
706	E-S005	鍔	11.4	6.0	4.5	12/12	12/12	—	—	—	—	
707	E-S005	鍔	11.3	6.8	4.4	7/12	9/12	—	—	—	—	
708	E-S005	鍔	12.1	6.5	4.2	10/12	12/12	V Hm	—	—	—	
709	E-S005	鍔	12.4	6.5	4.7	9/12	12/12	—	—	—	—	
710	E-S005	鍔	12.0	5.4	4.8	10/12	12/12	V Hm	—	—	—	
711	E-S005	鍔	14.6	11.8	9.4	4/12	9/12	V Hm	—	—	—	
712	E-S005	鍔	15.2	12.0	10.4	3/12	6/12	V Hm	—	—	—	
713	E-S005	鍔	15.4	11.0	10.6	8/12	12/12	V Hm	—	—	—	
714	E-S005	鍔	15.3	11.8	9.7	11/12	7/12	—	—	—	—	
715	E-S005	鍔	16.0	11.9	10.5	4/12	5/12	—	—	—	—	
716	E-S005	鍔	16.0	11.4	10.4	3/12	7/12	V Hm	—	—	—	
717	E-S005	鍔	15.4	12.0	9.3	4/12	12/12	—	—	—	—	
718	E-S005	鍔	15.2	11.6	10.7	8/12	12/12	—	—	—	—	
719	E-S005	鍔	15.2	12.3	10.6	7/12	11/12	V Hm	—	—	—	
720	E-S005	鍔	17.4	12.0	10.2	3/12	6/12	—	—	—	—	
721	E	平瓶	—	5.0	2.5	—	6/12	V Hm	—	複合繩	—	
722	E	天日茶碗	—	4.4	2.7	—	10/12	V Hm	—	大1	—	
723	E	平瓶	—	4.9	1.7	—	6/12	V Hmp	—	大1	—	
86	724	E	天日茶碗	11.9	4.2	6.6	9/12	12/12	V Hm	—	大1	大1 a
86	725	E	天日茶碗	11.7	4.2	6.3	10/12	12/12	V Hm	—	大1	大1 a
726	E	天日茶碗	12.8	—	5.3	2/12	—	V Hm	—	複合繩	—	
727	E	丸瓶	11.6	6.0	3.8	2/12	11/12	V Hm	—	大1	大1 a	

## 遺物一覧表

写真順番	登録番号	区道遺番号	器種	口径	底径	高さ	口縁残存率	底盤残存率	ダリヤ式	文様	幽浮輪	舟上輪等
728	E	丸瓶		11.6	5.8	6.3	11/12	12/12	V H60	天1	天1 a	
729	E	丸瓶		—	5.9	3.2	—	12/12	V H60	天1 + 天2	—	
730	E	縦折瓶		10.4	5.3	2.3	6/12	12/12	V H60	縦折瓶	天1 a	
731	E	縦折瓶		11.0	5.4	2.4	9/12	12/12	V H60	縦折瓶	天1 a	
732	E	縦折瓶		11.2	5.3	2.4	11/12	12/12	V H60	縦折瓶	—	
733	E	縦折瓶		11.0	5.3	2.4	12/12	12/12	V H60	縦折瓶	—	
734	E	縦折瓶		10.7	5.5	2.3	10/12	12/12	V H60	縦折瓶	—	
735	E	縦折瓶		10.75	4.6	2.35	10/12	12/12	V H60	縦折瓶	—	
736	E	縦折瓶		—	6.0	2.2	—	6/12	V H60	縦折瓶	—	
737	E	縦折瓶		11.25	4.9	2.3	9/12	12/12	V H60	縦折瓶	—	
738	E	縦折瓶		10.9	5.7	2.3	8/12	6/12	V H60	縦折瓶	—	
739	E	縦折瓶		10.1	5.25	2.3	3/12	12/12	V H60	縦折瓶	—	
740	E	縦折瓶		11.2	5.9	2.3	10/12	10/12	V H60	縦折瓶	—	
741	E	縦折瓶+丸皿		11.8	6.1	2.3	5/12	6/12	V H60	天1	—	
742	E	縦折瓶+丸皿		12.2	5.4	2.8	3/12	6/12	V H60	天1	—	
743	E	縦折瓶		12.2	6.0	3.0	4/12	12/12	V H60	天1	—	
744	E	縦折瓶+丸皿		11.85	5.8	2.7	4/12	12/12	V H60	天1	—	
745	E	縦折瓶		11.0	5.6	2.8	2/12	12/12	V H60	天1	—	
746	E	縦折瓶		—	6.2	2.4	—	7/12	V H7p	天1	—	
747	E	縦折瓶		11.4	5.8	2.3	1/12	12/12	V H60	天1	天1 a	
748	E	縦折瓶		7.3	4.2	—	6/12	V H7p	中轮	天1 + 天2	—	
749	E	研花瓶		—	6.0	2.85	—	6/12	V H7p	天1 + 天2	—	
750	E	縦折瓶		11.8	5.8	3.0	2/12	6/12	V H60	天1	—	
751	E	縦折瓶		—	6.2	0.65	—	6/12	V H60	天1 + 天2	—	
86	752	E	縦折瓶	11.6	6.0	2.9	—	10/12	V H7p	天1	—	
87	753	E	縦折瓶	—	6.1	1.3	—	10/12	V H6m	天1 + 天2	—	
754	E	縦折瓶		9.2	5.2	2.5	1/12	10/12	V H7p	天1	—	
87	755	E	縦折瓶	9.05	4.9	2.05	5/12	12/12	V H60	天1	—	
87	756	E	縦折瓶	—	7.2	4.9	1.8	12/12	12/12	V H60	天1	—
757	E	縦折瓶		8.2	4.9	2.1	2/12	12/12	V H60	天1	—	
758	E	縦折瓶		8.2	4.9	2.2	7/12	12/12	V H60	天1	—	
759	E	縦折瓶		8.25	4.8	2.15	10/12	12/12	V H60	天1	—	
87	760	E	縦折瓶	—	6.2	5.2	1.95	10/12	12/12	V H60	天1	—
761	E	縦折瓶		8.2	5.0	2.15	2/12	12/12	V H60	天1	—	
762	E	縦折瓶		8.4	5.1	2.2	6/12	6/12	V H60	天1	—	
763	E	縦折瓶		8.7	4.9	2.4	7/12	12/12	V H60	天1	—	
764	E	縦折瓶		8.6	5.3	2.25	2/12	11/12	V H60	天1	—	
765	E	縦折瓶		8.6	4.6	2.0	2/12	7/12	V H60	天1	—	
766	E	縦折瓶		8.65	5.6	2.0	6/12	12/12	V H60	天1	—	
767	E	縦折瓶		9.2	5.4	2.4	3/12	6/12	V H60	天1	—	
768	E	縦折瓶		9.4	4.6	2.35	2/12	3/12	V H60	天1	—	
769	E	縦折瓶		8.8	5.3	2.05	7/12	10/12	V H60	天1	—	
770	E	縦折瓶		9.0	5.6	2.15	4/12	8/12	V H60	天1	—	
771	E	縦折瓶		9.0	5.9	2.2	9/12	11/12	V H60	天1	—	
772	E	縦折瓶		10.2	6.4	3.0	2/12	4/12	V H60	天1	—	
773	E	縦折瓶		10.2	4.7	3.1	3/12	7/12	V H7p	天1	—	
774	E	縦折瓶		10.8	6.4	2.3	8/12	11/12	V H60	天1	天1 a	
775	E	縦折瓶		10.5	5.4	2.4	3/12	4/12	V H60	天1	—	
776	E	縦折瓶		10.9	5.4	2.45	3/12	8/12	V H60	天1	—	
777	E	縦折瓶		10.6	5.8	2.7	4/12	6/12	V H60	天1	—	
778	E	縦折瓶		10.6	5.3	2.8	7/12	12/12	V H7p	天1	—	
779	E	縦折瓶		10.75	6.7	2.4	9/12	11/12	V H60	天1	—	
780	E	縦折瓶		10.8	5.5	2.8	4/12	12/12	V H60	天1	天1 a	
781	E	縦折瓶		10.7	5.4	3.1	7/12	12/12	V H60	天1	天1 a	
782	E	縦折瓶		10.5	6.6	2.1	2/12	7/12	V H60	天1	—	
783	E	縦折瓶		10.9	6.2	2.3	4/12	5/12	V H60	天1	—	
784	E	縦折瓶		10.9	6.4	2.8	3/12	6/12	V H7p	天1	—	
785	E	縦折瓶		10.7	6.7	2.55	7/12	10/12	V H60	天1	—	
786	E	縦折瓶		11.1	5.6	2.75	5/12	6/12	V H60	天1	—	
787	E	縦折瓶		11.1	6.0	2.8	3/12	7/12	V H7p	天1	—	
788	E	縦折瓶		11.2	6.6	2.65	2/12	8/12	V H60	天1	—	
789	E	縦折瓶		11.3	6.5	2.7	10/12	12/12	V H7p	天1	—	
790	E	縦折瓶		11.26	5.6	2.3	4/12	5/12	V H7p	縦折瓶+横足	天1	—
791	E	縦折瓶		11.1	5.0	2.9	3/12	3/12	V H41	天1	天1 a	
792	E	縦折瓶		11.3	6.2	2.6	6/12	12/12	V H60	天1	—	
793	E	縦折瓶		11.3	6.2	2.7	2/12	12/12	V H7p	天1	—	
794	E	縦折瓶		11.5	7.2	2.8	9/12	12/12	V H60	天1	—	
795	E	縦折瓶		12.0	6.0	2.4	3/12	5/12	V H7p	天1	—	
796	E	縦折瓶		11.7	7.2	2.7	5/12	6/12	V H7p	天1	—	
797	E	縦折瓶		11.8	6.8	2.6	1/12	6/12	V H54	天1	—	
798	E	縦折瓶		11.6	7.0	2.7	5/12	6/12	V H60	天1	—	
799	E	縦折瓶		11.3	6.6	2.65	2/12	8/12	V H7p	天1	—	
800	E	丸瓶		12.1	7.4	2.5	2/12	3/12	V H54	天1	—	
801	E	縦折瓶		10.3	5.4	2.2	10/12	12/12	V H41	縦折瓶+横足	天1 a	—
802	E	縦折瓶		10.8	5.3	1.85	2/12	12/12	V H41	縦折瓶+横足	天1 a	—
803	E	縦折瓶		7.7	3.0	2.0	2/12	4/12	V H7p	天1	—	
804	E	丸瓶		9.3	5.0	2.3	4/12	6/12	V H7p	天2 前半	—	
805	E	丸瓶		8.8	5.6	2.05	3/12	4/12	V H6p	天2	—	
806	E	丸瓶		10.3	6.0	2.6	1/12	7/12	V H7p	天2	—	
807	E	丸瓶		10.7	5.6	2.3	3/12	5/12	V H6p	天2	—	
808	E	穂花瓶		11.2	—	1.9	2/12	—	V H7m	天1	—	
809	E	穂花瓶		10.0	—	1.9	2/12	—	V H54	天2	—	
810	E	穂花瓶		10.3	5.4	2.2	2/12	2/12	V H7p	天2	—	

## 遺物一覧表

登録番号	登録番号	器種	口径	底径	高さ	口縁残存率	底部残存率	ダミーフ	文様	焼成率%	月上編年		
87	811	壺	10.6	6.2	2.8	3/12	5/12	V Hfnp		大2 極平	—		
	812	壺	9.9	5.0	2.4	6/12	5/12	V Hfp		大2 極平	—		
	813	壺	9.9	5.6	1.9	1/12	2/12	V Hfp		大2 極平	—		
	814	壺	9.2	5.2	2.0	2/12	2/12	V Hfp		大2	—		
88	815	鉢付小壺	11.7	4.8	2.1	3/12	12/12	V Hfp		大1	—		
	816	鉢付小壺	11.8	4.3	2.8	4/12	12/12	V Hfp		後古新~大1	—		
	817	土器小壺	11.7	11.7	—	12/12	V Hfp			大1	—		
	818	豆皿	3.0	—	1.9	12/12	—	V Hfp			—		
	819	豆皿	25.9	—	6.2	2/12	—	V Hfp		後古新	—		
	820	豆皿	30.2	—	6.2	2/12	—	V Hfp		後古新	—		
	821	豆皿	29.6	—	9.0	3/12	—	V Hfp		後古新	—		
	822	豆皿	13.0	—	2.7	—	7/12	V Hfp		大1	—		
89	823	豆皿	28.4	9.4	10.0	10/12	12/12	V Hfp		大1 極平	—		
	824	豆皿	28.2	9.2	11.9	12/12	12/12	V Hfp		大2 極平	大1 a		
	825	豆皿	31.0	—	10.6	3/12	—	V Hfp		大2	大1 a		
	826	豆皿	21.2	18.8	6.6	4/12	6/12				—		
	827	豆皿	17.9	14.5	7.3	8/12	8/12	V Hfp			—		
	828	豆皿	14.5	—	13.4	5/12	—	V Hfp			—		
	829	豆皿	14.1	—	8.8	2/12	—	V Hfp			—		
	830	豆皿	15.4	12.9	10.3	5/12	12/12	V Hfp			—		
89	831	豆皿	11.6	—	11.8	—	2/12	V Hfp			—		
	832	E SK002	11.8	6.8	4.3	11/12	12/12	V Hfp		十字ヘラ	—		
	833	E SK002	11.8	6.1	4.8	12/12	12/12	V Hfp		ヘラ	—		
	834	E SK002	12.1	6.4	4.6	7/12	12/12	V Hfp		横印	—		
	835	E SK002	11.6	7.1	4.6	7/12	12/12	V Hfp		—	—		
	836	E SK002	12.2	5.5	4.4	12/12	12/12	V Hfp		—	—		
	837	E SK002	11.8	6.4	4.9	11/12	12/12	V Hfp		—	—		
	838	E SK002	11.8	6.5	4.2	10/12	12/12	V Hfp		—	—		
	839	E SK002	11.8	6.0	4.0	1/12	12/12	V Hfp		—	—		
	840	E SK002	—	6.4	1.6	—	12/12	V Hfp		—	—		
	841	豆皿	14.7	6.6	2.9	10/12	12/12	V Hfp		△印	—		
	842	豆皿	10.9	5.4	2.2	2/12	10/12	V Hfp		ヘラ	—		
	843	豆皿	11.2	4.0	1.9	3/12	6/12	V Hfp		△印	—		
90	844	D 豆皿	9.2	5.2	2.2	6/12	11/12	—		大1	大1 a		
	845	D T01	豆皿	8.3	5.6	2.8	3/12	2/12	V Hfp		大1	大1 a	
	846	D 豆皿	—	5.0	1.5	—	12/12	V Hfp		田花+力角	大1		
	847	D 豆皿	20.0	—	5.1	3/12	—	V Hfp		大1	—		
	848	D 豆皿	11.4	4.8	2.3	5/12	12/12	V Hfp		大1	—		
	849	D T01	エプタ	17.2	7.5	2.3	3/12	11/12	—		—	—	
	850	D T01	豆皿	13.1	6.2	2.6	3/12	12/12	—		大1	大1 a	
	851	D 豆皿	13.0	6.5	2.8	2/12	12/12	—		大1	大1 a		
	852	D T01	豆皿	12.6	5.8	2.8	6/12	12/12	—		大1	大1 a	
	853	D 豆皿	10.8	5.8	5.3	7/12	6/12	V Hfp		3角	—		
	854	D 豆皿	—	5.7	1.8	—	10/12	V Hfp		—	—		
	855	D 豆皿	11.0	5.8	3.9	6/12	12/12	V Hfp		丁文字	—		
	856	D 豆皿	—	6.0	1.7	—	12/12	V Hfp		文様	—		
	857	D 豆皿	—	6.0	1.4	3/12	—	V Hfp		文様	—		
	858	D 壺	11.6	6.5	2.7	11/12	12/12	V Hfp		—	—		
	859	D 壺	12.0	6.0	2.8	11/12	12/12	V Hfp		美濃	—		
	860	D SK35	小壺	8.2	3.7	3.7	12/12	12/12	—		人面像+大V	—	
	861	D 壺	4.9	7.2	10.75	10/12	12/12	V Hfp		—	—		
	862	D 壺	27.5	18.7	14.2	3/12	11/12	V Hfp		豎S	1 9c 初		
	863	D 小壺	11.6	4.6	3.0	6/12	7/12	NH 17g + e		9型式	—		
	864	B SK01	エプタ	12.5	6.0	2.8	3/12	1/12	V Hfp		—	—	
	865	B 小壺	11.6	4.6	3.3	6/12	7/12	V Hfp		傾屈12型式	—		
	866	B 小壺	13.0	3.6	3.6	11/12	12/12	V Hfp		大口彫	—		
	867	C 丸壺	—	6.6	2.2	—	3/12	V Hfp		—	—		
	868	C SK27	壺	11.5	6.0	2.7	3/12	6/12	IV D2e		大1	—	
	869	C SK44	壺	11.8	6.7	3.2	10/12	12/12	IV N1be		大1	—	
	870	C P24	壺	9.0	4.7	2.0	2/12	12/12	V I2e		後古新	—	
	871	C P50	壺	9.2	5.0	2.6	6/12	6/12	V I2f		大1	—	
	872	C 壺	29.4	—	5.0	1/12	—	V I2e		後古新~大1	大1 a		
	873	C 壺	—	10.2	8.8	—	3/12	V I2e		大1・2	大1 a		
	874	C P57	内付壺	25.2	—	11.9	10/12	—	V I2e		—	—	
	875	C P57	壺	15.4	12.5	9.2	12/12	12/12	V I2e		—	—	
92	876	C S005	大口茶碗	12.1	4.8	7.05	11/12	12/12	V N1be		大1	大1 a	
	877	C S005	壺	11.7	6.3	3.1	8/12	12/12	V N1be		田花	大1	大1 a
	878	C S005	壺	11.6	6.6	2.65	6/12	7/12	V N1be		田花	大1	—
	879	C S005	壺	12.1	6.9	2.8	8/12	12/12	V N1be		大1	大1 a	
	880	C S005	壺	11.4	6.5	3.0	9/12	12/12	V N1be		大1	大1 a	
	881	C S005	壺	8.45	4.85	2.4	9/12	11/12	V N1be		大1	大1 a	
	882	C S005	壺	8.7	4.6	2.2	6/12	4/12	V N1be	897と結合	大1	大1 a	
	883	C S005	壺	11.7	6.8	2.5	11/12	12/12	V N1be		大1	大1 a	
	884	C S005	明鏡	10.0	5.0	2.6	3/12	4/12	V N1be		大1	大1 a	
	885	C S005	圓鏡	11.6	4.5	2.7	10/12	12/12	V N1be		大1	大1 a	
	886	C S005	壺	29.5	9.2	11.7	5/12	12/12	V N1be		大1	—	
	887	C S005	壺	10.7	4.4	2.1	12/12	12/12	V N1be		大1・2	大1 a	
	888	C S005	壺	24.1	6.0	5.1	—	V N1be		—	—		
93	889	C 小手鏡	12.1	6.0	3.5	11/12	12/12	V N1be		しらし系	—		
	890	C 縞地小手鏡	11.6	4.8	2.5	2/12	3/12	V N1be		大1	—		
	891	C S006	大口茶碗	12.0	—	5.5	1/12	—	V N1be		大1	大1 a	
	892	C S006	壺	11.7	6.0	2.8	8/12	12/12	V N1be		大1	大1 a	
	893	C S006	壺	11.4	6.2	3.0	6/12	12/12	V N1be		大1	大1 a	

## 遺物一覧表

直付職	登録番号	区・道種番号	器種	口径	底径	高さ	口縁残存率	底盤現存率	ダリヤ式	文様	幽浮輪軸	舟上輪軸
904	C_S006	斐父振	丸	11.4	6.8	7.8	2/12	12/12	R1106	天1	大1a	
895	C_S006	斐父振	丸	11.7	6.4	3.1	6/12	12/12	R1106	天1	大1a	
896	C_S006	斐父振	丸	11.5	6.2	3.2	6/12	5/12	R1106	天1	—	
897	C_S006	丸振	丸	8.6	5.0	2.1	3/12	5/12	R1106	天2前半	—	
898	C_S006	斜切丸振	丸	12.4	5.5	2.4	6/12	12/12	R1106	天1	大1a	
94	899	C_S005	斐父振	丸	12.3	6.9	—	11/12	R1106	幽浮輪・大1	大1a	
900	C_S010	斐父振	丸	11.2	6.4	2.7	1/12	6/12	R1106	天1	—	
901	C_S010	天日系繩	丸	11.3	3.7	6.3	10/12	12/12	R1106	天1	大1b	
902	C_S010	天日系繩	丸	11.9	—	5.4	3/12	R1106	天2	—		
94	903	C_S010	小鉢	10.2	6.0	4.8	12/12	12/12	R1106	天1	大1a	
904	C_S010	斐父振	丸	9.2	4.8	2.6	7/12	12/12	R1106	天1	—	
905	C_S010	桃花繩	丸	10.2	6.3	2.5	5/12	12/12	R1106	天1	大1a	
906	C_S010	斐父振	丸	9.0	4.7	2.3	6/12	11/12	R1106	田植	天1	
907	C_S010	斐父振	丸	9.1	4.9	2.0	6/12	11/12	R1106	田植	天1	
94	908	C_S010	丸振	丸	10.6	5.6	2.8	6/12	11/12	R1106	ノギ	天2前半
909	C_S010	丸振	丸	11.7	6.5	2.8	7/12	4/12	R1106	ノギ	天2前半	
910	C_S010	鏡	丸	10.2	5.7	2.3	3/12	12/12	R1106	天1	大1a	
94	911	C_S010	鏡	10.2	4.8	2.7	4/12	12/12	R1106	天2	—	
912	C_S010	鏡	丸	10.4	5.4	2.5	3/12	12/12	R1106	天2	大1a	
913	C_S010	鏡	丸	9.6	4.7	2.7	11/12	12/12	R1106	天2	大1a	
95	914	C_S010	鏡	10.4	5.3	2.3	12/12	12/12	R1106	天2	大1a	
915	C_S010	灰釉橫縫	丸	10.7	4.9	2.7	9/12	12/12	R1106	天2	大1a	
916	C_S010	圓形鏡	丸	11.6	5.0	2.7	4/12	9/12	R1106	天1	—	
95	917	C_S010	小鉢	3.4	6.0	6.2	11/12	12/12	R1106	天1・2	大1a	
918	C_S010	土器の茎	丸	12.0	—	1.6	—	6/12	R1106	天1・2	大1a	
95	919	C_S010	圓形青面	丸	12.0	10.6	0.9	9/12	9/12	R1106	天1・2	大1a
920	C_S010	鏡	丸	15.2	12.8	10.3	8/12	12/12	R1106	天1	—	
921	C_S010	天日系繩	丸	11.4	4.9	1.7	—	V110	天2～3	—		
922	C_S010	天日系繩	丸	11.6	—	5.3	3/12	V110	天4	—		
923	C_S010	天日系繩	丸	11.4	—	6.0	4/12	—	R1106	(天1)	大1a	
924	C_S010	天日系繩	丸	12.0	—	6.1	4/12	—	R1106	天1	—	
925	C_S010	天日系繩	丸	11.4	—	5.0	9/12	—	R1106	幽浮輪	大1a	
926	C_S010	天日系繩	丸	—	3.8	2.1	—	12/12	R1106	天1	—	
927	C_S010	天日系繩	丸	11.6	4.4	6.6	1/12	12/12	V110	天1	—	
95	928	C_S010	天日系繩	丸	2.9	4.5	7.1	7/12	12/12	R1106	天1	大1a
95	929	C_S010	天日系繩	丸	12.0	4.3	7.0	4/12	12/12	R1106	天1	大1a
929	C_S010	天日系繩	丸	12.4	4.5	6.9	9/12	12/12	R1106	天1	—	
931	C_S010	天日系繩	丸	12.4	4.5	6.9	6/12	6/12	R1106	天1	大1a	
932	C_S010	天日系繩	丸	12.2	4.2	7.3	1/12	6/12	R1106	天1	—	
95	933	C_S010	天日系繩	丸	12.1	4.6	6.5	11/12	12/12	R1106	天1	—
934	C_S010	天日系繩	丸	11.8	4.75	7.25	10/12	10/12	R1106	天1	—	
95	935	C_S010	天日系繩	丸	11.8	4.3	6.9	10/12	12/12	R1106	天1	大1a
936	C_S010	天日系繩	丸	11.8	4.6	6.8	7/12	12/12	R1106	天1	—	
937	C_S010	天日系繩	丸	11.9	4.0	7.35	10/12	12/12	R1106	天1	—	
95	938	C_S010	天日系繩	丸	11.8	4.4	7.0	9/12	12/12	R1106	天1	大1a
96	939	C_S010	天日系繩	丸	11.8	4.2	7.3	10/12	12/12	R1106	天1	—
949	C_S010	天日系繩	丸	12.0	4.3	6.8	1/12	12/12	R1106	天1	—	
941	C_S010	天日系繩	丸	13.9	4.6	6.6	1/12	12/12	R1106	天1	大1a	
942	C_S010	天日系繩	丸	13.4	—	6.7	3/12	—	R1106	天1	—	
943	C_S010	天日系繩	丸	11.8	—	5.2	3/12	—	R1106	天1	—	
944	C_S010	天日系繩	丸	12.2	—	6.2	4/12	—	R1106	天1	—	
945	C_S010	天日系繩	丸	12.2	—	—	3/12	—	R1106	天1	—	
946	C_S010	天日系繩	丸	12.1	—	6.3	3/12	—	R1106	天1	—	
947	C_S010	天日系繩	丸	12.0	—	6.9	3/12	—	R1106	天1	—	
948	C_S010	天日系繩	丸	6.1	—	5.1	4/12	—	R1106	天1	—	
949	C_S010	天日系繩	丸	12.0	—	6.8	8/12	—	R1106	天1	—	
96	950	C_S010	天日系繩	丸	11.8	—	6.3	11/12	—	R1106	天1	大1a
951	C_S010	天日系繩	丸	11.7	—	6.3	1/12	—	R1106	天1	大1a	
952	C_S010	天日系繩	丸	11.6	—	6.6	6/12	—	R1106	天1	大1a	
953	C_S010	天日系繩	丸	11.6	—	6.1	7/12	—	R1106	天1	—	
954	C_S010	天日系繩	丸	—	4.3	6.1	—	12/12	R1106	天1	—	
955	C_S010	天日系繩	丸	—	4.3	6.4	—	12/12	R1106	天1	—	
956	C_S010	天日系繩	丸	—	4.6	3.9	—	8/12	R1106	天1	—	
957	C_S010	平繩	丸	—	4.5	2.8	—	12/12	R1106	天1	—	
96	958	C_S010	天日系繩色	丸	—	4.4	—	—	V110	天1	—	
959	C_S010	天日系繩	丸	12.0	—	5.5	9/12	—	R1106	天1	—	
960	960	C_S010	天日系繩	丸	11.5	—	5.8	7/12	—	R1106	田植	天1
961	C_S010	天日系繩	丸	11.0	—	5.8	1/12	—	V1106+e	天1	大1b	
962	C_S010	天日系繩	丸	11.8	4.0	6.2	3/12	5/12	V1106	天2中間	—	
963	C_S010	天日系繩	丸	11.7	4.8	5.7	3/12	12/12	R1106	天1後半～大2	大1a	
964	C_S010	天日系繩	丸	11.4	4.2	6.4	12/12	12/12	R1106	天2	大1a	
965	C_S010	天日系繩	丸	12.0	4.4	6.6	3/12	12/12	R1106	天3	大1a	
966	C_S010	天日系繩	丸	12.3	4.8	6.5	6/12	12/12	R1106	天3前	大1a	
967	C_S010	丸繩	丸	12.35	5.65	6.6	10/12	10/12	R1106	天1	大1a	
968	C_S010	丸繩	丸	11.4	—	4.4	3/12	—	R1106	天1	—	
969	C_S010	丸繩	丸	11.8	—	5.4	1/12	—	R1106	天1	—	
970	C_S010	丸繩	丸	—	5.6	2.3	—	3/12	V110	天1	大1a	
971	C_S010	丸繩	丸	—	4.8	2.1	—	10/12	V110	天1	—	
96	972	C_S010	丸繩	丸	10.8	6.0	5.6	2/12	12/12	V110	天2	大1a
973	C_S010	丸繩	丸	10.0	5.0	6.2	1/12	7/12	R1106	—	—	
974	C_S010	丸繩	丸	—	6.0	4.8	—	7/12	V110	天2	—	
975	C_S010	丸繩・小鉢	丸	11.6	—	4.2	2/12	—	R1106	天1	大1a	
97	976	C_S010	丸繩・小鉢	丸	12.5	7.0	5.0	7/12	12/12	R1106	天1	大1a

## 遺物一覧表

直行番号	登録番号	区道番号	器種	口径	底径	高さ	口縁残存率	底盤残存率	身縁	文様	幽浮輪年	身上輪年	
977	C	瑞鳳紋	—	—	—	—	3/12	12/12	R/119g	3.1	大里a		
978	C	瑞鳳紋	11.2	6.1	2.6	4/12	12/12	V/0.4	3.1	—			
979	C	瑞鳳紋	11.1	5.2	2.8	3/12	4/12	R/120e	3.1	—			
980	C	瑞鳳紋	11.3	6.0	2.8	3/12	10/12	R/118e	3.1	—			
981	C	瑞鳳紋	11.6	6.4	2.8	7/12	11/12	R/119e	3.1	—			
97	982	C	瑞鳳紋	12.1	6.4	3.1	11/12	11/12	R/119e	3.1	—		
	983	C	瑞鳳紋	6.7	2.2	—	7/12	R/118g	3.1	大里a			
	984	C	瑞鳳紋	8.8	5.0	2.6	9/12	10/12	R/119e	3.1	—		
	985	C	瑞鳳紋	12.1	6.9	2.8	1/12	7/12	R/119e	3.1	—		
	986	C	瑞鳳紋	12.0	6.4	3.0	3/12	6/12	R/119e	3.1	大里a		
	987	C	瑞鳳紋	12.0	6.5	3.1	8/12	8/12	R/118e	3.1	—		
	988	C	瑞鳳紋	12.0	6.6	2.4	2/12	12/12	R/118e	3.1	—		
97	989	C	瑞鳳紋	11.8	6.3	3.3	10/12	12/12	R/118e	3.1	大里a		
97	990	C	瑞鳳紋	11.2	6.3	3.1	4/12	12/12	R/118g	3.1	—		
	991	C	瑞鳳紋	11.4	6.2	3.1	4/12	11/12	R/119e	3.1	大里a		
	992	C	瑞鳳紋	11.6	6.3	2.8	6/12	12/12	R/119e	3.1	—		
	993	C	瑞鳳紋	11.2	7.2	2.6	3/12	1/12	R/119e	3.1	大里a		
	994	C	瑞鳳紋	11.4	6.7	2.8	2/12	5/12	R/119e	3.1	大里a		
	995	C	瑞鳳紋	11.8	6.5	2.2	—	11/12	R/119e	3.1	—		
	996	C	瑞鳳紋	11.0	6.5	2.8	6/12	6/12	R/118e	3.1	—		
	997	C	瑞鳳紋	11.4	6.1	3.0	4/12	12/12	R/119e	3.1	—		
	998	C	瑞鳳紋	11.2	6.1	2.7	10/12	12/12	R/119e	3.1	—		
	999	C	瑞鳳紋	11.4	6.4	2.7	3/12	6/12	R/118e	3.1	—		
	1000	C	瑞鳳紋	11.4	6.6	2.7	2/12	8/12	R/119e	3.1	—		
	1001	C	瑞鳳紋	9.4	5.4	2.4	11/12	10/12	R/119e	3.1	—		
	1002	C	瑞鳳紋	9.2	5.2	2.2	2/12	2/12	R/118e	3.1	—		
	1003	C	瑞鳳紋	11.2	5.0	2.2	2/12	7/12	R/119e	3.1	—		
	1004	C	瑞鳳紋	9.2	5.0	2.4	2/12	6/12	R/118e	3.1	—		
	1005	C	瑞鳳紋	9.0	5.4	2.6	8/12	10/12	R/118e	3.1~2	大里a		
97	1006	C	瑞鳳紋	8.65	5.3	2.3	5/12	12/12	R/118e	3.1	—		
97	1007	C	瑞鳳小面	8.9	5.5	2.2	11/12	12/12	R/118e	3.1	大里a		
	1008	C	瑞鳳紋	8.6	4.8	2.2	1/12	6/12	R/119e	3.1	—		
97	1009	C	瑞鳳紋	8.6	4.6	2.0	10/12	10/12	R/119e	3.1	—		
	1010	C	瑞鳳紋	8.6	5.1	2.3	6/12	11/12	R/118g	3.1	大里a		
	1011	C	瑞鳳紋	8.2	4.4	2.0	3/12	6/12	R/118e	3.1	—		
	1012	C	瑞鳳紋	8.2	4.2	2.2	4/12	12/12	R/118e	3.1	大里a		
	1013	C	瓦底	9.15	5.4	2.3	6/12	10/12	R/118e	3.2	—		
	1014	C	瓦底	6.8	—	2.2	2/12	—	R/119e	3.1~2	—		
	1015	C	瑞鳳紋譜	11.0	6.2	2.5	3/12	5/12	R/118e	3.1	大里a		
	1016	C	瓦底	11.0	6.0	2.3	6/12	7/12	R/120e	3.1	—		
	1017	C	瓦底	10.1	6.0	2.5	2/12	3/12	R/120e	3.1	—		
97	1018	C	瓦底	9.2	4.6	2.2	3/12	6/12	R/118e	3.1	—		
	1019	C	瑞鳳紋	8.4	9.1	2.4	9/12	12/12	R/118e	3.1	大里b		
	1020	C	瓦底	8.0	5.25	2.3	2/12	4/12	R/120e	3.2	—		
	1021	C	瑞鳳紋	8.0	5.0	2.3	1/12	3/12	R/118e	3.2	—		
	1022	C	瓦底	16.1	8.2	4.1	1/12	4/12	R/118e	3.2	—		
	1023	C	瓦底	14.0	—	3.2	2/12	—	R/118e	3.2	—		
	1024	C	瓦底	14.7	6.5	3.0	1/12	2/12	R/118e	3.2	—		
98	1025	C	瑞鳳紋	11.0	5.7	2.7	5/12	12/12	R/119e	3.1	大里a		
98	1026	C	瓦底	9.1	5.25	2.55	6/12	4/12	R/119g	3.2	大里a		
	1027	C	瑞鳳紋	8.8	5.3	2.3	3/12	6/12	R/119e	3.2	—		
	1028	C	瓦底	6.0	3.0	2.2	3/12	3/12	R/119e	3.2	—		
99	1029	C	瓦底	8.1	4.5	2.4	7/12	10/12	R/119e	3.2	大里a		
	1030	C	瓦底	—	6.1	1.6	7/12	R/118e	3.1~2	—	—		
	1031	C	瓦底	—	6.2	1.3	—	5/12	R/119e	3.1~2	—		
	1032	C	瓦底	—	5.9	1.4	—	4/12	R/118e	3.1~2	—		
	1033	C	瓦底	—	5.05	1.1	—	12/12	R/119e	3.1~2	—		
	1034	C	瓦底(掛頭底)	—	6.0	0.8	—	4/12	R/118e	3.1~2	—		
	1035	C	瓦底	11.4	5.2	2.4	5/12	12/12	R/119e	3.1	—		
	1036	C	瓦底	11.2	5.1	2.3	8/12	12/12	R/119e	3.1	—		
	1037	C	瓦底(掛頭底)	10.4	5.7	2.9	13/12	12/12	R/118e	3.2	大里a		
	1038	C	瓦底(掛頭底)	9.0	5.6	2.3	6/12	6/12	R/117h	3.1	—		
	1039	C	瓦底(掛頭底)	11.4	5.4	2.6	4/12	12/12	R/118e	3.2	—		
	1040	C	瓦底(掛頭底)	11.4	6.4	1.9	2/12	2/12	R/119e	3.2	—		
	1041	C	瓦底(掛頭底)	11.8	6.2	2.4	7/12	12/12	R/119e	3.2	—		
	1042	C	瓦底(掛頭底)	10.6	5.8	2.2	4/12	3/12	R/118e	3.2	—		
	1043	C	瓦底(掛頭底)	10.2	5.5	2.2	3/12	4/12	R/118e	3.2	—		
	1044	C	瓦底	10.0	5.0	2.4	2/12	6/12	R/120e	3.2	—		
	1045	C	瓦底(掛頭底)	8.8	4.9	2.1	8/12	6/12	R/118e	3.2	—		
	1046	C	瓦底(掛頭底)	—	4.6	0.7	—	5/12	R/120e	3.2	—		
	1047	C	瓦底(掛頭底)	10.0	—	1.7	2/12	—	R/118e	3.2~3	—		
	1048	C	瓦底(掛頭底)	11.3	—	2.3	2/12	—	R/120e	3.2~3	—		
	1049	C	瓦底(掛頭底)	—	—	1.95	—	1/12	R/119e	3.2~3	—		
98	1050	C	瓦底(掛頭底)	9.0	5.7	2.5	2/12	7/12	R/118e	3.2~3	—		
	1051	C	瓦底(掛頭底)	—	6.2	1.8	—	5/12	R/120e	3.2~3	—		
	1052	C	瓦底(掛頭底)	—	6.4	2.3	—	4/12	R/119e	3.2~3	—		
	1053	C	瓦底(掛頭底)	11.0	4.3	2.4	3/12	7/12	R/119e	3.2~3	—		
	1054	C	瓦底(掛頭底)	10.7	4.1	2.8	7/12	7/12	R/118e	3.2~3	—		
	1055	C	瓦底(掛頭底)	10.2	4.6	2.7	3/12	3/12	R/119e	3.2~3	—		
	1056	C	瓦底(掛頭底)	10.4	4.1	2.7	8/12	12/12	R/119e	3.2~3	—		
	1057	C	瓦底(掛頭底)	10.2	3.8	2.7	3/12	6/12	R/118e	3.2~3	—		
	1058	C	瓦底(掛頭底)	10.1	3.8	2.95	12/12	12/12	R/118e	3.2~3	大里a		
	1059	C	瓦底(掛頭底)	9.6	3.7	3.05	12/12	12/12	R/119e	3.2~3	大里a		
	1060	C	瓦底(掛頭底)	10.4	4.2	2.5	3/12	6/12	R/118e	3.2~3	大里a		

## 遺物一覧表

直角座標	登録番号	区道遺物番号	器種	口径	底径	高さ	口縁残存率	底盤残存率	身厚×口	文様	曲げ幅%	月上編年	
1001	C	GJ明細	10.2	3.7	2.7	11/12	12/12	B/118e	3.1	—			
1002	C	GJ明細	9.8	3.0	3.63	7/12	9/12	B/118f	3.1	—			
1003	C	GJ明細	11.1	4.4	2.6	1/12	4/12	B/118g	3.1	—			
1004	C	GJ明細	9.95	4.3	3.2	8/12	10/12	B/118h	3.1	—			
1005	C	GJ明細	10.0	2.8	3.0	12/12	12/12	B/118i	3.1	大±a			
1006	C	GJ明細	11.0	4.3	2.7	6/12	11/12	B/118j	3.1	—			
1007	C	GJ明細	10.4	5.3	2.1	2/12	5/12	B/118k	3.2	—			
1008	C	GJ明細	10.0	4.3	2.8	7/12	12/12	B/118l	3.2	—			
1009	C	GJ明細	9.8	3.9	2.7	2/12	3/12	B/118m	3.1	—			
1070	C	GJ明細	9.4	4.2	2.3	3/12	6/12	B/118n	3.2	—			
1071	C	GJ明細	10.0	4.7	2.8	8/12	12/12	B/118o	3.2	—			
1072	C	GJ明細	11.25	5.0	2.8	4/12	7/12	B/118p	3.1	—			
1073	C	GJ明細	10.2	2.7	2.7	6/12	6/12	B/118q	3.1	—			
1074	C	GJ明細	10.2	4.1	2.8	5/12	6/12	B/118r	3.1	—			
1075	C	GJ明細	10.1	4.5	3.1	7/12	12/12	B/118s	3.1	—			
1076	C	GJ明細	10.2	4.0	2.7	2/12	12/12	B/118t	3.2	—			
1077	C	GJ明細	11.2	5.0	2.6	3/12	7/12	B/118u	3.1	大±a			
1078	C	GJ明細	11.0	5.1	2.3	3/12	6/12	B/118v	3.1	—			
1079	C	GJ明細	10.8	4.5	2.6	5/12	7/12	B/118w	3.1	—			
1080	C	GJ明細	10.4	4.4	2.8	12/12	12/12	B/118x	3.1	—			
1081	C	GJ明細	10.4	4.3	2.7	7/12	12/12	B/118y	3.1	—			
1082	C	GJ明細	10.0	4.0	3.1	4/12	12/12	B/118z	3.1	大±a			
1083	C	GJ明細	10.0	4.7	2.2	6/12	6/12	B/119a	3.2	—			
1084	C	GJ明細	11.7	5.4	2.6	3/12	4/12	B/119b	3.1	—			
1085	C	GJ明細	9.25	4.4	2.7	7/12	11/12	B/119c	3.2	—			
1086	C	GJ明細・縦	4.0	1.2	—	—	12/12	N/119b+1	3.1	—			
1087	C	圓形小口壺	10.2	4.6	3.2	3/12	6/12	B/120e	3.1	大±a			
1088	C	圓形小口壺	10.2	4.4	2.4	4/12	6/12	B/120f	3.1	大±a			
1089	C	圓形小口壺	10.8	4.6	2.4	4/12	4/12	B/120g	3.1	—			
1090	C	圓形小口壺	11.2	5.1	2.3	6/12	4/12	N/120h+1	3.1	—			
1091	C	圓形小口壺	11.6	5.5	1.8	8/12	10/12	B/120i	3.1	—			
98	1092	C	丸腹・横輪	13.9	5.9	2.9	5/12	6/12	B/118e+19b	大±2	—		
1093	C	球体	20.8	—	5.2	2/12	—	B/118j	3.1	—			
99	1094	C	鉢	19.0	12.0	6.6	2/12	3/12	B/119p	大±2	—		
99	1095	C	束口・直腹・縫	15.2	—	2.7	3/12	—	V/1d	3.1	—		
99	1096	C	束口・直腹・縫	15.8	—	2.8	6/12	—	N/118b	3.1	—		
99	1097	C	束口・直腹・縫	13.9	9.6	2.4	5/12	6/12	—	3.1	—		
99	1098	C	弧輪曲面	7.8	—	1.8	1/12	—	B/119f	3.1	—		
99	1099	C	刮刀	9.6	—	6.4	3/12	—	B/119g	3.1	—		
99	1100	C	刮刀	7.3	—	6.9	11/12	—	B/119h	3.1+2	—		
99	1101	C	刮刀	—	—	8.2	—	—	B/119i	3.1	—		
99	1102	C	刮刀	—	3.9	—	10/12	—	B/119f	3.1	—		
99	1103	C	刮刀	—	—	3.7	—	—	B/118b	3.1	—		
99	1104	C	刮刀	—	11.0	20.0	12/12	12/12	B/119g	3.1	大±a		
99	1105	C	刮刀	—	11.7	12.3	—	—	12/12	B/119h	3.1+2	—	
99	1106	C	刮刀	—	11.8	21.0	—	—	4/12	B/119g	3.2	—	
99	1107	C	刮刀	—	13.8	13.9	—	—	5/12	V/1d	3.2	—	
99	1108	C	刮刀	—	10.0	14.1	—	—	12/12	B/119f	3.1+2	—	
99	1109	C	刮刀	—	11.8	5.3	—	—	5/12	B/119b	3.1+2	—	
99	1110	C	刮刀	—	12.5	4.5	—	—	12/12	B/119e	3.1+2	—	
99	1111	C	圓形小口壺	11.8	—	5.5	1/12	—	B/120e	3.1+2	—		
99	1112	C	GJ明細	14.5	—	2.6	4/12	—	V/1d	3.1+2	—		
99	1113	C	GJ明細	15.4	—	2.2	3/12	—	B/119p	3.1+2	—		
99	1114	C	GJ明細	16.4	—	2.8	3/12	—	B/119o	3.1+2	—		
99	1115	C	GJ明細	—	16.0	12.3	—	—	3/12	B/119f	3.1+2	—	
100	1116	C	GJ明細	20.4	19.0	23.5	3/12	8/12	B/119g	3.1	大±1		
100	1117	C	圓形小口壺	11.6	10.6	8.8	2/12	12/12	B/119i	3.2+3	—		
100	1118	C	圓形小口壺	11.7	10.9	8.3	6/12	12/12	B/119j	3.1+2	—		
100	1119	C	圓形小口壺	13.0	10.4	8.4	3/12	5/12	B/119k	3.1+2	—		
100	1120	C	鉢	14.6	12.1	11.0	11/12	6/12	B/119l	3.1	—		
100	1121	C	圓形小口壺	15.2	—	10.9	6/12	—	B/119m	3.2+3	—		
100	1122	C	直腹・縫	14.5	—	6.7	3/12	—	B/119n	3.1	大±1		
100	1123	C	直腹・縫	14.4	—	—	3/12	—	B/119o	3.1	大±1		
100	1124	C	直腹・縫	14.0	—	7.0	4/12	—	V/1d	3.1	大±1		
100	1125	C	直腹・縫	14.0	—	5.1	2/12	—	B/119p	3.1	大±1		
100	1126	C	直腹・縫	14.0	—	5.5	5/12	—	B/119q	3.1	大±1		
100	1127	C	鉢	—	14.5	—	5.8	3/12	—	B/119r	3.1	大±1	
100	1128	C	鉢	14.6	11.9	18.2	12/12	12/12	B/119s	3.1	大±1		
100	1129	C	鉢	20.2	—	8.0	—	—	B/119t	3.1	大±1		
100	1130	C	鉢	20.8	—	7.5	2/12	—	B/119u	3.1	大±1		
100	1131	C	鉢	—	13.4	4.7	—	—	B/119v	3.1	—		
100	1132	C	内凹縫	22.8	—	8.9	4/12	—	B/119w	3.1	—		
100	1133	C	鉢	29.9	11.0	12.55	1/12	6/12	B/119x	3.1	—		
100	1134	C	内凹縫	29.4	11.0	12.9	11/12	5/12	B/119y	3.1	—		
100	1135	C	内凹縫	19.2	10.0	11.5	1/12	11/12	N/120h+1	3.1	大±a		
100	1136	C	筋縫人頭	32.6	—	4.4	2/12	—	V/1d	3.1	—		
100	1137	C	鉢	28.6	8.8	10.9	3/12	3/12	N/120h+1	3.1	大±1		
100	1138	C	鉢	28.4	—	8.1	4/12	—	V/1d	3.1	—		
100	1139	C	鉢	30.6	—	11.0	4/12	—	B/119w	3.1	—		
100	1140	C	鉢	—	8.9	9.0	—	—	12/12	B/119f	3.1	—	
100	1141	C	鉢	29.3	9.1	11.9	9/12	12/12	B/119g	3.1	—		
100	1142	C	鉢	28.0	9.4	11.9	4/12	12/12	B/119h	3.1	—		
100	1143	C	鉢	29.0	10.1	11.8	2/12	12/12	B/119i	3.1	—		
100	1144	C	鉢	29.7	—	12.0	3/12	—	B/119j	3.2	—		

## 遺物一覧表

直角順番	登録番号	区道遺物番号	器種	口径	底径	高さ	口縁残存率	底盤現存率	ダリヤ式	文様	地質編年	月上編年
101	1145	C	鉢	36.3	9.8	15.0	3/12	9/12	—	R/Hg	大2	—
	1146	C	鉢	37.6	10.6	13.8	1/12	6/12	—	R/Hg	大2 地平	—
	1147	C	鉢	39.6	—	8.3	3/12	—	—	R/Hg	大2 地平	—
	1148	C	鉢	38.4	12.0	13.0	3/12	2/12	—	R/Hg	大3	—
	1149	C	鉢	—	—	5.0	1/12	—	—	R/Hg	大3	—
	1150	C	鉢	23.0	—	8.0	1/12	—	—	R/Hg	大3	—
101	1151	C	鉢	19.4	—	9.3	3/12	—	—	R/Hg	大1+2	—
	1152	C	鉢	21.6	—	—	2/12	—	—	R/Hg	大1+2	—
101	1153	C	鉢	21.8	—	7.8	2/12	—	—	R/Hg	大1+2	—
101	1154	C	鉢	20.0	—	6.0	1/12	—	—	V/Hg	大1+2	—
	1155	C	鉢	20.0	—	3.7	1/12	—	—	R/Hg	大1+2	—
	1156	C	鉢	17.4	—	3.6	1/12	—	—	V/Hg	大1+2	—
	1157	C	鉢	—	18.0	5.3	—	4/12	—	R/Hg	大3	—
	1158	C	切刃横条形	—	14.0	4.9	—	5/12	—	R/Hg	大3	—
	1159	C	鉢	13.0	7.3	—	—	6/12	—	R/Hg	大1+2	—
	1160	C	鉢	—	15.5	16.7	—	12/12	—	R/Hg	大3	—
101	1161	C	鉢跡跡	17.3	8.0	2.8	1/12	—	—	R/Hg	大1+2	大1+a
	1162	C	鉢	5.6	3.7	1.7	7/12	12/12	V/Hg	大3	—	
101	1163	C	上脚形	—	7.0	1.2	—	6/12	—	R/Hg	—	—
	1164	C	上脚形	—	6.4	2.0	—	6/12	—	R/Hg	—	—
	1165	C	鉢跡跡2cm	13.0	5.0	2.8	1/12	—	—	R/Hg	—	—
	1166	C	鉢跡跡2cm	12.3	6.5	3.1	5/12	12/12	R/Hg	大3	—	
	1167	C	鉢跡跡2cm	12.0	4.8	3.0	8/12	12/12	R/Hg	大3	—	
	1168	C	鉢跡跡2cm	12.1	5.7	3.2	10/12	12/12	R/Hg	大3	—	
	1169	C	鉢跡跡2cm	12.3	6.0	2.3	2/12	—	—	R/Hg	大3	—
	1170	C	鉢跡跡2cm	12.3	6.0	3.4	8/12	12/12	R/Hg	大3	—	
	1171	C	鉢跡跡2cm	12.3	7.0	2.2	4/12	—	—	V/Hg	大3	—
	1172	C	鉢跡跡2cm	12.1	4.6	2.5	12/12	12/12	R/Hg	大3	—	
	1173	C	鉢跡跡2cm	12.2	5.8	3.1	7/12	12/12	R/Hg	大3	—	
	1174	C	鉢跡跡2cm	11.9	6.1	3.0	3/12	12/12	R/Hg	大3	—	
	1175	C	鉢跡跡2cm	11.9	5.9	3.0	9/12	12/12	R/Hg	大3	—	
	1176	C	鉢跡跡2cm	11.5	5.3	2.3	2/12	—	—	R/Hg	大3	—
	1177	C	鉢跡跡2cm	12.0	5.8	2.8	5/12	6/12	R/Hg	大3	—	
	1178	C	鉢跡跡2cm	11.9	5.8	2.6	11/12	12/12	R/Hg	大3	—	
	1179	C	鉢跡跡2cm	11.6	6.0	2.4	12/12	12/12	R/Hg	大3	—	
	1180	C	鉢跡跡2cm	11.4	5.6	2.6	8/12	12/12	V/Hg	大3	—	
101	1181	C	鉢跡跡2cm	11.7	5.2	2.2	8/12	—	—	R/Hg	大3+a	—
	1182	C	鉢	10.8	4.9	2.3	4/12	6/12	R/Hg	大2	—	
101	1183	C	深斗形	11.4	5.7	2.3	3/12	6/12	V/Hg	—	—	
	1184	C	深斗形	11.5	5.3	1.8	12/12	12/12	R/Hg	—	—	
	1185	C	深斗形	12.0	5.4	2.9	2/12	2/12	R/Hg	—	—	
	1186	C	エアフ	14.6	6.4	3.3	8/12	12/12	—	—	—	—
	1187	C	鉢跡	—	6.0	1.0	—	8/12	V/Hg	—	—	—
	1188	C	小平腹	12.5	5.4	4.9	6/12	12/12	R/Hg	更期10型水	—	—
	1189	C	小平腹	12.7	5.8	3.8	12/12	6/12	R/Hg	更期7型水	—	—
101	1190	C	小平腹人面	14.0	4.6	4.2	2/12	3/12	R/Hg	更期7型水	—	—
	1191	C	小平腹	10.8	5.4	2.6	1/12	12/12	R/Hg	更期12型水	—	—
	1192	C	小平腹	11.4	4.7	3.1	7/12	12/12	R/Hg	更期12型水	—	—
	1193	C	小平腹	11.5	5.9	2.7	3/12	6/12	R/Hg	更期12型水	—	—
	1194	C	小平腹	11.4	5.4	3.6	6/12	12/12	R/Hg	更期12型水	—	—
	1195	C	小平腹	12.2	5.8	3.3	11/12	12/12	R/Hg	更期12型水	—	—
	1196	C	火焰菊瓣	10.4	—	2.6	1/12	—	—	R/Hg	—	—
	1197	C	鉢	—	6.0	2.8	—	4/12	V/Hg	9.3+5型	—	—
	1198	C	御宝蓋碗	—	6.2	3.0	—	8/12	V/Hg	9.5+6型	—	—
	1199	C	口画	—	5.0	1.9	—	4/12	V/Hg+e	9.1+2型	—	—
	1200	C	口画	4.1	5.0	1.6	—	12/12	V/Hg	9.5+6型	(L+4)	—
	1201	C	口画	—	2.9	1.4	—	12/12	R/Hg	9.7	—	—
	1202	C	口画?	—	4.6	3.8	—	5/12	R/Hg	9.8	—	—
101	1203	C	深皿	7.3	—	2.2	6/12	—	—	R/Hg	9.1~2	大1+a
	1204	C	鉢	12.0	—	1.8	2/12	—	—	R/Hg	9.8~11	—
101+102	1205	E	豆人	3.4	—	2.0	6/12	—	—	V/Hg	—	—
102	1206	E	豆人	3.6	—	1.7	3/12	—	—	V/Hg	—	—
102	1207	E	豆人	3.2	—	2.3	4/12	—	—	R/Hg	—	—
102	1208	E	豆人	3.5	—	1.8	1/12	—	—	V/Hg	—	—
102	1209	E	豆人	3.8	—	2.1	2/12	—	—	V/Hg	—	—
102	1210	E	豆人	4.4	—	3.8	1/12	—	—	V/Hg	—	—
102	1211	E	豆人	4.5	—	3.5	1/12	—	—	V/Hg	—	—
101+102	1212	E	豆人	3.5	—	3.2	3/12	—	—	R/Hg	—	—
102	1213	E	豆人	—	—	2.0	—	—	—	V/Hg	—	—
101	1214	E	豆人	—	—	3.1	—	—	—	V/Hg	—	—
101	1215	E	豆人	—	3.1	4.0	—	5/12	V/Hg	—	—	
102	1216	E	豆人	—	4.2	4.2	—	8/12	V/Hg	—	—	
101+102	1217	E	豆人	—	3.9	3.4	—	12/12	R/Hg	9.1+2	—	
101	1218	E	豆人	—	4.2	5.3	—	12/12	V/Hg	—	—	
102	1219	E	豆人	—	2.2	0.8	—	12/12	R/Hg	—	—	
102	1220	E	豆人	—	3.1	—	—	2/12	V/Hg	—	—	
101	1221	E	豆人	4.9	5.0	6.0	1/12	12/12	R/Hg	9.4	—	
102	1222	E	豆人	4.0	—	4.2	2/12	—	—	V/Hg	—	—
101+102	1223	E	豆人	4.0	—	1.0	7/12	—	—	V/Hg	—	大Ⅲb
102	1224	E	豆人	—	4.0	—	—	2/12	V/Hg	—	—	
102	1225	E	豆人	—	4.0	3.0	—	2/12	V/Hg	—	—	
102	1226	E	豆人	—	—	3.0	—	—	V/Hg	—	—	
102	1227	E	豆人	—	4.0	1.8	—	3/12	V/Hg	—	—	
102	1228	E	豆人	—	4.0	1.2	—	3/12	V/Hg	—	—	

## 遺物一覧表

写真順序	登録番号	区・道機番号	器種	口径	底径	高さ	口縁残存率	底盤残存率	ダミーフ	文様	地質年	月日編年
102	1229	E	茎足・丸皿	—	4.0	0.7	—	2/12	V HtP	大	—	
		A	頭形舟印?	—	4.4	1.2	—	5/12	V HtP	大1・2	—	
		C	木造	—	5.2	2.2	—	7/12	V HtP	頭形・大1	—	
103	1232	C	木造	径6.4	幅4.3	3.2	—	—	V HtP	頭形・大1	大1・2	
103	1222	C	豆皿(工物)	4.0	—	6.3	2/12	12/12	V HtP	豆皿	大1・2	
	1224	C	豆皿(工物)	高4.0	幅3.1	—	全体10.9	—	V HtP	豆皿	—	
103	1235	E	天目茶碗	11.7	4.3	6.7	5/12	12/12	V HtP	頭形頭	大1・2	
	1236	E	天目茶碗	12.2	4.4	6.3	7/12	12/12	V HtP	頭形頭	大1・2	
103	1237	E	天目茶碗	12.2	4.0	6.6	10/12	12/12	V HtP	大	—	
	1238	E	天目茶碗	11.9	4.4	6.4	4/12	7/12	V HtP	大1・2	—	
103	1229	C	天目茶碗	12.4	4.4	7.6	9/12	12/12	V HtP	大	—	
	1240	E	天目茶碗+	10.6	—	5.6	3/12	—	V HtP	大2柄	—	
103	1241	E	天目茶碗+	下11.0	上6.0	上2.8	下6/12	上9/12	V HtP	丸皿 大1・2柄	大2・前	—
		D	天目茶碗	下11.0	下4.0	下5.6	下4/12	下5/12	V HtP	—	—	—
1242	E	天目茶碗	11.5	4.0	6.1	3/12	12/12	V HtP	大3前手	大3	—	
1243	E	天目茶碗	12.1	4.5	6.5	3/12	12/12	V HtP	大3	—	—	
103	1244	C	天目茶碗	—	4.3	0.6	—	12/12	V HtP	—	—	
103	1245	C	天目茶碗	—	4.4	0.7	—	9/12	V HtP	—	—	
1246	C	盤	—	5.8	0.65	—	2/12	V HtP	—	—	—	
103	1247	A	望月付皿	13.8	—	5.3	2/12	—	V HtP	—	—	—
1248	E	頭形舟印	16.4	—	7.4	3/12	—	—	—	大	大1・2	—
1249	C	頭形舟印	21.2	—	13.9	1/12	—	V HtP	—	—	—	
1250	A	鉢底	28.2	11.6	9.8	5/12	5/12	V HtP	頭形頭	—	—	—
1251	A	G明治	—	—	12.6	—	—	V HtP	大1・2	大1・2	—	
1252	A	G明治	—	—	16.0	7.1	—	3/12	V HtP	大1・2	大1・2	—
1253	A	G鉢底	16.0	—	2.6	4/12	—	—	—	大1・2	大1・2	—
1254	A	鉢底	41.0	—	6.5	1/12	—	V HtP	—	—	—	
103	1255	E	SX07	鉢底	—	11.1	9.0	—	12/12	—	—	—
1256	E	SX02	鉢底	—	13.5	5.5	—	3/12	V HtP	—	—	—
1257	E	SX07	鉢底色	—	6.4	2.0	—	6/12	—	—	—	—
1258	E	SX10	端反曲鉢底	11.3	5.6	2.8	2/12	—	6/12	—	—	—
1259	E	SX03	柄台	—	—	12.3	5.0	—	—	—	—	—
104	1260	A	柄台	底10.1	柄8.9	厚6.5	—	—	V HtP	—	—	—
104	1261	D	柄台	底10.1	柄10.1	高5.2	—	—	V HtP	—	—	—
104	1262	E	SX07	テク	括14.5	柄7.2	—	—	—	—	—	—
104	1263	E	SX08	テク	括13.8	柄3.8	括3.8	—	—	—	—	—
104	1264	E	SY01 SK03	テク	括12.5	柄3.7	括3.5	—	—	—	—	—
104	1265	E	SY01	フク	高7.6	柄6.0	—	—	—	—	—	—
104	1266	E	SY01 SK02	フク	高5.9	柄6.2	—	—	—	—	—	—
104	1267	D	ビン?	括5.2	柄6.1	—	—	—	V HtP	—	—	—
104	1268	E	SX11	フク	括5.8	括2.3~4.3	—	—	—	—	—	—
104	1269	E	SX01 PZ2	板トチ	高8.1	柄9.1	厚1.0	—	—	V HtP	—	—
104	1270	E	SX02	板トチ	高6.3	柄6.4	厚1.2	—	—	V HtP	—	—
104	1271	E	SX02	板トチ	高5.8	柄4.6	厚1.3	—	—	V HtP	—	—
104	1272	E	SY01 SK02	長脚ビン	長4.85	幅2.65	—	—	—	—	—	—
104	1273	E	SY01 SK02	長脚ビン	長7.4	幅2.8	—	—	—	—	—	—
104	1274	E	SY01 SK02	長脚ビン	長4.8	幅2.7	—	—	—	—	—	—
104	1275	E	SY01 SK02	長脚ビン	長4.45	幅3.35	—	—	—	—	—	—
104	1276	E	SY01 SK02	長脚ビン	長5.2	幅3.7	—	—	—	—	—	—
104	1277	E	SY01 SK02	長脚ビン	長5.3	幅3.7	—	—	—	—	—	—
104	1278	E	SY01 SK02	長脚ビン	長4.1	幅3.5	—	—	—	—	—	—
104	1279	E	SY01 SK02	長脚ビン	長5.6	幅3.3	—	—	—	—	—	—
104	1280	E	SY01 SK02	長脚ビン	長5.2	幅3.0	—	—	—	—	—	—
104	1281	E	SY01 SK02	ヨリ	高4.3	幅10.6	—	—	—	—	—	—
104	1282	E	SX02	ヨリ	括13.0	柄1.4	—	—	—	V HtP	—	—
104	1283	E	SX04	ビン?	括3.1	柄3.6	厚1.2	—	—	V HtP	—	—
104	1284	E	SX04	ビン?	括3.0	幅3.3	厚1.2	—	—	V HtP	—	—
104	1285	A	SX03 SK16	陶丸	高1.0	幅2.0	高1.6	—	—	V HtP	—	—
104	1286	A	SX04	陶丸	高1.7	柄1.7	高1.65	—	—	V HtP	—	—
104	1287	A	SX03	陶丸	高3.0	柄2.8	高2.65	—	—	V HtP	—	—
104	1288	E	陶丸	高2.1	柄2.1	高2.0	—	—	V HtP	—	—	—
104	1289	C	SX05	陶丸	高2.4	柄2.2	高2.15	—	—	V HtP	—	—
104	1290	C	陶丸	高2.7	柄2.6	高2.5	—	—	V HtP	—	—	—
1291	E	休み皿	—	—	—	—	—	—	V HtP	3条	—	—
1292	D	休み皿	—	—	—	—	—	—	V HtP	前毛	—	—
1293	E	通・休み皿	—	—	—	—	—	—	V HtP	(1条+○)	—	—
1294	E	SX02	休み皿	—	—	—	—	—	V HtP	(1条+○)	—	—
1295	C	休み皿	—	—	—	—	—	—	V HtP	(—)	—	—
1296	E	休み皿	—	—	—	—	—	—	V HtP	N	—	—



## 報告書抄録

ふりがな	くわしたひがしかまと
書名	桑下東窯跡
副書名	
卷次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第164集
編著者名	小澤一弘 武部真木 藤根久・Lomtadze Zaur・黒沼保子(パレオ・ラボ)
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24 TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦 2011年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市	町村					
桑下東 窯跡	愛知県瀬戸市 上品野町	23204	0030709	35度 15分 25秒 (世界測地系による)	137度 8分 33秒	2005.9 3 2006.3	4,726	国道363号 道路改良工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
桑下東 窯跡	窯跡	輪窯時代	窯体1基 石敷作業場 ロクロビット55基 豊穴建物 掘立柱建物	拍打、魚形掛花、 天目茶碗、鍋蓮弁文丸碗、 端反皿、陵花皿、丸皿、 陵皿、銅錢釉皿	

文書番号	発掘届出(17埋セ 第20号) 通知(17教生 第736号) 終了届(17埋セ 第135号) 発見届・保管証(17埋セ 第135号) 監査結果通知(18教生 第537号)
------	---

要約	水野川の北側の南北に広がった丘陵に大規模な施設(窯、石敷、工房、乾燥施設、倉庫、選別施設)と、狭い範囲に密集したロクロビットが40基、遺跡全体では55基のロクロビットを検出したことから工人集団の窯大将組織が想起される16世紀前半大窯1段階の窯跡である。また丘陵東谷には屋敷跡があり集荷出荷の建物があった可能性も考えられる。
----	---



愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第164集

桑下東窯跡 本文篇

2011年3月31日

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団  
編集・発行 愛知県埋蔵文化財センター

印 刷 新日本法規出版株式会社